

テキストの使い方と学習方法

はじめに

このテキストは、これからパソコンを始める方、挑戦したけど難しくて挫折した方に、楽しくわかりやすくパソコンを覚えていただくように考えて作られたテキストです。

1つ1つの操作に画像が付いているので、パソコン用語がわからなくても、操作できるようになっています。パソコン用語は理解できてから少しづつ覚えていきましょう。

テキストの学習にあたって

このテキストを使っていただくために、必ず下記のことは約束してください。そうでないとせっかく今からテキストを進めていただいても、身に付かず、時間の無駄になってしまいます。

●「実際の操作内容」の部分だけ操作する、マークや説明をしっかり見る

このテキストは、覚えていただきたいことに的を絞って説明していますので、テキスト内のマークや説明を最低1回は読むように心がけましょう。

(テキスト内のマークの説明は次ページを参照してください。)

●操作は必ず順番に！ 1回は操作しましょう

生徒様の中には、ここはわかるから読み飛ばそうとされる方や、順番に書いてある操作を何個か飛ばして進めようとする方がいらっしゃいますが、途中で操作がうまくいかず、大幅にやり直すことになります。パソコンは1つボタンが違ったり、必要な操作を飛ばしたり、1つ違う操作をするだけで全く違う結果になることがあります。1つ1つ丁寧に操作しましょう。

●わからないところをそのままにしない

パソコンを覚えるということは「家づくり」に似ています。1か所でもいい加減なところがあると欠陥住宅になり、家が倒壊するかもしれません。パソコンでもいい加減なところを作らず、わからないところをそのままにしないで繰り返しやってみたり、説明を読んだり、先生に聞いたりして学習し、各章ごとにある練習問題もしっかり取り組みましょう。

登場人物紹介

このテキストには先生が1人と、中高年代表の生徒様が2人、若い方代表の生徒様が2人の計5人が登場します。この5人と一緒にテキストを楽しくすすめていきましょう。

「私にもいろいろと作れるかなあ～。」



ウメさん

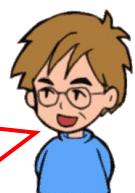
簡単なインターネットやメールはできるけど、それ以外は分らないウメさん

「ウメさんに、負けないように私も頑張るぞ～！」



パパさん

子供が楽しそうにパソコンをしているのを見て、自分もチャレンジしたいパパさん



くじら先生

「生徒さんに喜んでもらう、満足してもらう」がモットーのパソコンの先生

テキスト内で使われているマークについて

1. (1) ①などの見出し部分

……ここでは、これから行う操作がどういう意味を持った操作なのかを説明しています。

実際の操作内容

……実際に使う操作の方法を説明しています。

新機能

……Windows 7と旧バージョンとの違いや新機能を説明しています。

注意!

……間違いやすい操作や、操作を行うにあたり特に注意してほしいことを説明しています。

余裕があれば読んでね

……パソコンの操作方法だけ覚えたい方は特に読む必要はありませんが、知っていると後々便利な情報や、役立つ情報を説明しています。

ご参考までに

……パソコンを使っていると、「こんな画面も表示される場合がありますよ」とか、「こんな操作方法もありますよ」とか、学習に参考になる情報を説明しています。

くじら先生の吹き出し内は、各操作中のポイントや注意の中でも、特に読んで理解してほしいことを説明しています。

補足説明タイトル

参照ページ

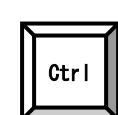
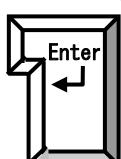
……テキストの流れには必要ありませんが、より詳しい内容の補足説明や別の操作方法を P204 以降に記載しています。余裕のない方は飛ばしていただいても大丈夫です。(ただし各章ごとの練習問題で使う内容も若干含まれます。また、テキストをすべて終了されてから最後に読まれると、スキルアップにつながります。)

☆☆ここまでくれば練習問題〇〇で理解度を試してください。☆☆

カチッ

……クリックの操作を行う箇所です。

……文字入力の操作を行う箇所です。



など

……該当するキーを入力する箇所です。

エントリー コントロール
[Enter] キー や [Ctrl] キー以外のキー入力もありますので、マークと操作の指示に従ってください。

目 次

1. パソコンとはいっていい何者?	1
(1) パソコンとは	2
(2) パソコンは何でもできる	3
(3) パソコンを使う目的	4
(4) パソコンは難しい?	6
(5) キーボードは難しい?	7
(6) パソコンはデリケート?	8
(7) 機械の名称	9
2. 電源の入れ方とマウスの動かし方	10
(1) 電源の入れ方	10
(2) 画面に映っている名前	13
(3) マウスのボタンと使い方	14
① マウスの名前	14
② マウスの持ち方	15
③ マウスの動かし方	16
④ マウスの大切な基本操作	17
⑤ ポイントしてみよう	18
⑥ クリックしてみよう	19
⑦ 右クリックしてみよう	20
⑧ ダブルクリックしてみよう	21
⑨ ドラッグしてみよう	23
(4) 電源の切り方	26
(5) パソコンの画面の背景を変更する	29
3. パソコンを動かしてみよう	35
(1) パソコンを動かす道具のいろいろ	36
(2) いろいろな道具を見てみよう	37
(3) 電卓を動かす	40
(4) 電卓を閉じる	45
4. 画面（ウィンドウ）の基本操作	46
(1) コンピューターを開く	46
(2) 画面の名称	48
(3) 画面（ウィンドウ）のサイズを変更する	49
① ボタンをクリックする方法	49
② ドラッグする方法	53

5. マウスに慣れる練習	55
(1) 「ペイント」を起動する	56
(2) 「ペイント」を使って家を描く	59
(3) 「ペイント」から印刷をする	78
① 印刷イメージの確認	78
② 印刷操作	81
(4) 「ペイント」を終了する	83
6. キーボードに慣れる練習	85
(1) 入力方法の種類	86
① ローマ字入力	86
② かな入力	86
③ 入力方法の比較	86
(2) パソコンを操作するためのキーの配置	87
(3) ローマ字かな対応表	88
(4) 入力システム	89
① ワードを起動する	91
② ワードを終了する	94
③ 入力モードを確認する	95
④ 入力モードの変更	96
⑤ ローマ字入力、かな入力の切り替え方法	98
⑥ 日本語入力の準備まとめ	99
⑦ 言語バーの移動	100
⑧ 言語バーの復元	101
(5) 文字キーの説明	102
① ローマ字・かな入力によるキーの違い	102
② 上下に文字があるキー	103
③ 入力できる文字の種類	103
(6) ひらがなの入力	104
① カーソルと画面の状態	104
② ひらがなの入力	105
③ いろいろなひらがなにチャレンジ	108
④ 入力するときに注意する文字	111
(7) 改行(行を変える)する方法	112
(8) カーソル(点滅している縦棒)の移動方法	114
(9) 間違って入力した文字の消し方	116
① Back SpaceキーとDeleteキーの使い分け	116
② Back Spaceキーで文字を削除する	117
③ Deleteキーで文字を削除する	118
④ 入力した文字すべてを削除する	119

⑤ 間違って改行してしまったら？	120
⑥ 入力を漏らしてしまったら？	122
(10) スペース（空白）の入力方法	124
① スペースの種類	124
② 全角スペースと半角スペースの入力方法	125
③ スペースの入力	125
(11) 漢字の入力	128
(12) 間違って確定してしまったら？	130
(13) 難しい文字の入力	132
<i>IME パッドの表示方法</i>	133
② 手書きで文字を検索する	134
(14) カタカナの入力	137
① カタカナの種類	137
② 全角カタカナと半角カタカナの入力方法	138
③ 全角カタカナの入力	139
④ 半角カタカナの入力	140
(15) 英数字の入力	142
① 英数字の種類	142
② 全角英数字と半角英数字の入力方法	143
③ 全角英字の入力	144
④ 半角英字の入力	146
⑤ 数字の入力	148
(16) 特殊文字の入力	151
① 記号の入力	151
② 特殊文字の読み方	153
(17) 句読点やかっこの入力	154
(18) 変則的な入力文字	155

7. 文章の入力

	156
(1) 文節を変換する	156
(2) 文章を変換する	159
(3) 文章を予測して入力	162
(4) 文節の区切りを変更する	164
(5) 文字の入力中に誤字に気づいたら	169
① 変換キーを押す前の修正	170
② 変換キーを押した後の修正	173

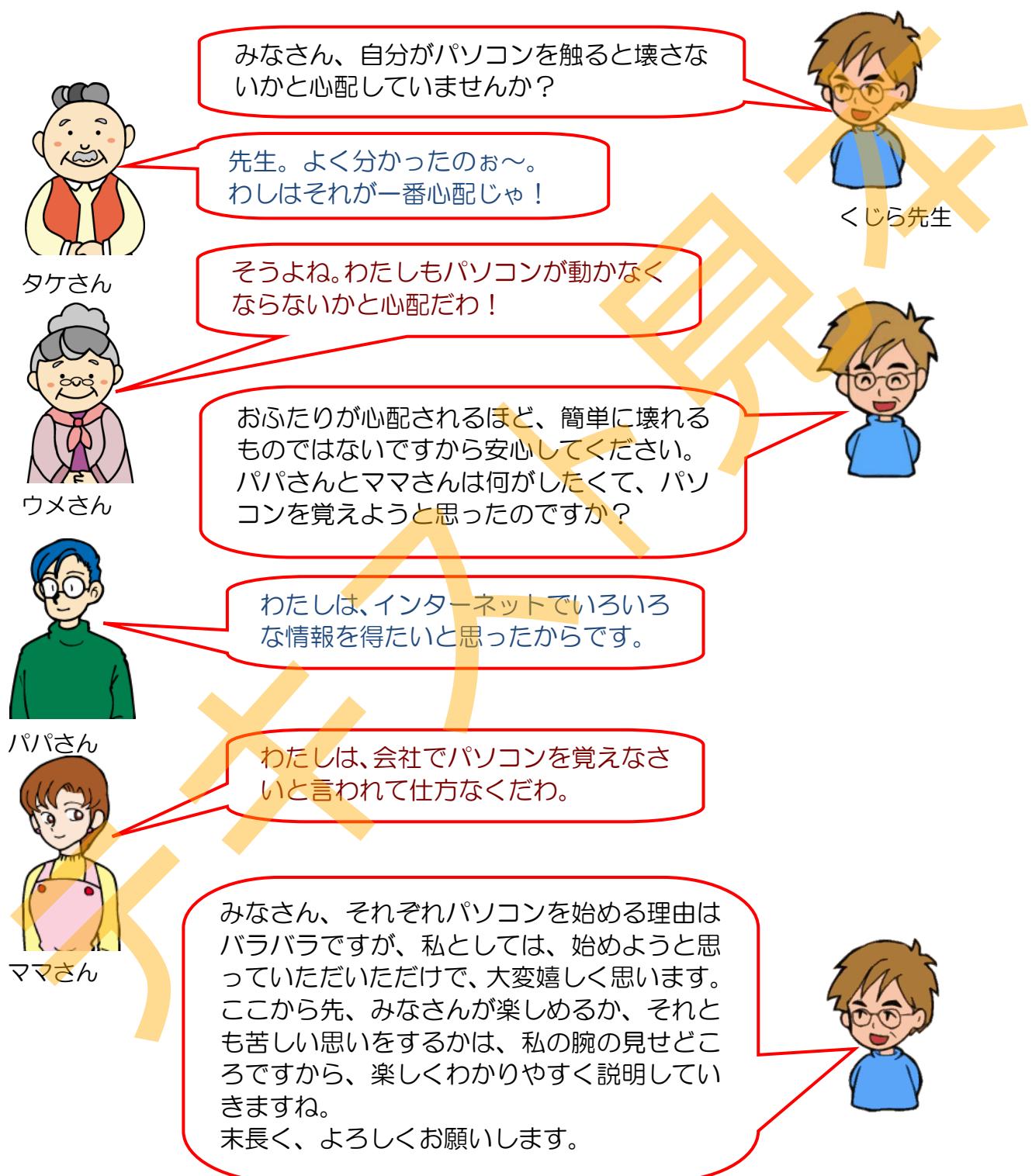
8. 文書の作成・保存・印刷

	176
(1) 文書の作成と保存	176
① 文書の作成	176
② 文書の保存	177

(2) 保存した文書を開く.....	187
① 保存した文書の確認.....	188
② 保存した文書を開く.....	193
(3) 開いた文書の上書き保存.....	194
① 開いた文書を修正する.....	194
② 文書を上書き保存する.....	196
(4) 文書を印刷する.....	200
●次のテキストでできること.....	203
●テキスト以外の操作方法、補足説明.....	204
●ファイルやフォルダー.....	220
(1) パソコンの大きな機能.....	221
① 計算と印刷.....	221
② 保存とは	222
③ 保存の必要性.....	223
④ 読み出し	223
(2) ファイルの存在を確認する.....	224
(3) フォルダーの存在を確認する.....	227
(4) リムーバブルディスクのファイルをコピーする.....	230
(5) ファイルの削除と確認.....	232
① ファイルの削除	232
② ファイルの削除を確認する.....	235
●索引.....	238

1. パソコンとはいっていい何者？

今からパソコンを操作していただくのですが、その前にパソコンとは、いったい何なのか？ どういうことができるのか？ そして一番大切なことですが、みなさんがパソコンで何がしたいのか？ を再確認していただきたいと思います。



(1) パソコンとは

パソコンとテレビはどう違うんじゃ？

タケさん「パソコンもテレビも同じように映画が見れるのに、同じじゃないのか？」



ウメさん「わたしの店員さんがテレビが見れますよって言ってたわ！」



くじら先生「今は、パソコンでテレビを見ることが可能となりました。しかし、それは、テレビチューナーが内蔵されたパソコンです。パソコンはテレビが見れるだけではなく、タケさんやウメさんの今後の楽しみを増やしてくれる機械なのです。覚えることもたくさんありますが、頭で覚えるのではなく、操作しながら感覚として覚えていきましょう。」



パソコンとは、「パーソナルコンピューター」(Personal Computer) の略で、個人ユーザー向けのコンピューターのことです。

パソコンは機械（ハードウェア）と、言葉の集まり（ソフトウェア）があって初めてパソコンとして使えるようになります。機械だけあっても、言葉がないと動きませんし、言葉だけあっても、機械がないと動きません。両方が揃って初めてパソコンとしての役割を果たします。

パソコンの言葉の集まりには、パソコンを動かすための基本的なソフトウェア(オペレーティングシステム)と、パソコンをいろいろな道具として使うためのソフトウェア(アプリケーションソフト)があります。

アプリケーションソフトには、手紙を書いたり、絵を描いたり、ゲームなどをしたりするものがあります。

これらのソフトウェアをパソコン本体の中にある入れ物(ハードディスク)に入れておき、必要になったときに、呼び出して利用しています。

■デスクトップパソコン



■ノートパソコン



メモ

持ち運びしたいならノートパソコン、いろいろ拡張したいなら、デスクトップパソコンがお勧めです。

(2) パソコンは何でもできる

なんでもできるって超能力みたいですね！

パパさん「本当になんでもできるのですか？」



ママさん「わたしは、パソコンで旅行の予約がしたいわ。
なんでもできるなら、それくらい可能よね？」

くじら先生「それくらいのことなら、朝飯前です。
飛行機の予約やホテルの予約だって可能です。
それでは、パソコンを使ってできることを簡単にご紹介しましょう。」



パソコンは、これまであったテレビ、ビデオ、電話やFAXとは違います。いったいどこがどう違うのでしょうか？ 違いを知るためにには、パソコンの機能、つまりパソコンを使つたらできることを知る必要があります。洗濯機は洗濯をするため、電話機は遠くの人とおしゃべりをするため、コピー機は絵や文書を複写するためあります。では、パソコンでは何ができるのでしょうか？

パソコンを使ってできる代表的なものに「インターネット」があります。

その他、アプリケーションソフトを利用して、ワープロや表計算の機能などを備えることができます。

さらに日々の体重を入力してデータを分析したり、お気に入りの写真や画像を取り込んで印刷したり、筆を使わずに水彩画を描いたりするなど、実にいろいろなことを可能にしてくれます。



(3) パソコンを使う目的

まずは旅行の予約よね！

ママさん「最初は、やっぱり旅行の予約よね、パパ！」



パパさん「それより、テレビを買い替えるためにショッピングだろう！」



くじら先生「ママさんやパパさんのおっしゃることなら、インターネットを利用すれば、簡単にできますよ。
タケさんやウメさんはどうでしょうか？」



タケさん「わしは、どうしても友達のように年賀状をパソコンで作りたいんじゃ、できるようになるまでは続けるつもりじゃ！」



ウメさん「わたしは、デジカメを持っているので、写真を整理したり
アルバムを作成して印刷してみたいの！」

くじら先生「それぞれに目標をお持ちですね。その目標は必ず達成します。
達成したら、また次の目標を考えて、それをまた達成して・・・
小さな目標の達成を繰り返していくと、自信になってさらに面白くなっています。」



「パソコンがほしい」という人に、理由を聞いてみると、意外に動機は希薄なようで、みんなが持っているから「とにかく欲しい」というタイプの人人が少なくありません。
実は、私もそのタイプの人間でした。(*^_^*)
それでも結構です。触っているうちに何となく感覚が分かってくるはずです。

インターネットで「ゲームをしたい」、「孫とメールの交換がしたい」など、理由がなんであれ目的があれば上達はグンと早くなることでしょう。

クルマの運転を考えてみてください。免許を持っていなくても、電車や自転車を利用すれば、日常生活に何ら支障は生じませんが、あると便利な道具であることは間違ひありません。



パソコンもクルマと同じように、ないと日常生活に支障が生じるというものではありませんが、あるとこれほど「**便利な道具**」はありません。

日本にいながらにして世界中の情報が得られるし、経理の処理だって楽にできます。パソコンを使うとさまざまな利便性を享受することができます。

「自動車を運転したい」と思うから、自動車学校に通って、自動車の運転を習います。

「パソコンを使いたい」と思うから、このテキストを使っているという感覚でいいのではないでしょうか？

これからパソコンは、炊飯器や掃除機といった家電製品同様に、家庭に浸透していくはずです。もうすでに、一家に1台から一人1台になっているかもしれません。

小さな子供でもパソコンを自由自在に操ることができるのは、決して理屈が分かっているからでも、動機がはっきりしているからでもなく、「そこにパソコンがあるから」なのです。

(4) パソコンは難しい？

文字がたくさん並んでいるし、テレビのようにリモコンはないし…



ウメさん「キーボードでしたっけ、文字を入力するのは？
英字やひらがながたくさん並んで、いつも文字を探すのに時間がかかるわ！！
それにテレビのように、リモコンはないし・・・」

タケさん「わしら、年寄りでも理解できるんかのお～？」

くじら先生「理解できるように説明するのが私の役目です。今の時代、若者だけの道具ではなくなっています。誰だってパソコンは使えますから。」



「パソコンは難しい」という言葉には、多分に思い込みと幻想が含まれています。クルマを例に挙げますが、今や日本の全人口の2人に1人がクルマの免許を持っている時代です。パソコンは、クルマと同様で、慣れればクルマより簡単です。

パソコンの一番の難関はキーボードの操作とマウスの操作にあるといえます。誰しも最初は、片手の人差し指だけで「あ」はどこだ？「い」は？と、もどかしい思いをします。これも数週間から1、2ヶ月も使い続ければ、指が自然と思った文字を指すようになり、もどかしさも消えてしまいます。



(5) キーボードは難しい？

打つ文字を探すのが大変だの～！



タケさん「1つの四角いボタンにたくさん文字が入っているし、それにどこにどの文字があるかもわからんから大変だの～！」



ウメさん「そうよね、わたしたち年寄りには、覚えるのが大変だわ～！」

くじら先生「自動車の運転だって、最初は大変だったでしょ。それと同じで、最初はどこにどのボタンがあるかを探すのに苦労すると思います。しかし、慣れてくると運転と同じで、指が勝手に動いてしまいます。」



キーボードやマウスにどうしても馴染めないということが原因で、パソコンが嫌いだったり、敷居が高いと感じたりする人は意外に多いようです。まったくワケのわからない配列で、カナや英字が並んでおり、文字を探すのも一苦労という人も多いはずです。

この配列はデタラメに並べているわけではありません。実は文字の使用頻度が考慮されて、キーの配置がされています。しばらく使っていると気づくことでしょう。

パソコンを操作するときに大切なことは、キーボードに慣れることです。

正しいタッチタイピングは、それなりに長い歴史の中で培われて、洗練されてきた方法なので、マスターするに越したことはありません。しかし、それはパソコンを使いこなす本質ではありません。

指1本でも、3本でもパソコンはそこそこ使えるものです。キー入力が人より遅くてもいいではありませんか。パソコン嫌いになってしまいは、気ままに打ちたいように打つことでいいと思います。

マウスも同じです。ただし、マウスの場合は、変な持ち方で覚えててしまうと、直すことが大変になります。ボタンを押すときにマウスが動いてしまうと、思ったとおりの操作ができなくなってしまいます。基本どおりの持ち方でマスターしましょう。



(6) パソコンはデリケート？

友達のパソコンは買って3か月で壊れたのだけど…

ママさん「わたしの友達は、買って3か月でパソコンが壊れたのだけど、そんなに簡単に壊れるの？」



パパさん「買ったパソコンがそんなに早く壊れたら、予算の関係で液晶テレビが買えなくなってしまう！！」



くじら先生「運が悪かっただけだと思いますよ。
電化製品でもハズレのものを購入すると、新品の状態でも動かないこともありますから・・・
そんなに簡単には壊れませんから、安心してください。」

ママさん「もし、壊れたら、先生が見てくれますか？」

くじら先生「パソコン内部の部品が壊れていたら、私もお手上げ状態です。
その時は、メーカーに修理を依頼するしかありません。
いずれにしても、その時は私が直せるか調べてみますから、持ってきてください！」



パソコンは、非常に精密でデリケートな機械だから、慎重の上にも慎重を重ねて取り扱わなければならないと思っている人が多くいますが、その通りであり、そうでないとも言えます。

パソコンは高温に弱いし、湿気も大敵、タバコの煙や木コリも禁物という文面をよく見かけますが、テレビやビデオが正常に動いている環境のなかでは、それほど気を使う必要はありません。



衝撃に弱いというのも同じです。テレビやビデオも硬いコンクリートやフローリングの床の上に落としたら、壊れるかもしれません。パソコンも同じ程度の耐衝撃性を持っていると考えればいいでしょう。

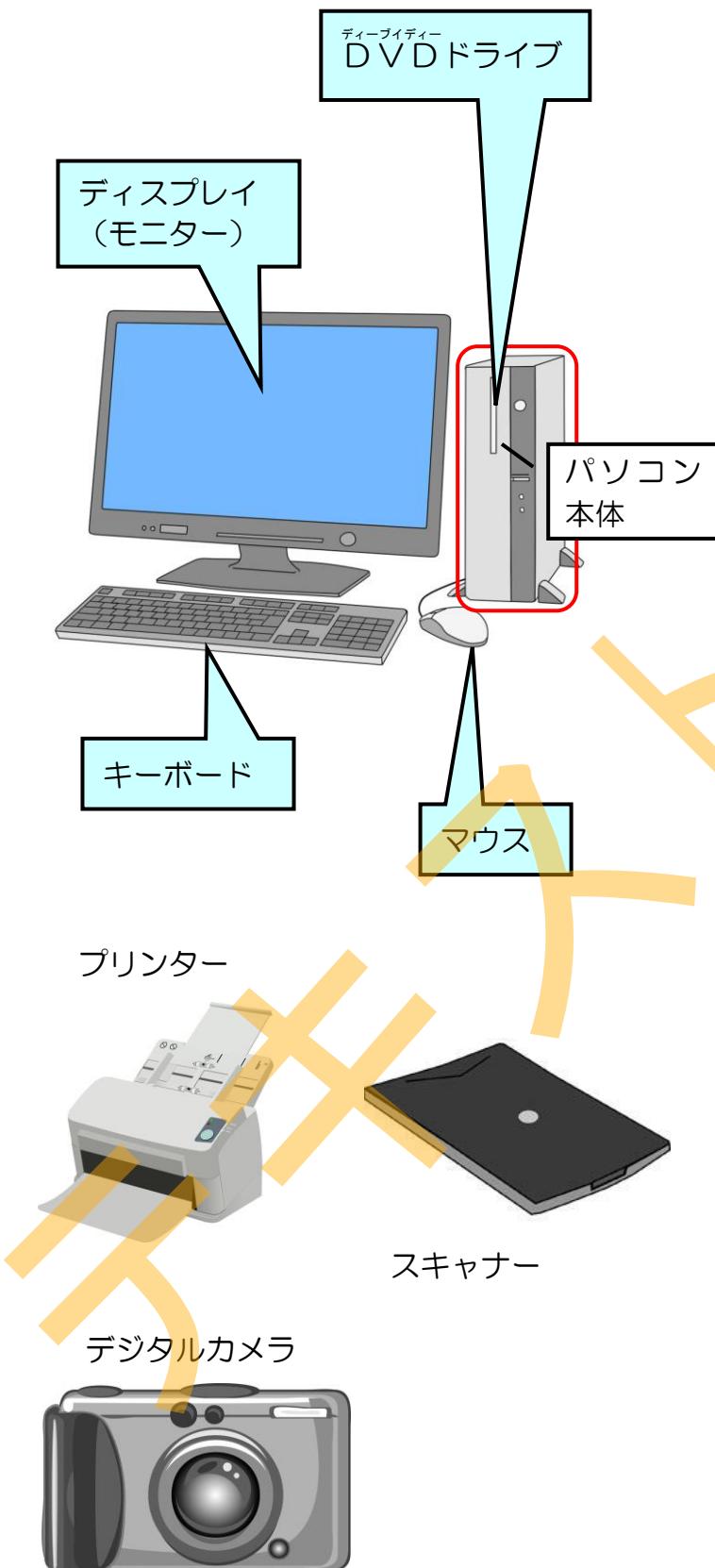


そのほかに注意してほしいことは、磁石や磁気を帯びたものをパソコンに近づけないこと。あと、電源の入っている状態のパソコンに強い衝撃を与えるとハードディスクが壊れる可能性があります。

パソコンを利用している最中にキーボードなどの操作を誤ってしまうというミスでは、壊れることはできません。

(7) 機械の名称

パソコンはいろいろな機械で作られています。



●本体

パソコン本体の中には、左に記載したDVDドライブのほかにパソコンにとって重要な部品が入っています。

●DVDドライブ

パソコンにプログラムを入れたり、CDを聞いたり、DVDを見たりするときに必要です。最近のパソコンには、DVDの読み書きまでできるものがあらかじめ組み込まれています。

●プリンター

文書や写真などを紙に印刷するための装置です。これからみなさんが作成する作品を紙に印刷するときに使います。最近のプリンターには、下で説明するスキャナーが一体になったものもあります。

●スキャナー

写真や絵、雑誌や新聞など、必要なものを画像としてパソコンに取り込むことができます。

●デジタルカメラ

撮影した写真をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込むとホームページで公開したり、電子メールで友達に送ったり、印刷したりすることができます。

パソコンについての補足説明

P204

☆☆ここまでくれば、練習問題1で理解度を試してください。☆☆

2. 電源の入れ方とマウスの動かし方

どんな便利な電化製品でも、電源を入れないと利用することができないように、パソコンも本体の電源を入れないと、文書を作成したり、イラストを描いたり、インターネットをしたりすることができません。

パソコンだから電源の入れ方も難しいのでは？ そんな心配はいりません。パソコンも電化製品も同じです。「電源ボタンを押すだけ」でパソコンが動くようになっています。ここでは、パソコンの電源の入れ方とマウスの動かし方、電源の切り方を説明します。

(1) 電源の入れ方

パソコンの電源を入れるだけでドキドキするわ！

ウメさん「いよいよ、パソコンの電源を入れるのね。
何度もやっても、電源を入れるのはドキドキするわね。」



タケさん「そうじゃのお～。
わしも初めてだから、壊してしまうんじゃないかとハラハラするわ！」

くじら先生「みなさん、自動車学校で、初めてエンジンを掛ける時と同じ思い
でしょう。
でも、電源を入れてしまえば、何だ、これだけ？って感じです。」



次の手順に従って実際に電源を入れてみましょう。

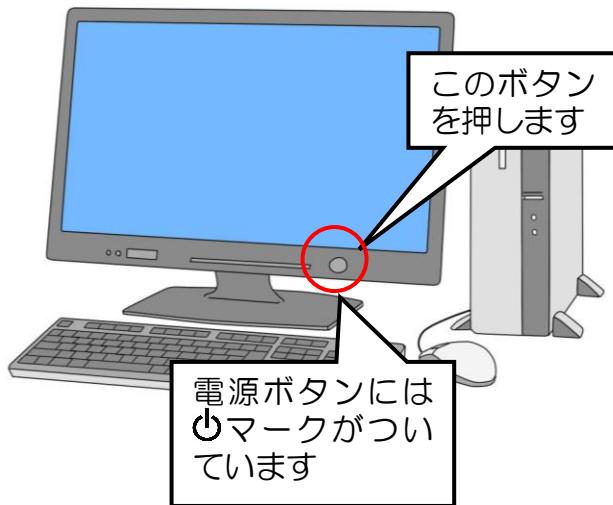
注意！

- ここからの操作は、左右に分かれている箇所があります。「デスクトップパソコン」の方は左側、「ノートパソコン」の方は右側の操作を行ってください。



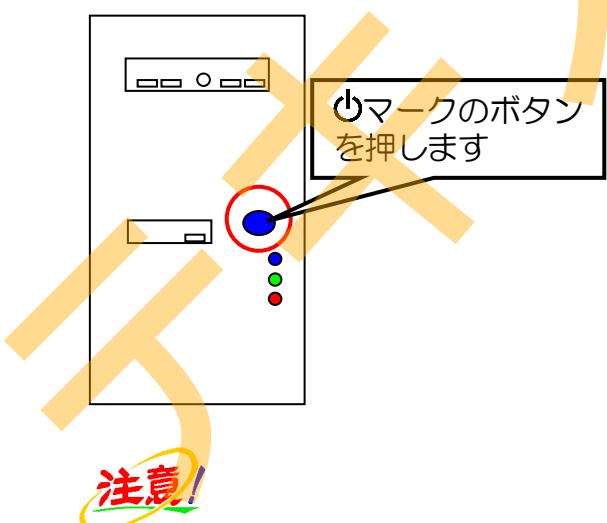
「デスクトップパソコン」の方

画面下（ディスプレイ下）の電源ボタンを押します。



- 電源ボタンの横にあるランプが点滅または点灯していればOKです。
電源がすでに入っているとランプが点滅または点灯しています。そのときは、電源ボタンを押す必要はありません。

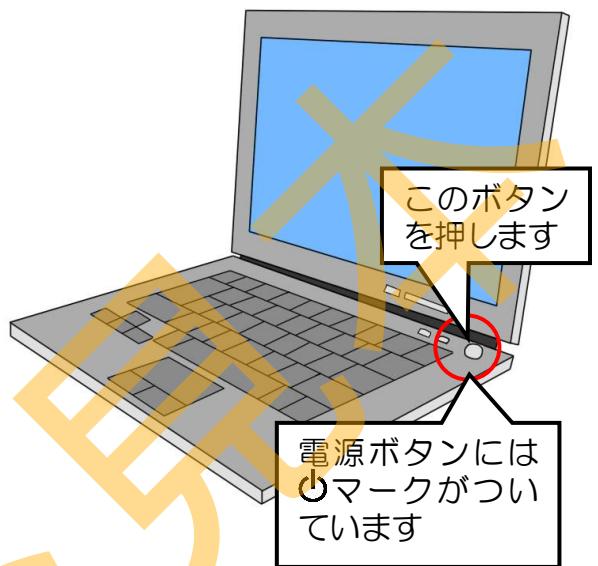
本体の電源ボタンを押します。



- パソコンによって電源ボタンの位置が異なります。

「ノートパソコン」の方

ノートパソコンの蓋を開け、電源ボタンを押します。

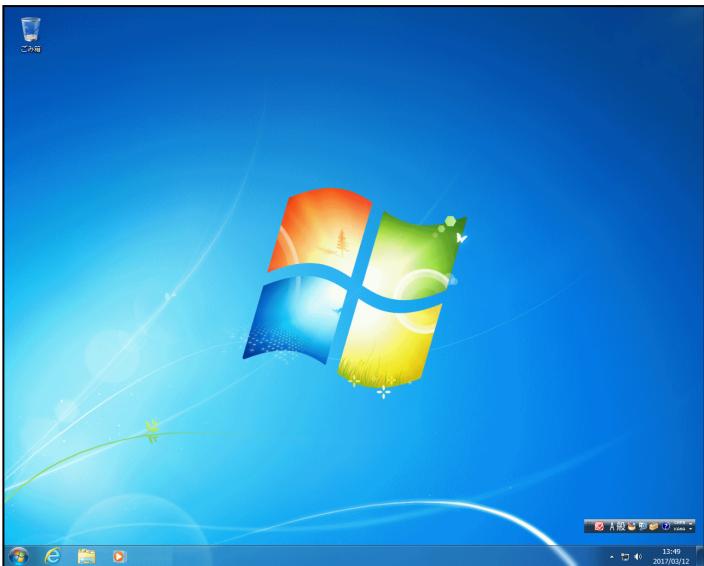


- パソコンによって電源ボタンの位置が異なります。

電源ボタンを押した時の補足説明

P206

次のような模様の画面が表示されます。



●パソコンによってこの模様は違います。

●電源を入れただけでは、綺麗な模様が画面（ディスプレイ）に表示されるだけで、動きがありません。私たちがパソコンに対して命令しないとパソコンは動かないようになっています。

上の画面が表示されても画面に表示された矢印（マウスポインター）が の状態になっている場合は、パソコンが何か処理を行っている最中です。画面に表示された矢印（マウスポインター）が になるまでもう少し待ちましょう。
（「マウスポインター」という言葉は P13、P16 で説明しています。）



(2) 画面に映っている名前

カタカナの名前ばかりで覚えにくいわ！

ウメさん「画面に表示された物って、すべてカタカナの名前ばかりだから、覚えにくいわねえ～。」



タケさん「わしも、人の名前を覚えるのが苦手だから、これも覚えられんわ！」

くじら先生「たくさん書いてありますが、今の段階で覚えてほしいのは、『マウスポインター』、『スタートボタン』、『タスクバー』ぐらいで、後は少しずつテキストを進んでいくうちに覚えてもらったら結構です。」



画面が表示されましたら、ここでどうしても覚えてほしい名前があります。今後、テキストを進めていく中で必要となる名前なので必ず覚えるように心がけましょう。



デスクトップ上の補足説明 P206

(3) マウスのボタンと使い方

たくさんボタンがあるけど、どれを使っても同じなの？

ママさん「たくさんボタンがあるわねえ～。
どのボタンを使っても同じ結果になるの？」



パパさん「いや、確か会社の子が左のボタンと右のボタンでは、機能が
違うようなことを言ってたぞ！」

くじら先生「パパさんのおっしゃるとおり、左のボタンと右のボタンでは使い道が
異なります。そのことについて、今から説明していきますね。」

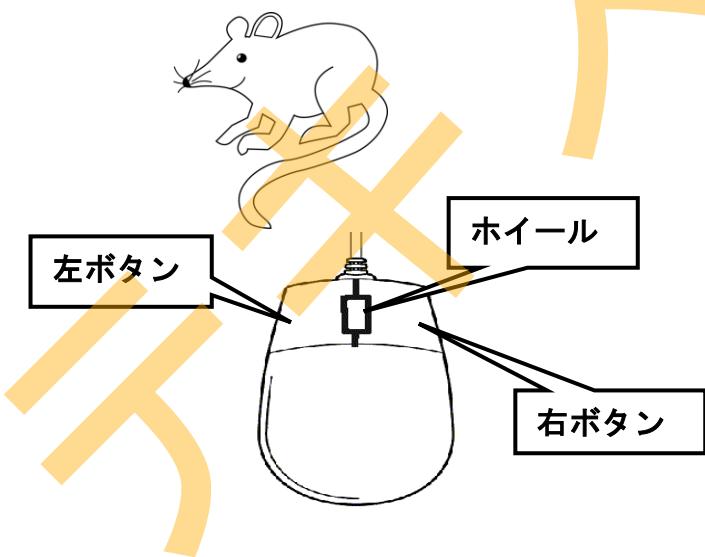


パソコンに電源が入ったところで、電源の切り方を説明したいところですが、パソコンの電源を切るためには、マウスの使い方を学習する必要があります。

パソコンの場合、テレビやビデオと違ってマウスを使って電源を切れます。今までマウスを使ったことのない方には、キーボード以上に難しく感じるかもしれません、これもクルマでブレーキを踏む感覚をつかむのと同じでマウスをどれぐらい動かせばいいか、使って慣れるしか方法はありません。

ここではマウスを自由に動かすことと、ボタンの押し方を覚えてください。

① マウスの名前



●マウスとは、形がねずみに似ていることからこの名前が付いています。また、マウスには通常2つ～3つのボタンが付いています。



●ホイールとは、左右のボタンの間に取り付けられた、円盤型のボタンのことです、指で押したり、回したりすることによって、画面をスクロール（一画面に表示できない場合に表示画面を上下左右に移動して表示する機能）することができます。

② マウスの持ち方

マウスを持ってみましょう。

右手の親指でマウスの左側面、薬指と小指でマウスの右側面を支えるように持ちます。

裏から見た
状態



横から見た
状態



上から見た
状態



次に人差し指を左ボタンに中指を右ボタンに置きます。

上から見た
正しい持ち方



横から見た
正しい持ち方



横から見た誤った持ち方



マウスの裏側



●マウスを持つときのポイントは、人差し指と中指にあまり力を入れて持たないことです。軽くボタンの上に乗せるように置きます。
人差し指と中指に力が入ってしまうと、ボタンを押すときにうまく押せません。

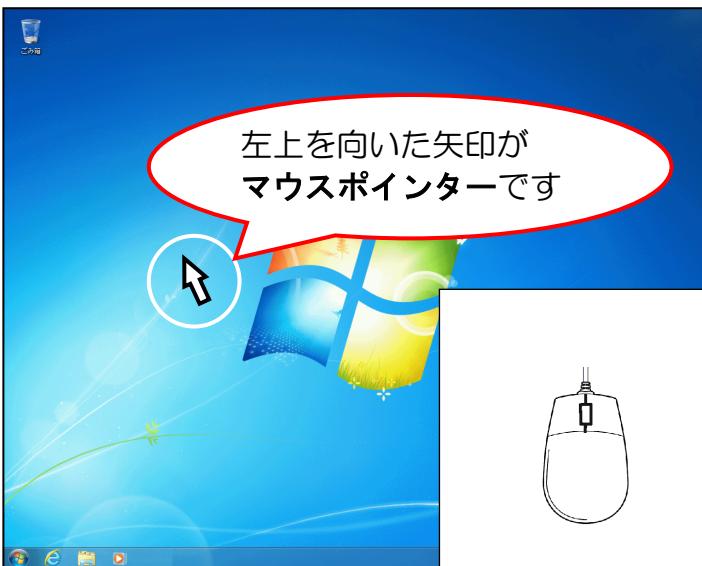
●また操作する時は、手首を机から浮かせてしまうと、うまく操作できないため、軽く机に置いた状態で操作するようにします。



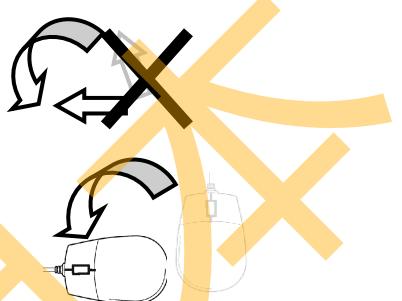
●左ボタンも右ボタンも人差し指で押す方を、たまに見かけますが、変な癖を身に付けてしまうと、直すことができなくなってしまうので、必ず最初に正しい持ち方をマスターしましょう。

③ マウスの動かし方

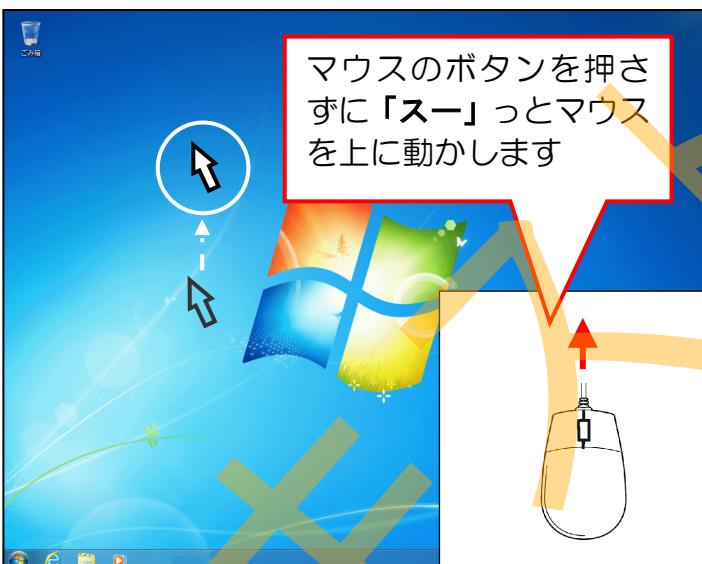
画面上で左上を向いた矢印（マウスポインター）の位置を確認します。



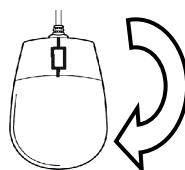
●マウスポインターは、表示される位置によって形が変わるので、いつも同じ形とは限りません。また、マウスを回しても （マウスポインター）が回るわけではありません。矢印の指している方向は同じです。



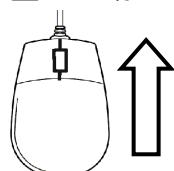
マウスを上に動かしてみましょう。



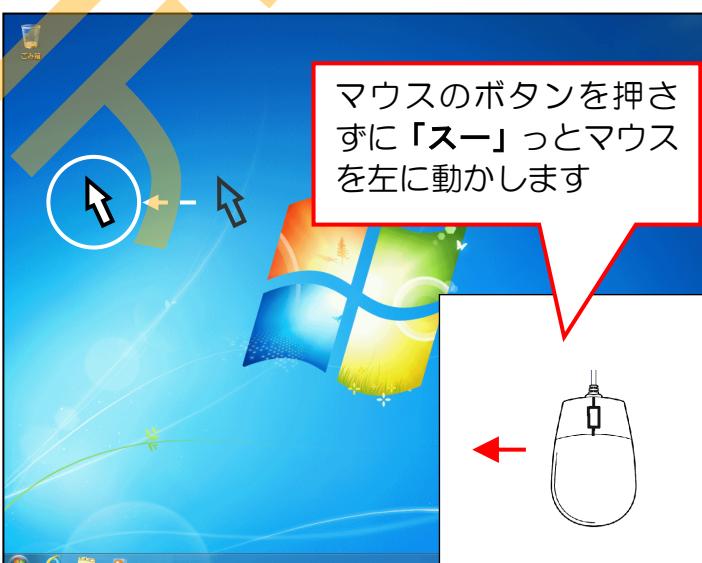
●これ以上マウスが移動できない位置まできたら一度マウスを持ち上げて、マウスを移動します。



もう一度マウスを置いて動かします。



マウスを左に動かしてみましょう。



マウスを持ち上げている時は、マウスポインターは動きません。



④ マウスの大切な基本操作

マウスは、パソコンを操作するうえで非常に重要な役割を持っています。パソコンに「～をしなさい」というような命令を与える場合、マウスを使う方法が一番簡単です。

マウスの基本操作には、次のような操作があるので、下に記載した言葉とその言葉の意味をよくマスターしておきましょう。



ここは説明だけです！
操作方法は次のページからです！！

- ポイント 目的物にマウスポインターを重ね合わせる
- クリック マウスの左ボタンを1回押す
- 右クリック マウスの右ボタンを1回押す
- ダブルクリック マウスの左ボタンをすばやく2回押す
- ドラッグ マウスの左ボタンを押したまま目的の位置まで
(ドラッグ&ドロップ) マウスを動かし「パッ」と離す

マウスを使って操作する場合、次のような流れで行うので、よく理解しておきましょう。

目的物に『ポイント』する

『クリック』する

『右クリック』する

『ダブルクリック』する

『ドラッグ』(ドラッグ&ドロップ) する

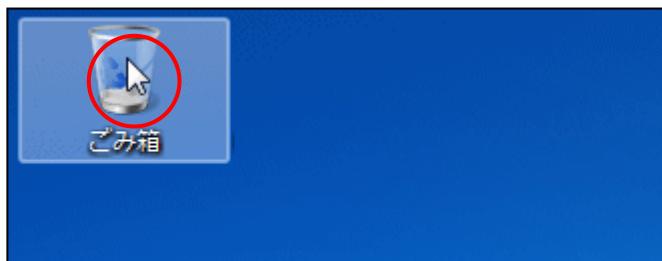
※…上の図でも理解できるように、まず操作の基本は目的物にマウスポインターを重ね合わせる(ポイントする)という操作から始まります。

それでは、実際にこれらの基本操作をマスターするために、次のページから操作方法を説明します。

⑤ ポイントしてみよう

ポイントとは、絵柄（アイコン）やボタンなど、操作する目的物に左上を向いた矢印（マウスポインター）を重ね合わせる操作をいいます。

マウスを動かして、左上を向いた矢印の先を「ごみ箱」の絵柄（アイコン）に重ね合わせます。



●よく「ポイントしてください」と言ったときに、マウスのボタンを押される方がいらっしゃいます。マウスのボタンは押しません。

余裕があれば読んでね

●ごみ箱とは、いらなくなつたデータを入れておく入れ物のことをいいます。

次の操作のために、マウスポインターを何もない場所へ動かしておきましょう。



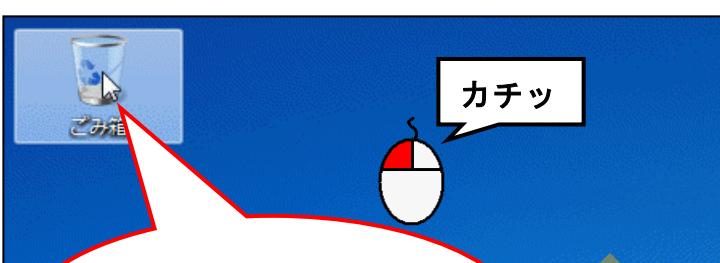
⑥ クリックしてみよう

マウスの左ボタンを1回押す操作をクリックといいます。

左上を向いた矢印（マウスポインター）を「ごみ箱」にポイントします。



そのままの状態で左ボタンを1回押します。



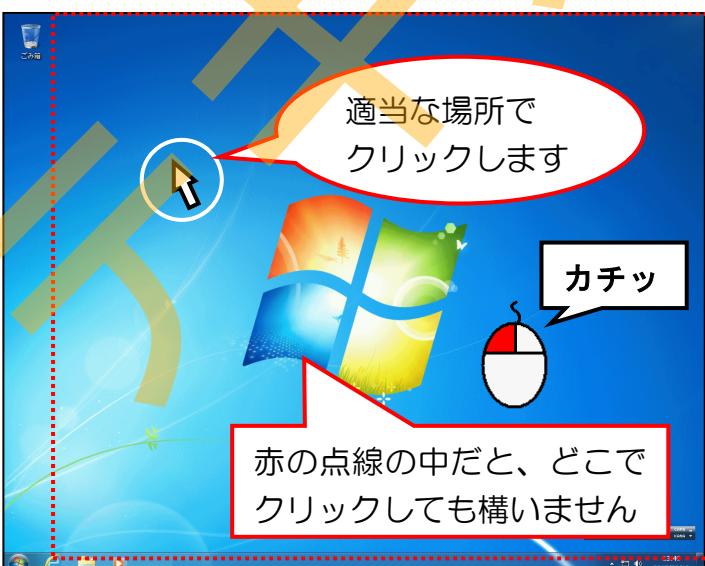
●クリックとは、「カチッと音を鳴らす」という意味です。

●マウスの左ボタンは、右手の人差し指で押します。

クリックの補足説明

P208

画面上の何もない場所をクリックします。



●色が変わった「ごみ箱」を元の状態に戻すため、画面上の何もない場所でクリックします。

●他のアイコンをクリックしないように注意しましょう。

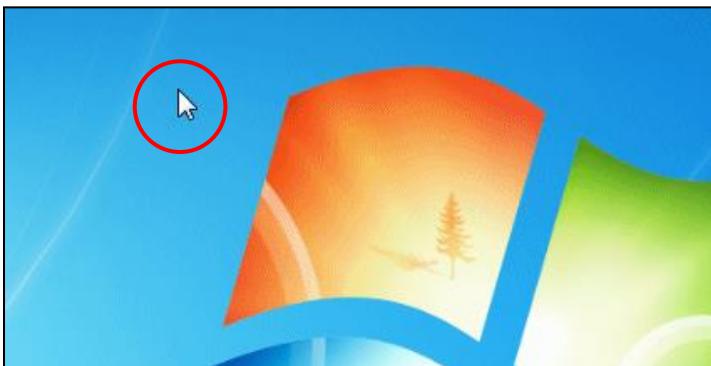
注意!

●マウス操作に慣れていないと、マウスを持った手元を見ながらクリックしてしまいますが、画面に表示されたマウスポインターを見ながらクリックする習慣をつけましょう。

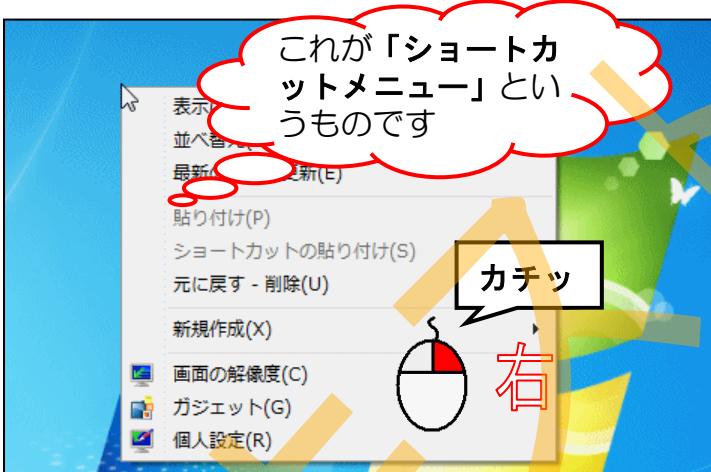
⑦ 右クリックしてみよう

マウスの右ボタンを1回押す操作を**右クリック**といいます。

マウスポインターを画面上（デスクトップ）の絵柄（アイコン）がないところに移動します。



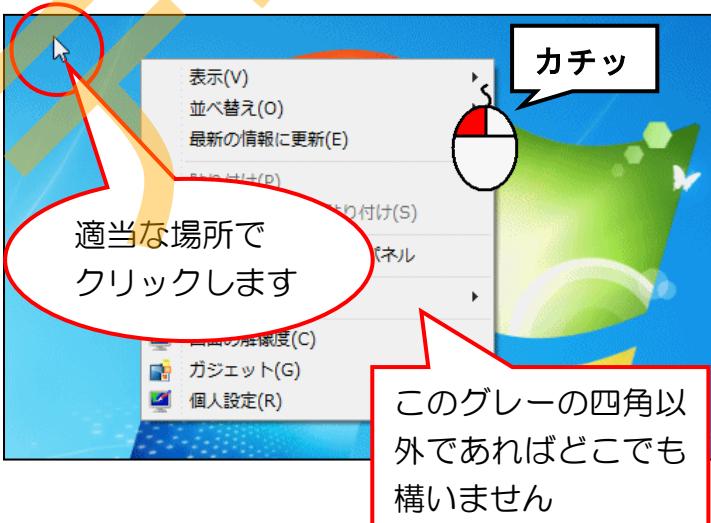
マウスの右ボタンを1回押します。



- マウスの右ボタンは、**右手の中指**で押します。

- 注意!**
- 表示されるショートカットメニューの内容は、右クリックした場所によって異なります。

グレーの四角以外でクリックし、ショートカットメニューを消します。



- 注意!**
- 自分で、右クリックした覚えがないのに、グレーの四角が表示される場合があります。

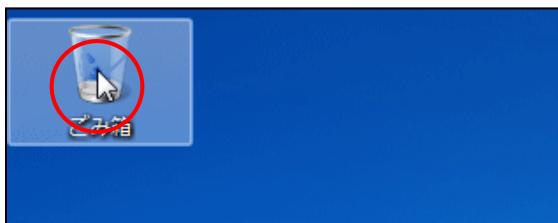
これは、マウスの右ボタンに指が触れてしまったために、右クリックしたのと同じ状態になってしまったためです。

右クリックしてしまって、グレーの四角が表示されてしまった場合は、グレーの四角以外をクリックすることで戻ります。

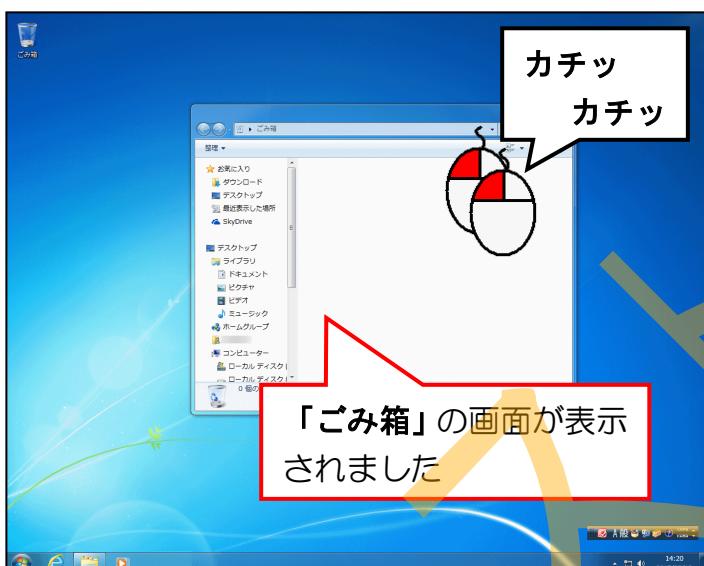
⑧ ダブルクリックしてみよう

マウスの左ボタンをすばやく2回押す操作をダブルクリックといいます。

マウスポインターを「ごみ箱」にポイントします。



ポイントした状態で、マウスの左ボタンをすばやく2回押します。



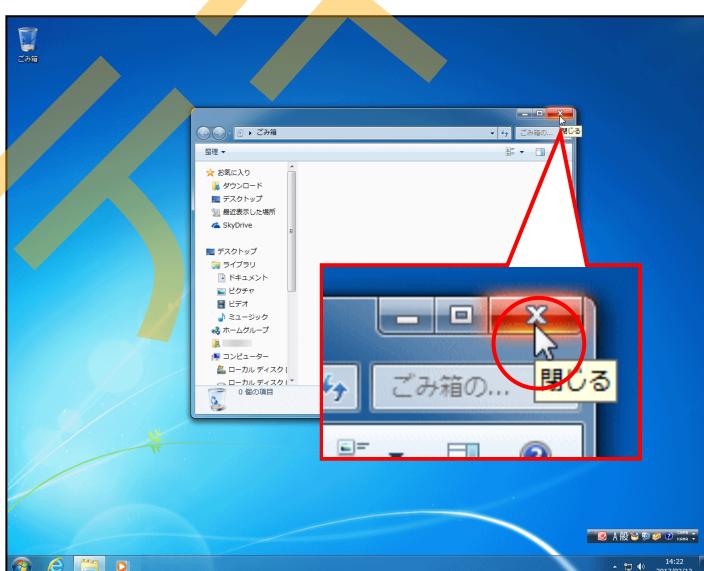
- うまくダブルクリックするコツは、指先に力をいれないようにしてボタンを押すことです。

注意!

- 左ボタンを押すときに、1回目と2回目の間隔が長すぎたり、1回目の押した位置と、2回目の押した位置がズレると失敗します。

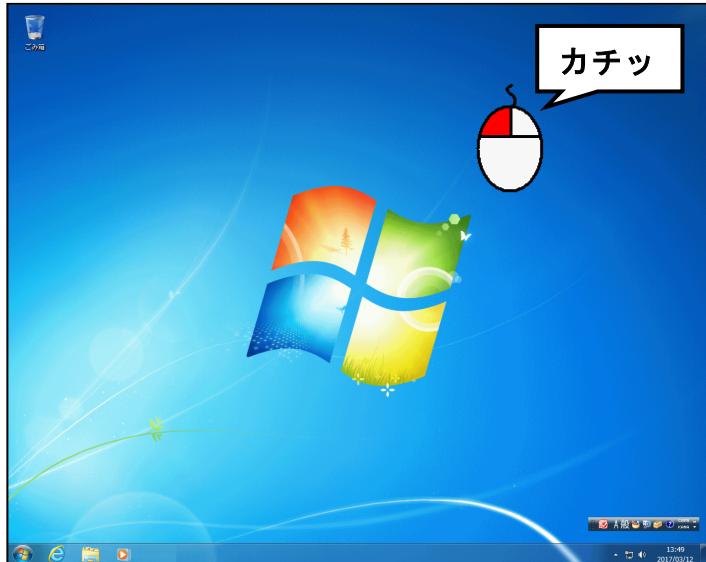
ダブルクリックが苦手な方のために P209

マウスポインターを画面の右上にある [閉じる] ボタンにポイントします。



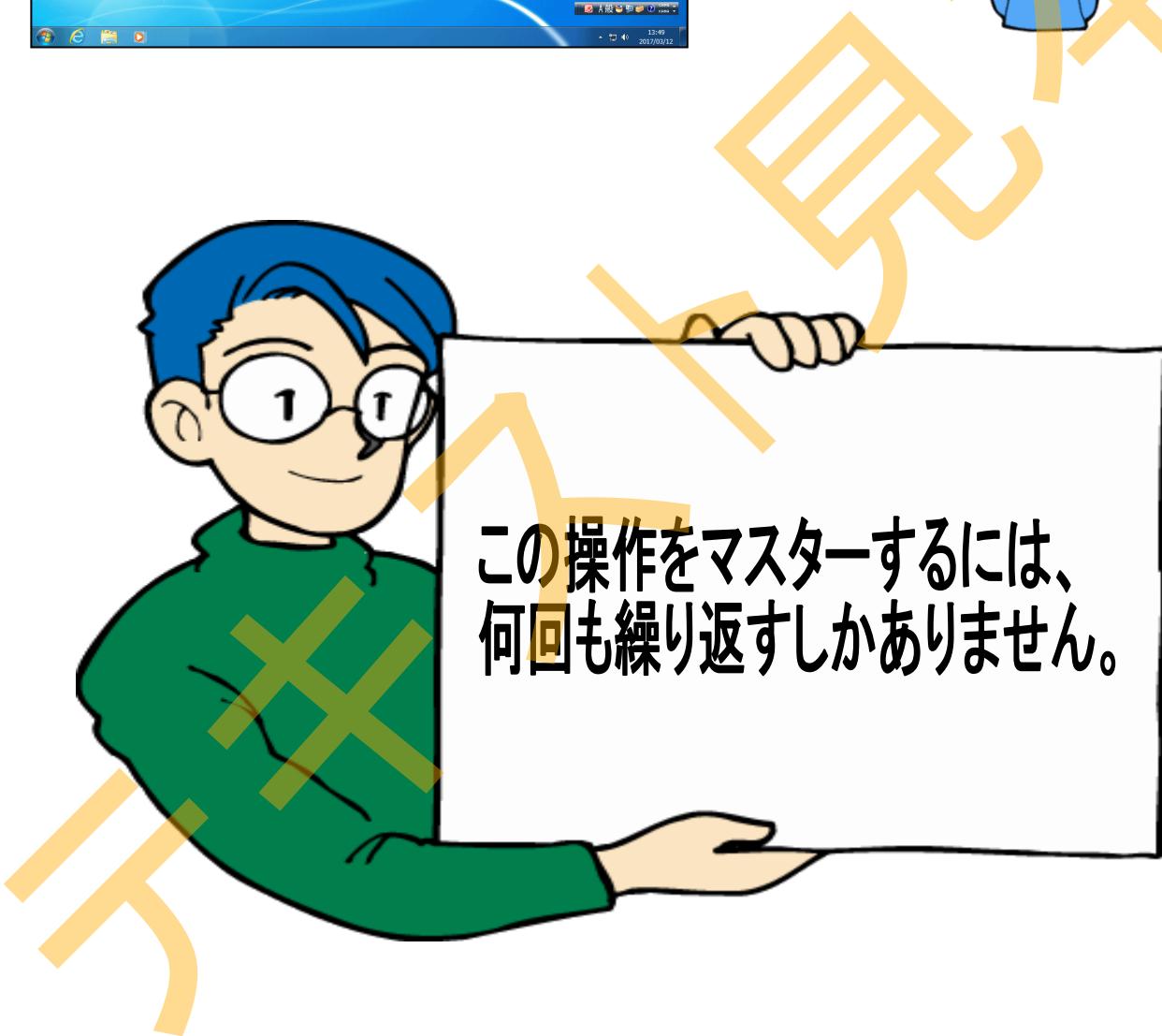
- 開いた画面を閉じる場合は [閉じる] ボタンをクリックします。

そのまま  [閉じる] ボタンをクリックします。



ダブルクリックという操作は、初心者にとってやりにくい操作のひとつです。

最初は上手にダブルクリックできなくて当然です。



⑨ ドラッグしてみよう

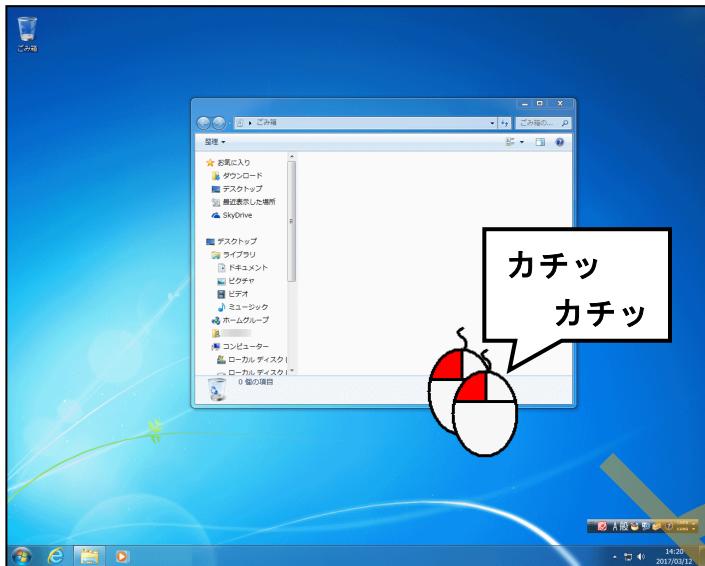
マウスの左ボタンを押したままの状態で、マウスを目的位置まで動かし、マウスから指を離す操作のことを **ドラッグ** といいます。

正式な名称を **ドラッグ & アンド ドロップ** といいます。

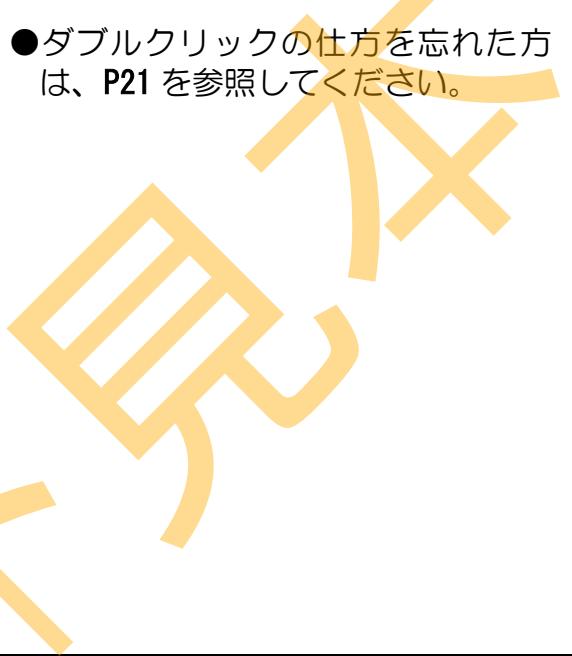
「**ドラッグ**」とは「ズルズル引きずる」、「**ドロップ**」とは「落とす」という意味です。

「**ドラッグ & ドロップ**」とは、「引きずって落とす」という意味になります。

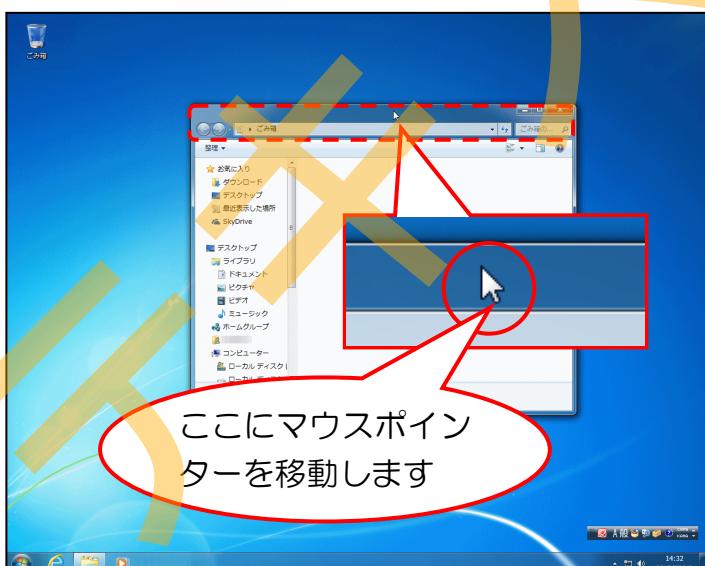
「ごみ箱」の絵柄（アイコン）をダブルクリックして、「ごみ箱」を開きましょう。



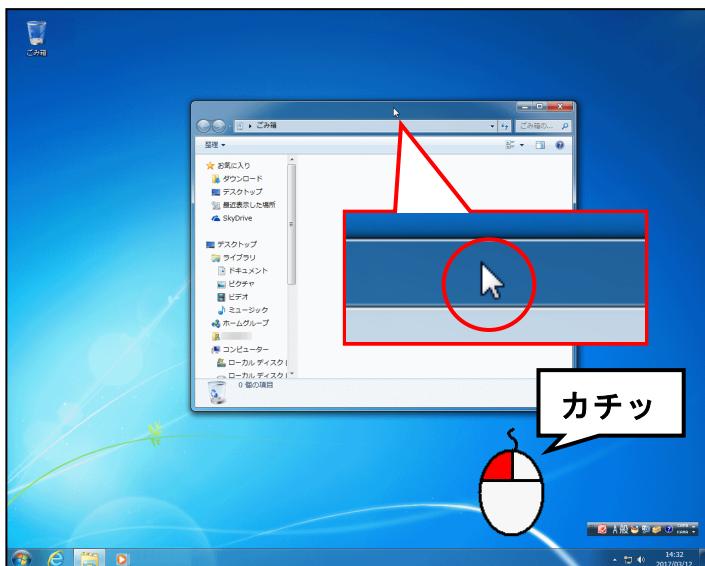
●ダブルクリックの仕方を忘れた方は、P21 を参照してください。



マウスポインターの先を、画面上に表示された薄い青いバーにポイントします。



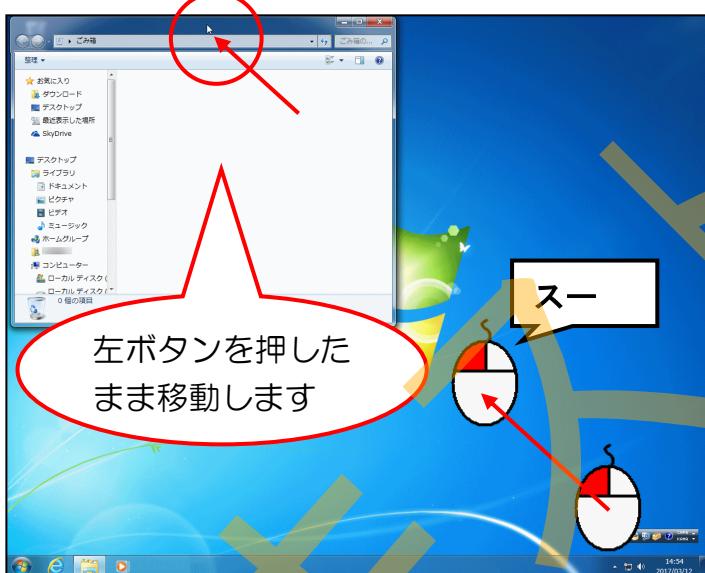
マウスの左ボタンを押したままにしておきます。



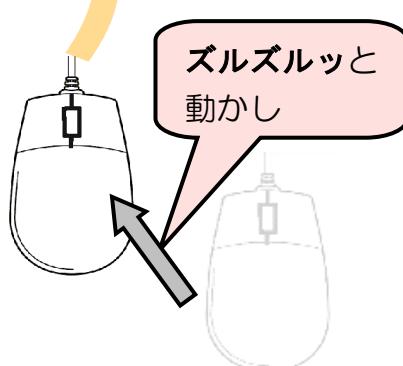
- ドラッグは、クリックと違って左ボタンを押したままの状態を保ちます。



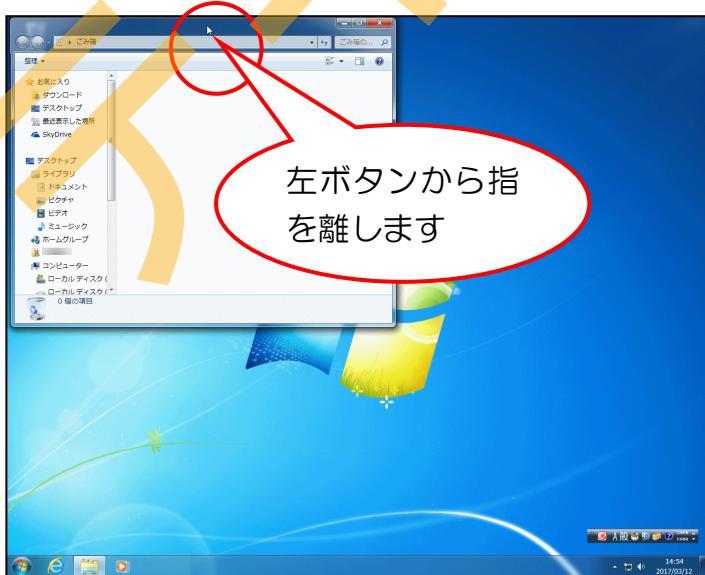
マウスの左ボタンを押したままの状態で左上に移動します。



- マウスポインターの矢印の先がウインドウの上の薄い青い場所にはいと移動しません。

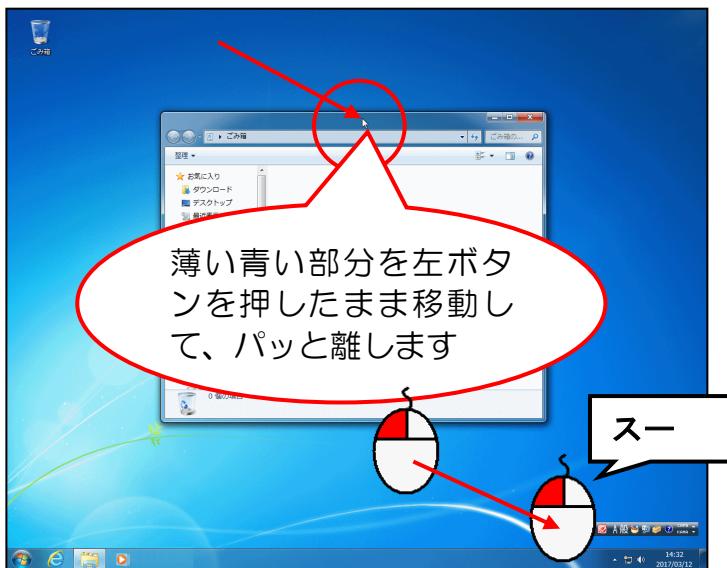


マウスの左ボタンから指を離します。

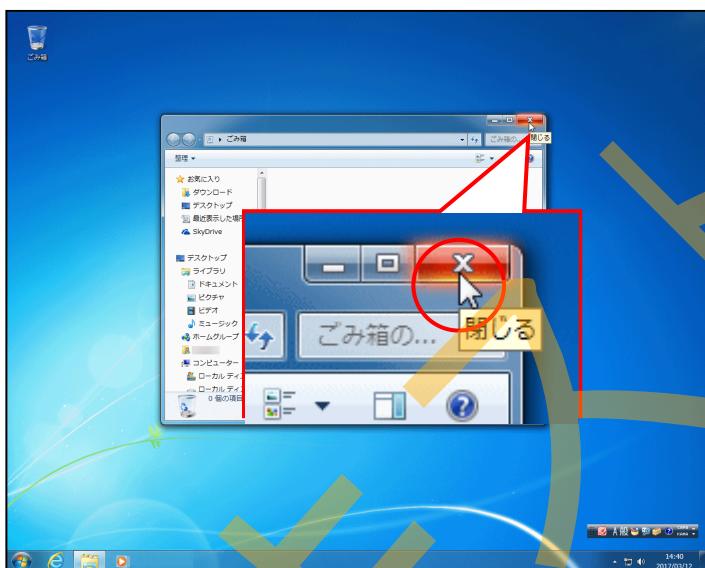


- 画面の左上にドラッグしすぎると、画面いっぱいに広がってしまうので気をつけましょう。ドラッグしすぎて広がった場合は、再度右側にドラッグしましょう。

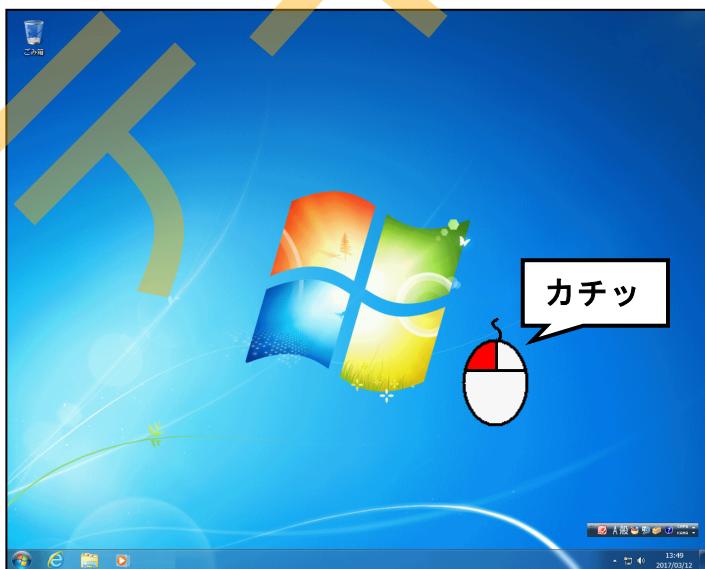
同じ要領で左上に移動した画面を中央付近に戻してみましょう。



マウスポインターを、画面の右上にある [閉じる] ボタンにポイントします。



そのまま [閉じる] ボタンをクリックします。



注意!

- たまに画面を移動しすぎて右上にある [閉じる] ボタンが画面の外にはみ出してしまう場合があります。そのときは、一度画面を [閉じる] ボタンが見える位置まで移動してから [閉じる] ボタンをクリックします。

マウス操作の補足説明

P209

(4) 電源の切り方

電源入れる時と同じ操作をすればいいのじゃな！

タケさん「電源入れる時と同じで、切る時も電源ボタンを押せばいいのじゃな！」



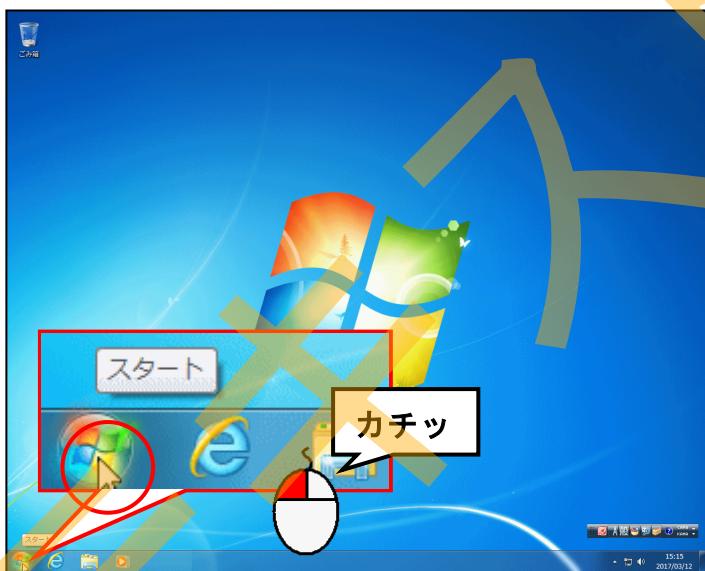
ウメさん「どんな電気機器でも、電源を入れる時と同じ操作で切れるものね。」

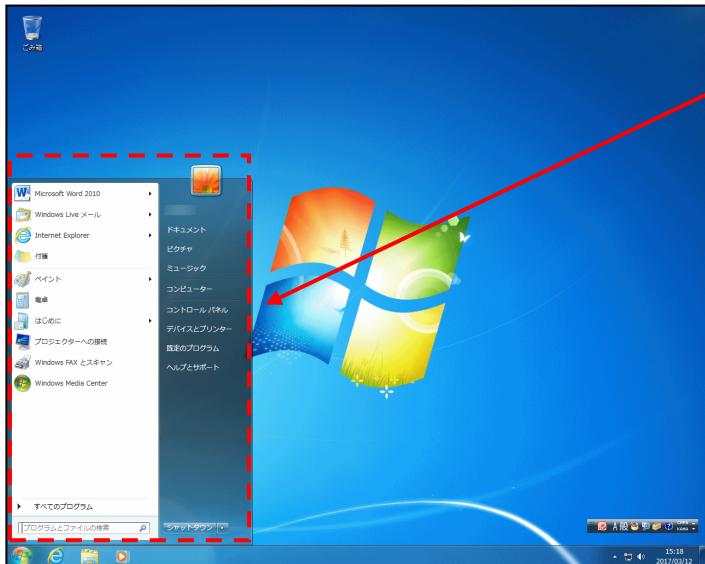
くじら先生「それがパソコンは、他の電気機器と少し違って、電源ボタンでは切らないのです！

でも、心配はいりませんよ。簡単な操作で切ることができます。」

パソコンの電源は、電源ボタンを押して切るのではありません。**マウスを使って電源を切ります。**電源ボタンを押してパソコンの電源を切ると故障の原因になるので、よく覚えておきましょう。

マウスポインターを画面左下の【スタート】ボタンにポイントし、クリックします。

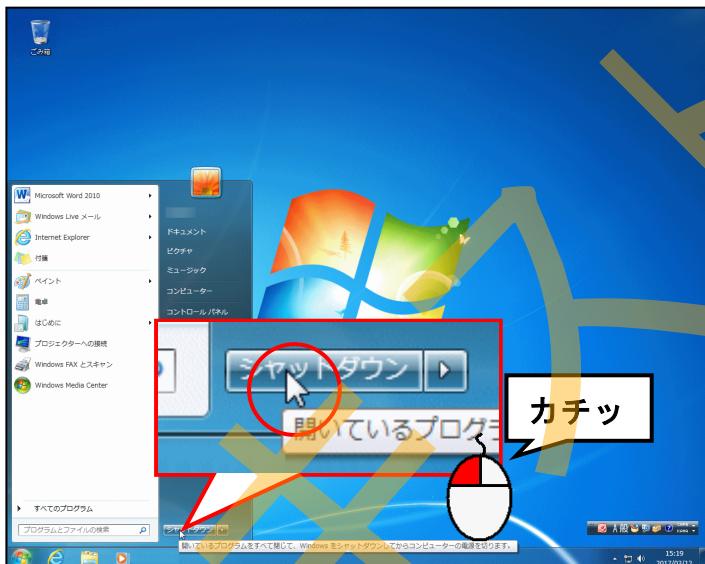




● [スタート] ボタンをクリックして、表示されるメニューを「スタートメニュー」といいます。

スタートメニューの表示方法と消す方法 P209

右側に表示される [シャットダウン] にポイントし、クリックします。

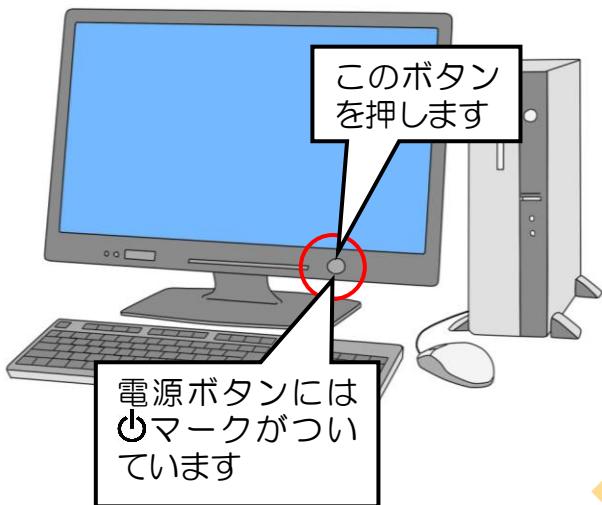


電源を切る操作は、たったこれだけです。[シャットダウン] をクリックすると、あとは自動的に電源が切れ、画面が暗くなります。



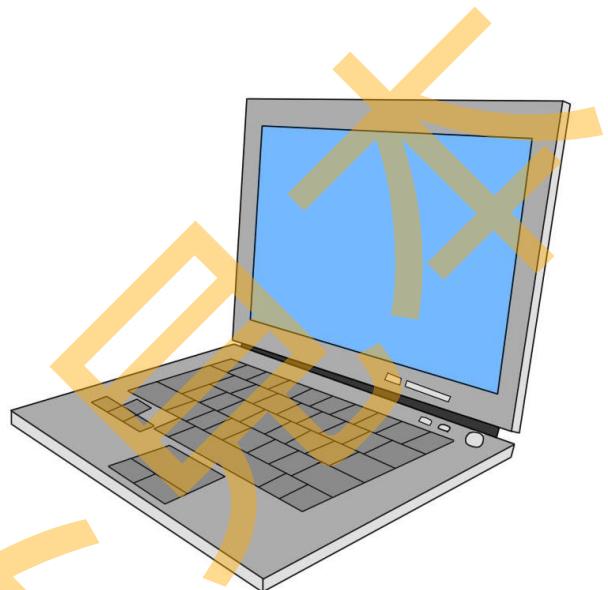
「デスクトップパソコン」の方

画面が真っ黒になったことを確認して、画面下（ディスプレイ）の電源ボタンを押します。



「ノートパソコン」の方

画面が真っ黒になったことを確認しましょう。



余裕があれば読んでね

●このような操作をせずに電源を切ると作成中の文書などがある場合、データは消失して、最悪の場合ハードディスクが壊れます。

●よくこのような操作をせずに電源を切る方がいらっしゃいますが、それはどうしても電源が切れないときの最終手段です。

スリープ状態にする方法

P210

(5) パソコンの画面の背景を変更する

画面に表示された模様は変えるの？

パパさん「どのパソコンも同じ景色が映っているから、変えられないと思っていたよ。」



ママさん「もし、景色を変えられれば、画面を見たときに飽きなくていいわね。」

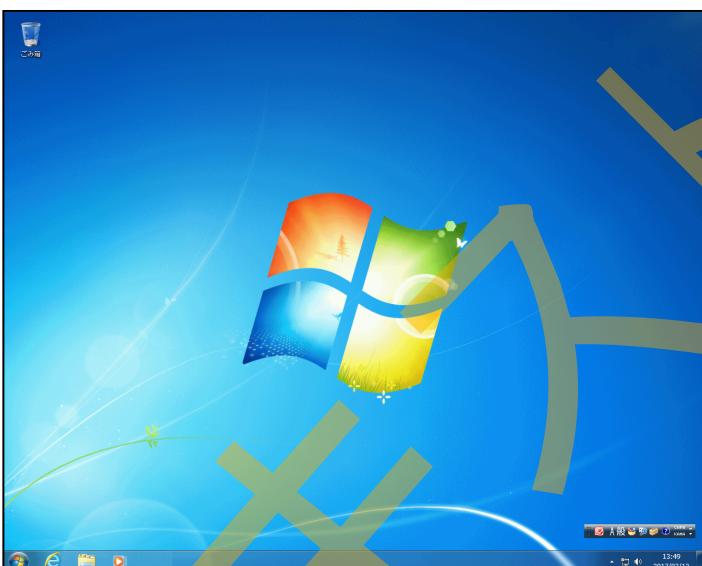
くじら先生「ここで背景の変更方法を覚えて、飽きればその都度変えてみてください。」



何回も同じ操作をすることで、操作をマスターできるのですから・・・」

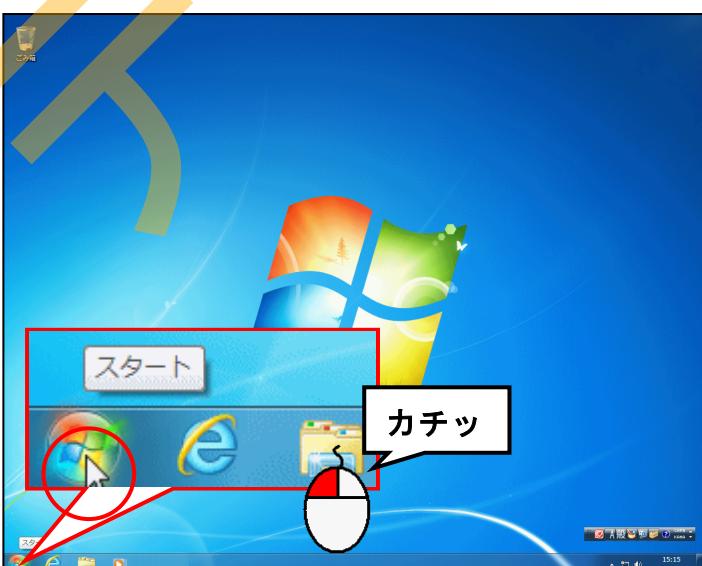
パソコンの中には、元からさまざまな画面が用意されています。現在表示されている画面から違う画面に変更してみましょう。

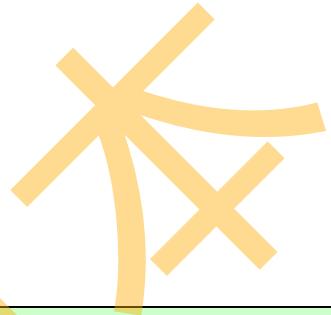
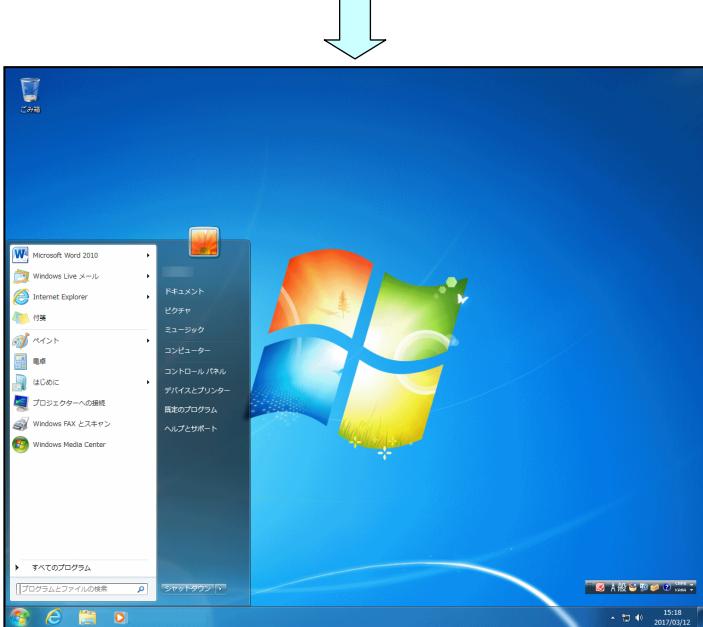
もう一度パソコンの電源を入れてパソコンを起動させましょう。



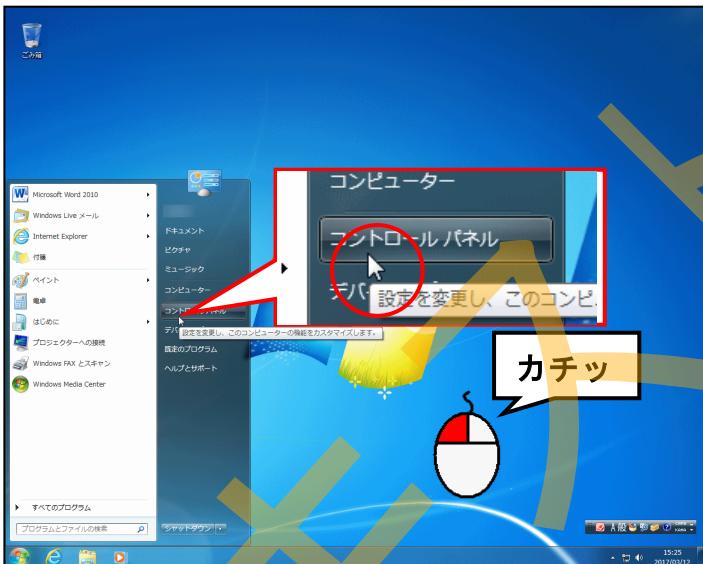
- パソコンの起動を忘れた方は、P10(1) 電源の入れ方を参照してください。

マウスポインターを画面左下の [スタート] ボタンにポイントし、クリックします。



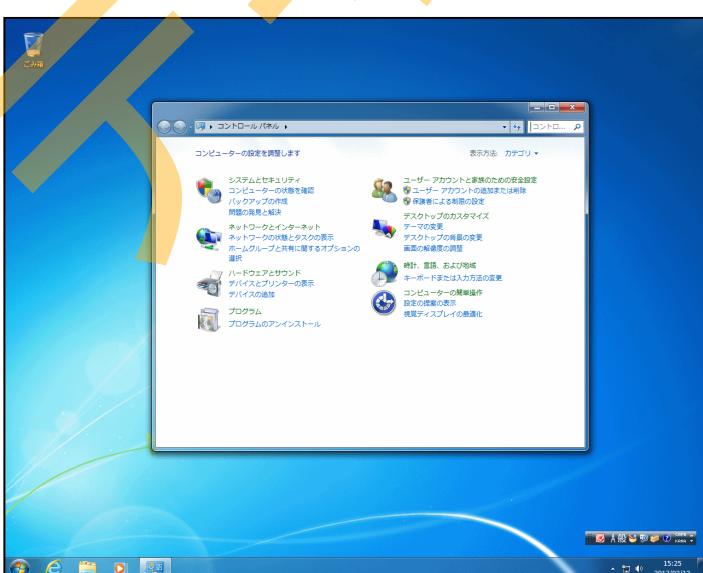


マウスポインターを【コントロールパネル】にポイントし、クリックします。

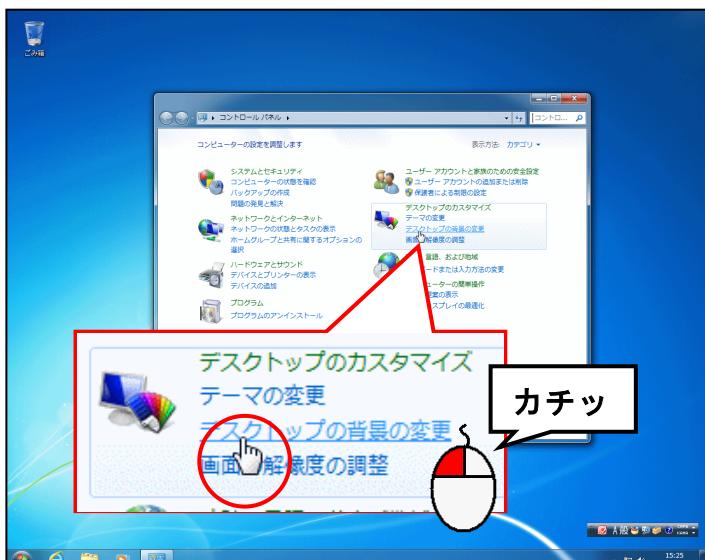


余裕があれば読んでね

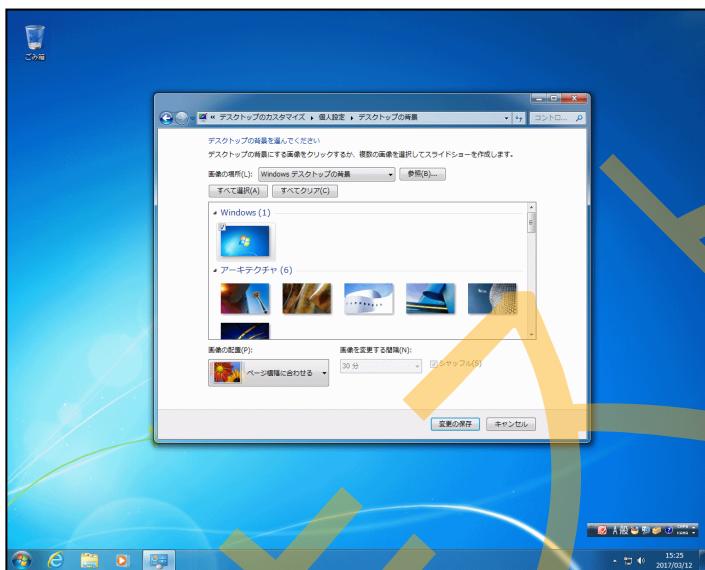
- コントロールパネルとは、画面の文字の大きさや、パソコンの日付や時刻の設定などをする場所です。



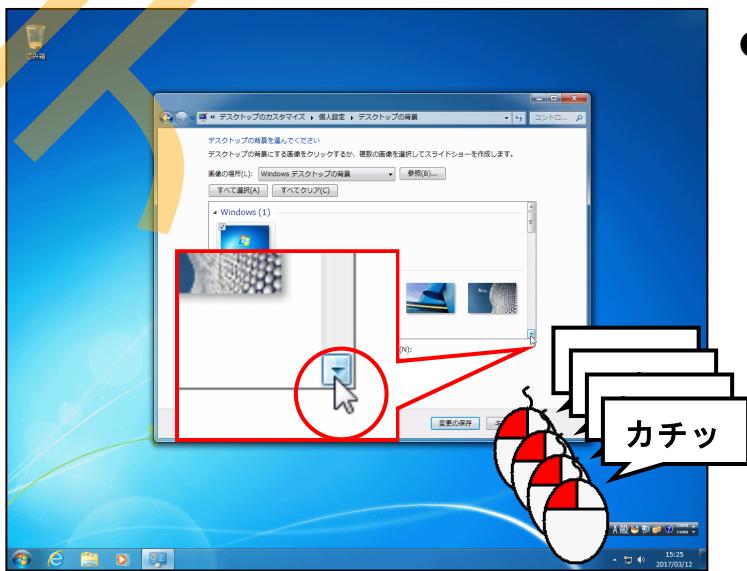
マウスポインターを [デスクトップの背景の変更] にポイントし、クリックします。



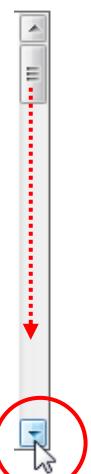
●マウスポインターを「デスクトップの背景の変更」の上に移動すると、マウスポインターが に変わります。

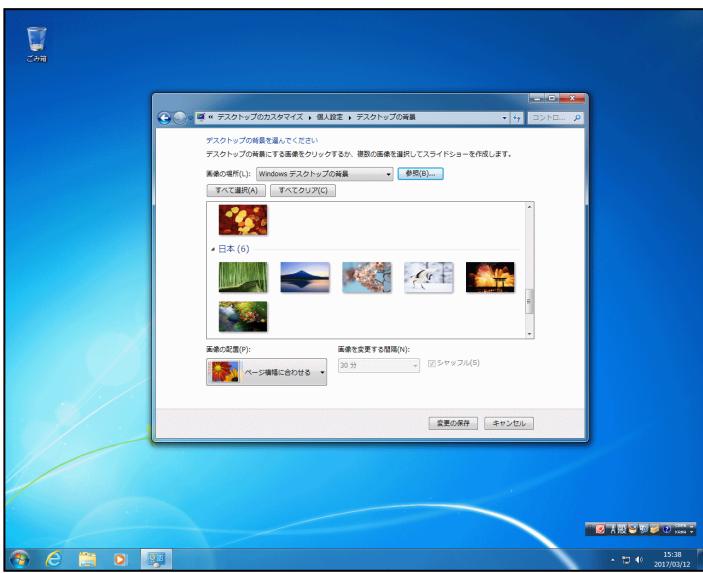


マウスポインターを画面右下にある ▾ にポイントし、お好きな背景が出てくるまでそのまま ▼ を何度かクリックします。

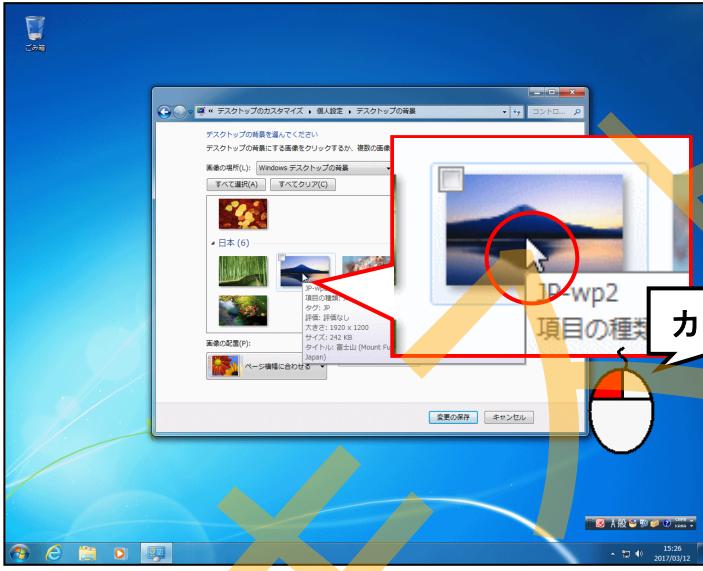


●右の図をスクロールボックスといい、▼をクリックすると画面が下へ移動します。▲をクリックすると画面が上へ移動します。または、□を上下にドラッグしても画面を移動することができます。





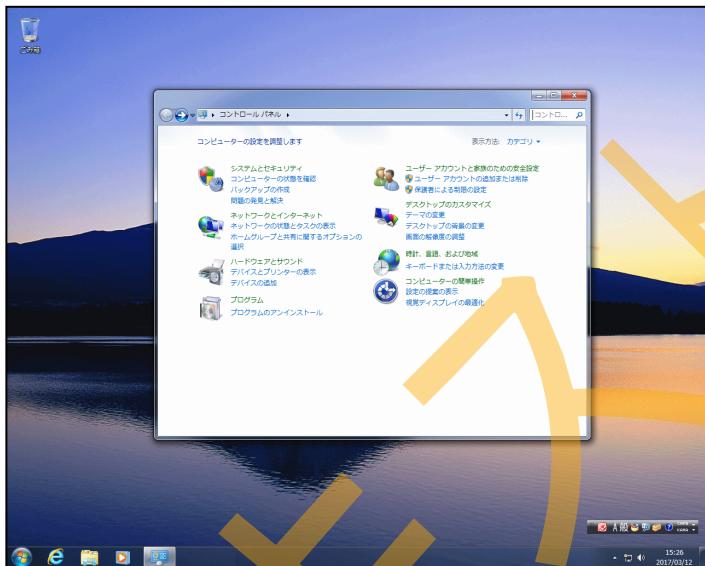
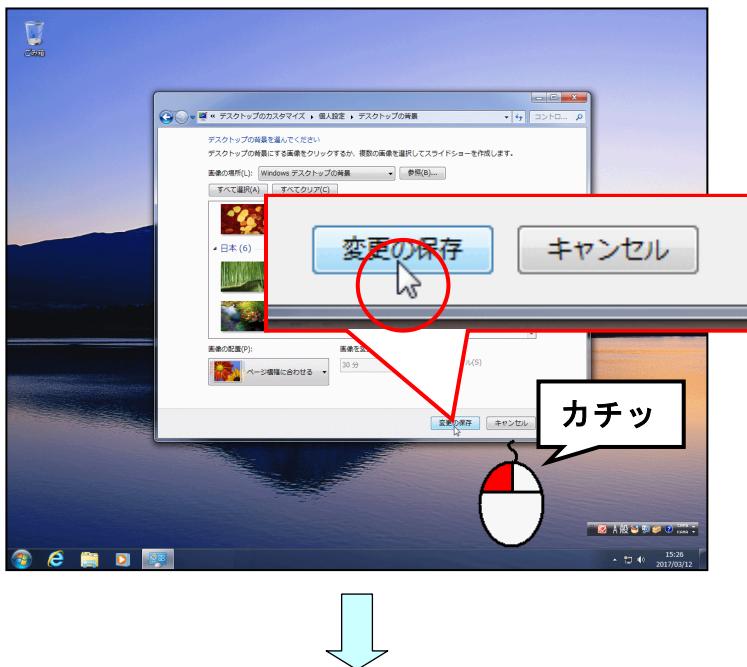
お好きな背景が出てきたら、その上にポイントし、クリックします。



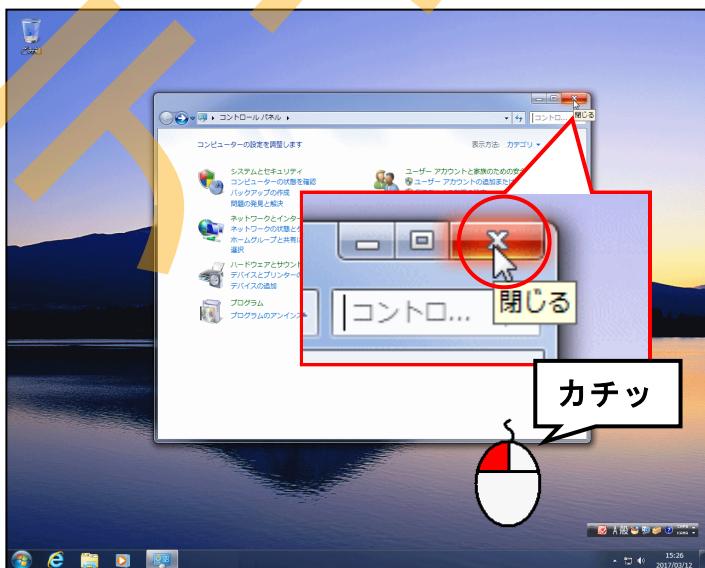
- クリックすると同時に、背景が変わりますが、これで決定したわけではありません。

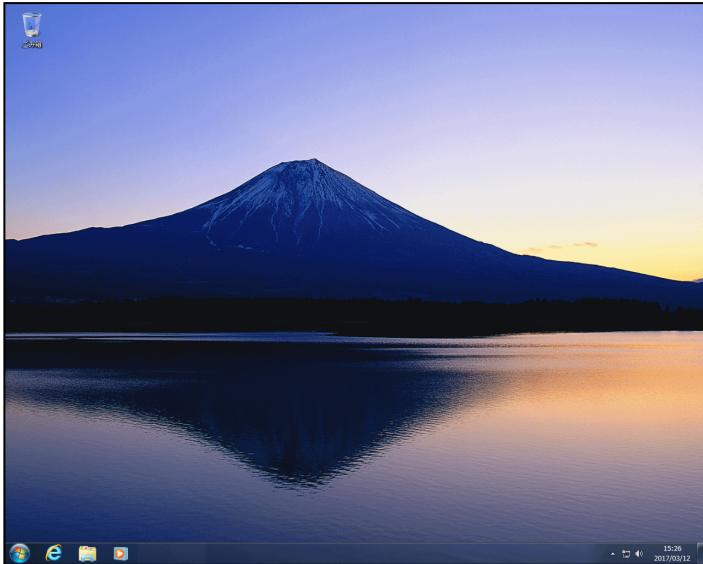


右下にある【変更の保存】ボタンにポイントし、クリックします。

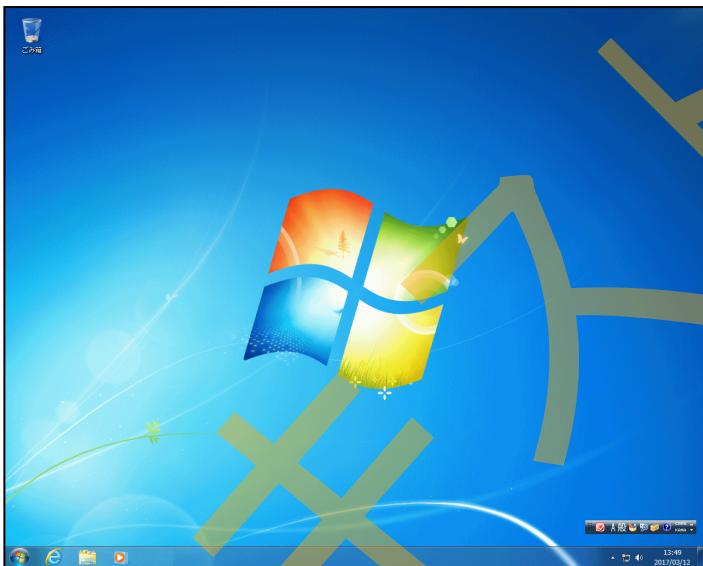


右上にある [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。

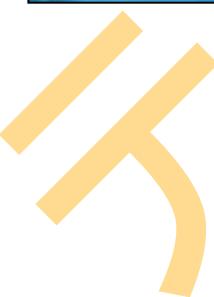




もう一度、背景を変更して、下図のようにしましょう。



- 背景の変更を忘れた方は、P29(5)
パソコンの画面の背景を変更する
を参照してください。



☆☆ここまでくれば、練習問題2で理解度を試してください。☆☆

3. パソコンを動かしてみよう

今からがパソコンの楽しさを実感できるところですね！

ウメさん「これから、いろいろなものを画面上に表示したり、年賀状を作ったりできるのね。」

タケさん「わしは、早く年賀状を作りたいんじゃ！」

くじら先生「おふたりとも、そんなに焦らないでください。

いろいろなものを画面上に表示しますが、まだ年賀状は無理ですよ！

最初は、マウスの操作に慣れていただくために、『電卓』というものを画面上に表示してみましょう。」

タケさん「パソコンの中に『電卓』？」

くじら先生「そうです。いつもみなさんが使う電卓と同じ機能を持っています。

パソコンを使っているときに、ちょっと電卓がほしいという時にすぐ出せて便利です。

5章では、『ペイント』というプログラムを使って、絵を描いていただくなつもりです。」

ウメさん「わたし、絵心がないから、描かなくていいわ！」

くじら先生「ウメさん、みんなといっしょに描きましょう！

きれいに描いてもらうのが目的ではなく、マウスに慣れてもらうことが目的ですから、上手に描こうと思わず遊びのつもりでやってみてください。」



パソコンは電源ボタンを押しただけでは、自分から勝手に動いてくれません。パソコンもテレビと同じように、自分から何かを表示してくれて勝手に動いてくれると便利なのですが、今の技術ではまだそこまでには至っておりません。

パソコンに何かをさせるためには、私たちがパソコンに「命令」を与えないといけません。また、自分が何をしたいかによって、必要な道具が異なります。パソコンに作業をさせるためには、その作業に見合った「道具」が必要なのです。



(1) パソコンを動かす道具のいろいろ

いろいろありすぎてどれを使ったらいいいのかなあ～。

ウメさん「どれを使っても年賀状を作ることができるの？」



くじら先生「年賀状を作るためには、年賀状を作るための道具があります。
どれでもいいというわけではありません。」

タケさん「それじゃ、さっそく何から始めればいいんじゃ？」



くじら先生「それじゃタケさん、ウメさん、さっそく始めてみましょう。
でもまずは、マウスに慣れるために『電卓』を出してみましょう。」

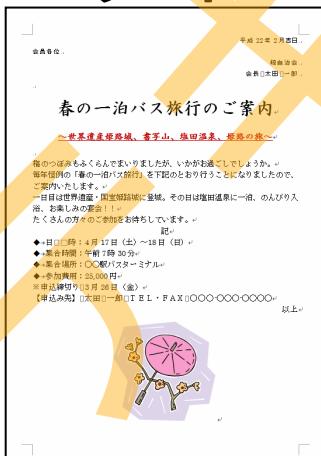


パソコンを動かすためのソフトは1種類だけではなく、非常にたくさんの種類があり、また使う用途によってもいろいろと異なります。

その中で、このパソコン入門で利用する文書を書くための道具を「ワード」といいます。
そのほかに、表計算をするための道具として「エクセル」、絵を描くための道具として「ペイント」、インターネットを楽しむための道具として「インターネットエクスプローラー」などがあります。

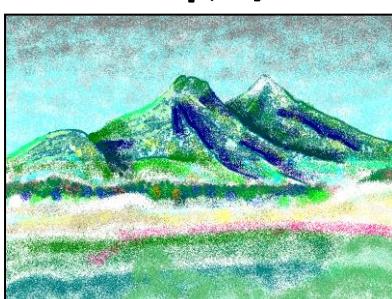
エクセル

ワード



お小遣い帳					
日付	費目	摘要	収入	支出	残高
6月1日	前月繰越		17,892	17,892	
6月1日	収入		30,000	47,042	
6月3日	食費	屋食代		850	47,042
6月5日	図書費	雑誌代		650	46,392
6月5日	雑費	温泉入浴代		600	45,792
6月5日	食費	和菓子代		950	44,842
6月8日	衣服費	Tシャツ代		2,900	41,942
6月10日	交通費	タクシー代		3,420	38,522
6月10日	交際費	手土産代		1,260	37,262
6月20日	交通費	電車代		420	36,842
6月20日	雑費	文房具代		735	36,107
6月23日	衣服費	スラックス代		7,800	28,307
6月26日	交際費	お土産代		1,800	26,507
6月28日	雑費	温泉入浴代		600	25,907
合計			47,892	21,985	

ペイント



インターネットエクスプローラー



(2) いろいろな道具を見てみよう

なんだかドキドキするのぉ～。

タケさん「いざ操作するとなると、ドキドキしてきたのぉ～。」

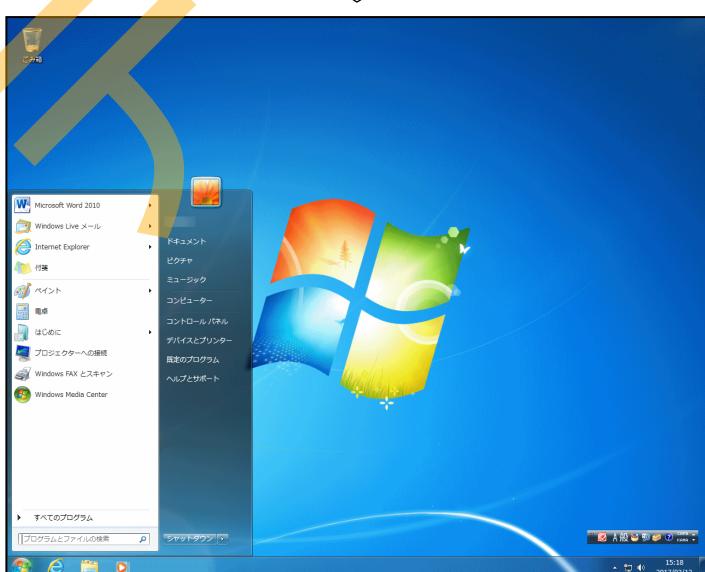
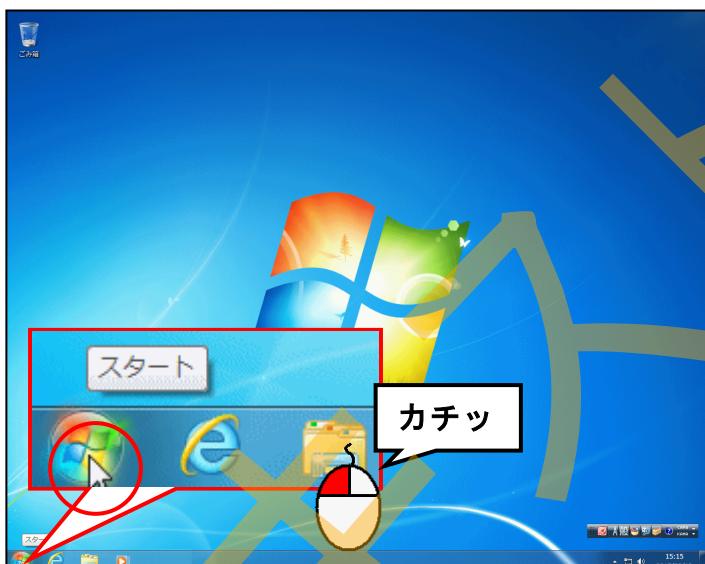
ウメさん「わたしも、こんなにドキドキすることって、
ランドセルを買ってもらった時以来だわ！」

くじら先生「ドキドキはあとにとっておいてください。これからもっと
たくさん感動してほしいことが出てきますから・・・」

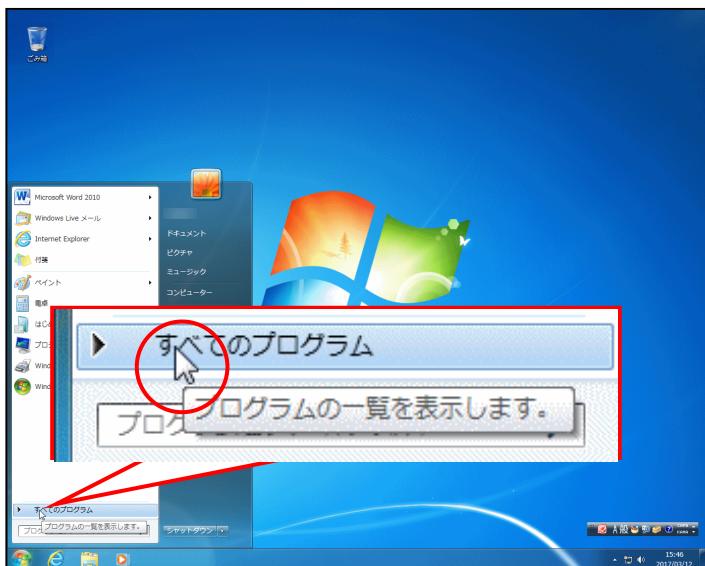


パソコンの中に入っている道具の種類を確認してみましょう。

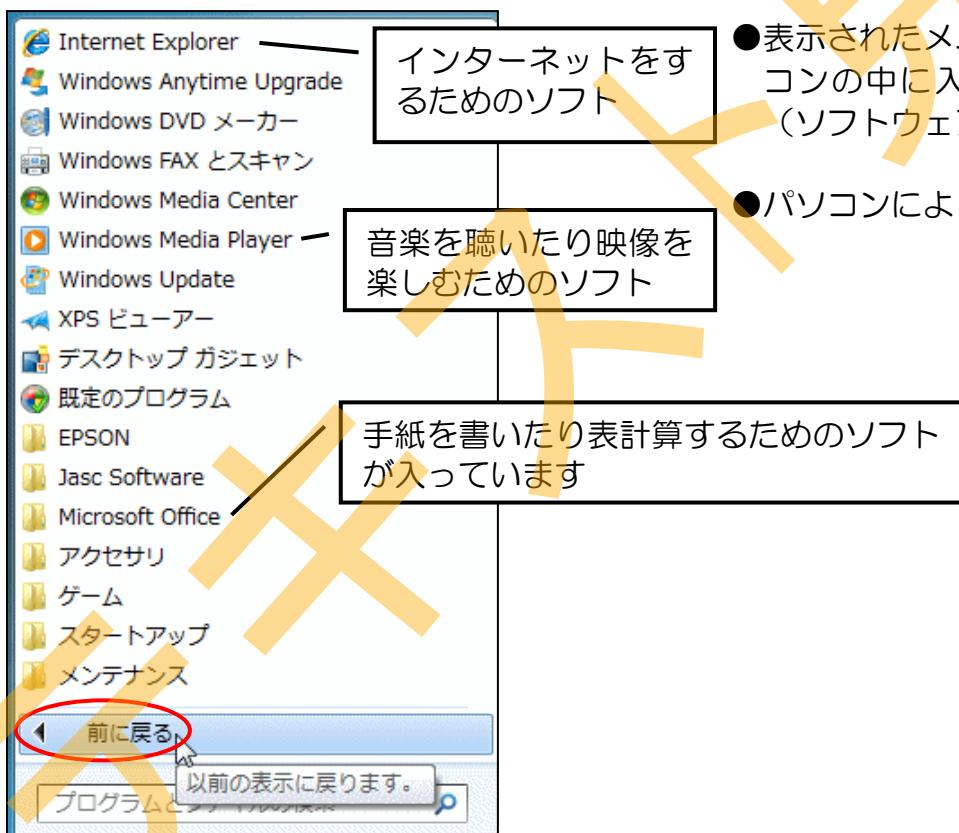
[スタート] ボタンにポイントし、クリックします。



表示されるメニューから [すべてのプログラム] にポイントします。



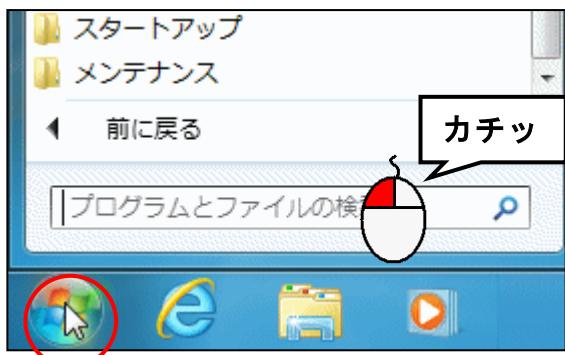
そのまま少し待つと [すべてのプログラム] が [前に戻る] に変わります。



●表示されたメニューの一覧は、パソコンの中に入っているプログラム（ソフトウェア）の一覧です。

●パソコンによって表示は違います。

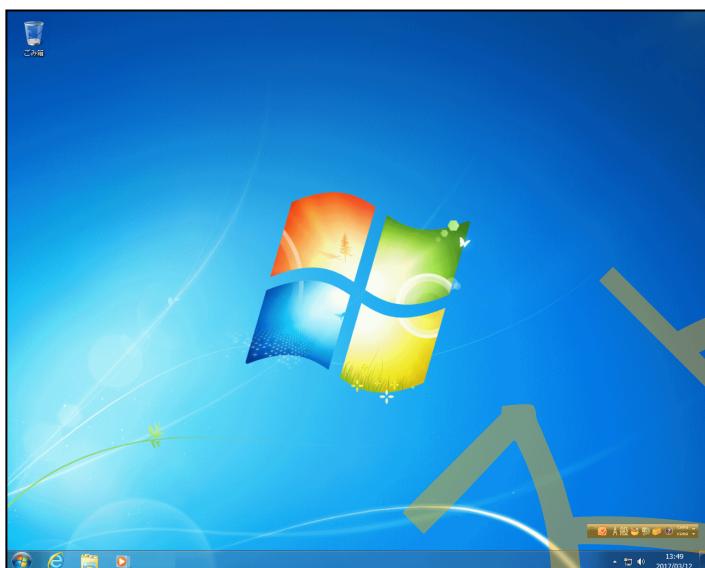
[スタート] ボタンをクリックしてメニューを消します。



スタートメニューの表示方法と消す方法

P209

下のように [スタートメニュー] が消えたことを確認します。



(3) 電卓を動かす

パソコンで電卓？

ウメさん「電卓って、私がお小遣い帳をつけたりするときに使うあれ??」



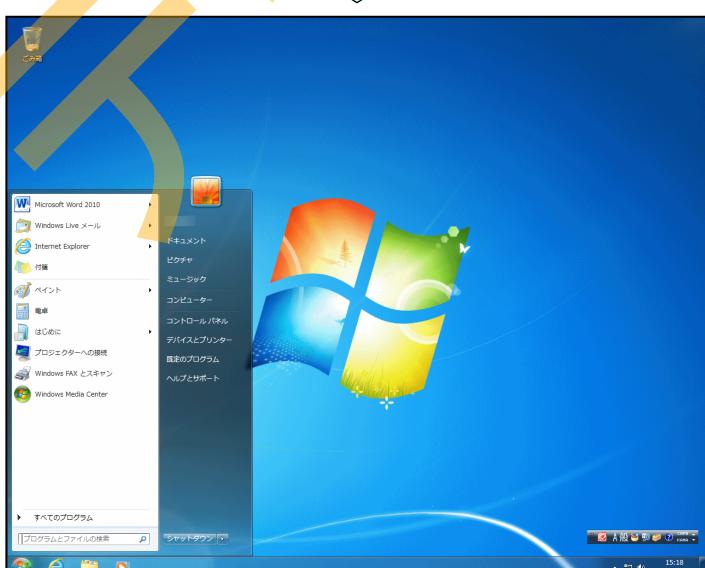
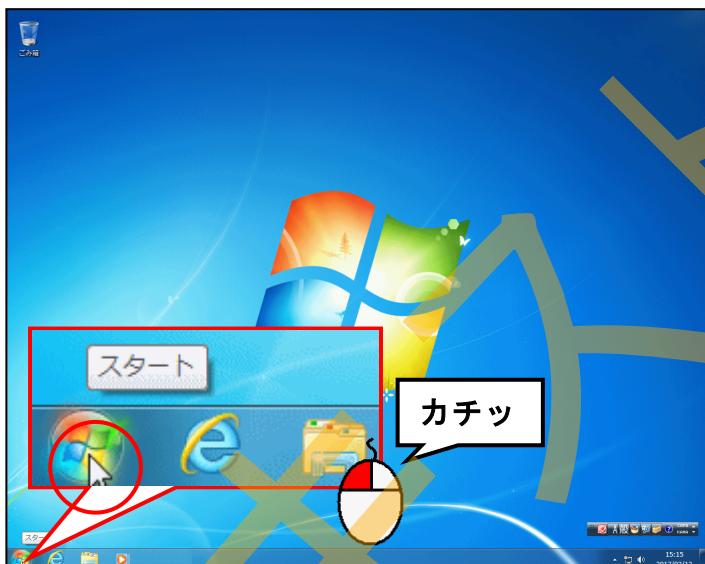
タケさん「そんなの、パソコンで使えるんかのう。」

くじら先生「もちろんですよ。ただ、ここではマウス操作に慣れていただければと思いますので、少しだけ数字を入れてみましょう。」

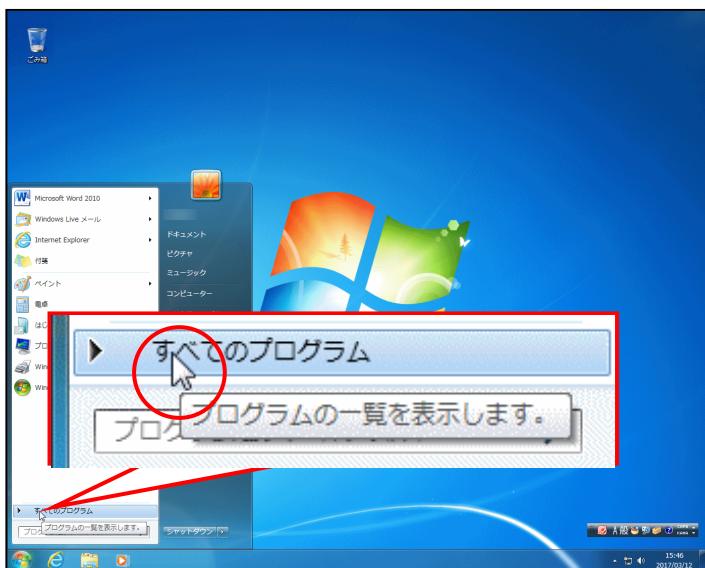


数字を計算する道具（アプリケーションソフト）である**電卓**を動かしてみましょう。
パソコンの用語では、ソフトを動かすことを「起動」するといいます。

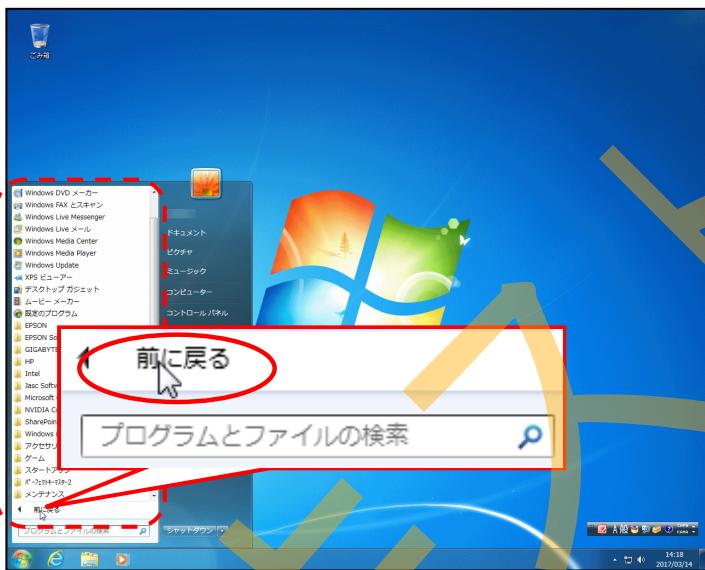
[スタート] ボタンにポイントし、クリックします。



表示されるメニューから [すべてのプログラム] にポイントします。

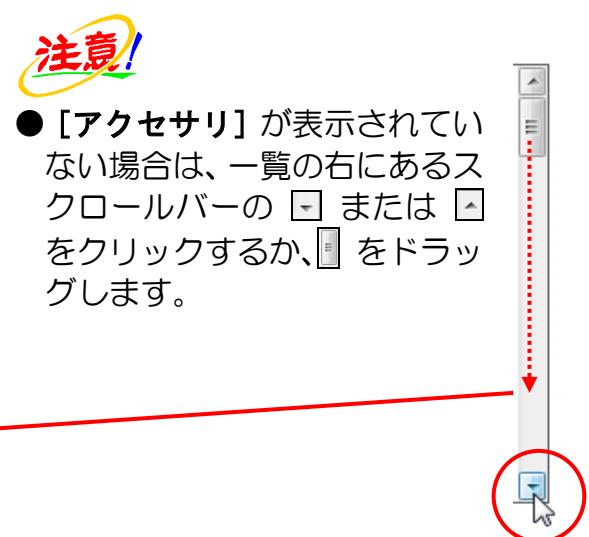
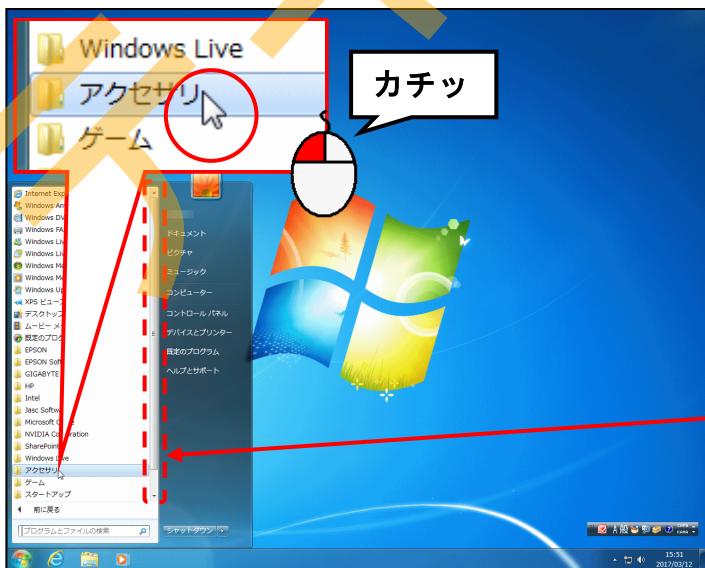


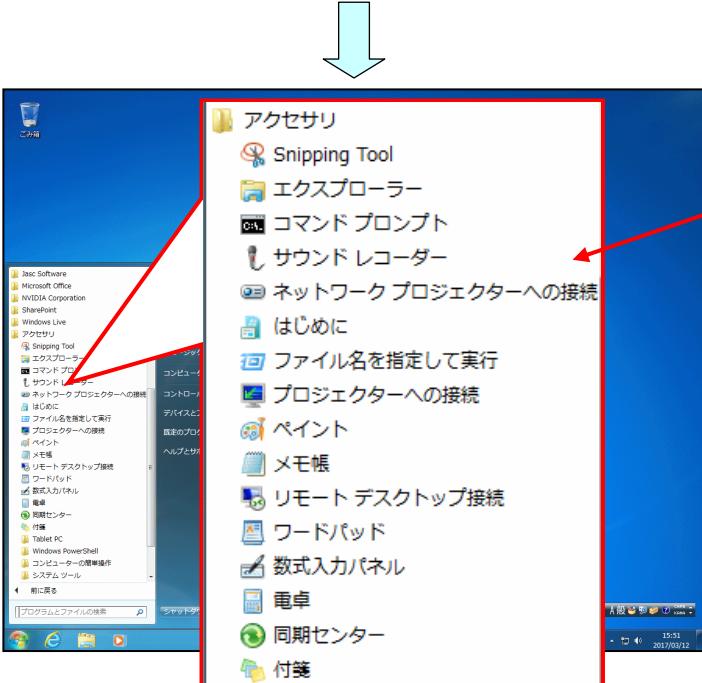
そのまま少し待つと [すべてのプログラム] が [前に戻る] に変わります。



- [すべてのプログラム] にポイントしてしばらくすると、左の画面の赤い線で囲んでいる部分のメニューの項目が、パソコン内のプログラムの一覧に変わります。
- プログラムの一覧が表示されれば、[すべてのプログラム] の文字が [前に戻る] に変わります。

[アクセサリ] にポイントし、クリックします。



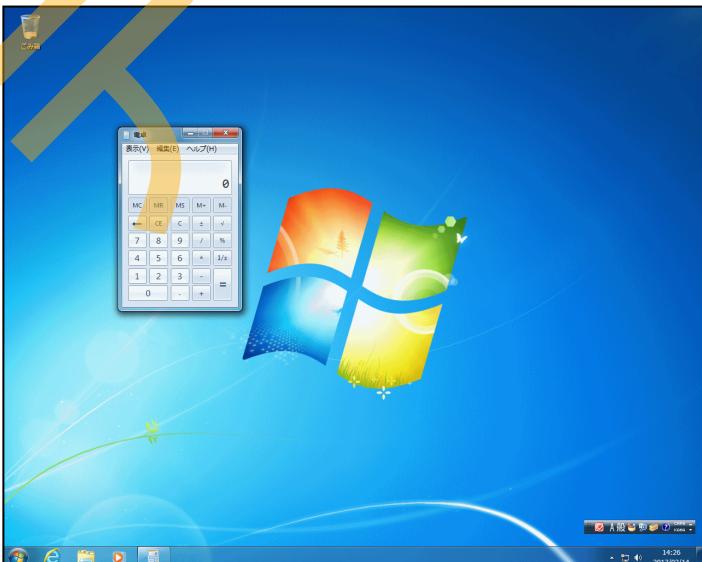


●クリックすると、左のように「アクセサリ」の一覧が表示されます。

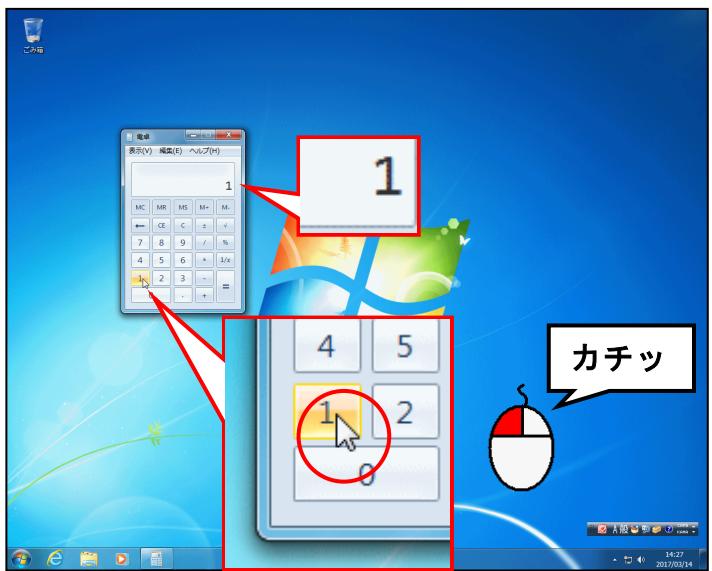
●ご使用のパソコンの種類によっては、「アクセサリ」の一覧が異なる場合があります。



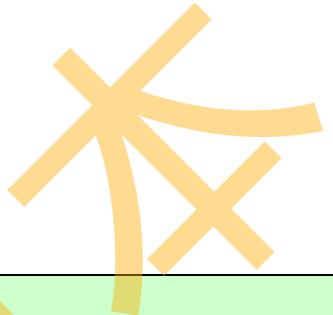
●電卓が起動して、電卓の画面が表示されます。



[電卓] の画面の中にある [1] の数字にポイントし、クリックします。



●電卓の画面に [1] の数字が表示されました。



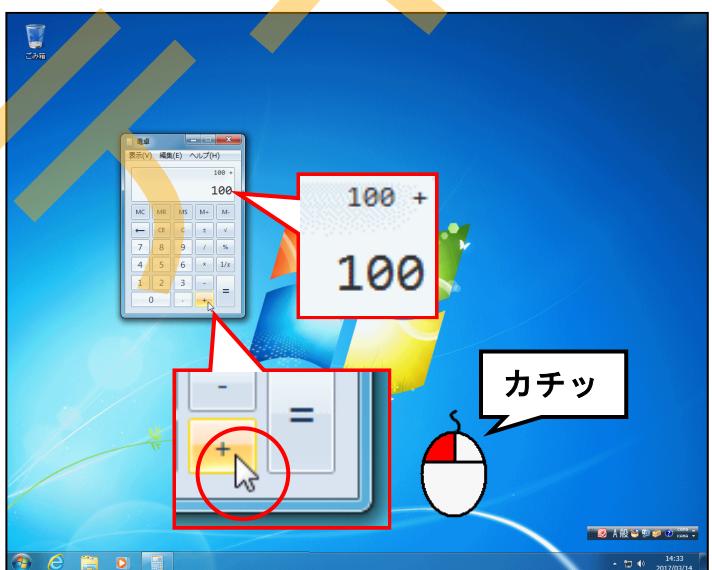
同じようにして [0] を2回クリックします。



●電卓の画面に [100] の数字が表示されました。

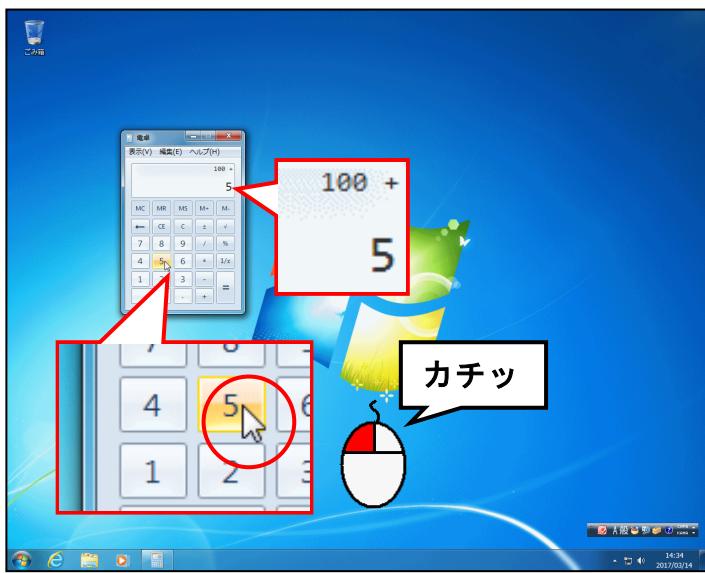


[電卓] の画面の中にある [+] にポイントし、クリックします。

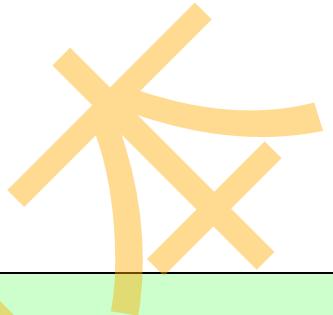


●電卓の画面に [+] の記号が表示されました。

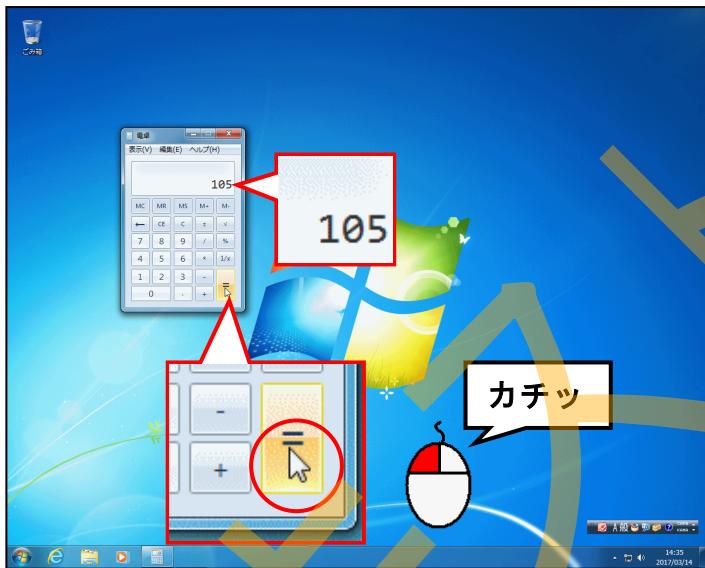
[電卓] の画面の中にある [5] にポイントし、クリックします。



●電卓の画面に [5] の数字が表示されました。



合計を出すために [=] をクリックします。



●合計の [105] の数字が表示されました。



(4) 電卓を閉じる

せっかく動いたのに、もう閉じるの？



ウメさん「せっかく電卓が使えたのに、もう閉じちゃうの？」

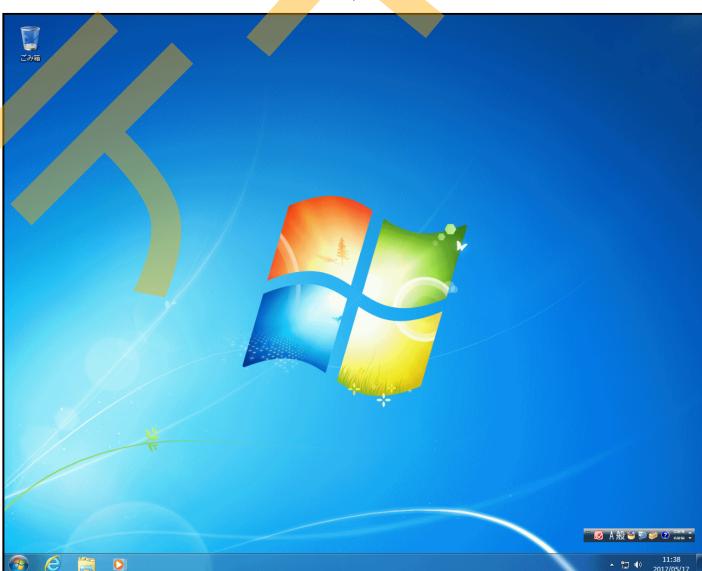
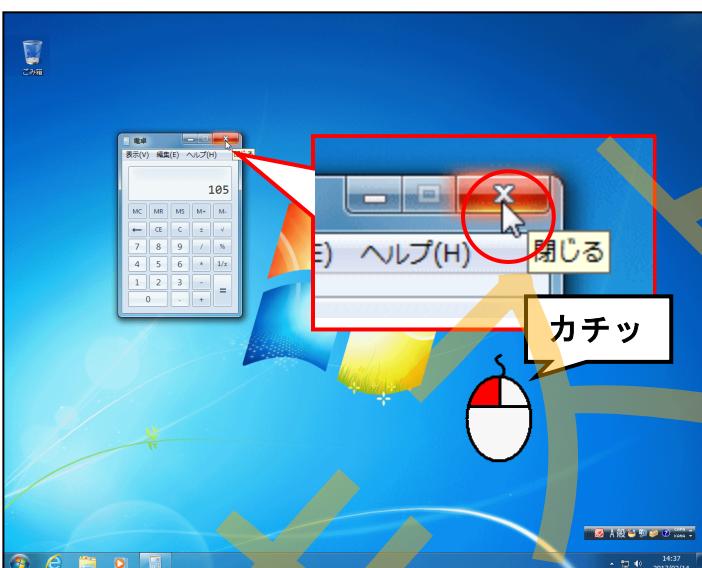
くじら先生「すみません。ここでは、操作の説明ですから、開いたり、閉じたりを繰り返して、覚えていただいた方がいいと思います。」



画面上に開いた電卓を閉じてみましょう。

パソコンの用語では、ソフトを閉じることを「終了」するといいます。

電卓の画面（ウィンドウ）の右上にある [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



- [閉じる] ボタンをクリックすると、左のように「電卓」の画面が消えました。

4. 画面（ウィンドウ）の基本操作

画面の基本操作って、今、開いたり、閉じたりしたじゃない。あと何があるの？

ウメさん「今、電卓を開いて、閉じたじゃない。あと、どんな操作があるの？」



くじら先生「パソコンを使っているうちに、思わぬ操作をしてしまったために、画面が小さく切り替わってしまうときがあります。

そのような場合に、再度大きくしたり、小さくなったりした画面を移動したりする操作を覚えていきましょう。」

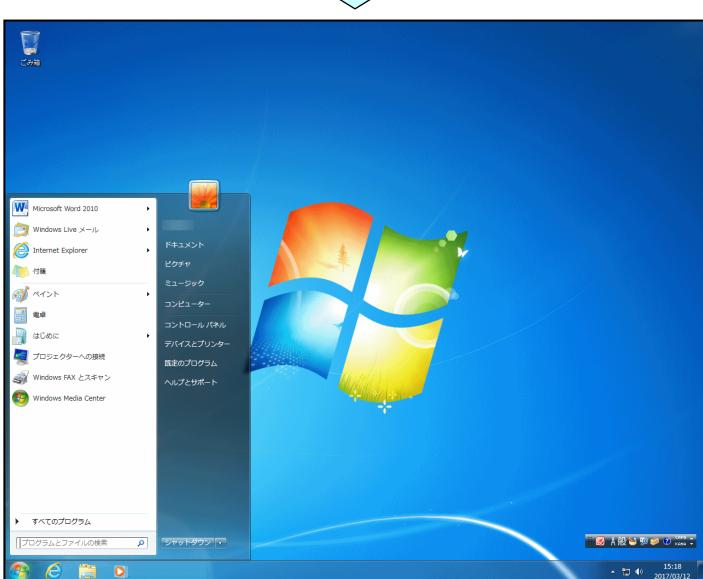


ウィンドウとは、画面上に表示される、四角い枠で囲まれた作業領域のことです。いろいろなウィンドウがありますが、基本的な操作はすべて共通しています。ここでは、【コンピューター】のウィンドウを使って、基本的な操作方法をマスターすることにしましょう。

(1) コンピューターを開く

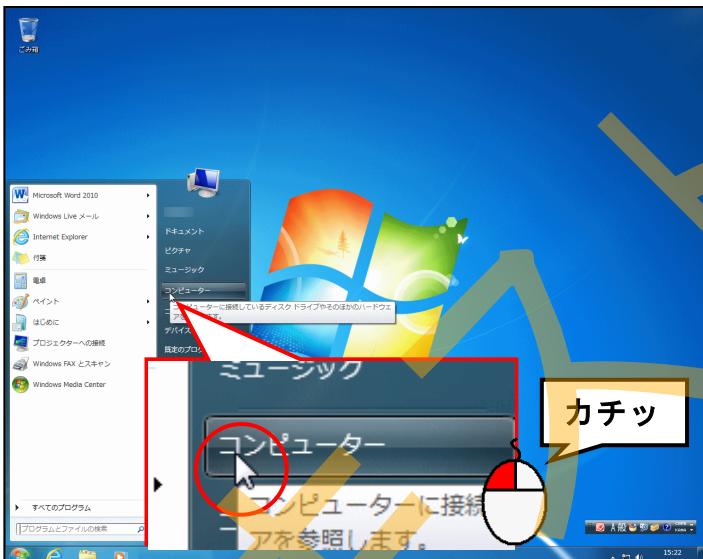
[スタート]ボタンにポイントし、クリックします。



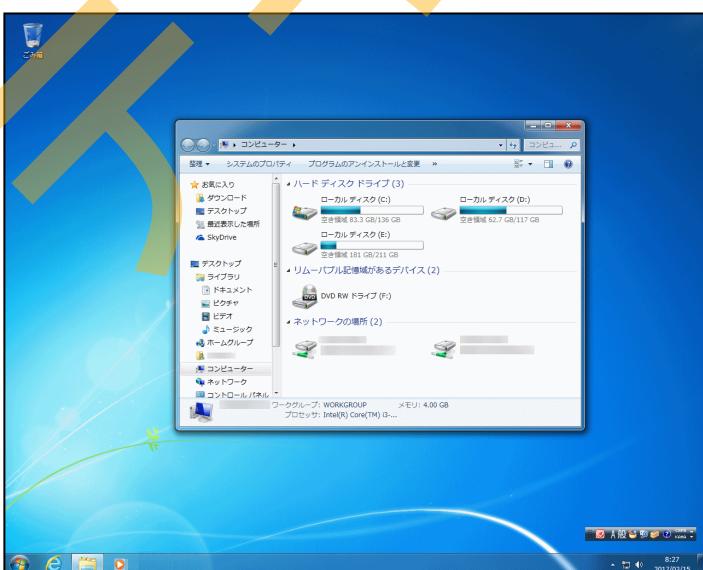


本

[コンピューター] にポイントし、クリックします。



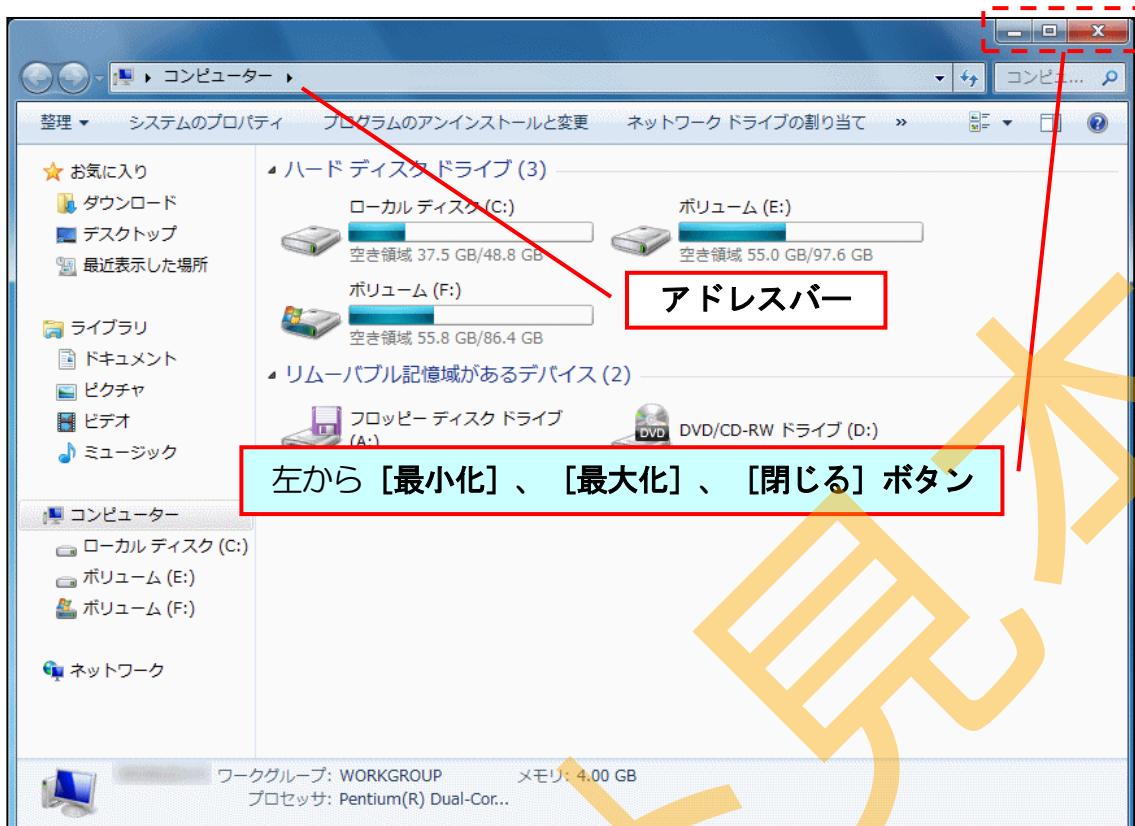
●左のように [コンピューター] の画面 (ウィンドウ) が表示されます。



●表示される画面 (ウィンドウ) のサイズや表示されるアイコンの数は、パソコンによってそれぞれ異なります。

(2) 画面の名称

ウィンドウの名前を覚えましょう。



* の部分は必ず覚えておきましょう。



Windowsで操作を行うにあたり、ソフトの種類はたくさんありますが、ほとんど共通の画面構成なのでここでしっかりと名前を覚えることが大切です。

余裕があれば読んでね

● アドレスバー

現在画面に表示している内容の所在地情報を表す棒状のスペースをいいます。

(3) 画面（ウィンドウ）のサイズを変更する

画面（ウィンドウ）が小さすぎて作業しにくい時や、2つの画面（ウィンドウ）を並べて表示したい時には、画面（ウィンドウ）の大きさを変更すると便利です。

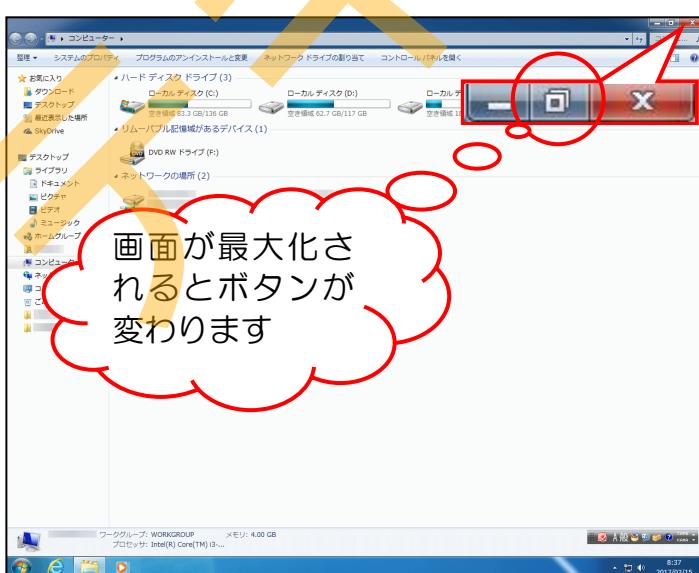
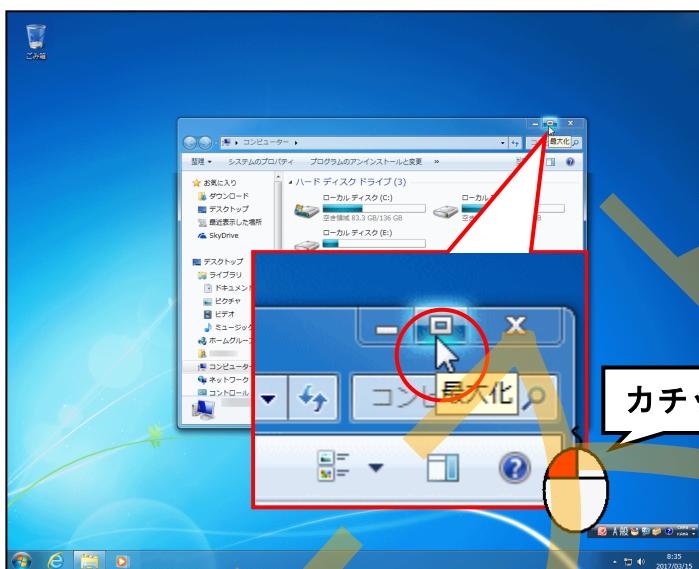
パソコンを使っていると、画面が大きく表示されたり、小さく表示されたりすることがあります、自分が使いたい大きさに調整することができます。

画面の大きさを変えるには、「ボタンをクリックする方法」と「マウスでドラッグする方法」があります。

① ボタンをクリックする方法

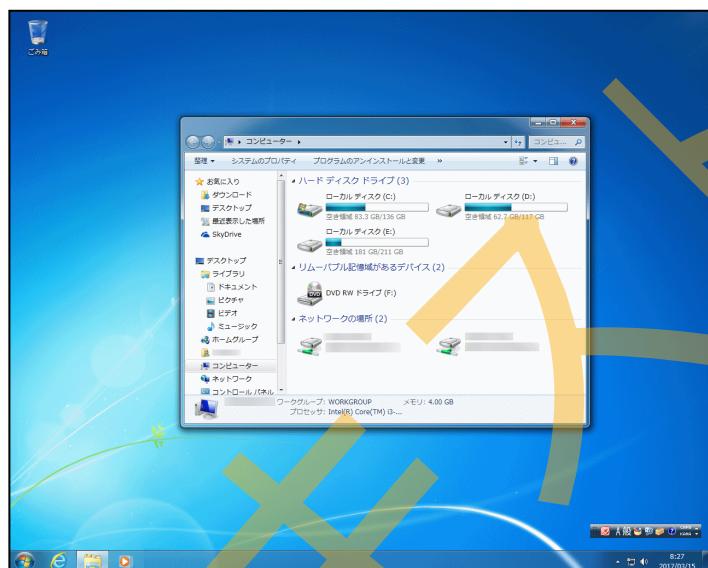
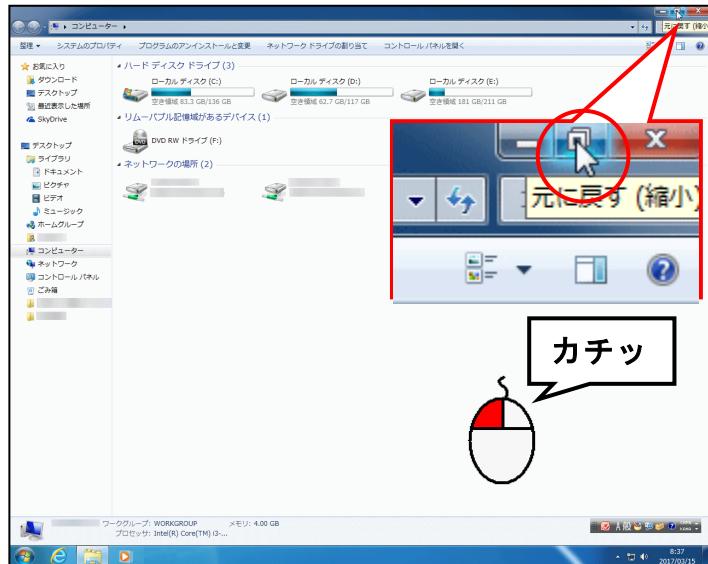
● [最大化] ボタン／[元に戻す（縮小）]ボタン

画面右上にある  [最大化] ボタンにポイントし、クリックします。



●  [最大化] ボタンをクリックして、画面（ウィンドウ）が画面いっぱいに広がったら、 [最大化] ボタンが  [元に戻す(縮小)] ボタンに変わります。

最大化された画面（ウィンドウ）を最大化する直前の状態に戻すため、画面右上にある
[元に戻す(縮小)] ボタンにポイントし、クリックします。

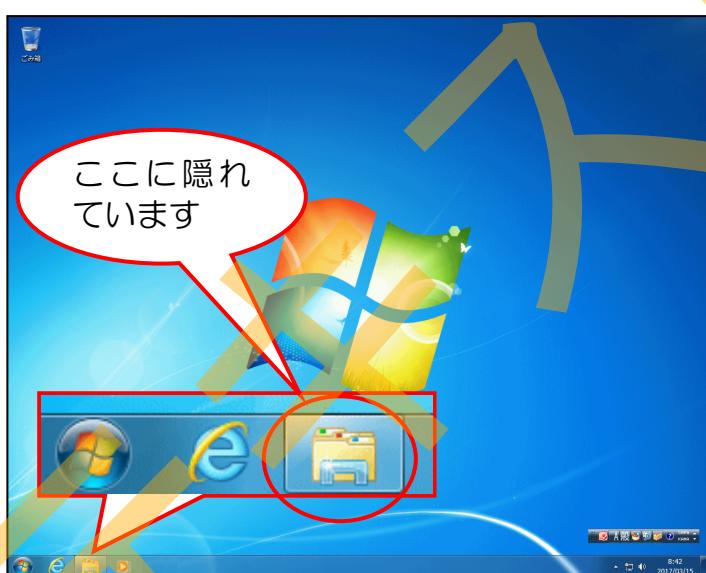
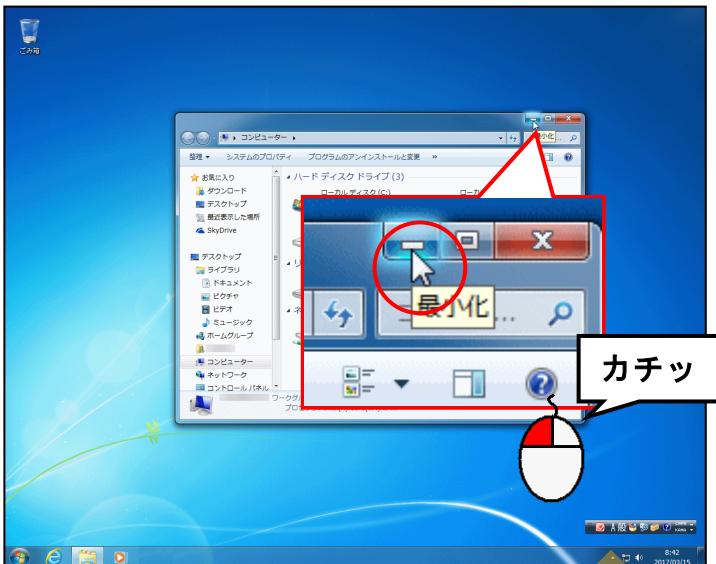


- [元に戻す(縮小)] ボタンが
[最大化] ボタンに変わります。
- [コンピューター] の画面が最大化する前の状態に戻りました。

● [最小化] ボタン

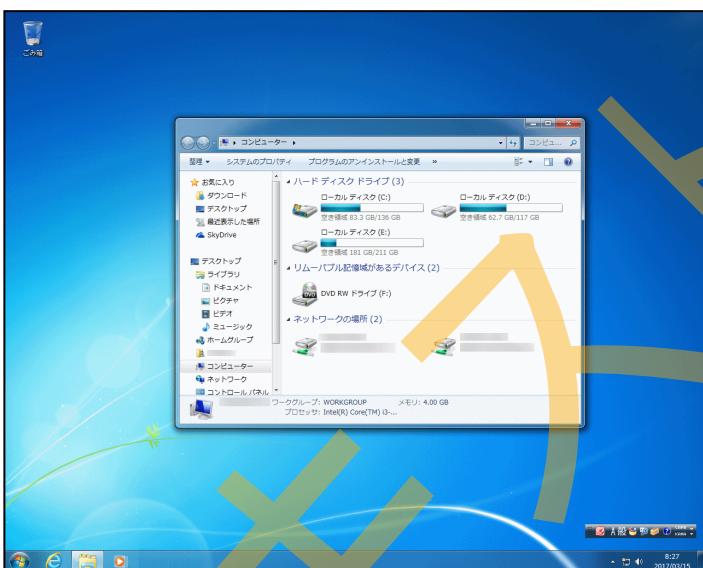
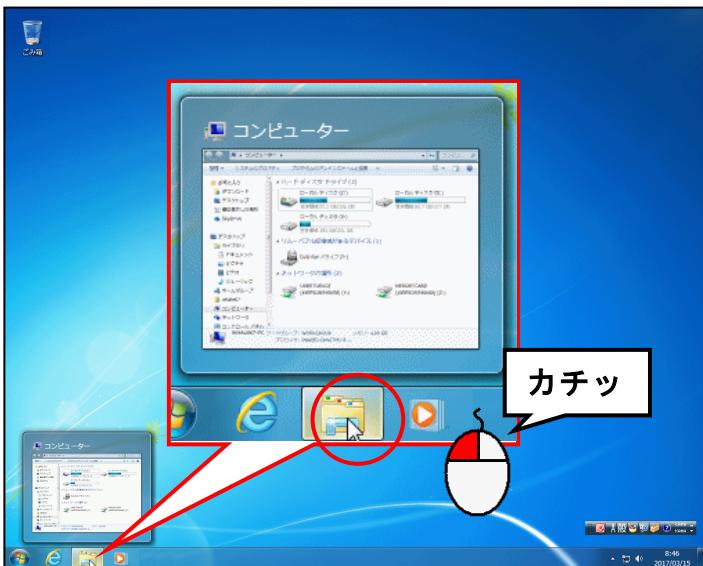
ワードやエクセルなどを利用するたびに開く操作、閉じる操作を繰り返したのでは、効率が悪くなります。今、必要のない画面は、[最小化] ボタンを利用すると、隠すことができます。

表示されたコンピューターの画面（ウィンドウ）を隠すため、画面右上にある [最小化] ボタンにポイントし、クリックします。



[コンピューター] の画面が消えて、終了してしまったように見えますが、終了したのではなく、画面（ウィンドウ）が隠れているだけです。

隠れている画面（ウィンドウ）を表示させるには、画面下に表示された【コンピューター】にポイントし、クリックします。



● ライブタスクバー

マウスポインターをタスクバー内の最小化されているウィンドウ上へ移動すると、最小化されているウィンドウが縮小表示され、ウィンドウの内容がすぐにわかります。



● 終了したときと、最小化したときは、画面下のボタンの周りに枠がつく、つかないで確認できます。

・ 最小化した場合

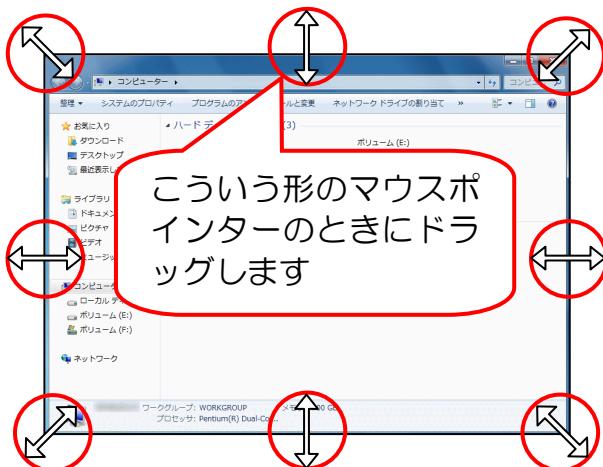


・ 終了した場合



② ドラッグする方法

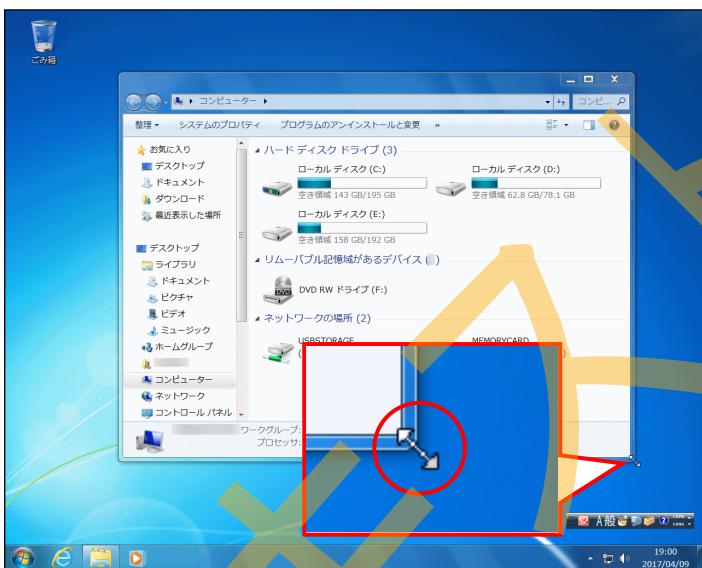
表示された画面（ウィンドウ）の外枠にポイントすると、マウスポインターの形が下のようにポイントした位置によって変わるので、矢印の方向に **ドラッグ**するとウィンドウのサイズを自由に変更することができます。



- どこにポイントしてドラッグするかによって、拡大・縮小する方向が異なります。

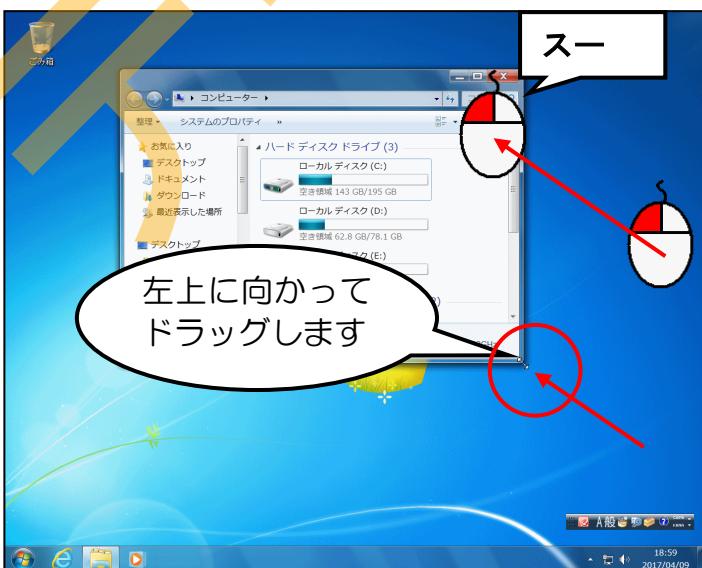


コンピューターの画面（ウィンドウ）の右下隅にポイントします。



- マウスポインターが から に変わったときにマウスを止めてください。

マウスポインターが になった状態で左上に向かってドラッグします。

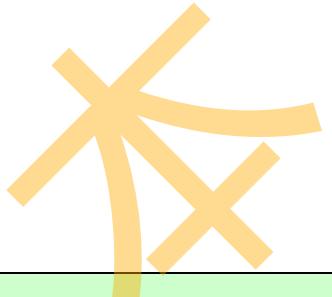
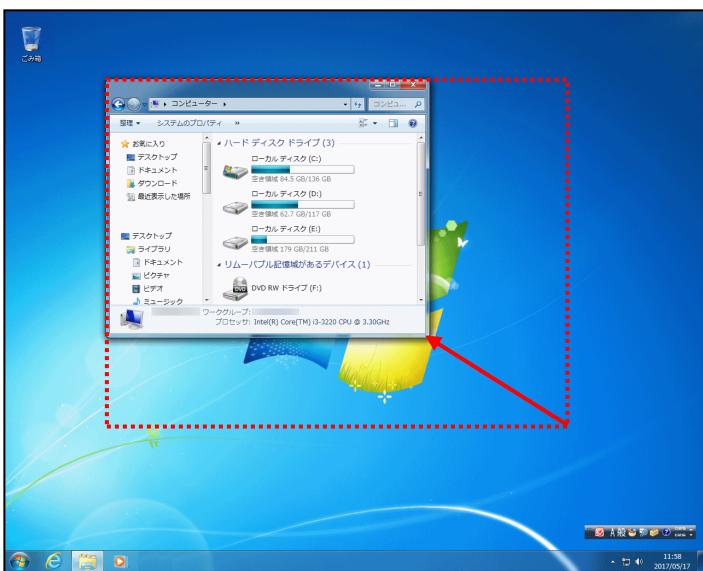


- ドラッグするとき、マウスポインターの形に注意しながらドラッグしましょう。

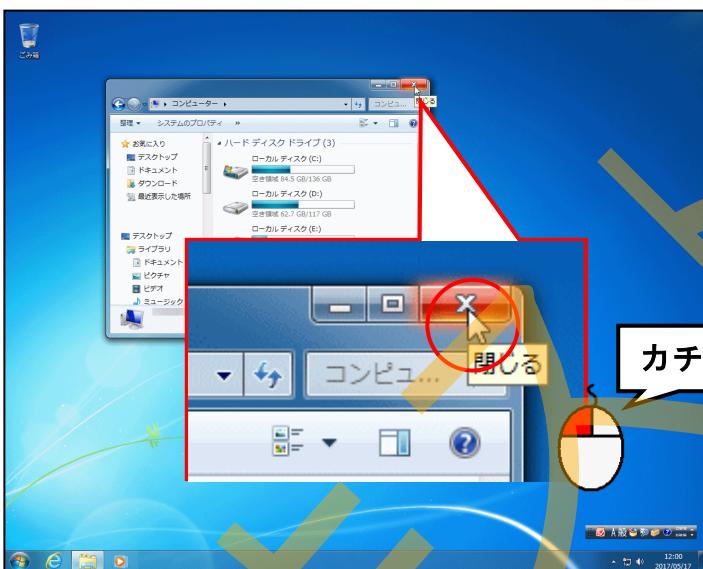
マウスポインターが になつていいないとドラッグしても、画面の大きさは変わりません。

- ドラッグの操作方法を忘れた方は、P23⑨ ドラッグしてみようを参照してください。

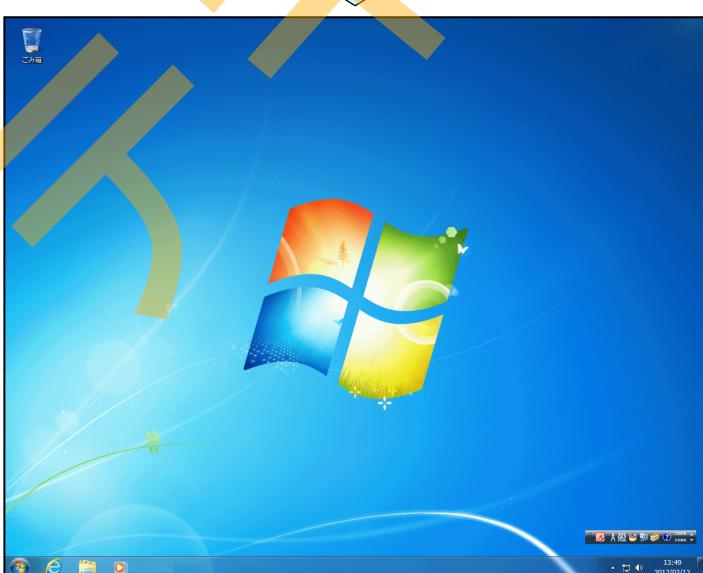
下のようにコンピューターの画面（ウィンドウ）が小さくなりました。



【閉じる】ボタンにポイントし、クリックします。



- [閉じる] ボタンをクリックすると、左のように [コンピューター] の画面が消えました。



☆☆ここまでくれば、練習問題3で理解度を試してください。☆☆

5. マウスに慣れる練習

やっとお絵かきができるのじゃな！



タケさん「いろいろと操作したが、やっとお絵かきができるのじゃな。」

ウメさん「ソワソワして、これまでの操作を忘れてしまったかも？」

くじら先生「同じような操作ばかりですから、だんだんと慣れてきますよ！」

タケさん「そうだといいのじゃが、忘れることにかけては天才じゃからのお～。」

くじら先生「忘れてもらってもいいですよ。何回も繰り返しているうちにイヤでも覚えてしましますから・・・」

タケさん「そんなもんかのお～。」

くじら先生「タケさんは、自動車の運転は忘れますか？」

タケさん「イヤ、体が覚えてしまつとるのお～。」

くじら先生「パソコンも同じです。忘れようとしても、何回も繰り返した操作は、体が自然に覚えてしまうものなんです。」

ウメさん「嘘でも、先生がそう言ってくれると心強いわねえ～。」

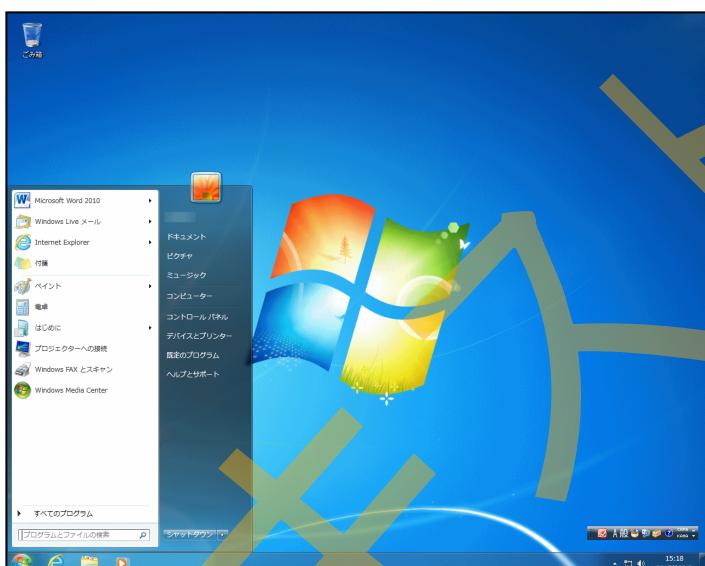
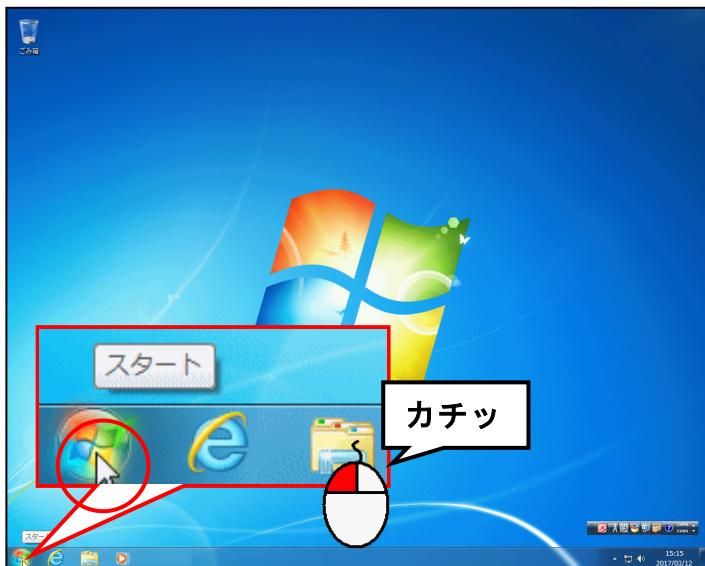
くじら先生「嘘じゃありませんよ。実際に使ってみると、体が覚えていることに気が付かれます。人間の体って、すごいでしょう。」



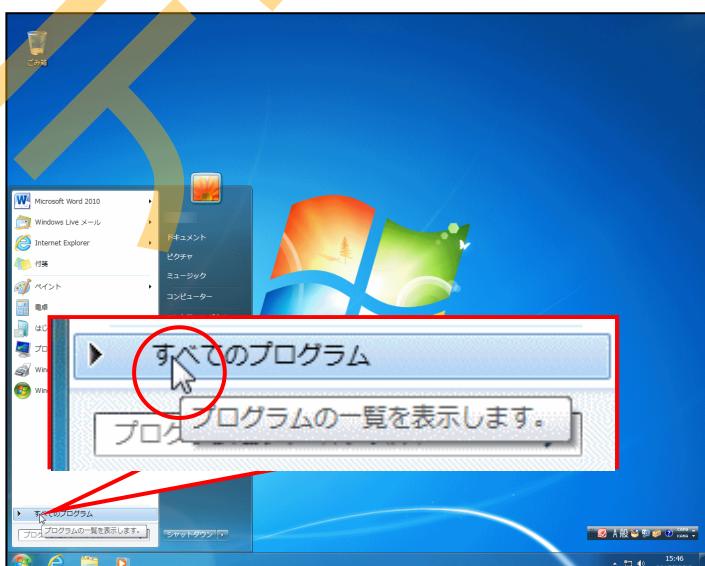
ここでは、マウスに少しでも慣れていただくために、「ペイント」というソフトウェアを使って、ドラッグの練習をしてみましょう。

(1) 「ペイント」を起動する

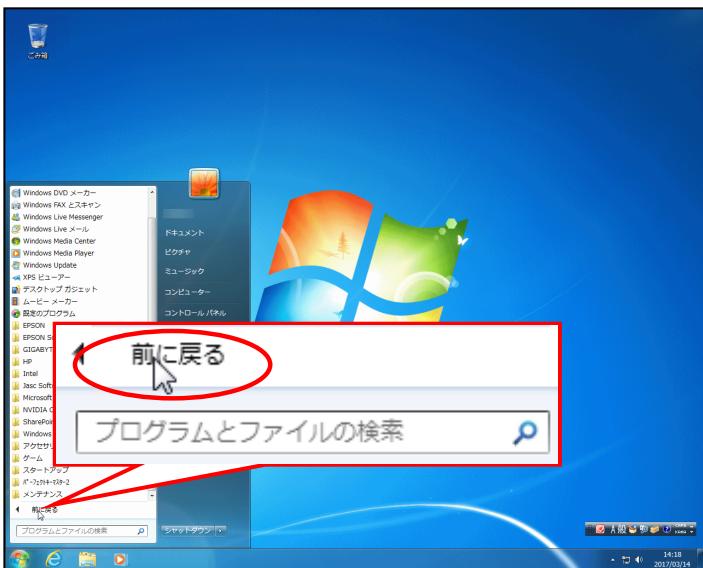
[スタート] ボタンにポイントし、クリックします。



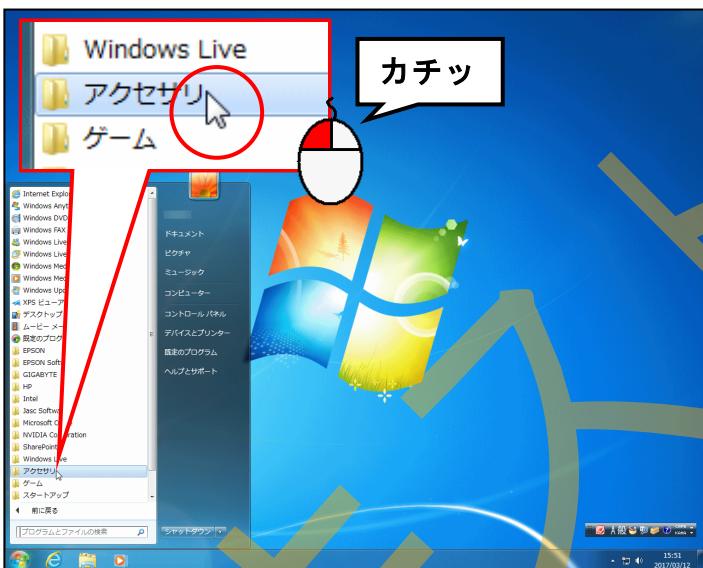
表示されるメニューから [すべてのプログラム] にポイントします。



そのまま少し待つと「すべてのプログラム」が「前に戻る」に変わります。

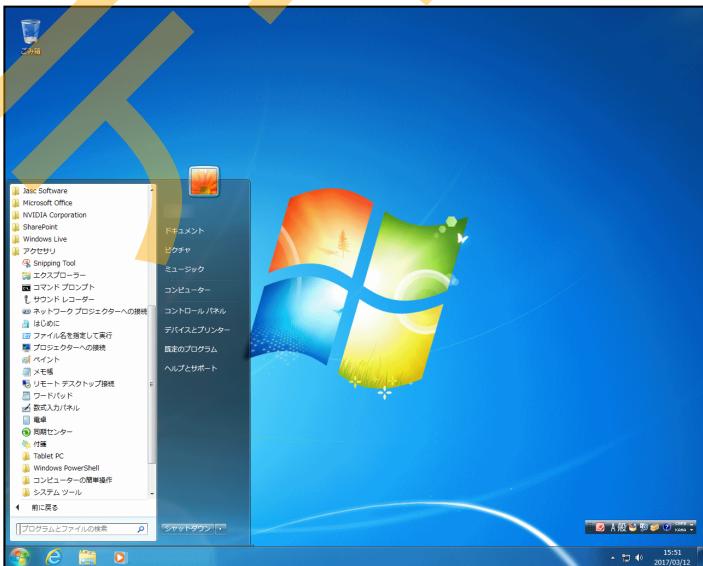
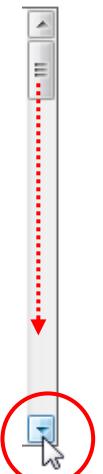


【アクセサリ】にポイントし、クリックします。

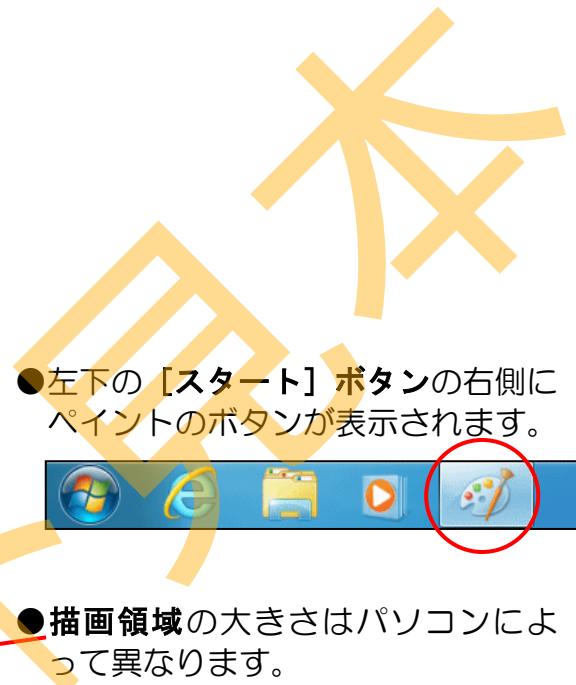
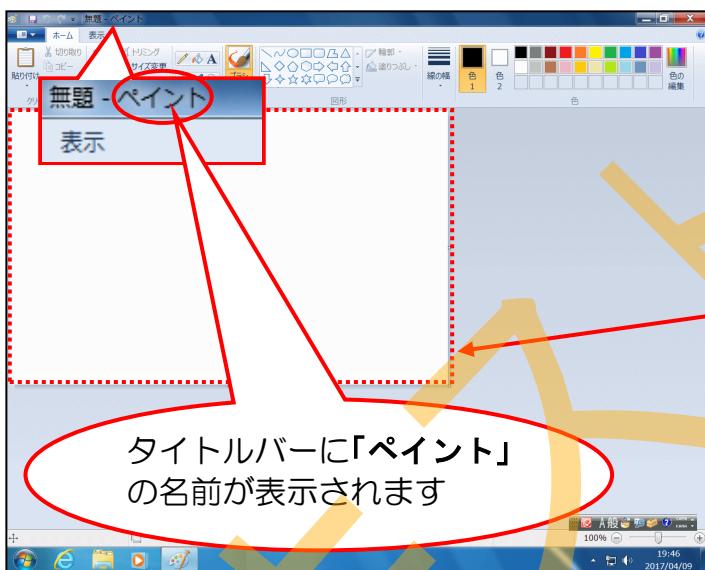
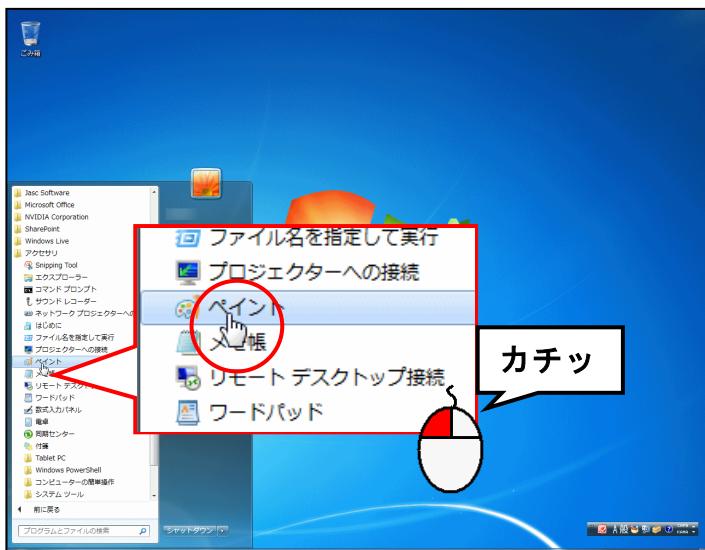


注意!

- [アクセサリ] が表示されていない場合は、一覧の右にあるスクロールバーの □ または ▲ をクリックするか、□ をドラッグします。



表示されたメニューの【ペイント】にポイントし、クリックします。



画面が最大化されていないときは、最大化にしておきましょう。

(2) 「ペイント」を使って家を描く

画用紙に家を描くのね、うまく描けるかしら？



ウメさん「わたしにうまく描けるかしら？」

くじら先生「最初は、難しいでしょうね。
しかし、何回も操作しているうちに、うまくなりますよ。」

ウメさん「ところで、何を使って描くのかしら？」

くじら先生「これまで使ってきた、マウスを使います。マウスを
『ドラッグ』すると、文字や絵を描くことができます。」



各グループ内のボタンを利用して絵を描くことができます。



[ツール] グループ

- 鉛筆
- 消しゴム

- 塗りつぶし
- 色の選択

- テキスト
- 拡大鏡

[ブラシ] グループ

- ブラシ
- エアブラシ
- マーカー

- カリグラフィ ブラシ 1
- 油彩ブラシ
- 鉛筆（通常）

- カリグラフィ ブラシ 2
- クレヨン
- 水彩ブラシ

[図形] グループ



・ ・ ・ 色々な形の図形が描けます。

- 輪郭
- アウトラインなし
- 単色
- クレヨン
- マーカー
- 油彩
- 鉛筆（通常）
- 水彩

- 塗りつぶし
- 塗りつぶしなし
- 単色
- クレヨン
- マーカー
- 油彩
- 鉛筆（通常）
- 水彩

[線の幅] グループ

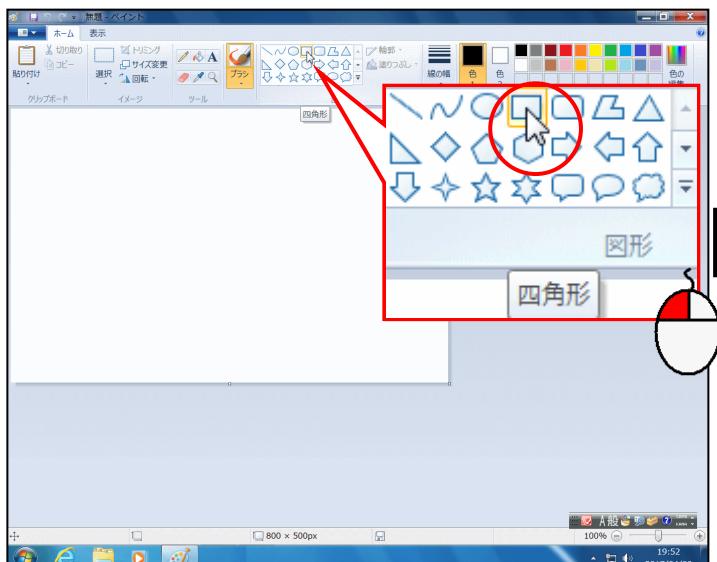
線の幅を変更できます。

[色] グループ

線の色や塗りつぶしの色を変更できます。

マウスを使って、四角形を描いてみましょう。

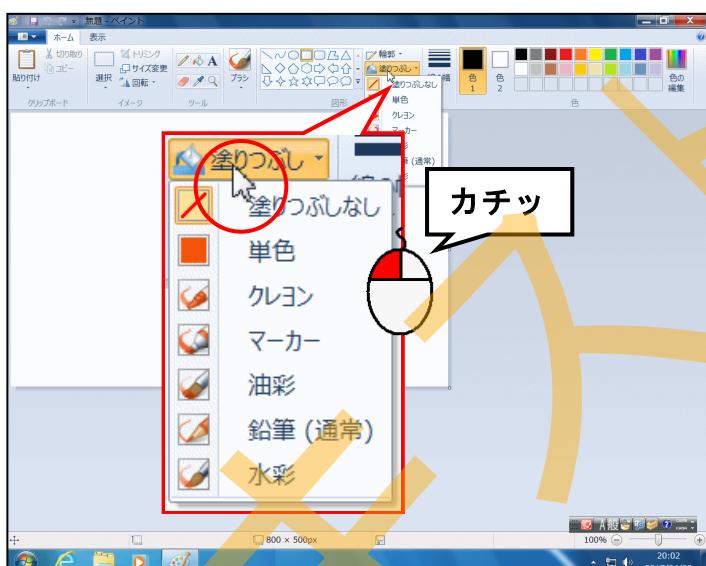
[図形] グループの □ 「四角形」にポイントし、クリックします。



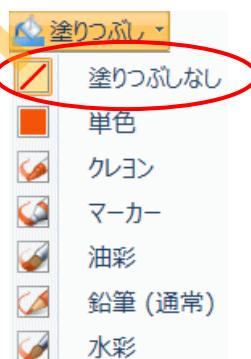
●これから描く図形のおおよその形を指定します。



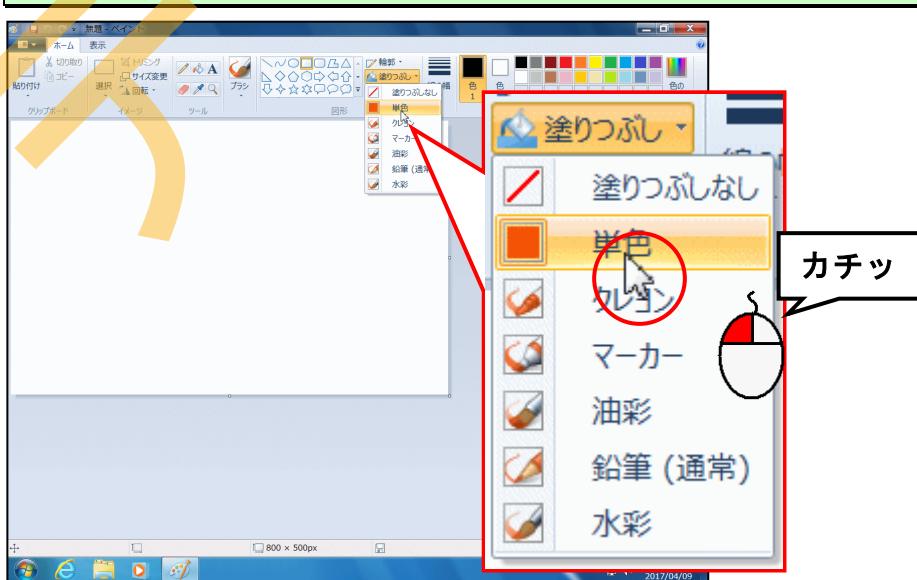
[図形] グループの [塗りつぶし] にポイントし、クリックします。

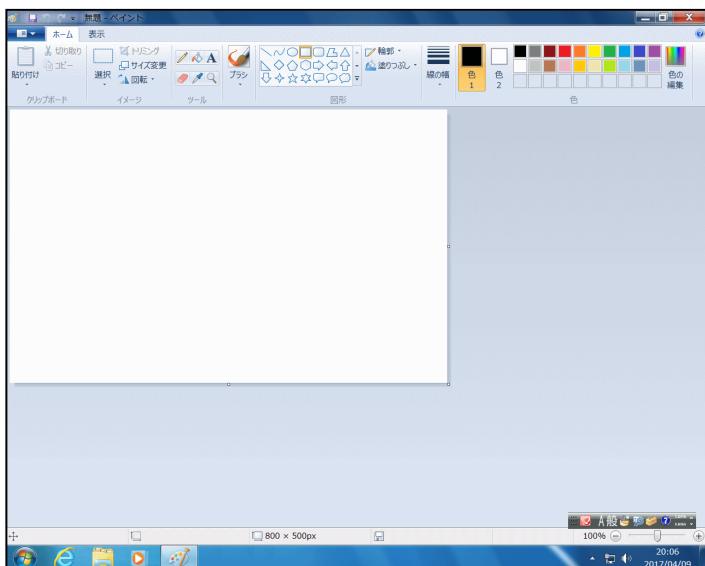


●これから描く四角形の中を塗りつぶす種類の指定をします。初期設定は、「塗りつぶしなし」の状態になっています。



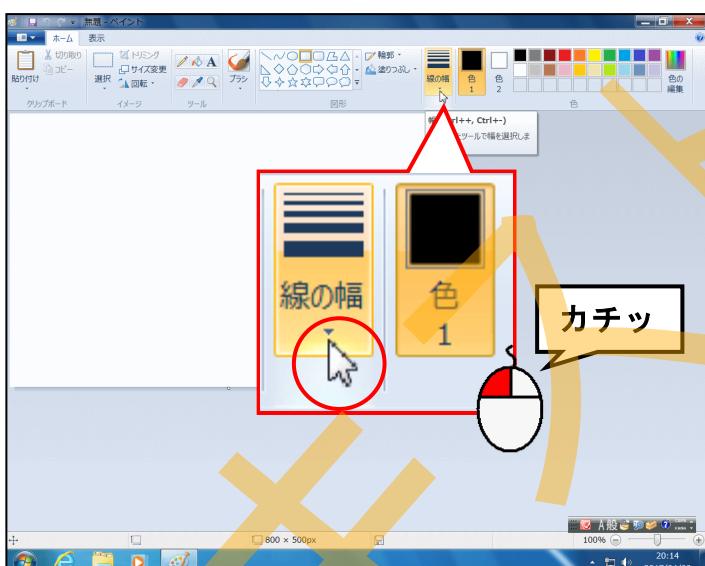
「単色」にポイントし、クリックします。



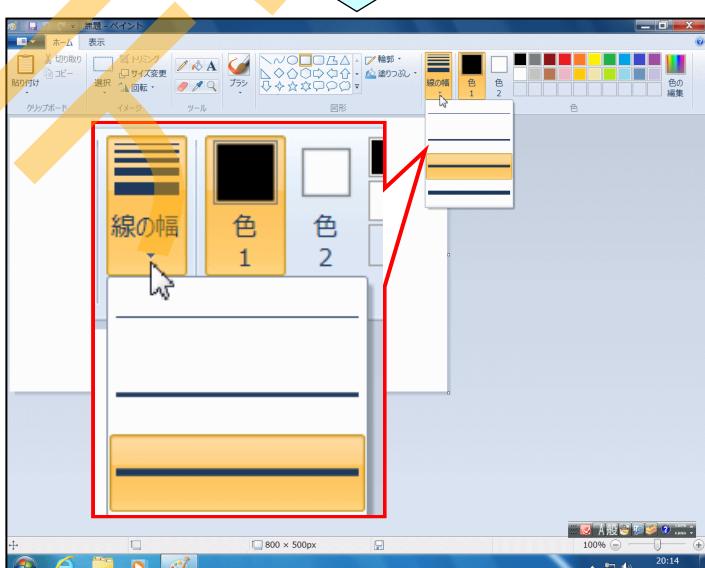


本

[線の幅] にポイントし、クリックします。

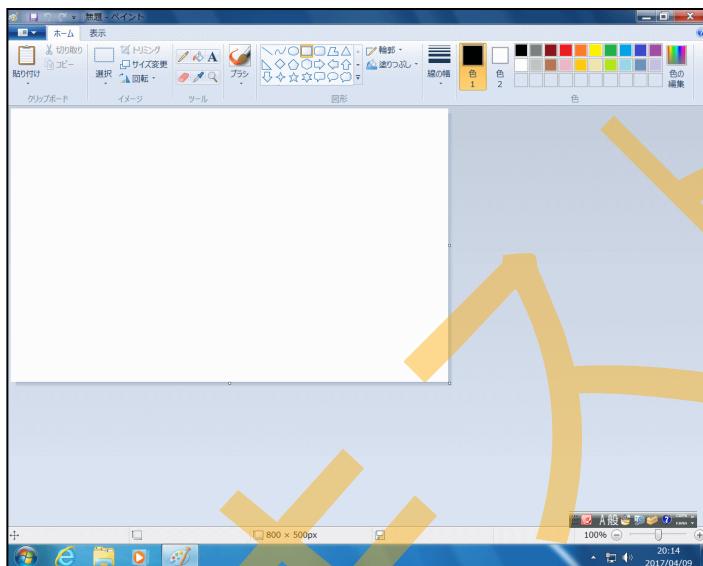
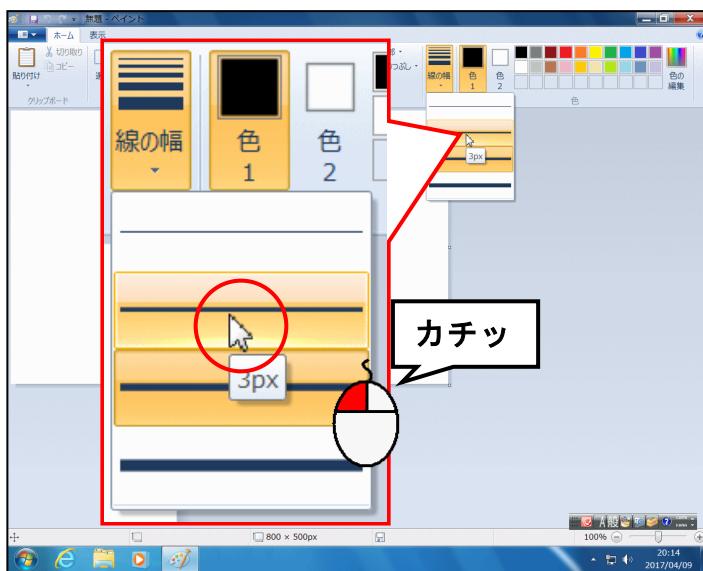


●描く四角形の線の太さを指定します。



●クリックすると、選択できる線の一覧が表示されます。

上から2つ目の「3px」にポイントし、クリックします。

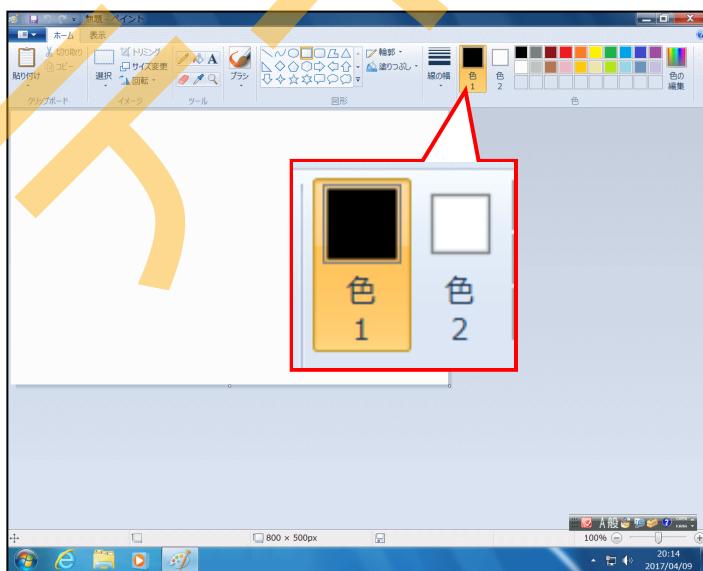


- 「3px」という表示は、線の上にポイントすると表示されます。表示されない場合は、一度マウスポインターを線の外に移動し、再度ポイントしなおしてみてください。



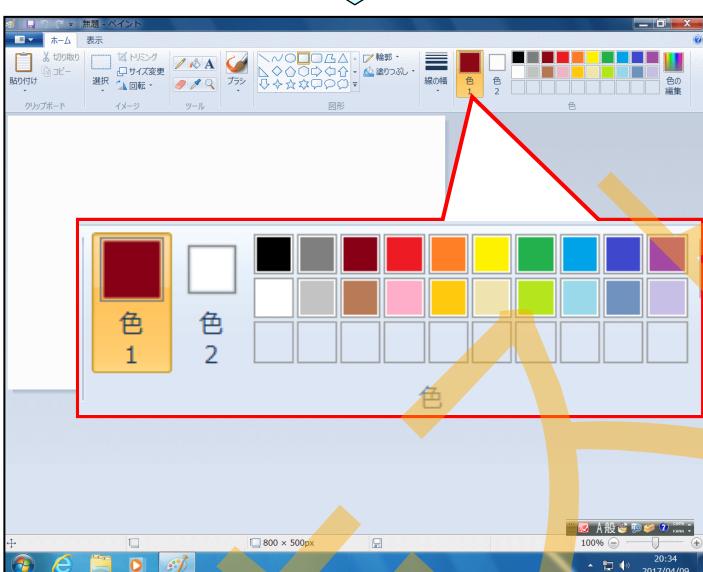
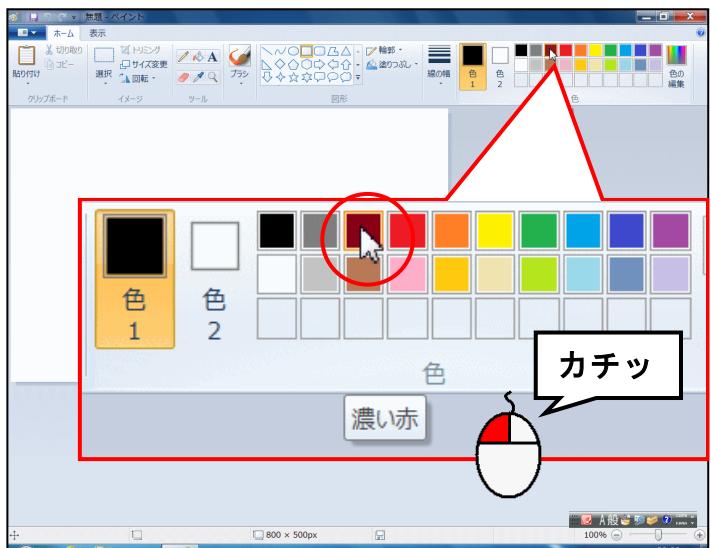
- 画面上は何も変わりません。

[色] グループの「色1」が下図のように「黒」になっていることを確認します。

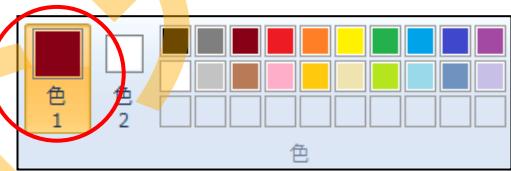


- 色1は四角形の線の色になります。

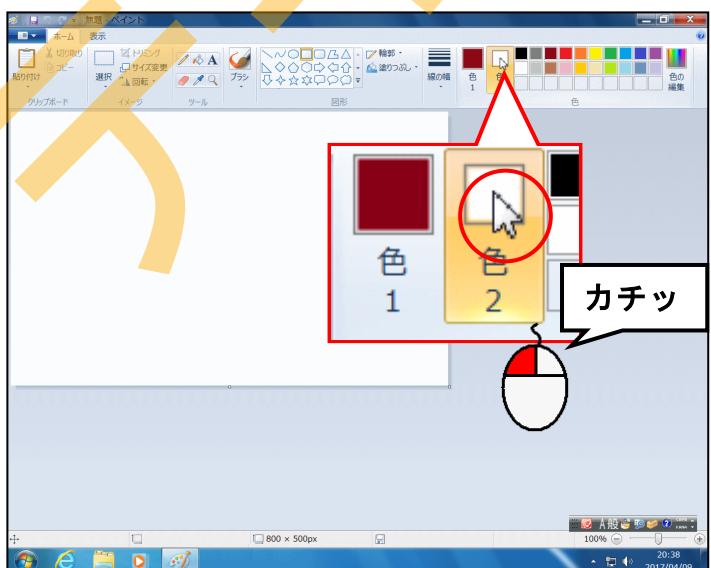
[色] グループの「濃い赤」にポイントし、クリックします。



● 下図の様に四角形の線の色を「濃い赤」に選択すると、色1の色が「濃い赤」に変わります。

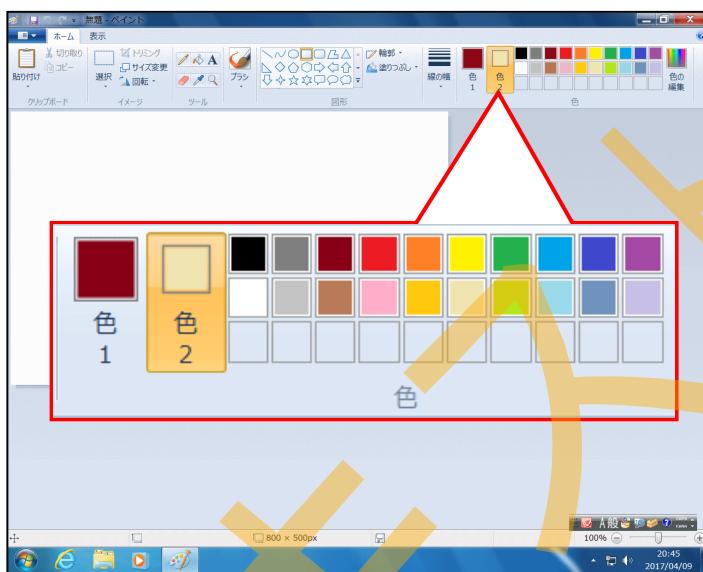
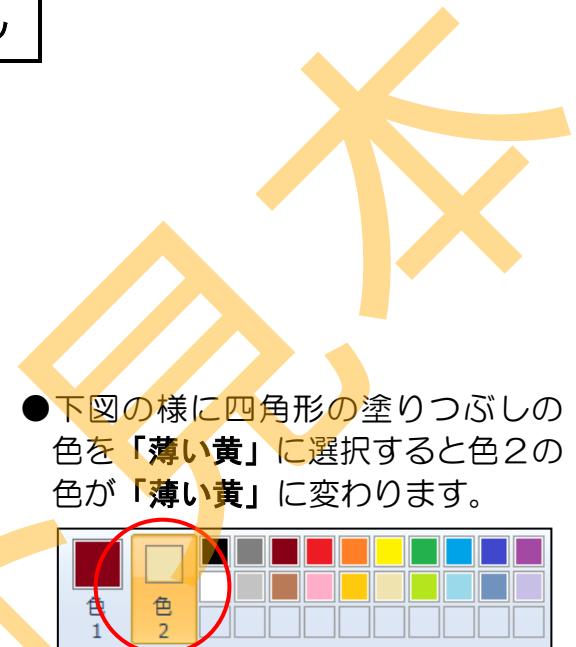
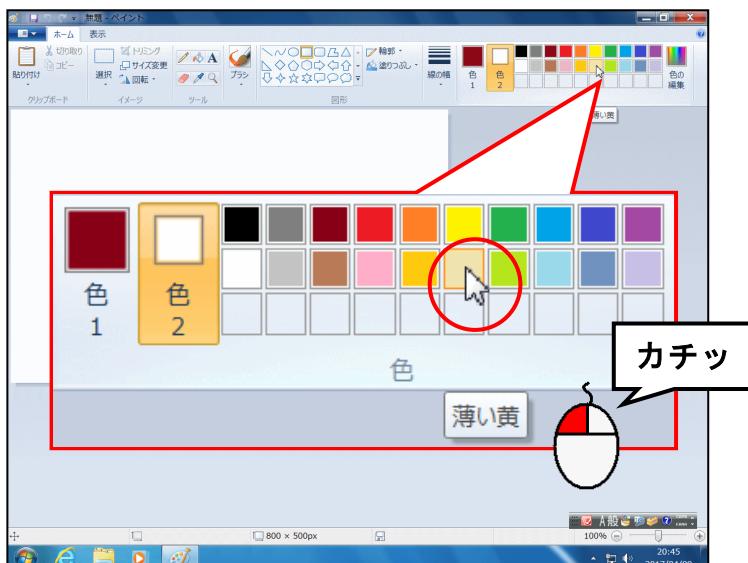


[色] グループの「色2」にポイントし、クリックします。

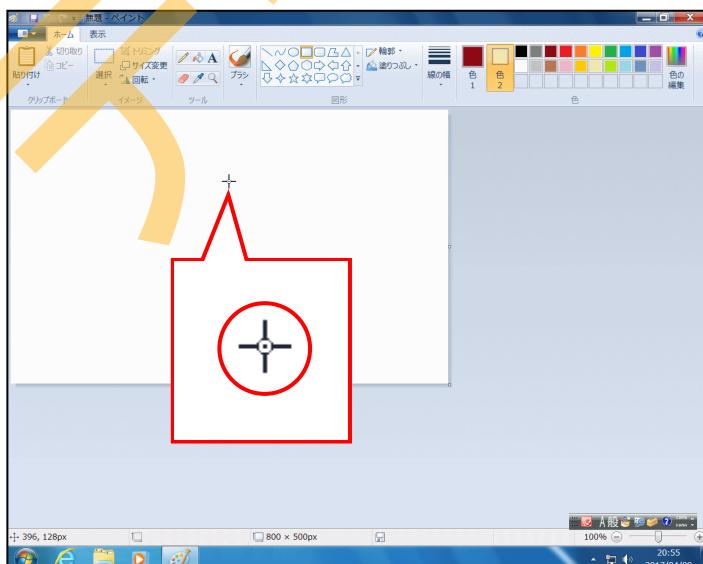


● 色2は四角形の塗りつぶしの色になります。

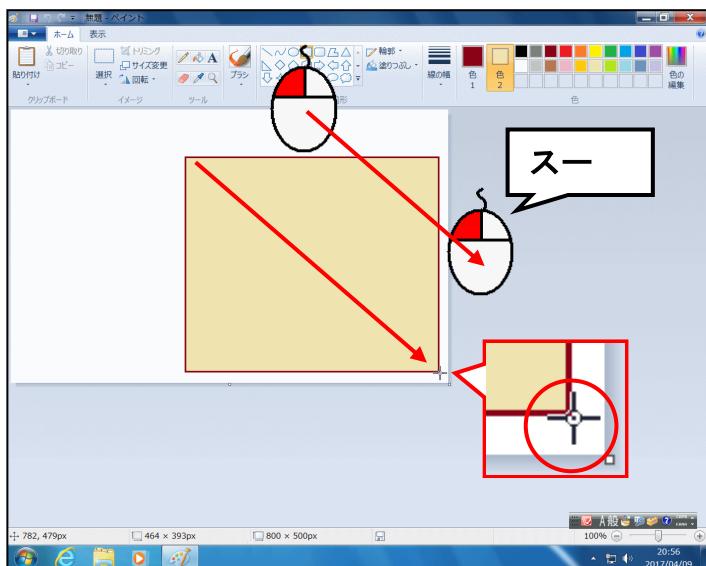
[色] グループの「薄い黄」にポイントし、クリックします。



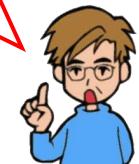
下の図を見ながら、同じような位置（画面中央）にポイントします。



右下に向かってドラッグし、四角形を描きます。

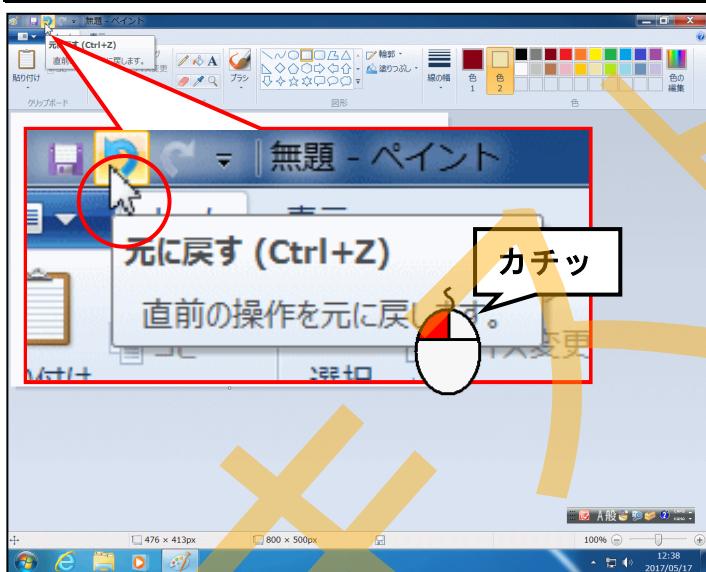


●テキスト通り出来なくても、気にしないで次に進んでください。

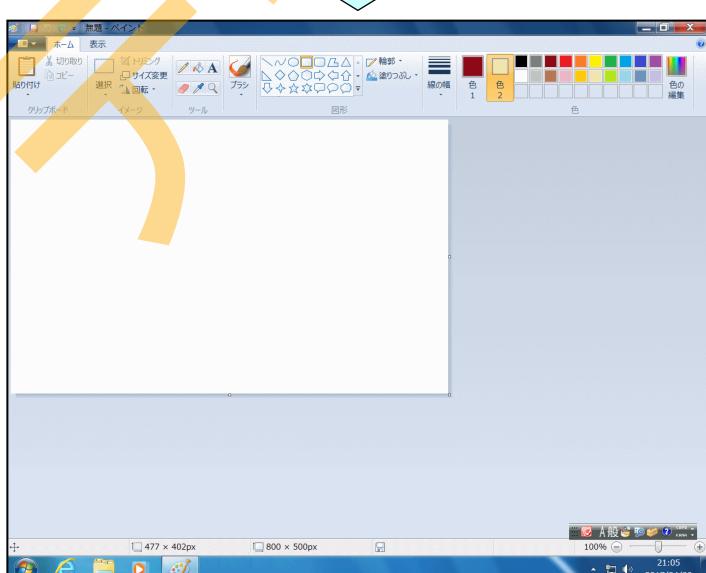


描いた絵が大きすぎたので、元の状態に戻してみましょう。

もう一度やり直す為に、画面左上の [元に戻す (Ctrl+Z)] ボタンにポイントし、クリックします。



●四角形を描く前の状態に戻すための操作です。

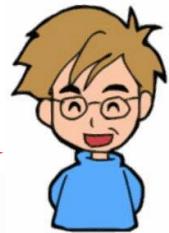


●ひとつ前の状態に戻りました。

これから家を描いていく途中で失敗したとか、元に戻したいなというときは、このボタンを使ってくださいね。



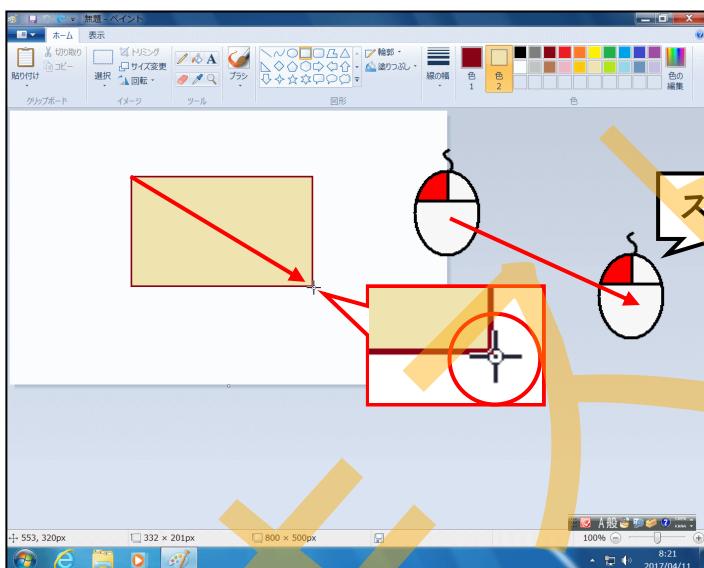
ここから、完成例の「家」の絵にチャレンジしていただきます。心配せずにこのテキストどおりに操作しましょう。



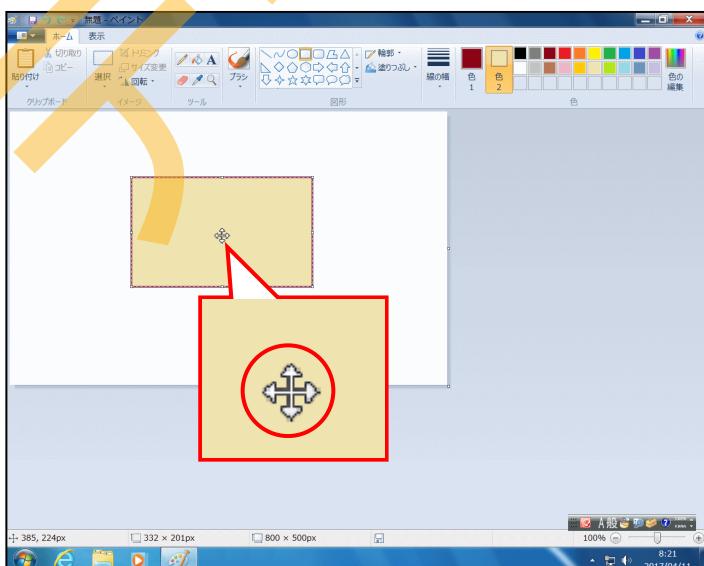
完成例



もう一度、下の図を見ながら、同じような位置（画面左上）にポイントし、右下に向かってドラッグして四角形を描きます。



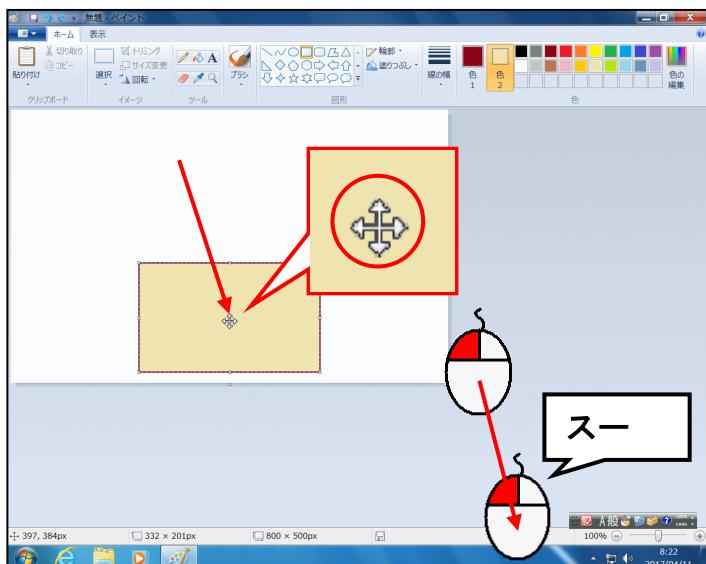
四角形の中にポイントします。



●四角形の中にポイントすると、マウスポインターが  に変わります。

●描いた四角形の場所を移動させるための操作です。

マウスの左ボタンを押したままの状態で下に移動します。



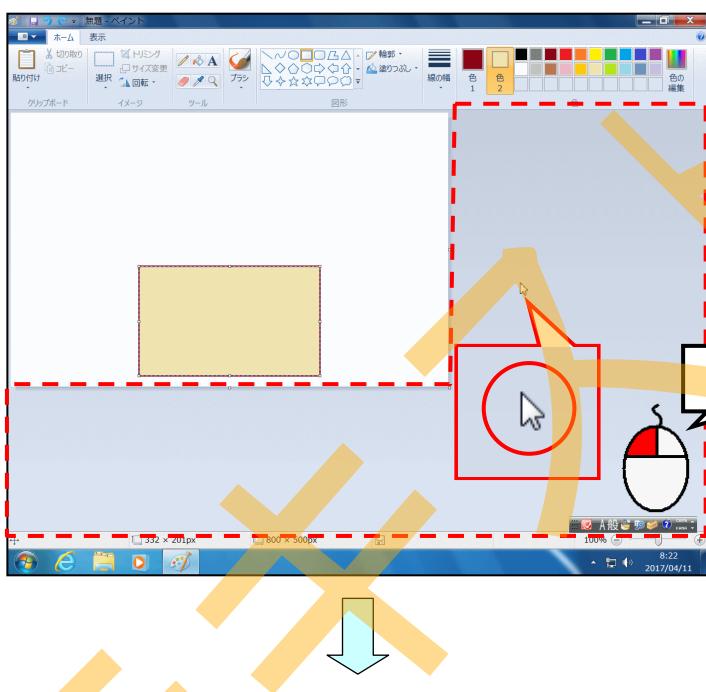
注意!

●場所が決まるまで、四角形の外でクリックしないようにしましょう。

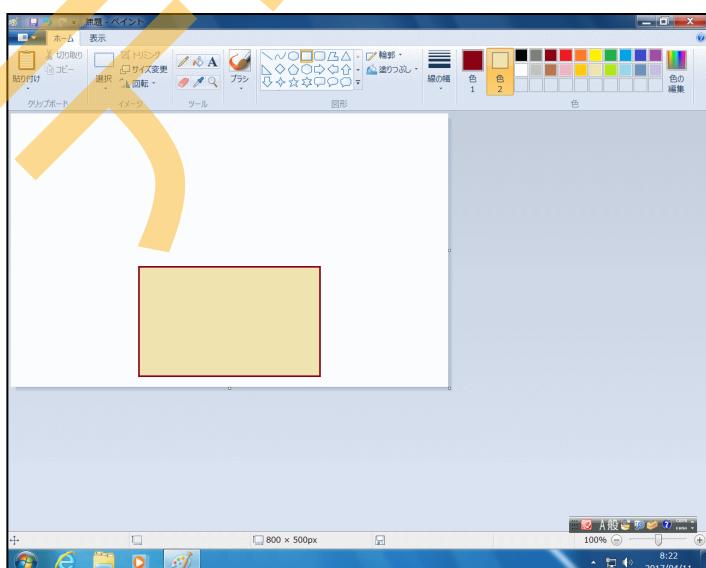
●確定してしまうと移動出来なくなります。



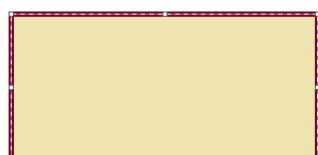
周りの灰色の部分にポイントし、クリックします。(赤の点線で囲っているところならどこでも構いません)



●描いた四角形の位置を確定します。



●クリックすることで図形の周りの白い点線が消え、図形の位置が確定します。

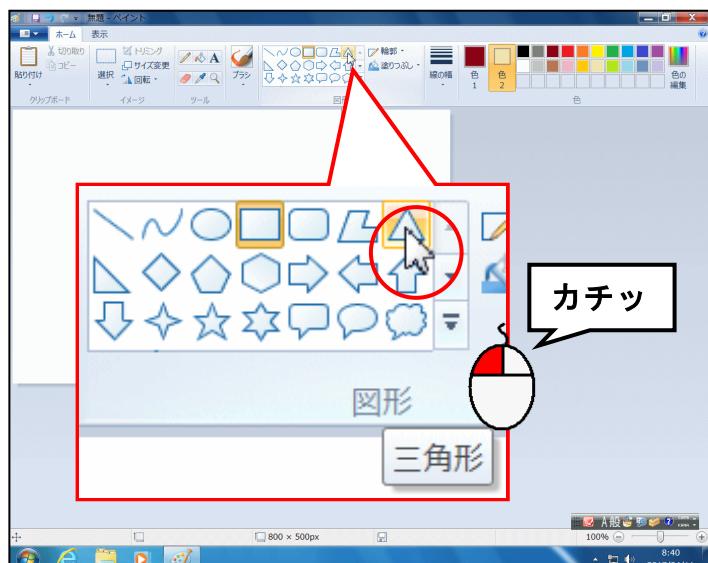


確定前

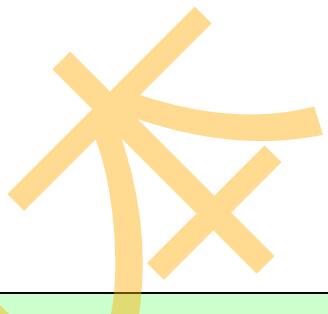


確定後

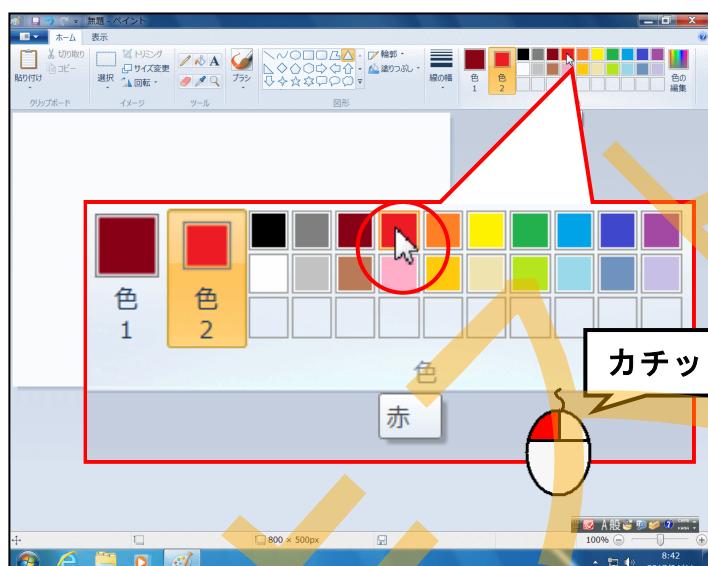
[図形] グループの △ 「三角形」を選択します。



●屋根を描くための選択です。



[色] グループの「色2」を「赤」に設定します。

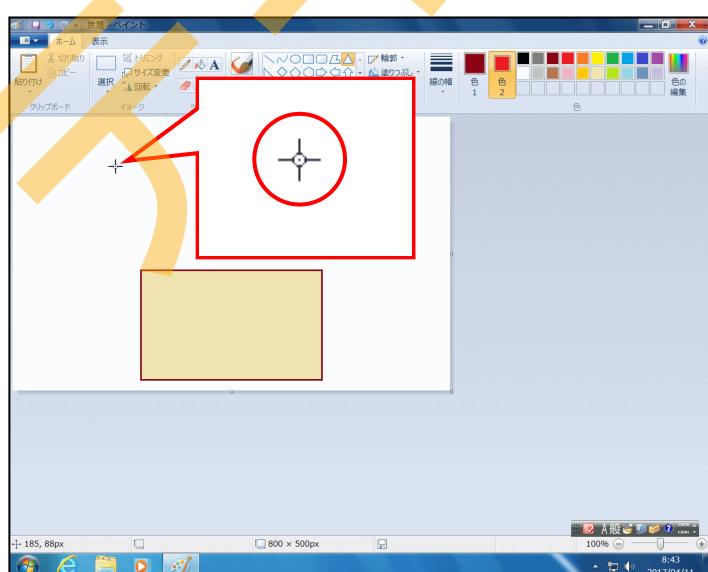


●色2は三角形の塗りつぶしの色になります。

●下図のように色2クリックしてから「赤」を選択すると、色2の色が「赤」に変わります。

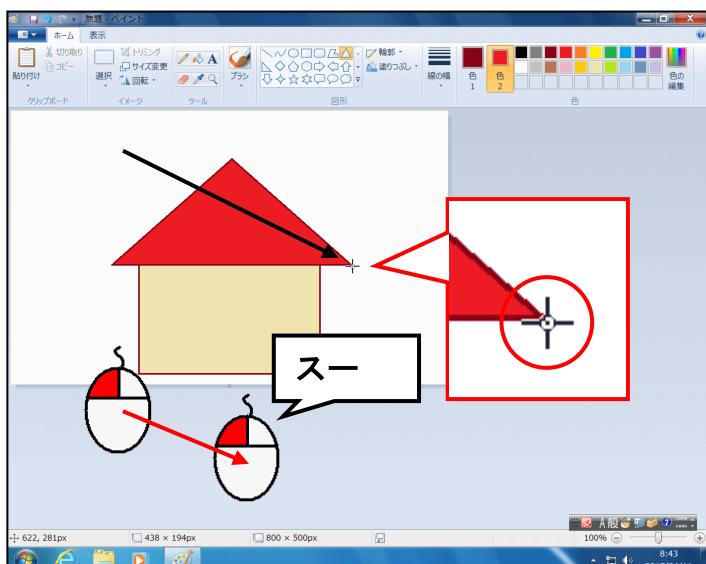


下の図の位置を参考にして、ポイントします。



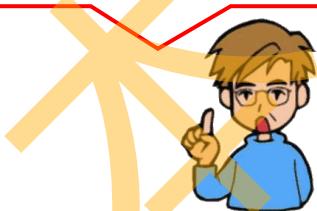
●まだクリックしないように気をつけましょう。

下の図を参考にして、ドラッグしながら屋根を描きます。

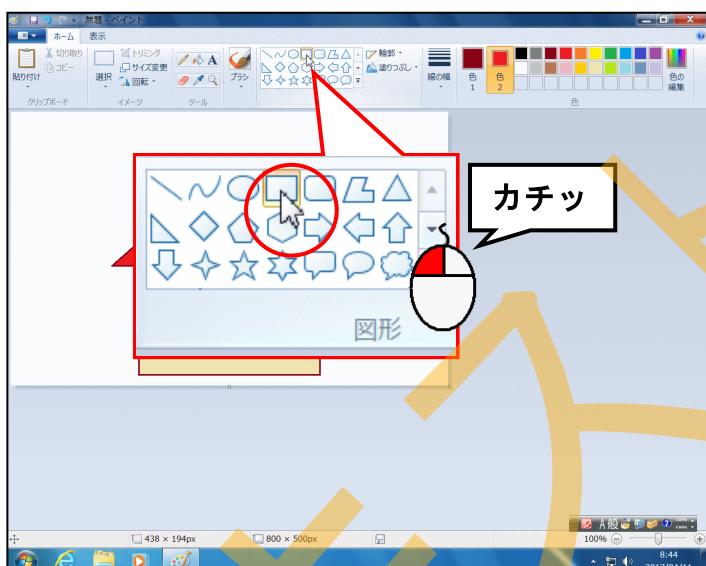


●屋根を描くのは難しいので、一度で合わせなくとも構いません。うまくいかなかったときは、「元に戻す」(P65) や「移動」(P66) を利用して、何回もやってみましょう。

●図形を描いたら確定しておきましょう。確定の方法を忘れた方は P67 を参考にしましょう。

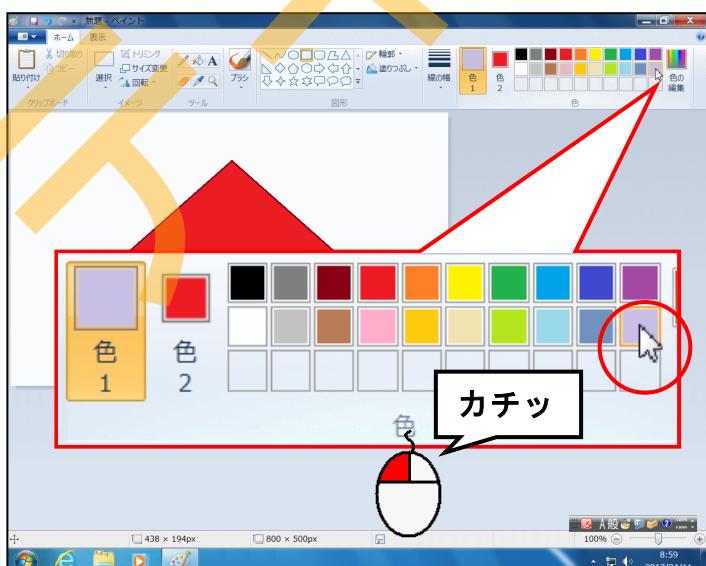


[図形] グループの □ 「四角形」を選択します。



●窓を描くための選択です。

[色] グループの「色1」を「ラベンダー」に設定します。

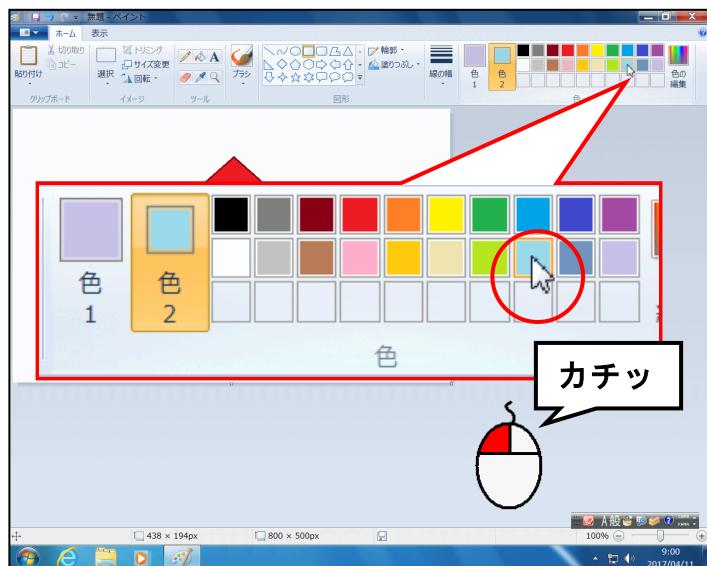


●色1は四角形の線の色になります。

●下図のように色1をクリックしてから「ラベンダー」を選択すると、色1の色が「ラベンダー」に変わります。

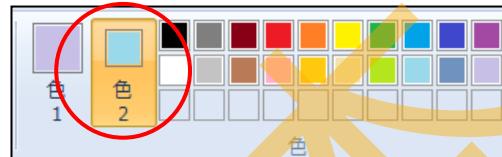


[色] グループの「色2」を「薄いターコイズ」に設定します。

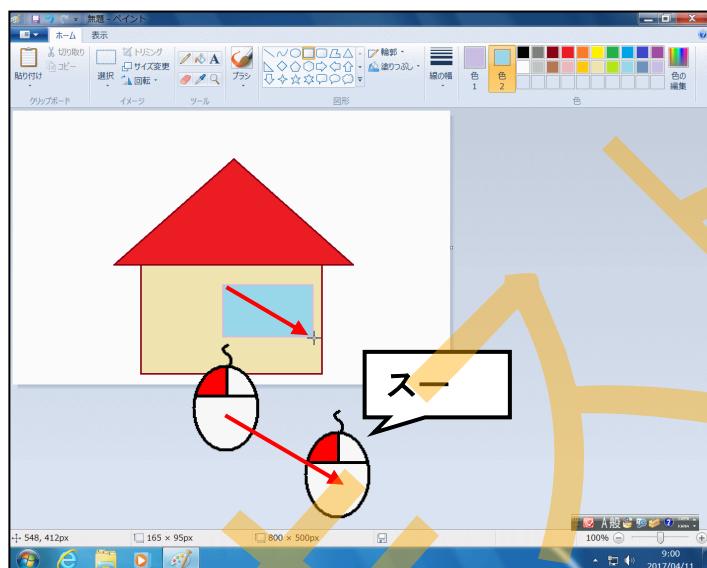


● 色2は四角形の塗りつぶしの色になります。

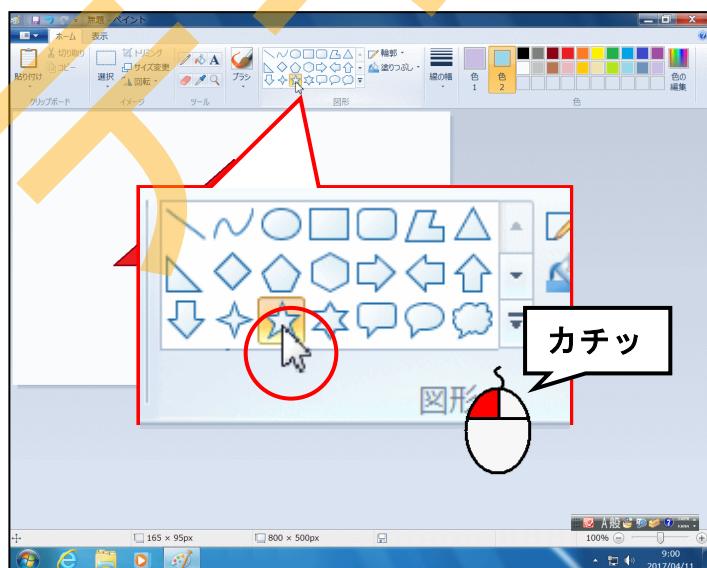
● 下図のように、色2をクリックしてから塗りつぶしの「薄いターコイズ」を選択すると、色2の色が「薄いターコイズ」に変わります。



下の図を参考にして、ドラッグしながら窓を描きます。

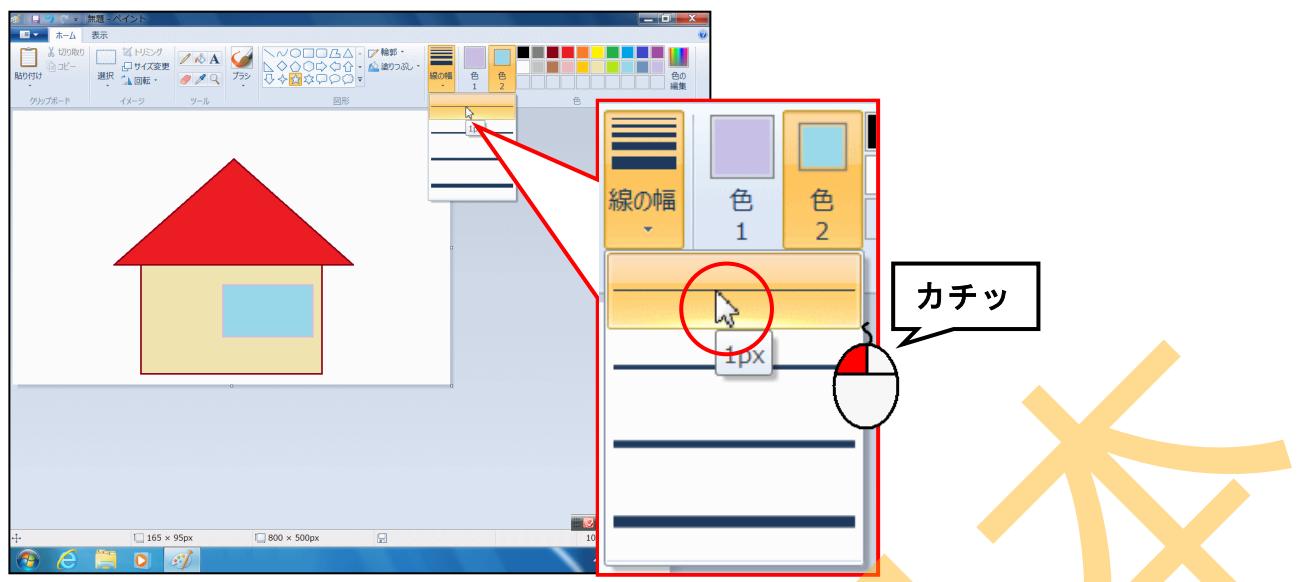


[図形] グループの 「星5」を選択します。

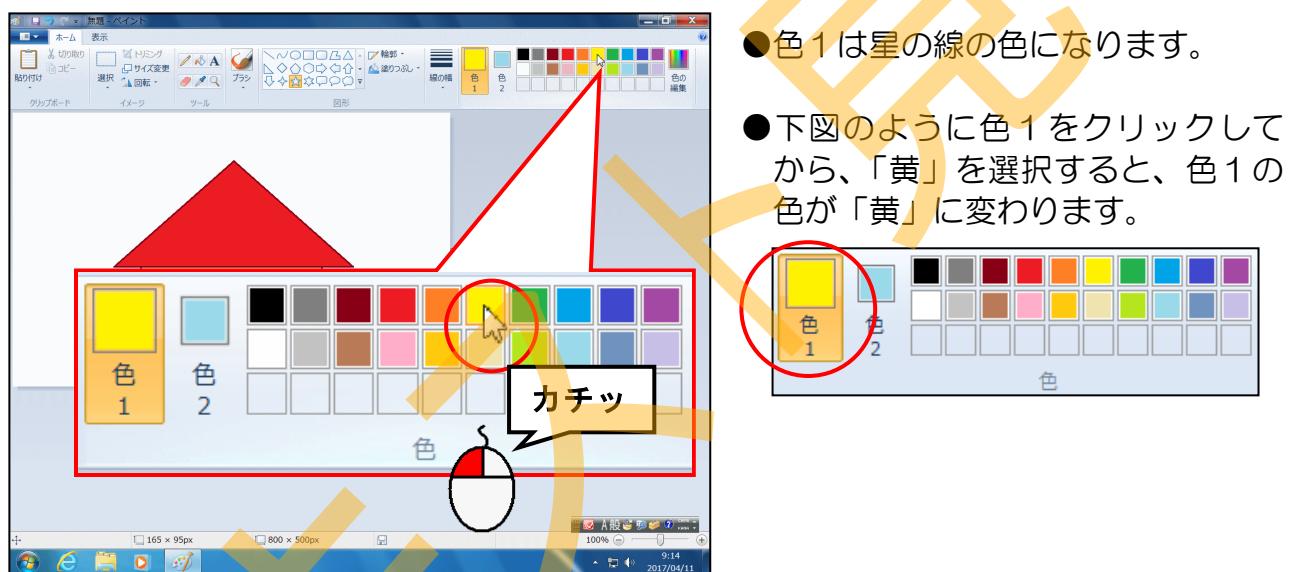


● 星を描くための選択です。

[線の幅] の「1px」を選択します。

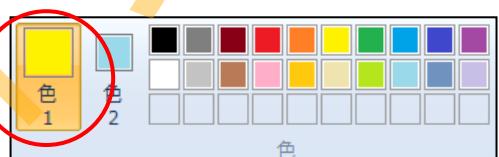


[色] グループの「色 1」を「黄」に設定します。

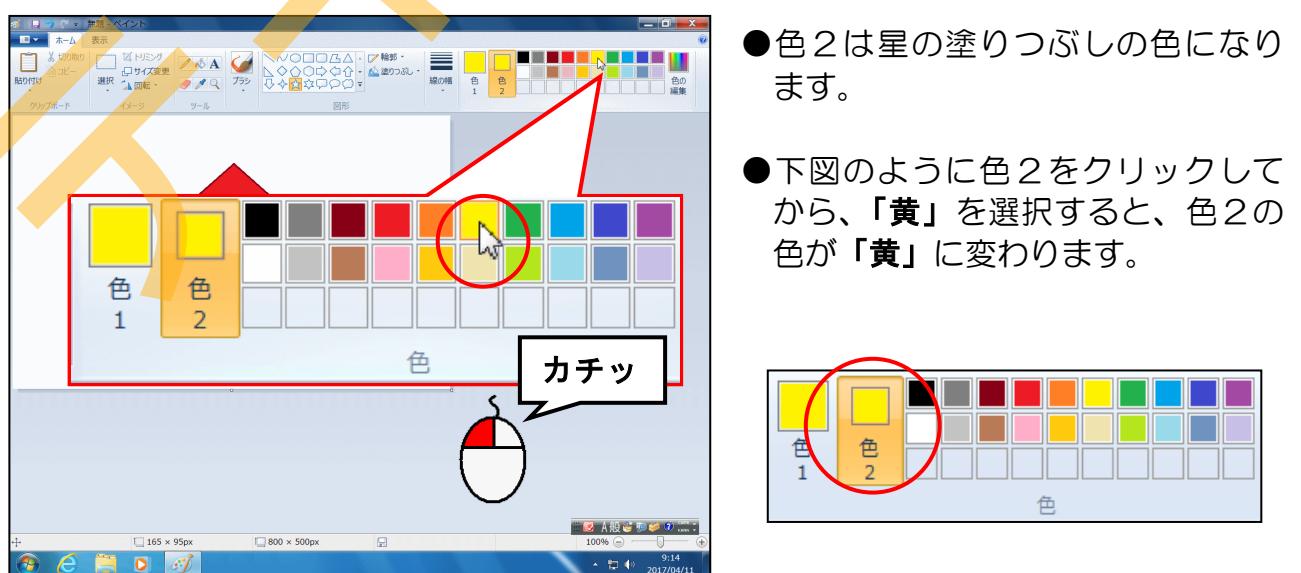


- 色1は星の線の色になります。

- 下図のように色1をクリックしてから、「黄」を選択すると、色1の色が「黄」に変わります。

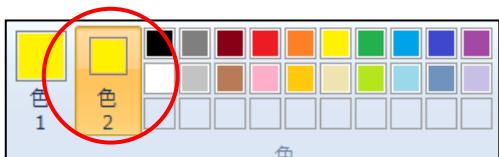


同様に [色] グループの「色 2」を「黄」に設定します。

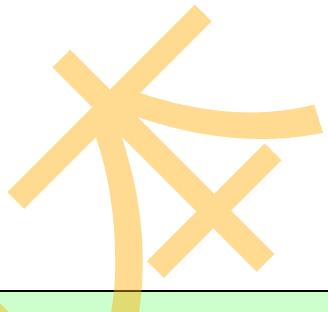
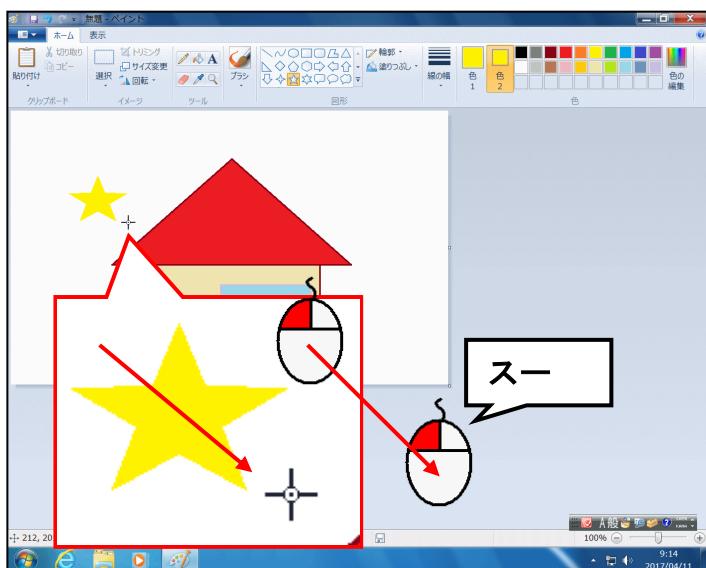


- 色2は星の塗りつぶしの色になります。

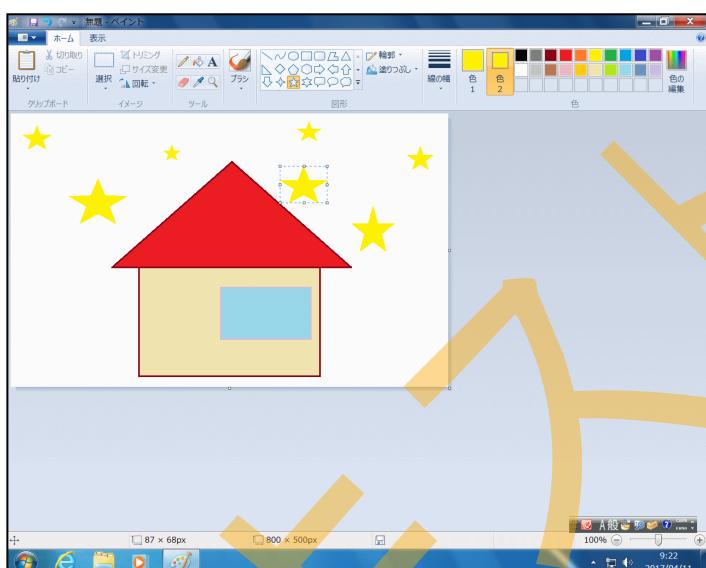
- 下図のように色2をクリックしてから、「黄」を選択すると、色2の色が「黄」に変わります。



下の図を参考にして、ドラッグして星を描きます。

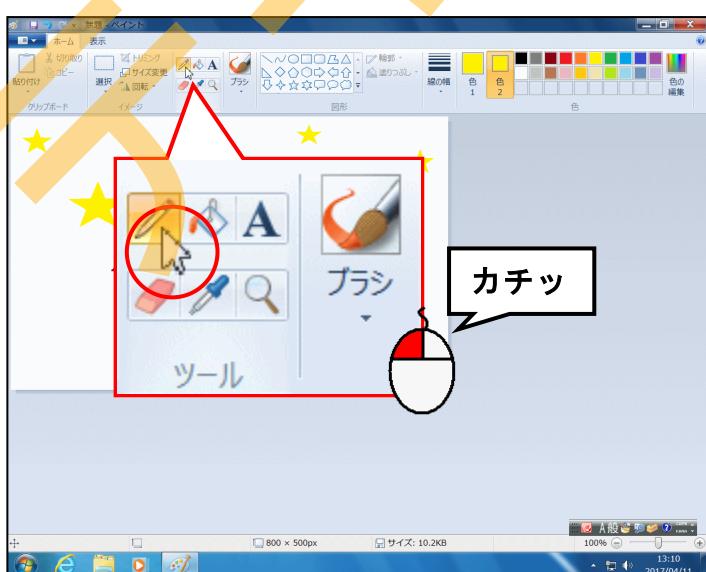


そのまま続けて、いくつか星を描きます。



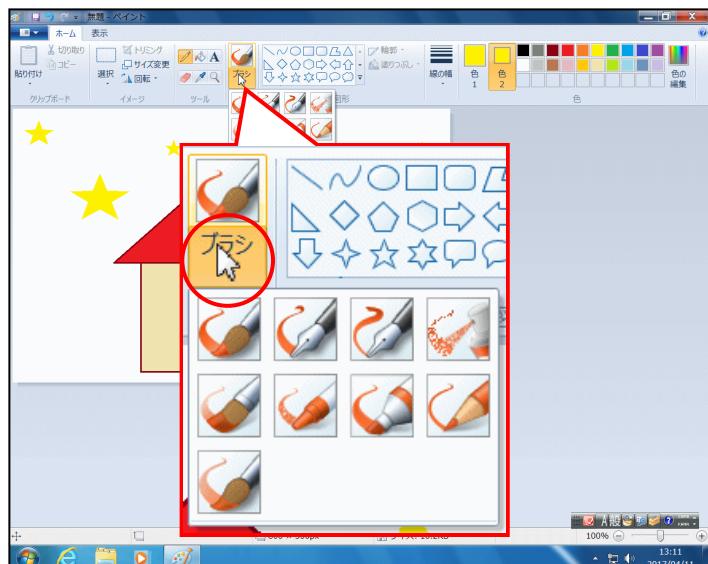
●一度 「星5」を選択すると次に 図形を変更するまで、引き続き同じ 図形を描くことができます。

[ツール] グループの 「鉛筆」にポイントし、クリックします。



●マウスを使って文字を描くための 操作です。ここでは、描いた家の横 に「いえ」という文字を描いてみま しょう。

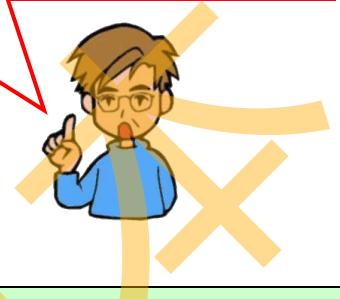
[ブラシ] にポイントし、クリックします。



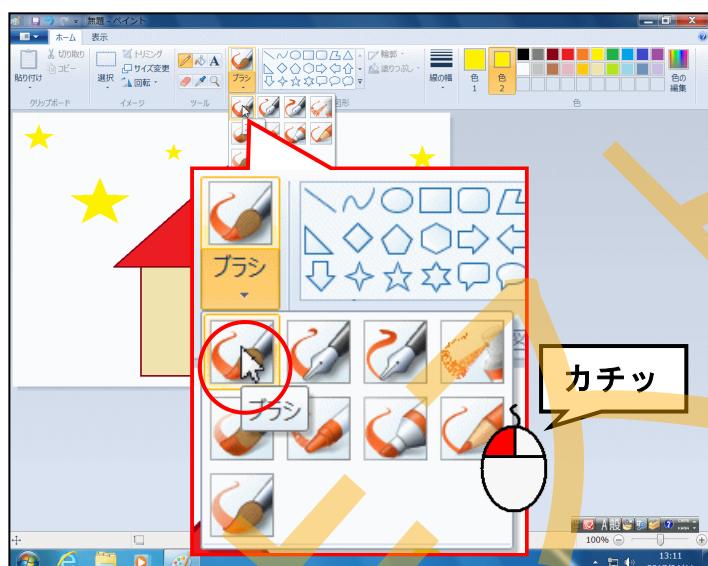
● ブラシの種類を選択するための操作です。

注意!

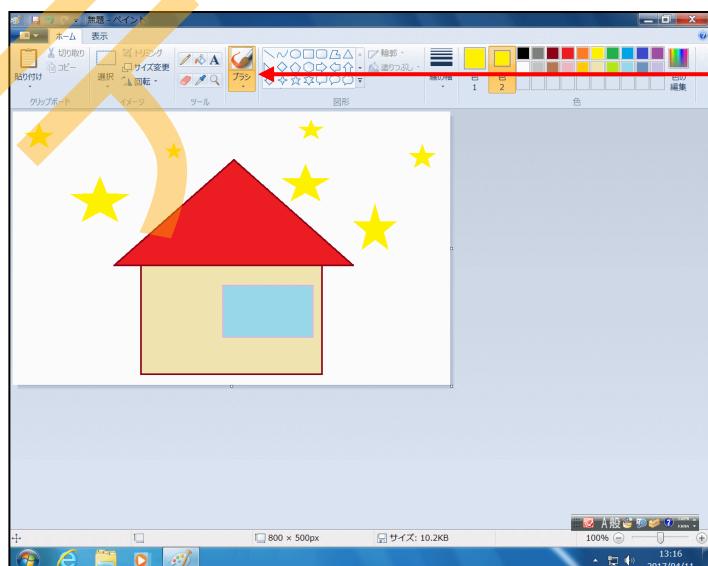
● [ブラシ] をクリックしないように注意しましょう。



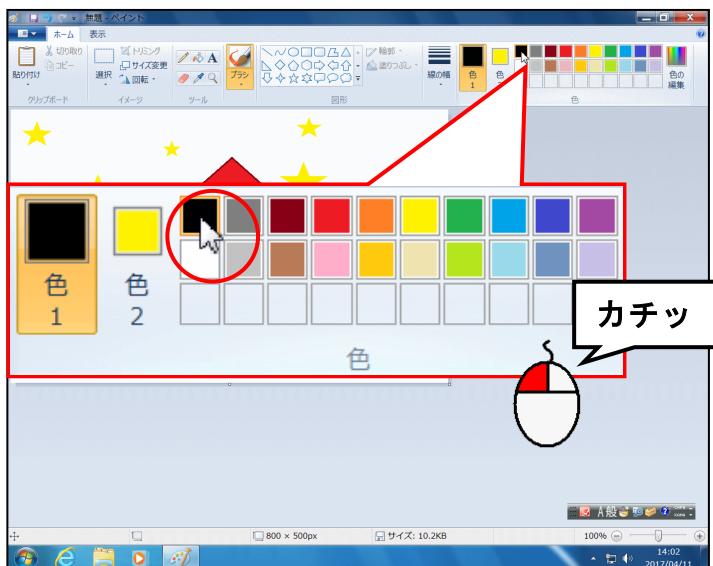
表示された一覧から「ブラシ」にポイントし、クリックします。



● 選択されると、[ブラシ] ボタンが濃くなります。

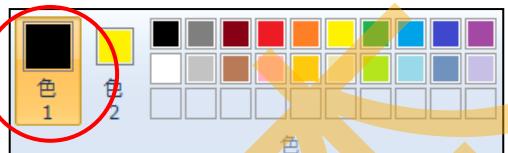


[色] グループの「色1」を「黒」に設定します。

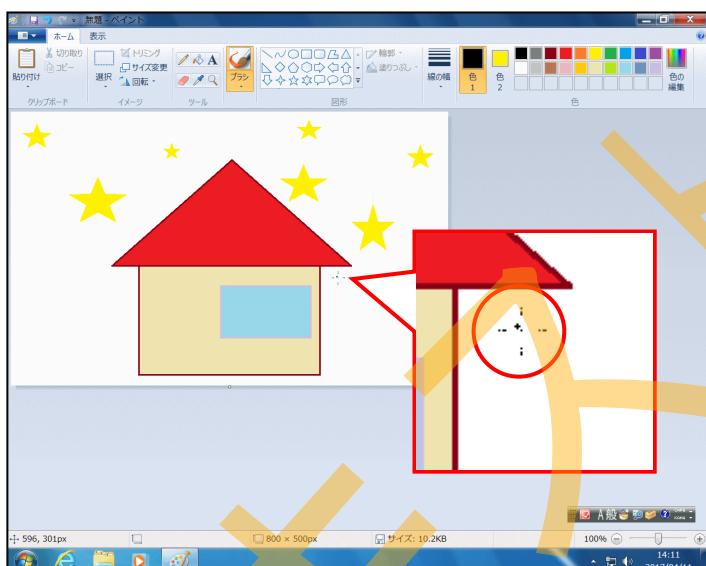


●色1は鉛筆の線の色になります。鉛筆の線の色を選択するための操作です。

●下図のように色1をクリックしてから「黒」を選択すると色1の色が「黒」に変わります。

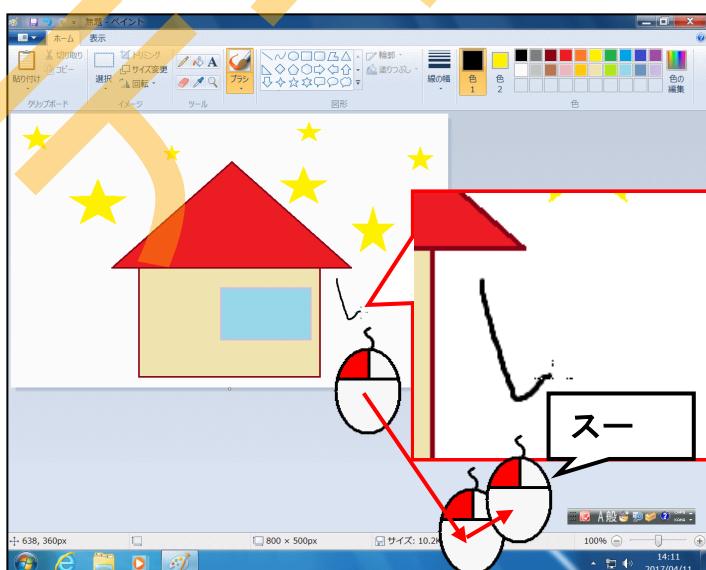


マウスポインターを家の横に移動します。



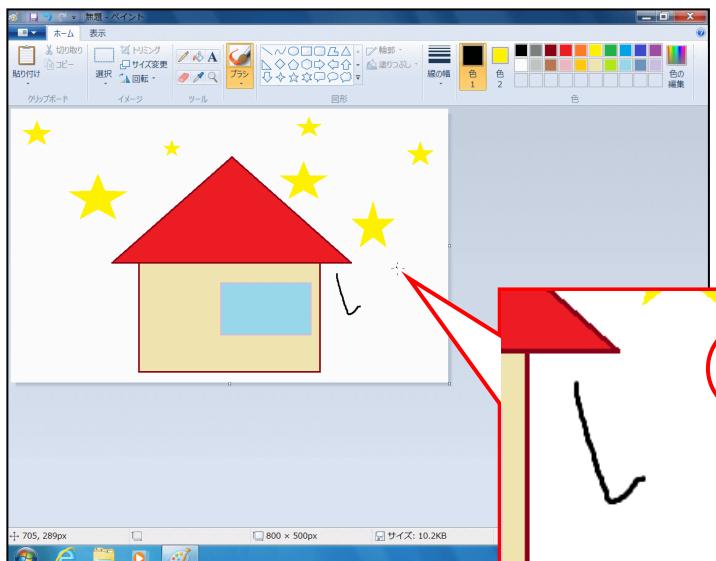
●これから家の横に、「い」と「え」を描いていきます。

マウスの左ボタンを押したまま、下図のマウスの動きを参考にドラッグします。

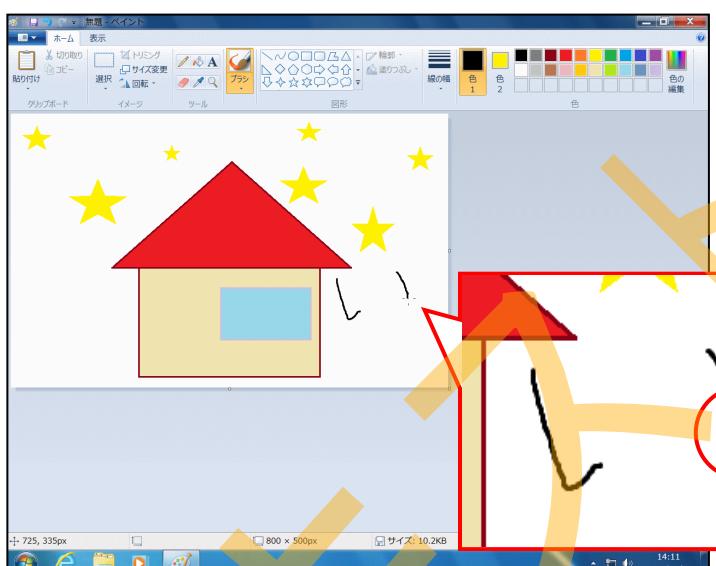


●左ボタンを押したままにしないと、線が引けません。

次の位置までマウスポインターを移動します。

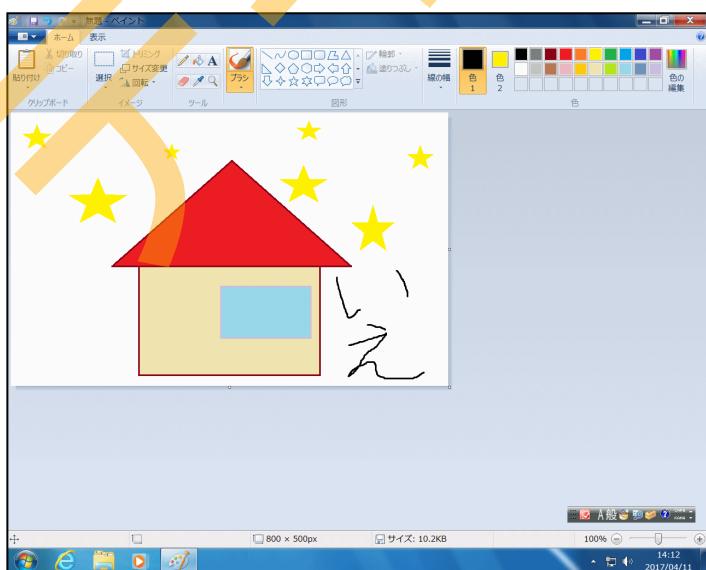


マウスの左ボタンを押したまま下図のマウスの動きを参考に、ドラッグします。



●「い」を描きます。
マウスを下図の赤線のように、ドラッグして描いてみましょう。

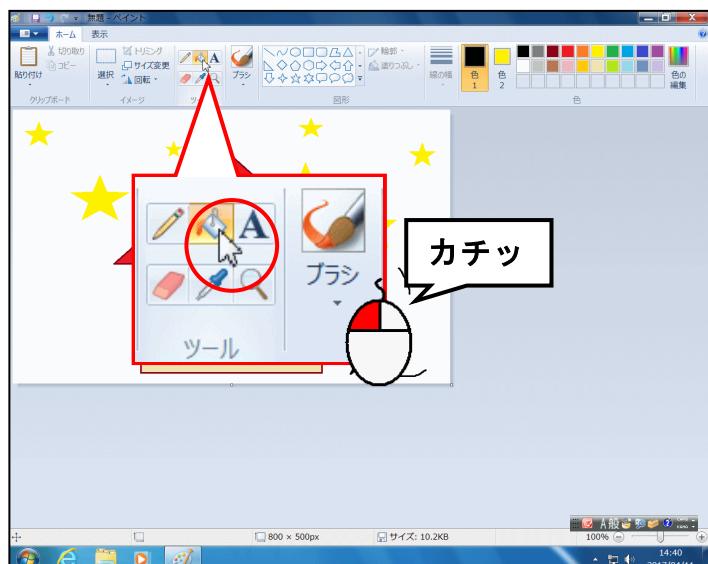
同じ要領で、「い」の下に「え」を描いてみましょう。



●ドラッグで「え」を描くのは難しい
ので、うまくいかなかったときは、
「元に戻す」(P65) を利用して、
描いてみましょう。



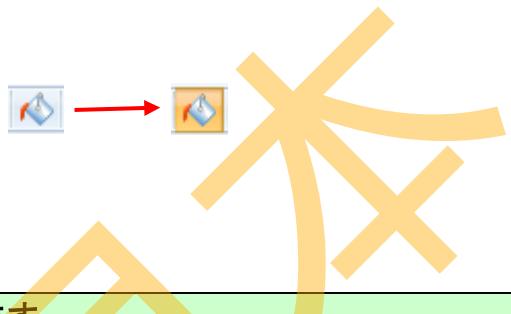
[ツール] グループの「塗りつぶし」にポイントし、クリックします。



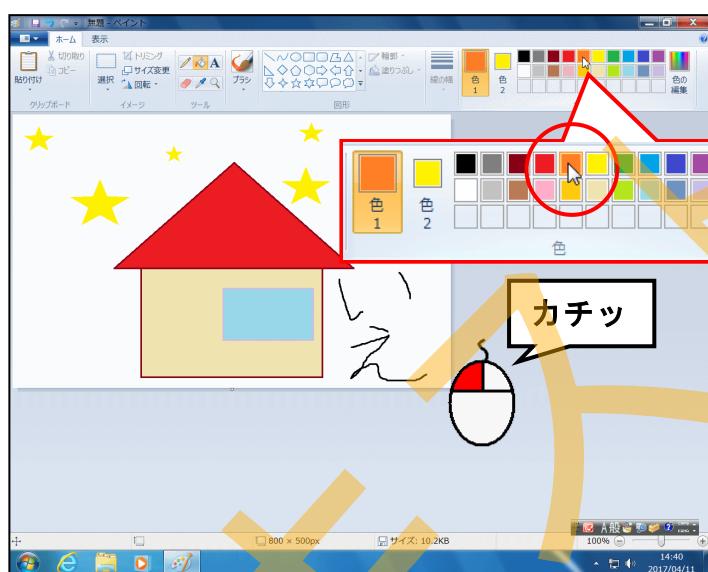
●屋根の色を変更するための操作です。

●塗りつぶしを選択すると、マウス-pointer の形が に変わります。

●選択されると、[塗りつぶし] ボタンが濃くなります。

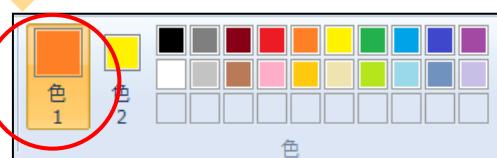


[色] グループの「色1」を「オレンジ」に設定します。

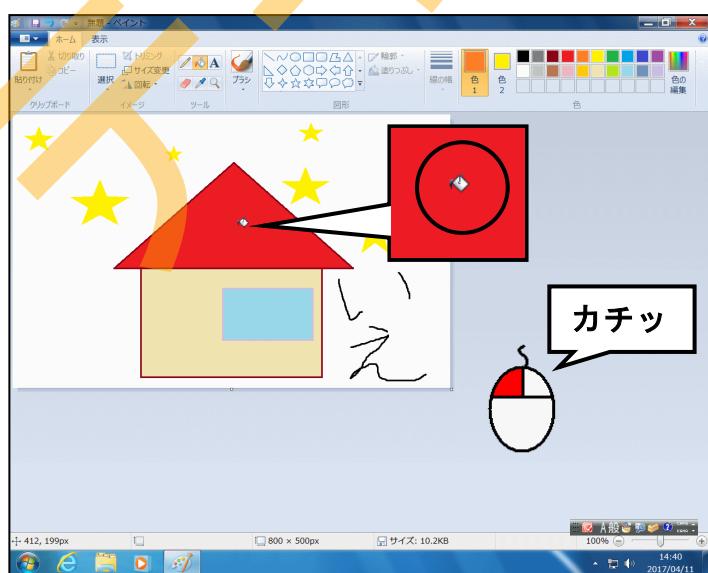


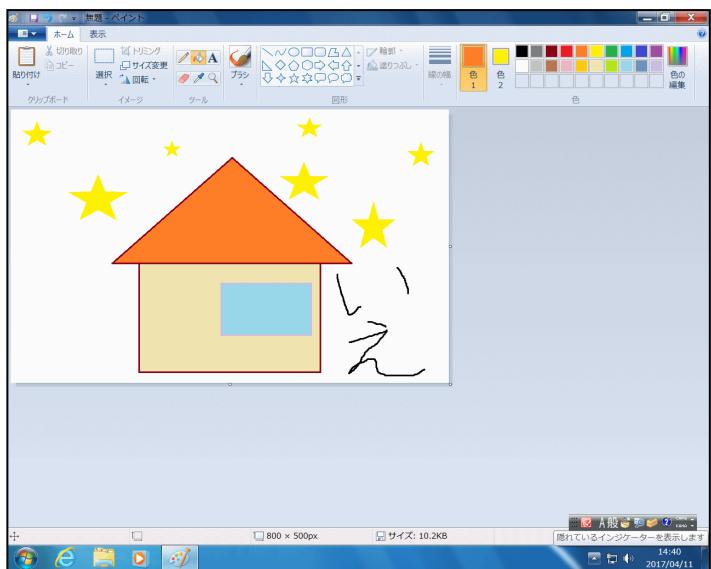
●色1は塗りつぶしの色になります。
塗りつぶしの色を選択する為の操作です。

●下図のように色1をクリックしてから「オレンジ」を選択すると色1の色が「オレンジ」に変わります。



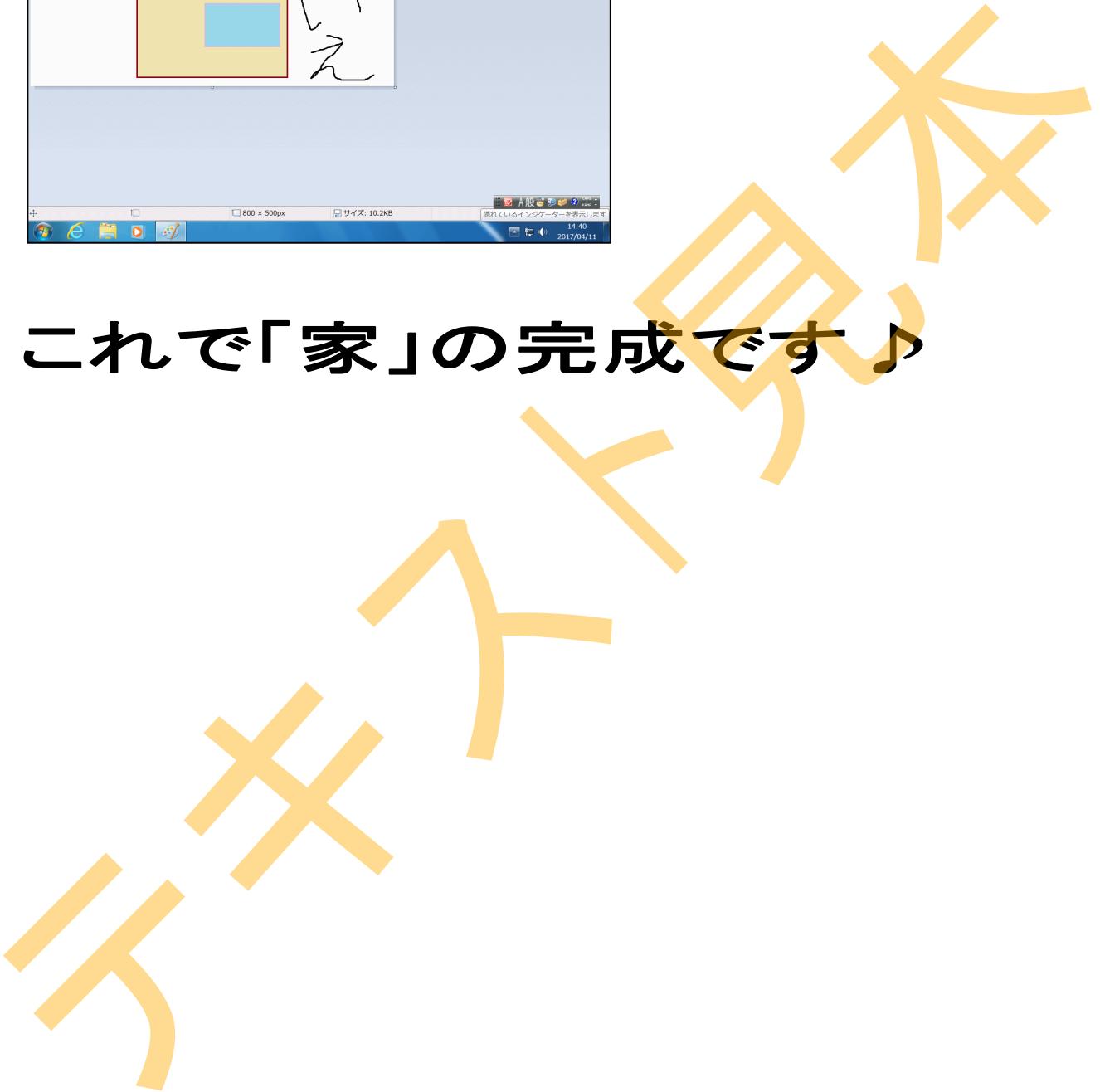
屋根の中にポイントし、クリックします。





●クリックすると、図形の中の色が塗りつぶされます。

これで「家」の完成です♪



(3) 「ペイント」から印刷をする

いよいよ、紙に印刷できるんじゃな！



タケさん「わしが描いた絵はヘタだが、やっと印刷できるんじゃな！」

くじら先生「最初にしては、上手に描けたと思いますよ。」

ウメさん「パソコンを習い始めて、印刷するのは初めてだからワクワクするわ。」

くじら先生「おふたりとも、印刷という操作が初めてなので、興奮されていますね。
印刷してプリンターから出てくるのを楽しみにしてください。」



ペイントを使って描いた家をプリンターで印刷してみましょう。

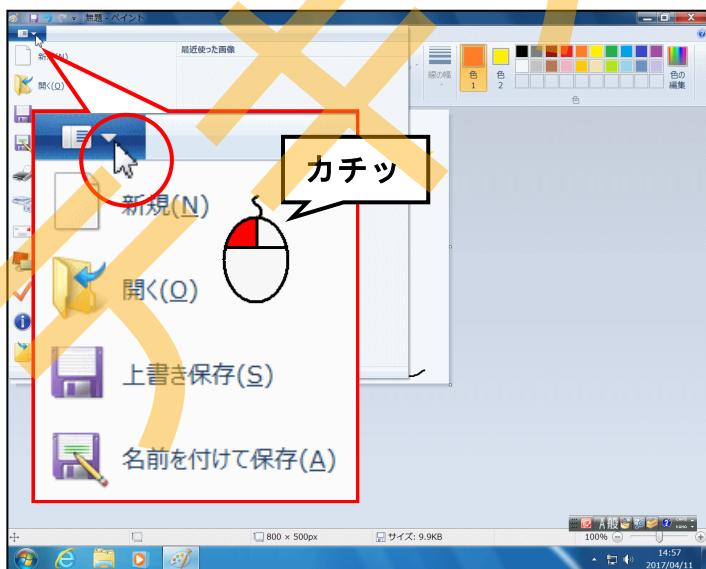
プリンターを使って印刷作業を行うと、画面に表示されている状態がそのまま紙に印刷されます。

実際の印刷作業を行う場合は、紙に印刷される「イメージの確認作業」、プリンターに印刷しないといいう「命令を与える作業」の2つの作業を行います。

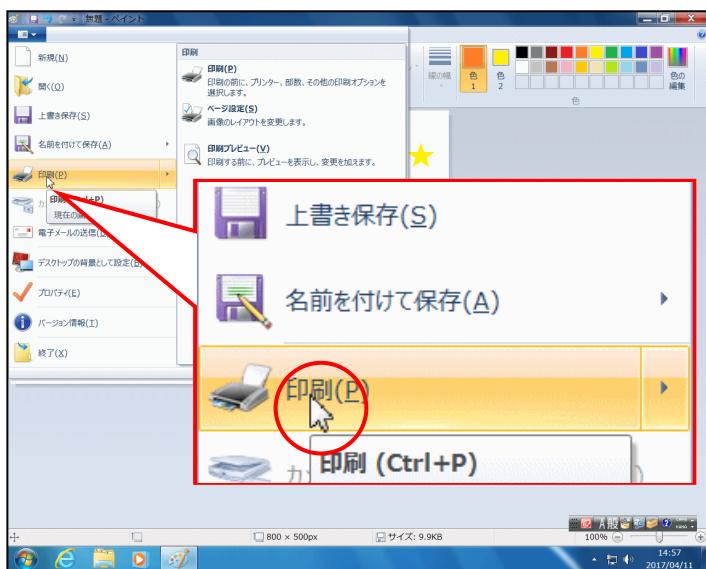
① 印刷イメージの確認

印刷イメージの確認作業は、印刷プレビュー画面に切り替えて行います。

画面左上にある [ペイント] にポイントし、クリックします。



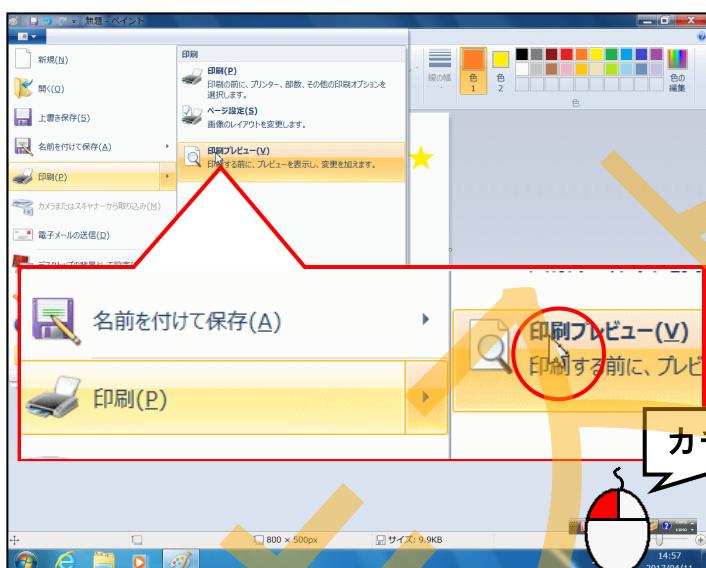
表示された一覧から [印刷(P)] にポイントします。



- 間違って [印刷(P)] をクリックしないように注意しましょう。

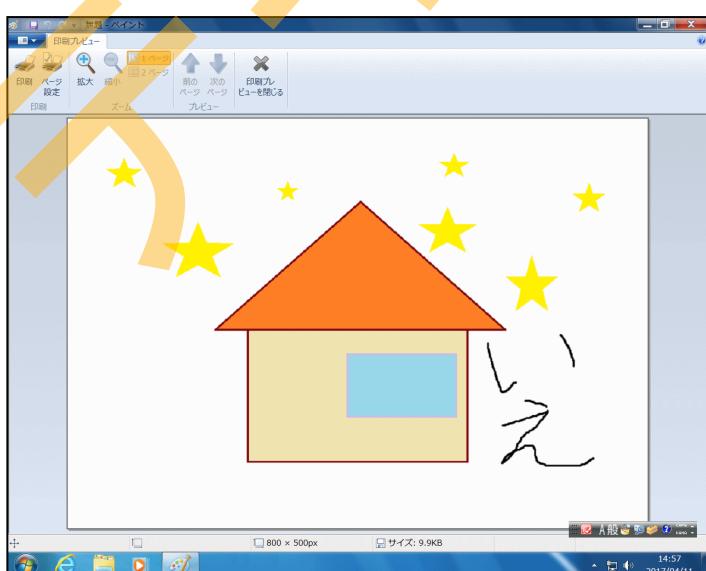


右側に一覧が表示されるので [印刷プレビュー(V)] にポイントし、クリックします。



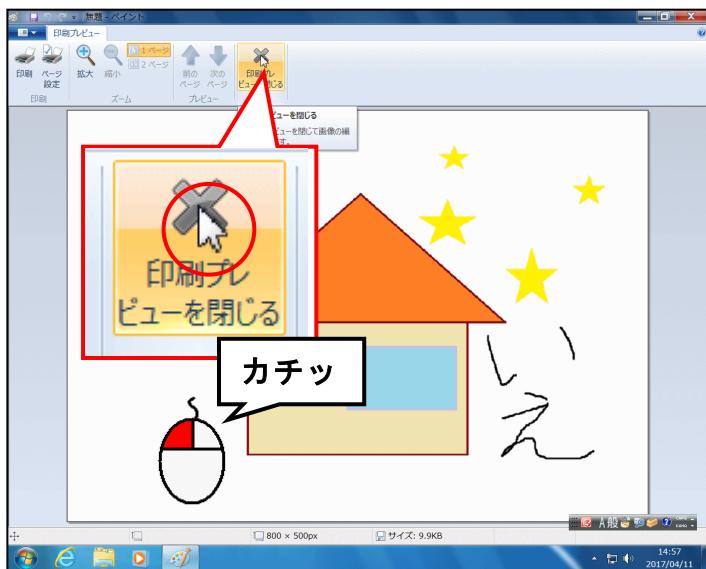
- [印刷プレビュー(V)] が表示されたら、マウスポインターをそのまま右に移動させましょう。マウスポインターを違う場所に移動した場合、[印刷プレビュー(V)] が表示されなくなります。

- [印刷プレビュー(V)] をクリックすると、左のように印刷プレビュー画面が表示されます。

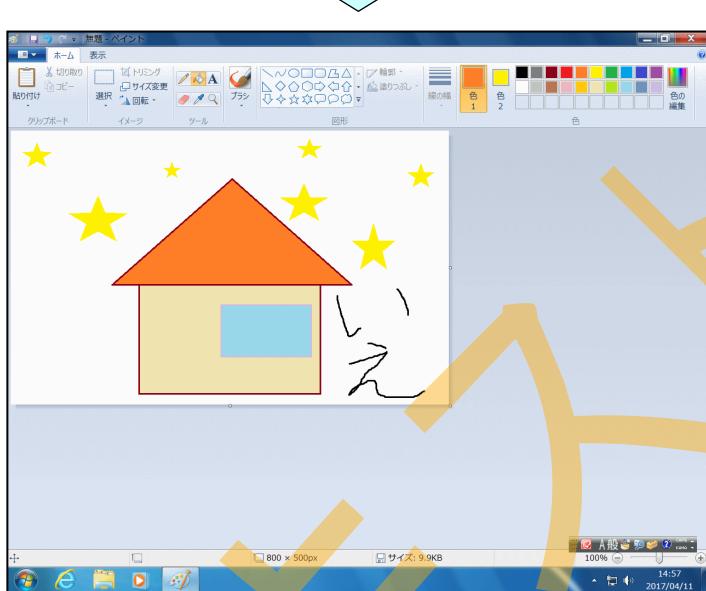


- 白い四角がプリンターに使われる用紙(今回はA4用紙)を表しています。

画面に表示された [印刷プレビューを閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



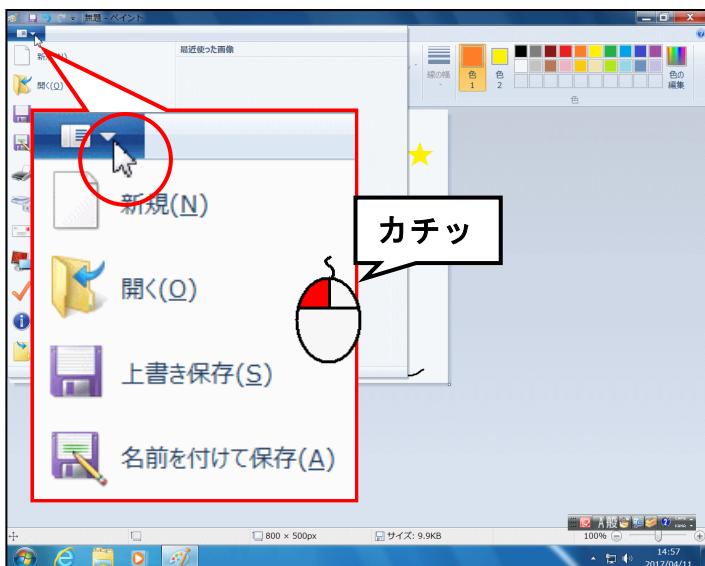
●印刷プレビュー画面から編集画面に戻るために [印刷プレビューを閉じる] ボタンをクリックします。



② 印刷操作

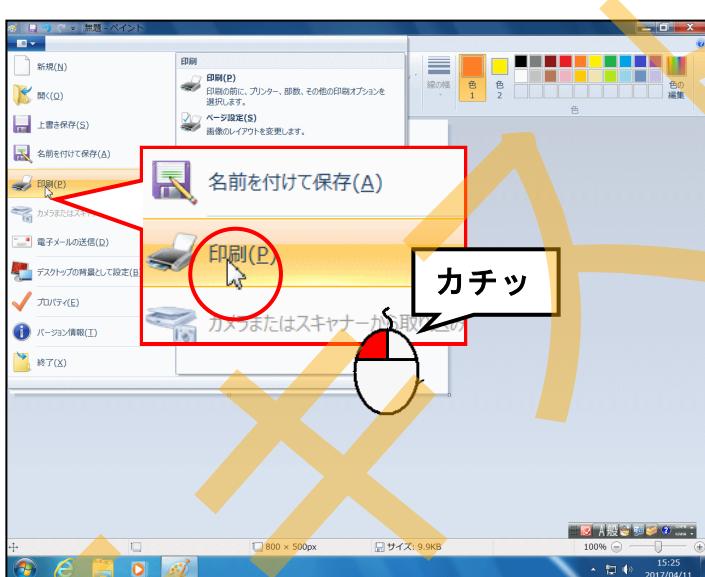
印刷イメージの確認作業が終わったところで、実際の印刷操作を行ってみましょう。

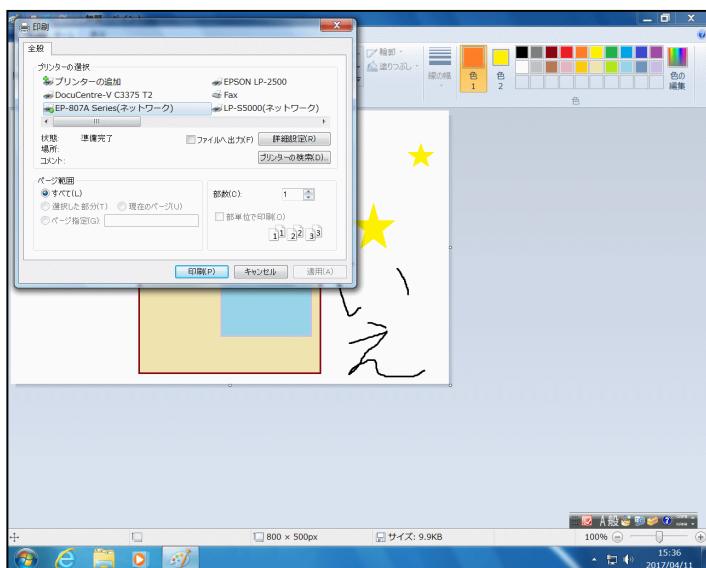
画面左上にある [ペイント] にポイントし、クリックします。



- この操作に入る前にプリンターの電源が入っていることを確認しておきましょう。
電源が入っていない場合は、電源を入れておきましょう。

表示された一覧から [印刷(P)] にポイントし、クリックします。



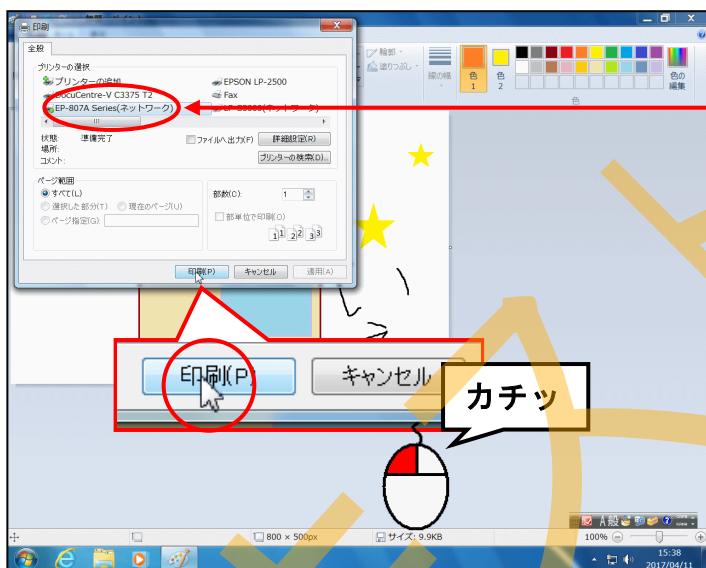


余裕があれば読んでね

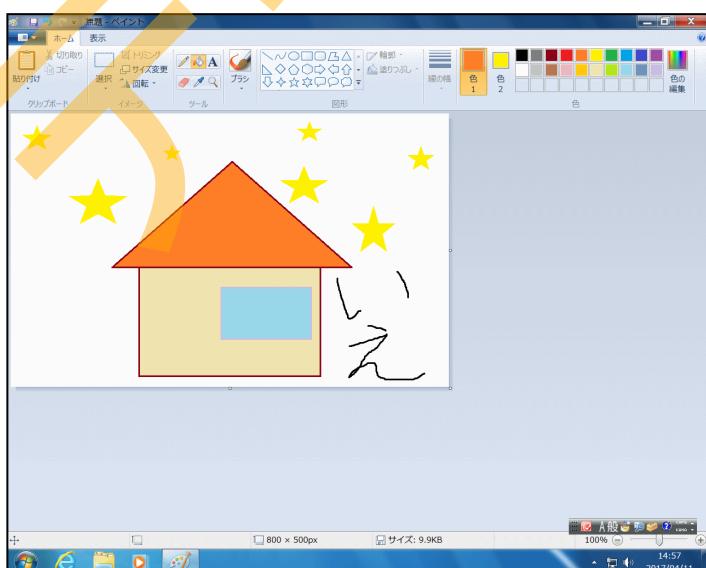
- 左に表示された画面を [印刷] ダイアログボックスといい、印刷の詳細設定（部数、印刷ページ数など）を行うための画面です。



表示された [印刷] 画面の中央下の [印刷(P)] ボタンにポイントし、クリックします。



- パソコンにつながっているプリンターによって表示されるプリンターの名前は異なります。
- 使用するプリンターについては、インストラクターにお尋ねください。



余裕があれば読んでね

- 1台のパソコンに複数のプリンターが接続されている場合は、使用するプリンターを選択してから [印刷(P)] ボタンをクリックします。

- プリンターを選択せずに [印刷(P)] ボタンをクリックすると、[通常使うプリンター] に設定されたプリンターで印刷されます。

(4) 「ペイント」を終了する

手で描いたほうが上手じゃな～。



くじら先生「どうですか？おふたりとも、きれいに印刷できましたか？」

ウメさん「お世辞にも上手とは言えない絵だわ。」

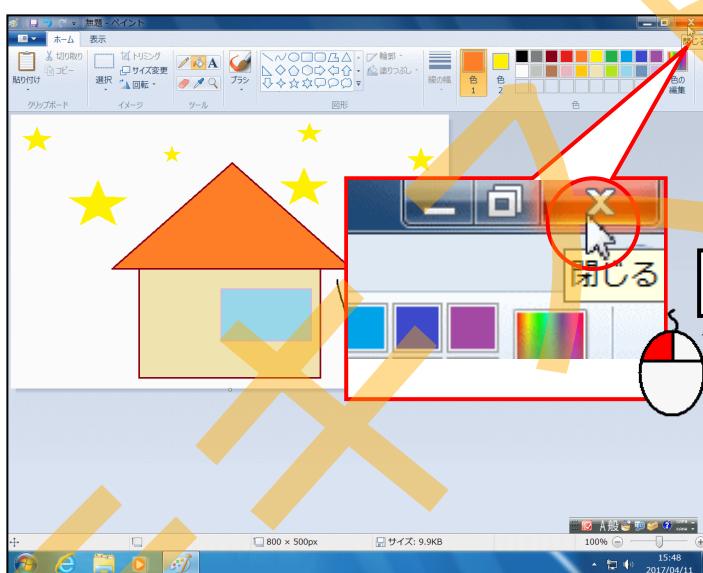
タケさん「わしもじゃ！マウスで絵を描くのは難しいなあ。」

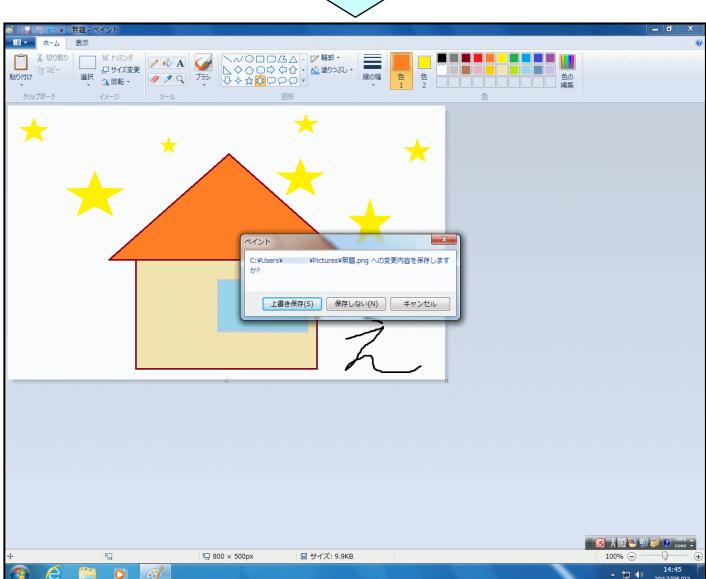
くじら先生「最初はうまくマウスを動かすことができるのは、仕方ないことです。
そのうち、少しずつうまくなっていますから、安心してください。」



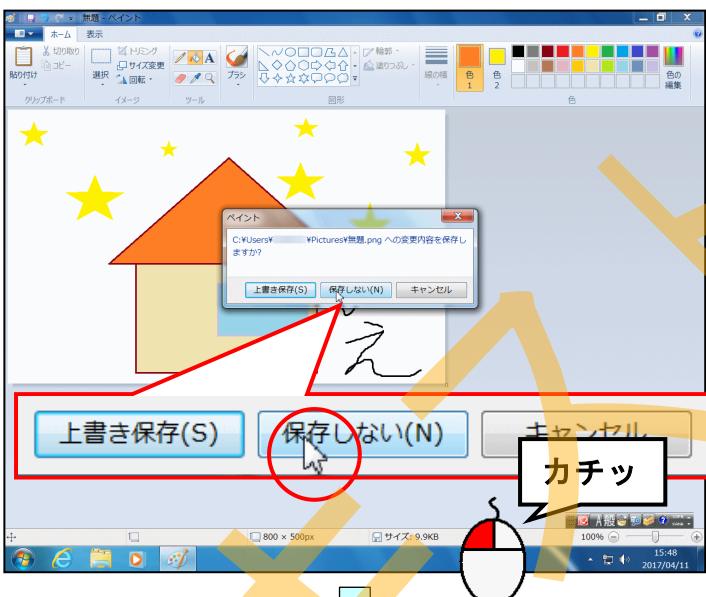
おふたりとも、せっかく描いていただきましたが、紙に印刷しましたので、パソコンには保存しないで、「ペイント」を終了してみましょう。

画面の右上にある [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。





下のように「保存」を確認するための画面が表示されますが、[保存しない(N)] ボタンにポイントし、クリックします。



余裕があれば読んでね

- [上書き保存(S)]

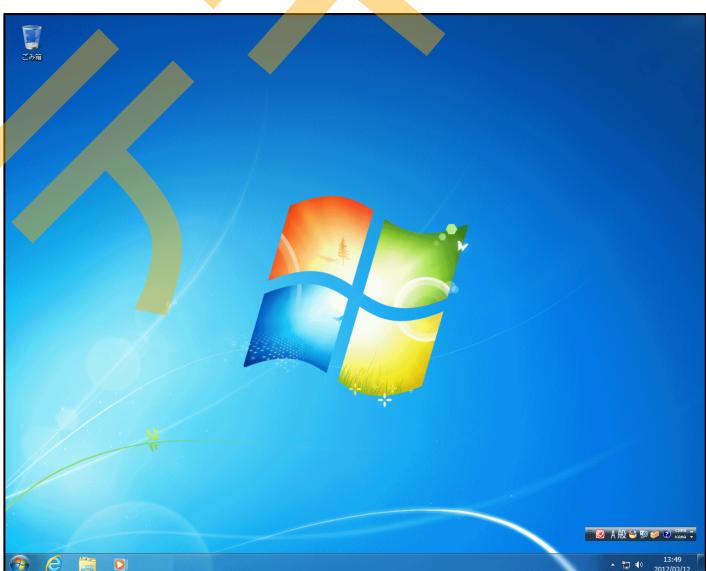
保存するための画面が表示されます。

- [保存しない(N)]

保存せずにペイントが終了します。

- [キャンセル]

終了処理がキャンセルされてペイントの画面に戻ります。



☆☆ここまでくれば、練習問題4で理解度を試してください。☆☆

6. キーボードに慣れる練習

先生、指1本で叩いてもいいですか？

ウメさん「先生、わたしゆっくり進んでいいから、指1本で叩いてもいいですか？」



くじら先生「私は、いつまでも待ちますから、ゆっくり、自分がやりやすいようにしていただいたら結構ですよ。」

タケさん「わしもじゃ！よく動いても指3本ぐらいかな～。」

くじら先生「何本でも結構です。とにかく『キーボードに慣れる』ことが大切です。最初は、どの文字がどこにあるか分からずに、探す時間の方が長いと思いますが、そのうち、指が勝手に動き出します。」

タケさん「そんなもんかのお～。

　　といえば、自動車の運転では、アクセルは？ブレーキは？なんて考えてないもんな。

危ない！って思えば、とっさにブレーキを踏んでる。
それと同じじゃな！」



くじら先生「それなんです。

大切なのは、慣れることです。

自動車の運転でも、最初は脱輪したり、ぶつけてしまったりしたでしょう。そのうち慣れてきましたよね。」

ウメさん「先生、わたしいまだに車に乗ってて、ぶつけてばかりだから、傷だらけなんだけど・・・」

くじら先生「でも、自動車の運転には慣れて、怖いというイメージはなくなったでしょう。」



自動車に乗りたいって思うように、パソコンも使いたいって思っていただいて、毎日のように利用していただければいいのです。」

パソコンを扱う上で、データを入力したり、パソコンに命令を与えたいたする機器が不可欠です。これらの機器は「**入力装置**」と呼ばれ、「**キーボード**」や「**マウス**」などがあります。すでにマウスの使い方は説明しましたので、ここではキーボードについて説明します。パソコンで文字を入力するために最も活躍するのがキーボードです。

キーボードは、種類やメーカーの違いによってストローク（キーの押し下げの深さ）、キーの大きさ、配列などさまざまで、好みの分かれのところです。

(1) 入力方法の種類

キーボードを使って日本語の読みを入力する方法には、「ローマ字入力」と「かな入力」の2種類があります。

① ローマ字入力

ローマ字入力とは、キーボードのアルファベットキーを使ってローマ字のつづりで入力していく方法です。ローマ字の規則（P88 (3) ローマ字かな対応表）に従ってキーを押すと、自動的にそのローマ字に対応するカナに変換されて表示されます。

例) …『はな』を入力するには、「H」、「A」、「N」、「A」の4つのキーを押します。

② かな入力

かな入力とは、キーボード上に記載されたカナに基づき入力していく方法です。ローマ字入力に比べて親しみやすく、1文字を入力すると画面にその文字が表示されます。昔からワープロをされていた方に多い入力方法です。

例) …『はな』を入力するには、「は」、「な」の2つのキーを押します。

③ 入力方法の比較

ローマ字入力とかな入力を比較すると、下のような長所・短所があります。強制はしませんが、みなさんにはローマ字入力をお勧めします。

	ローマ字入力	かな入力
長 所	<ul style="list-style-type: none">●全体として覚えるキーの数が少ない●日本語、数字、欧文を入力する場合に切り替えが不要●ひらがなの入力に[Shift]キーを使う必要がない	<ul style="list-style-type: none">●打つキーの数が少なくてすむ●入力する文字と同じキーをそのまま打つのでキーがわかり易い
短 所	<ul style="list-style-type: none">●かな1文字を入力するのに、単純計算で2倍のキー操作が必要となる●ローマ字を覚える必要がある	<ul style="list-style-type: none">●全体として覚えるキーの数が多い●数字や欧文を入力するのに難がある

(2) パソコンを操作するためのキーの配置



半角・全角キー
日本語入力システムの
オン・オフを切り替える
ときに使用します。

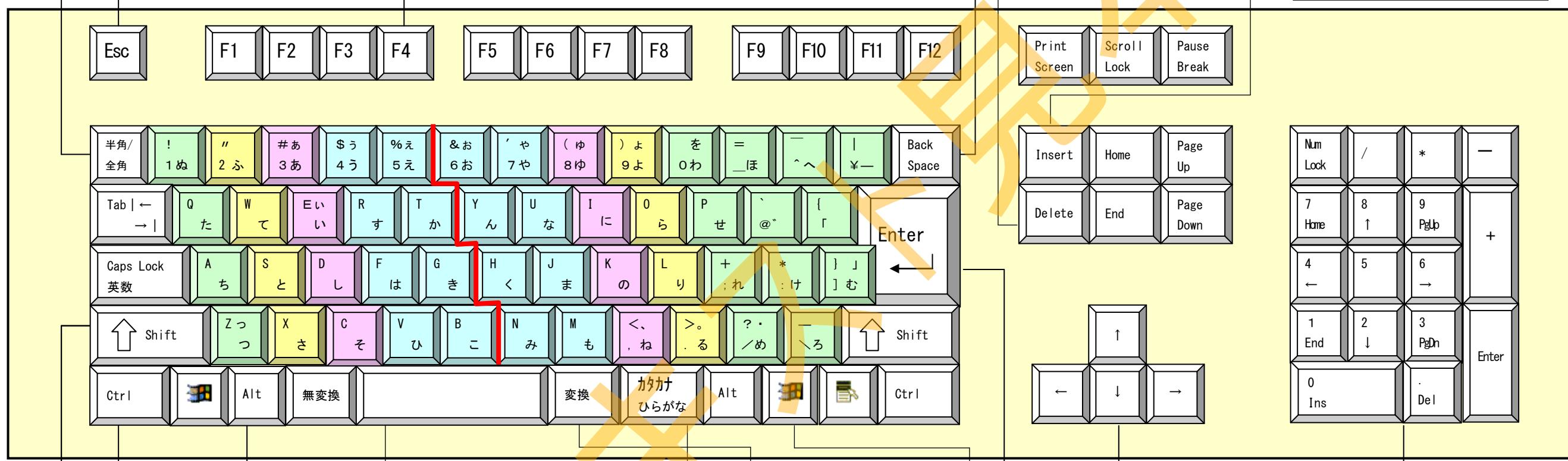
**エスケープ
Escキー(Escape key)**
実行中の操作を取り消す
ときには使います。

ファンクションキー (Function key)
それぞれに機能が割り当てられており、
ひとつのキーだけで実行することができます。

バック スペース
Back Spaceキー
カーソルの左にある文字を削除することができます。

Deleteキー
カーソルの右にある文字を
削除することができます。

インサート
Insertキー
文字を入力する際、挿入・上書きモードに切り替えます。



Shiftキー(Shift key)
他のキーと組み合わせて
使います。例えば、文字キ
ーと組み合わせて、「！」
「？」などの記号を入力す
ることができます。

コントロール
Ctrlキー (Control key)
他のキーと組み合わせて使います。例えば、文字キーと組み合わせて、命令(コマンド)を実行することができます。

オルト
Altキー(Alternate key)
他のキーと組み合わせて使
います。例えば、文字キーと
組み合わせて、メニューバー
の命令(コマンド)を実行す
ることができます。

スペースキー (Space key)
空白を入力することができます。

変換キー

漢字変換するときに使用します。

ウ イ ン ド ウ ズ
Windowsキー
ス タ ー ト メ ニ ュ ー を 表 示
す る こ と が で き ま す。

タカナ／ひらがな
タカナ／ひらがなの
力切替を行います。

矢印キー
カーソルの位置を上下左右に動かすことができます。

Enterキー
入力した文字を確定したり、確定後に使用すると改行することができます。

テンキー
数字や演算用の記号などを入力するためのキーです。

キーボードの中央付近に引かれた赤い線は、ブラインドタッチをされる方が使う左手と右手の境界を表します。
また、色分けはどの指でどのキーを押すかを示しています。

(3) ローマ字かな対応表

ローマ字はあまり使わないので、日本語をローマ字で入力することはピンとこないものです。どうやって入力したらいいのかわからなくなったら、下の表を見て確認してください。

(五十音順)					(濁音)					(難しい文字)					(難しい文字)				
あ	い	う	え	お	が	ぎ	ぐ	げ	ご	うあ	うい	うえ	うお	とあ	とい	とう	とえ	とお	
		U			GA	GI	GU	GE	GO	WHA	WHI		WHE	WHO	TWA	TWI	TWU	TWE	TWO
A	I	WU	E	O	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	ZA	ZI	ZU	ZE	ZO	どあ	どい	どう	どえ	どお
		WHU			だ	ぢ	づ	で	ど	DA	DI	DU	DE	DO	DWA	DWI	DWU	DWE	DWO
か	き	く	け	こ	ば	び	ぶ	べ	ぼ	BA	BI	BU	BE	BO	にや	にい	にゅ	にえ	によ
KA	KI	KU	KE	KO	ぱ	ぴ	ぷ	べ	ぼ	PA	PI	PU	PE	PO	NYA	NYI	NYU	NYE	NYO
CA		CU	KE	CO											ふあ	ふい	ふう	ふえ	ふお
さ	し	す	せ	そ											FA	FI	FWU	FE	FWO
SA	CI	SU	SE	SO											FYI			FYE	FO
		SHI													ふや	ふゆ		ふよ	
た	ち	つ	て	と											FYA		FYU		FYO
TA	TI	TU	TE	TO											ひや	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ
CHI	TSU														HYA	HYI	HYU	HYE	HYO
な	に	ぬ	ね	の											びや	びい	びゅ	びえ	びよ
NA	NI	NU	NE	NO											BYA	BYI	BYU	BYE	BYO
は	ひ	ふ	へ	ほ											ぴや	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ
HA	HI	HU	HE	HO											PYA	PYI	PYU	PYE	PYO
ま	み	む	め	も											みや	みい	みゅ	みえ	みよ
MA	MI	MU	ME	MO											MYA	MYI	MYU	MYE	MYO
や		ゆ		よ											りや	りい	りゅ	りえ	りよ
YA		YU		YO											RYA	RYI	RYU	RYE	RYO
ら	り	る	れ	ろ											ヴあ	ヴい	ヴ	ヴえ	ヴお
RA	RI	RU	RE	RO											VA	VI	VU	VE	VO
わ				を											VYI		VYE		
WA				WO											ヴや	ヴゅ		ヴょ	
ん					NN										VYA	VYU		VYO	



今さら、この歳でローマ字を覚えることなんてできん！

※…文中での「っ」は「っ」の後の子音を2回打ちます。

例) あさって
(ASATTE)
うっかり
(UKKARI)

(4) 入力システム

タケさん、わたしたち英字なんて使うことないわよね！

ウメさん「タケさん、わたしたちの歳になって、英字なんて使うことないわよね！」



タケさん「そうじゃなあ～。ないと思うけどなあ～。
それでも覚えんといけんかのお～？」



くじら先生「アルファベットは使うことがなくとも、数字は使いますよね。
キーボードの文字キーがどのような配置になっているか
理解してもらわないと、1つの文字を入力するために大変な時間がかかることになってしまいます。」

ママさん「わたしたちは、少しパソコンをかじっているから、
この部分は大丈夫よね。」

パパさん「そうだね。でも、わたしたちが知らないことがあるかもしれないよ。」

ママさん「知らない部分があったら、読み飛ばすと
もったいないわね。」

パパさん「そうだよ。じっくりとこのテキストを読んで、知らない部分が出てきたら、その部分に印をつけておこうよ。」

くじら先生「いいことですね。たぶん、知って得するようなことも出てくると思いますので、期待しながら進んでください。」



パソコンは英語圏で開発されたため、通常、日本語を入力することを前提としていません。日本語を入力するためには入力するためのソフトウェア(プログラム)が必要となります。それが、「日本語入力システム」です。

日本語入力システムは、キーボードから入力した文字をひらがなや漢字などが混在した文章に変換するソフトウェアです。したがって、ひらがなや漢字などを入力する場合は、日本語入力ができる状態（日本語入力システムオンの状態）で入力する必要があります。

日本語入力システムがオンの状態とは、「これから入力する文字にはひらがな・漢字などが混じっていますよ」とパソコンに準備させている状態をいい、日本語入力システムがオフの状態とは、「これから入力する文字は英字・数字・記号だけですよ」とパソコンに準備させている状態をいいます。

■日本語入力システムオンの状態で入力できる文字

あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
亞	胃	宇	絵	尾	課	気	句	家	個

■日本語入力システムオフの状態で入力できる文字

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	U	W	Z
!	"	#	\$	%	&	,	()	=	/

日本語入力システムオン・オフの状態を利用者はどこで判断するのでしょうか？

パソコンを利用する人は、パソコンの画面に表示された「言語バー」の状態を見て判断することになります。

「言語バー」は、下図に示されたバーのことをいいます。



(タスクバーの上に出ている状態)



(タスクバーの中に埋まっている状態)

下図に示された箇所を確認すると、日本語入力システムのオン・オフの状態が判断できます。

■日本語入力システムオンの状態



「あ」になっている

■日本語入力システムオフの状態

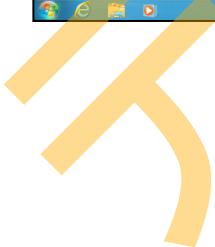
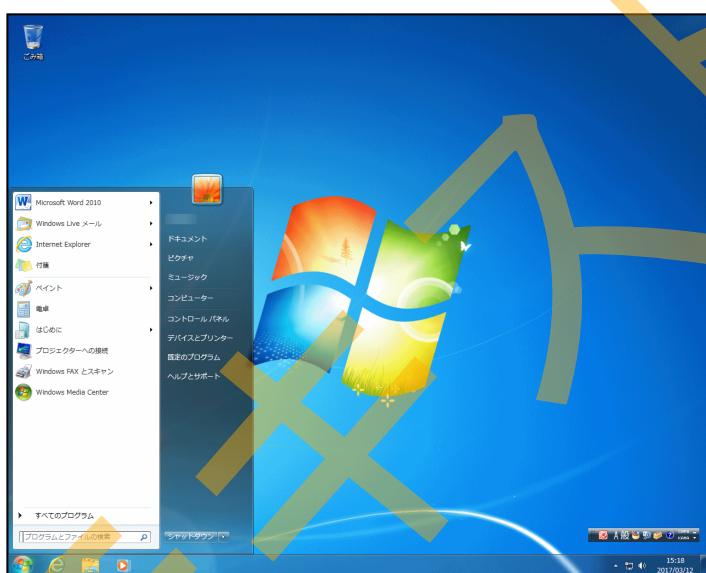
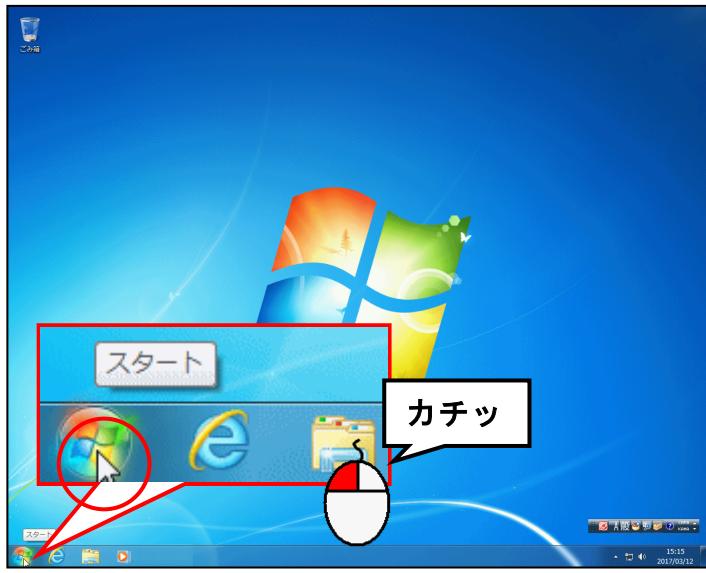


「A」になっている

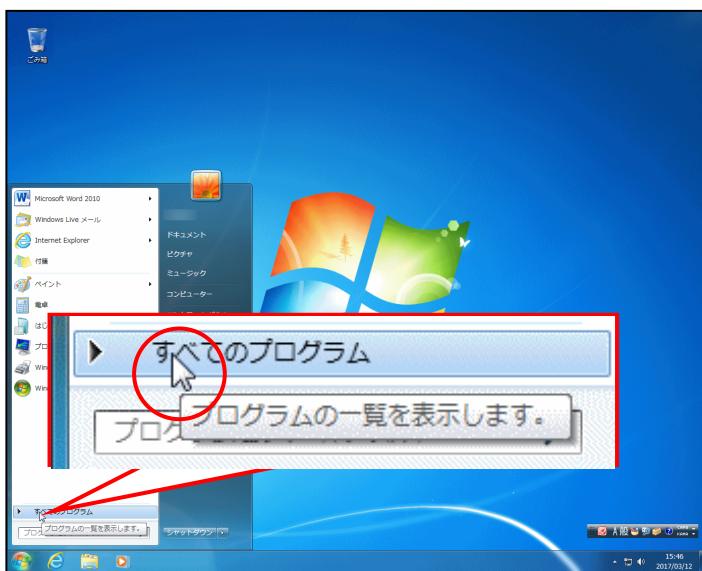
① ワードを起動する

文書を書くための道具（アプリケーションソフト）であるワード（Word）を起動してみましょう。

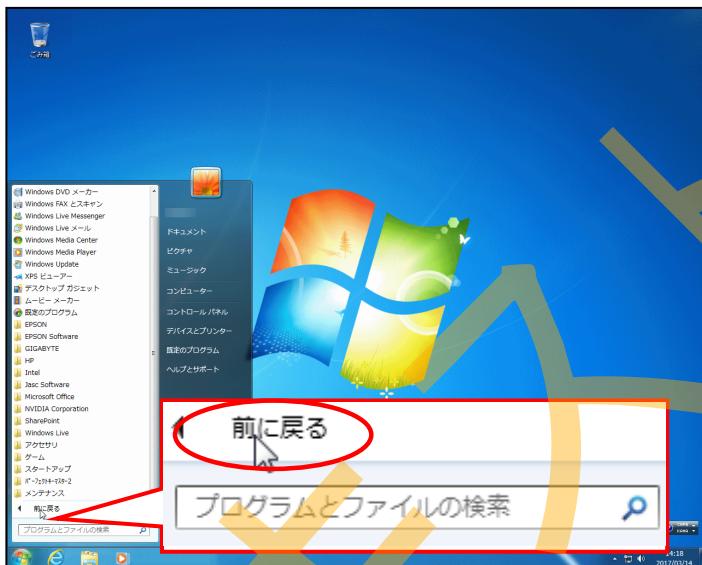
[スタート] ボタンにポイントし、クリックします。



表示される一覧から [すべてのプログラム] にポイントします。

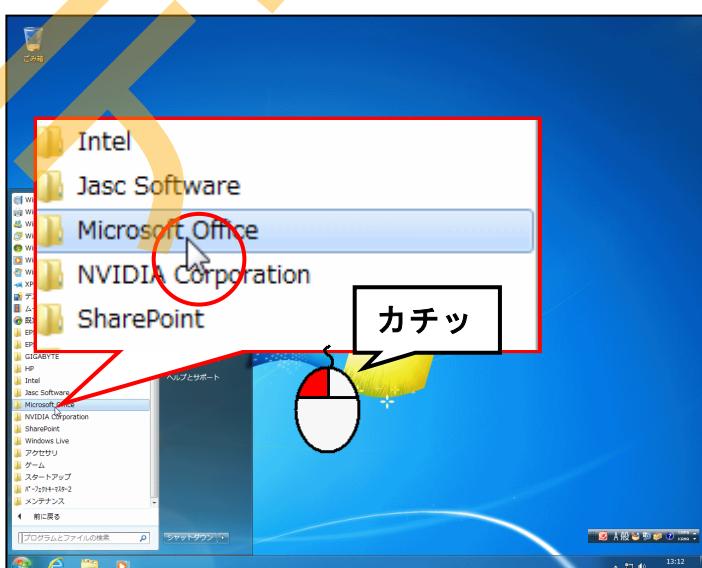


そのまま少し待つと [すべてのプログラム] が [前に戻る] に変わります。

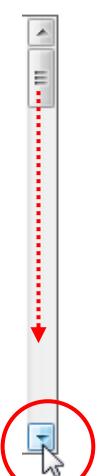


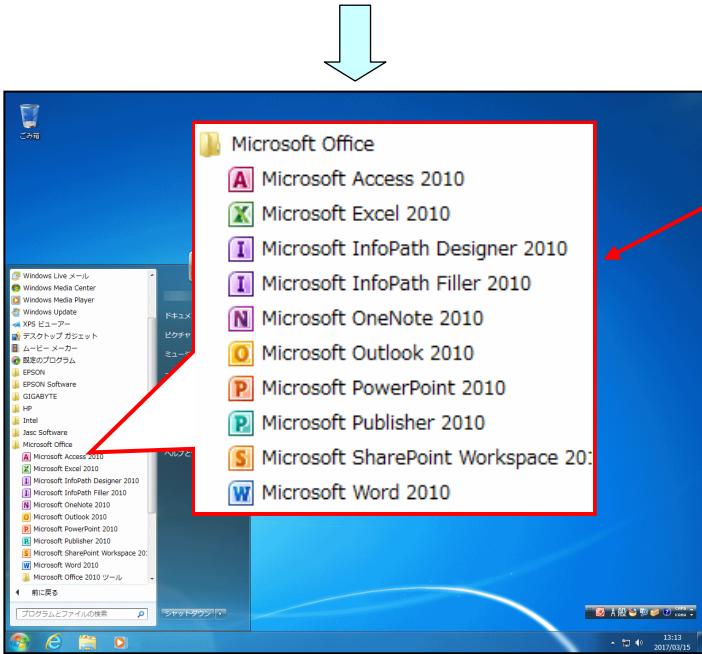
- [すべてのプログラム] にポイントしてしばらくすると、左の画面の赤い点線で囲んでいる部分のメニューの項目がパソコン内のプログラムの一覧に変わります。
- プログラムの一覧が表示されれば、[すべてのプログラム] の文字が [前に戻る] に変わります。

[Microsoft Office] にポイントし、クリックします。



- [Microsoft Office] が表示されていない場合は、一覧の右にあるスクロールバーの □ または ▲ をクリックするか、□ をドラッグします。

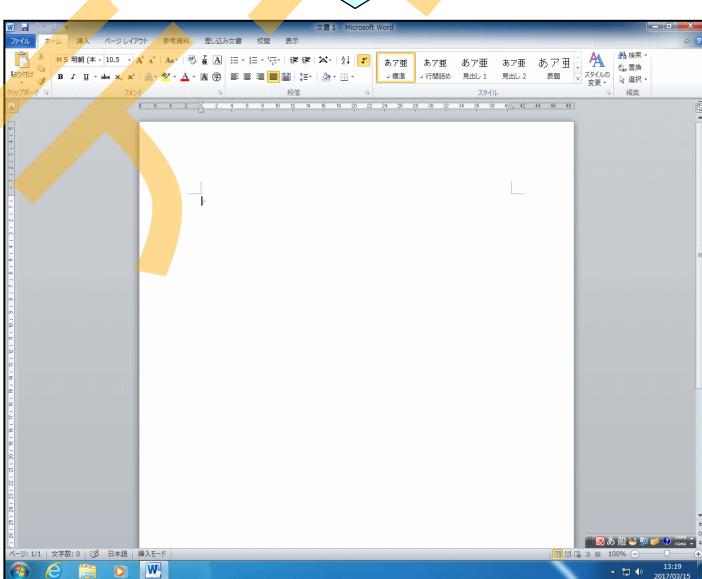
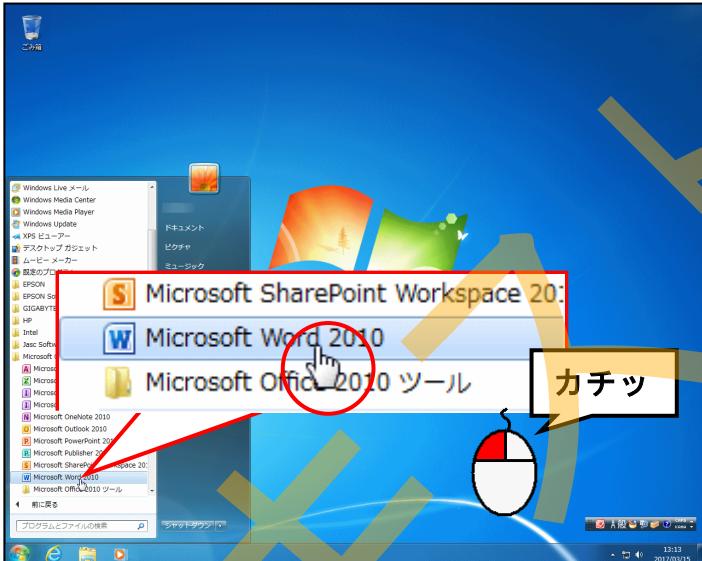




● クリックすると、左のよう
に「Microsoft Office」の一覧が表示
されます。

● ご使用のパソコンの種類によって
は、「Microsoft Office」の一覧が
異なる場合があります。

マイクロソフト ワード
[Microsoft Word 2010] にポイントし、クリックします。

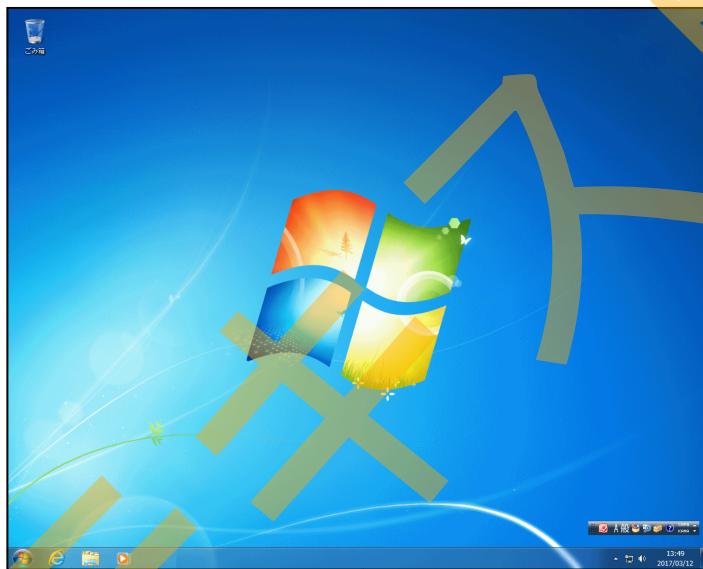
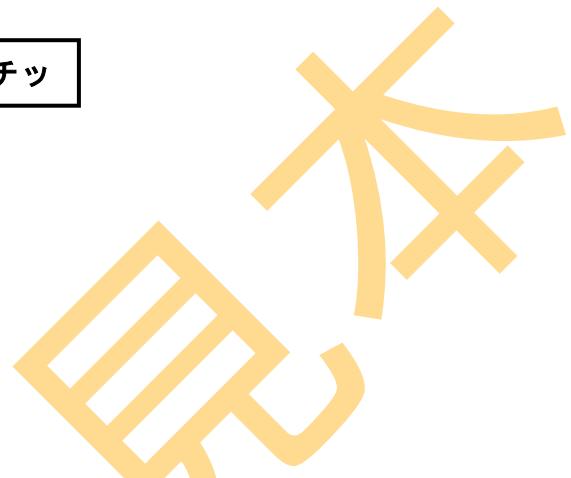
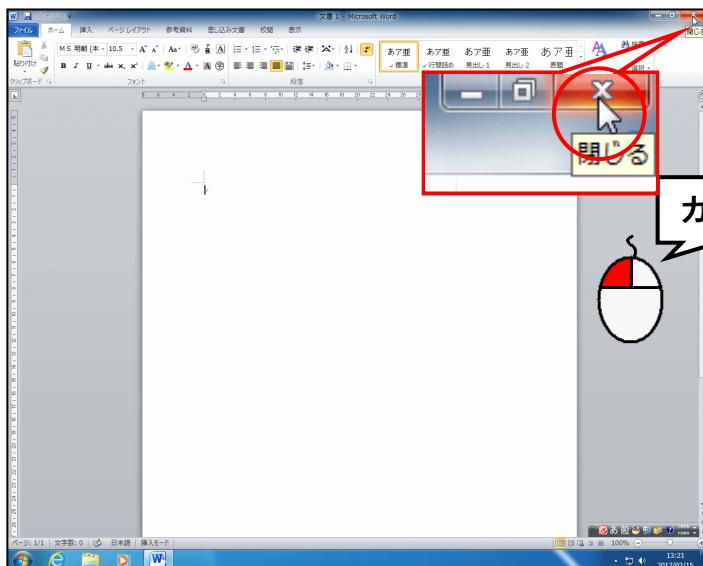


● ワード (Word) が起動して、ワード
の画面が表示されます。

② ワードを終了する

画面上に開いたワード（Word）を終了してみましょう。

ワードの画面（ウィンドウ）の右上にある  [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



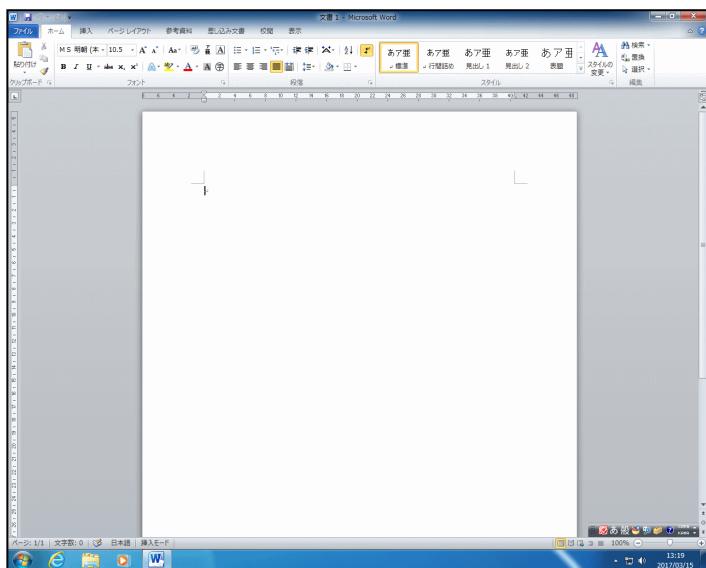
●  [閉じる] ボタンをクリックすると、左のように「ワード（Word）」の画面が消えます。

その他の終了方法

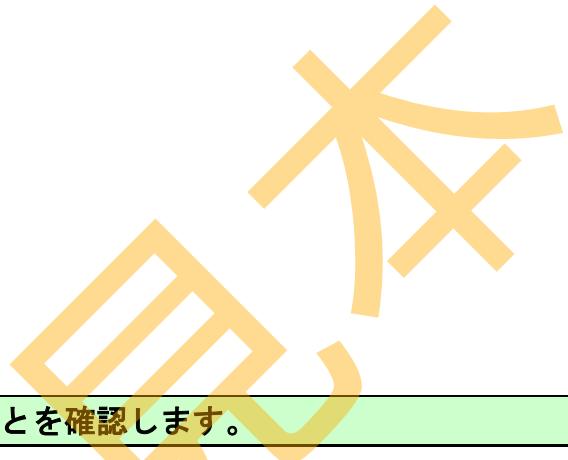
P210

③ 入力モードを確認する

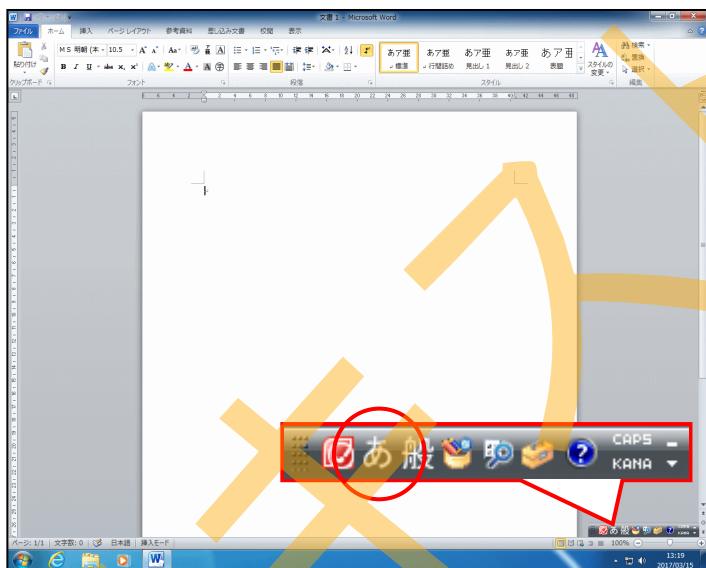
ワード (Word) を起動しましょう。



- ワードの起動方法を忘れた方は、P91 ① ワードを起動するを参照してください。



言語バーに「あ」という文字が表示されていることを確認します。

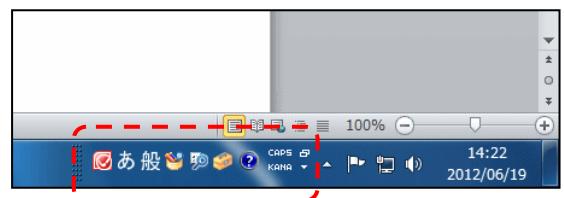


- 通常ワードを起動すると、入力モードは「あ」の状態になっています。

注意!

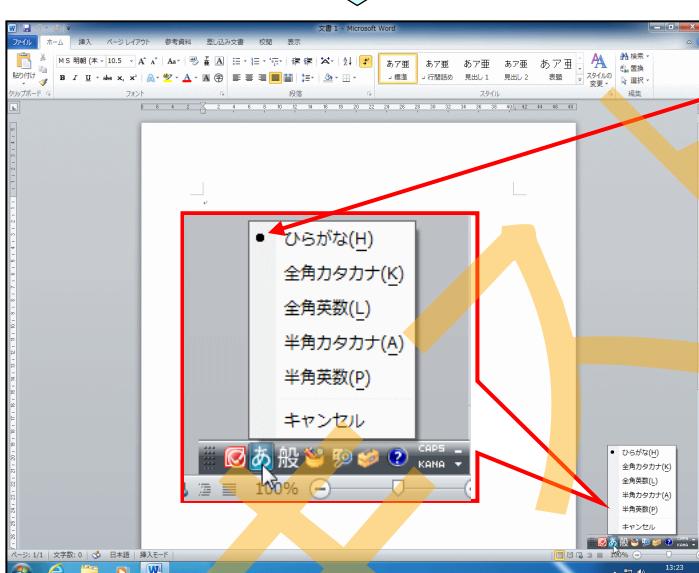
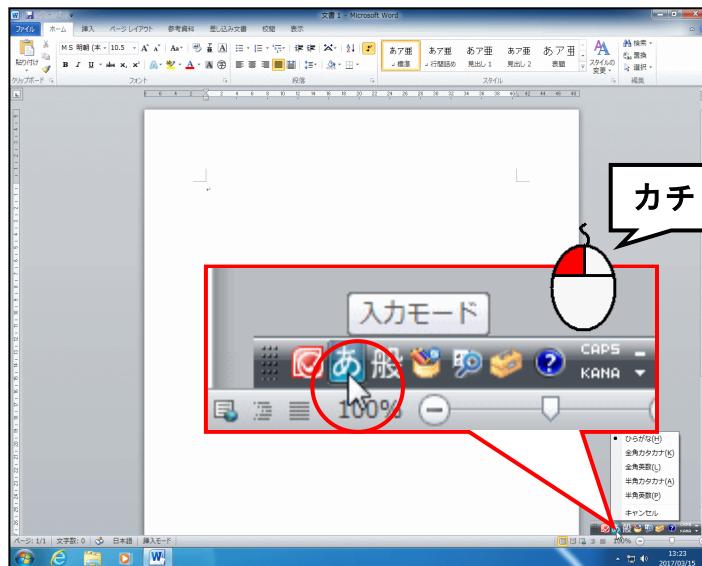
- ここが「あ」でなくなった場合は、あわてずに切り替えましょう。切り替え方法は、P96 に記載しています。

- 言語バーがタスクバーに埋まっている方は、下のような表示になっています。



④ 入力モードの変更

言語バーの **あ** [入力モード] にポイントし、クリックします。

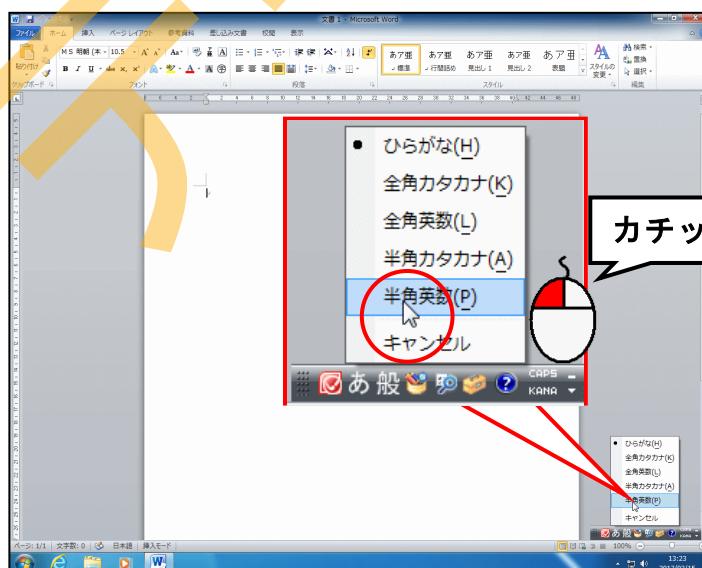


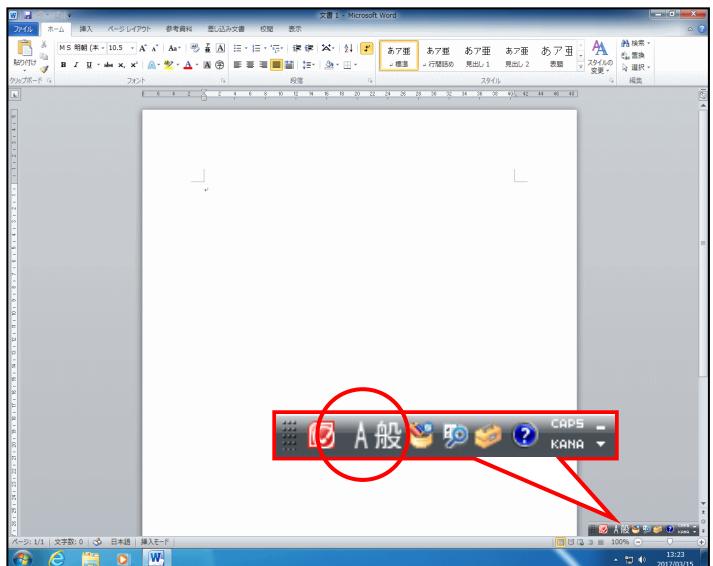
●現在、入力モードは「ひらがな」にな
っていることが確認できます。

入力モードの種類

あ	ひらがな(H)
力	全角カタカナ(K)
A	全角英数(L)
カ	半角カタカナ(A)
A	半角英数(P)

[半角英数(P)] にポイントし、クリックします。

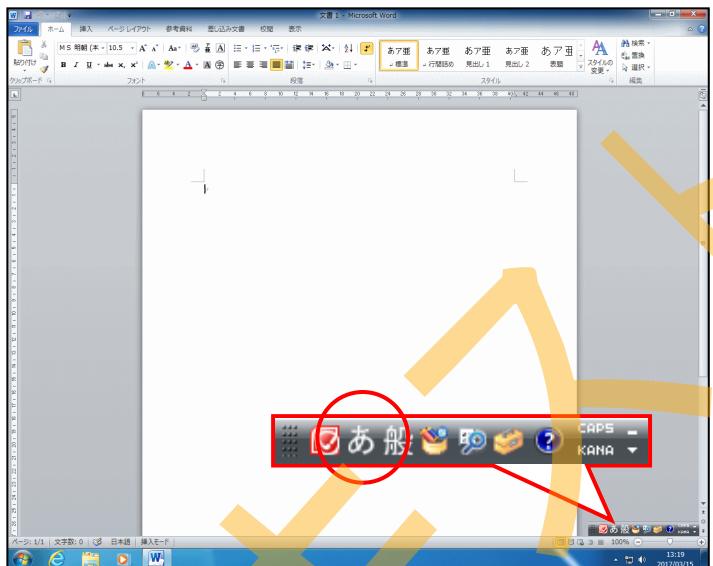




●左のように、言語バーの入力モードが「あ」から「A」に変わりました。

本

同じ要領で、言語バーの **A** [入力モード] をクリックし、「ひらがな」に戻しておきましょう。



入力モードの切り替えの補足説明 P211

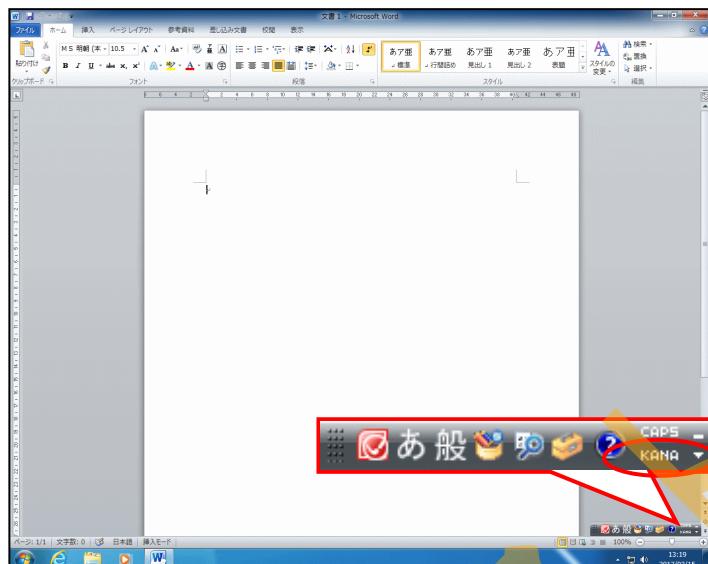
元

⑤ ローマ字入力、かな入力の切り替え方法

P86 (1) 入力方法の種類でも説明しましたが、入力方法には「ローマ字入力」と「かな入力」の2種類の方法があります。

通常、Windowsの初期設定では、入力方法は「ローマ字入力」に設定されています。かな入力の方は「かな入力」に、また、かな入力の方が使われた後にローマ字入力の方が使う場合は、「ローマ字入力」にそれぞれ変更しないと使用することが難しくなります。ここでは、その切り替え方法について説明します。

言語バーの右端にある「KANA」の状態で入力方法を確認します。



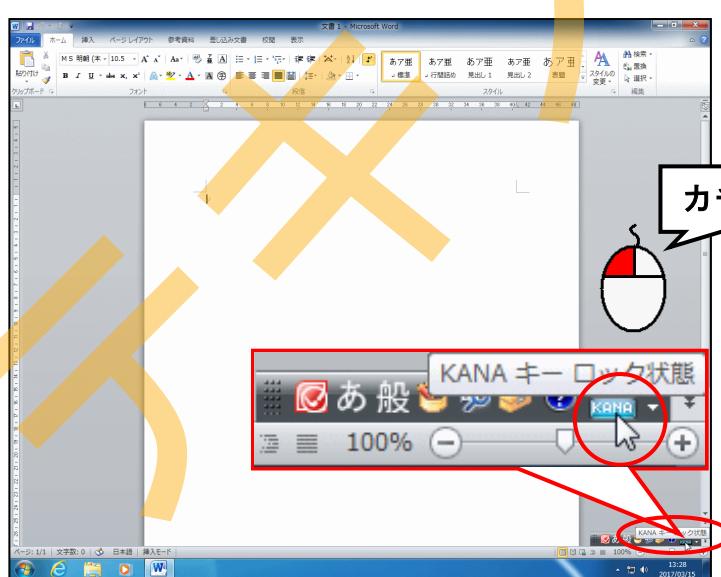
■ローマ字入力

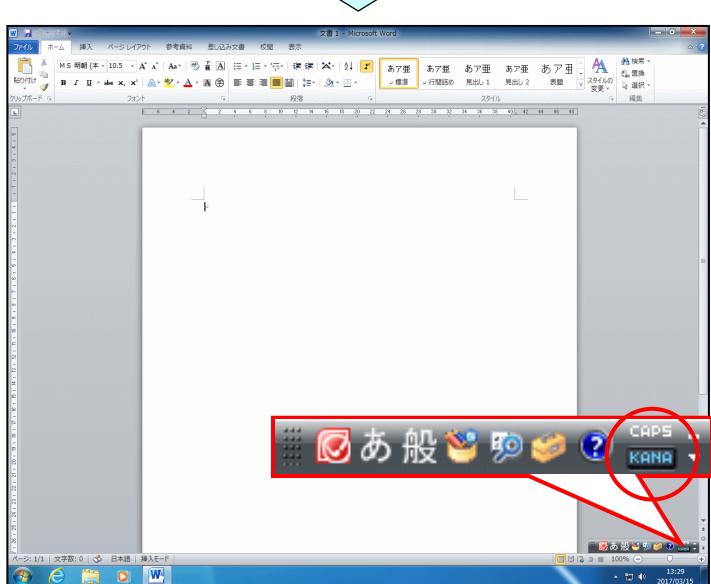


■かな入力



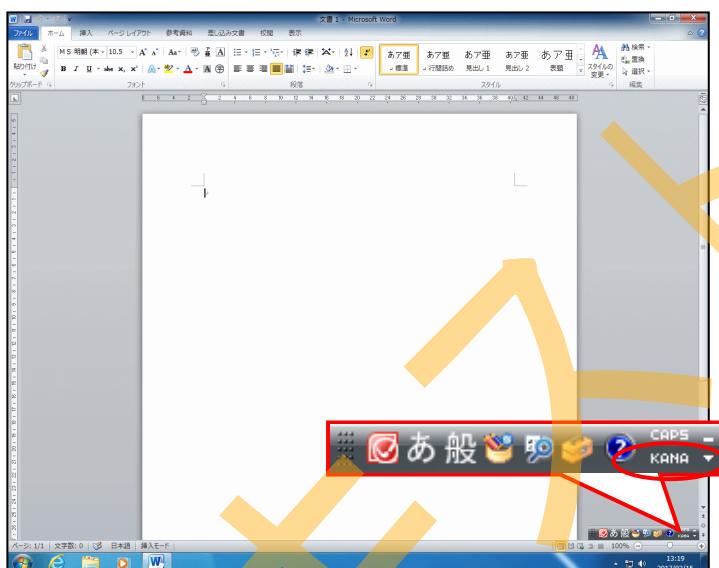
言語バーの「KANA」にポイントし、クリックします。





● 「KANA」の色が青く変わります。この状態のことを「KANA」入力オンの状態といいます。かな入力の方は、この状態で入力します。

再度、言語バーの「KANA」をクリックし、ローマ字入力に戻しておきましょう。



● 「KANA」の色が青い状態で再度クリックすると色が白く変わります。この状態のことを「KANA」入力オフの状態といいます。ローマ字入力の方は、この状態で入力します。

ローマ字・かなの切り替えの補足説明 P211

⑥ 日本語入力の準備まとめ

日本語を入力する前に次のことを確認しましょう。

■ ローマ字入力の方



「KANA」が白文字

「あ」になっている

■ かな入力の方



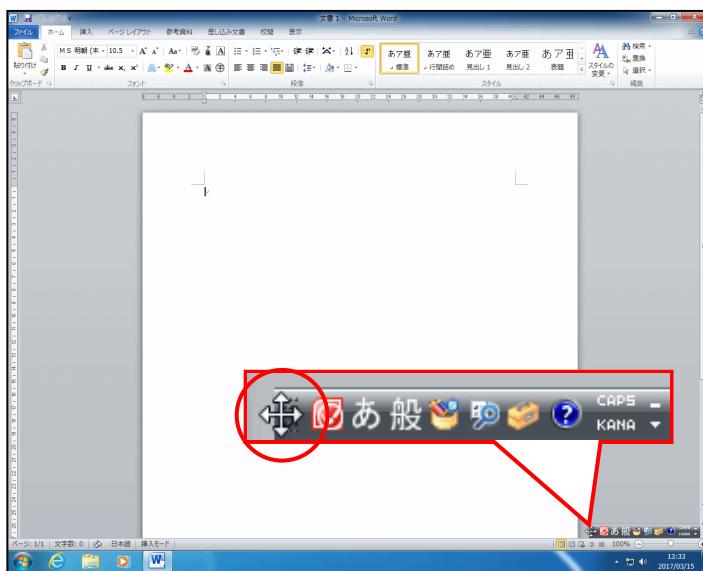
「KANA」が青文字

「あ」になっている

⑦ 言語バーの移動

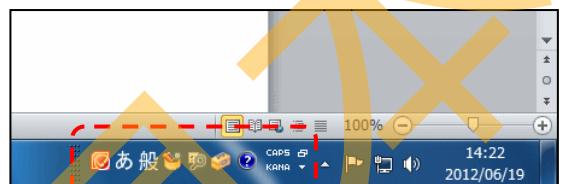
言語バーをタスクバーの中へ移動してみましょう。

言語バーの左側にマウスポインターを移動します。

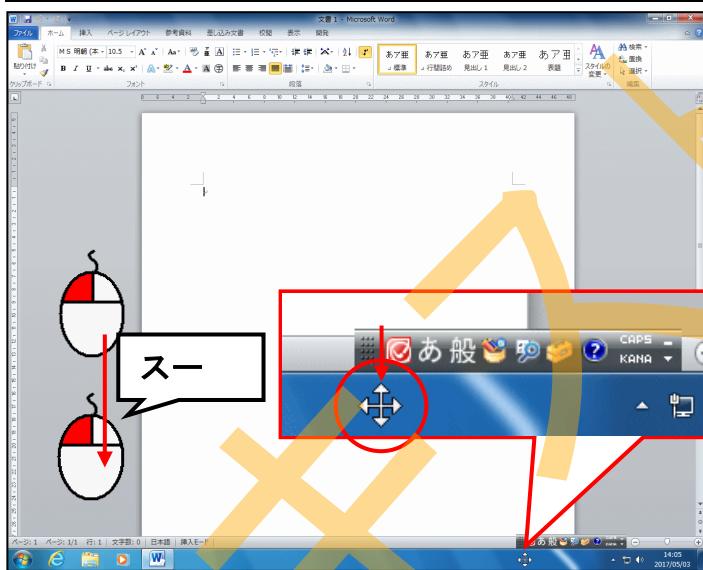


- 言語バーの左側にマウスポインターを移動すると、マウスポインターは の形になります。

- 言語バーが下記のようになっている方は、最初に P101 から進めてください。

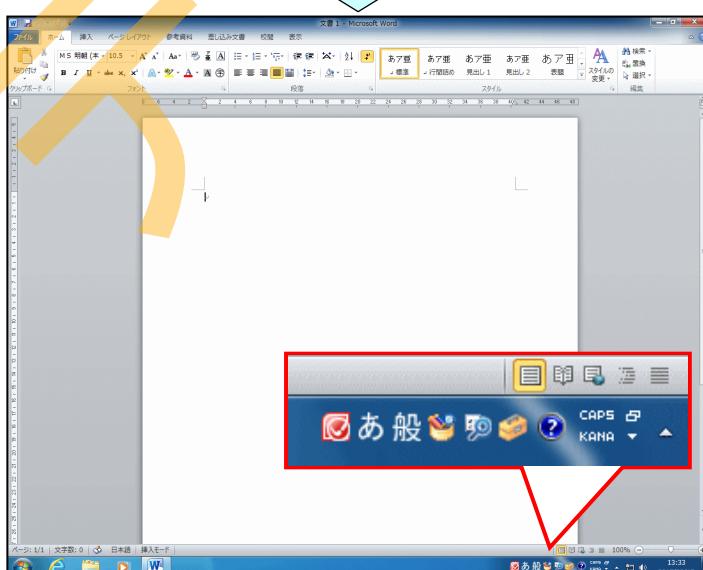


マウスポインターが になったことを確認し、タスクバーに向かってドラッグします。



- タスクバーを忘れた方は、P13 を参照してください。

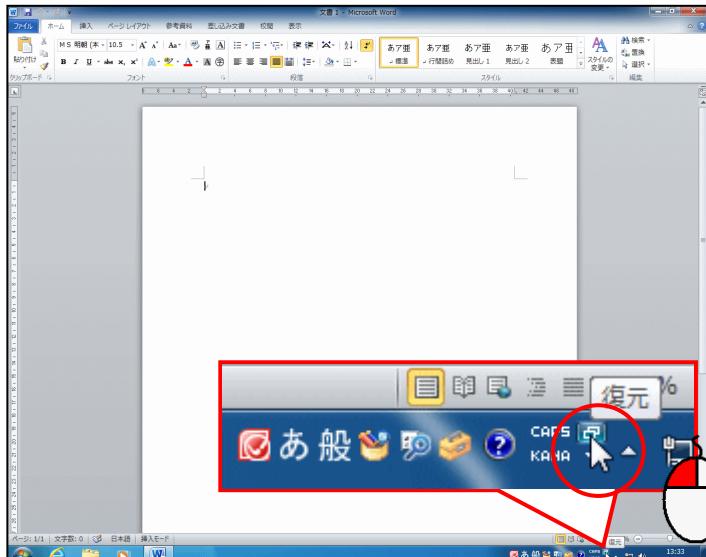
- 言語バーはタスクバーの上で止まりますが、気にせず、マウスポインターがタスクバー内に移動したら指を離します。



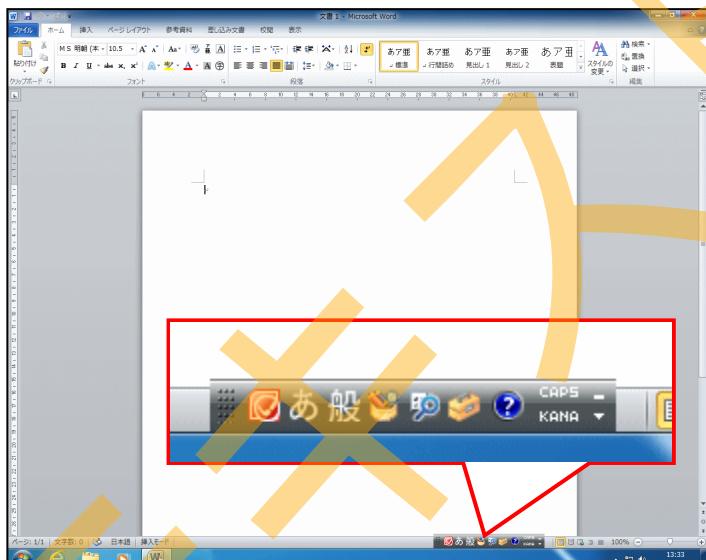
⑧ 言語バーの復元

言語バーは、一度タスクバーの中に収まってしまうとドラッグして移動することができなくなります。ここでは言語バーをタスクバーから外へ出す方法を説明します。

言語バー内の [復元] ボタンにポイントし、クリックします。



- [復元] ボタンをクリックすると、タスクバーの外に言語バーが移動します。



(5) 文字キーの説明

キーボードに書かれている文字は簡単に入力できるじゃろ！

タケさん「キーボードに書かれた文字がそのまま入るんじゃろ？」



ウメさん「でも、上下に2つの文字が入っていたり、左右に2つの文字が入っていたりして、キーボードを叩くといつたいどの文字が入るのかしら？」



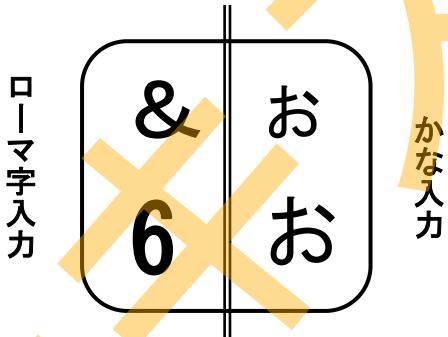
くじら先生「これから説明しますが、キーボードには最低2つ、多いものには、4つの文字が書かれています。自分が入力したい文字をどうやって入力するかをここで理解していただきたいのです。」



① ローマ字・かな入力によるキーの違い

文字キーには、2つ～4つの文字や記号が書かれています。これは、キーを押したときに、どの文字が入力されるかを表しています。

ローマ字入力を利用するか、かな入力を利用するかで打つキーが異なります。



●ローマ字入力の方は、キーの左半分を使います。

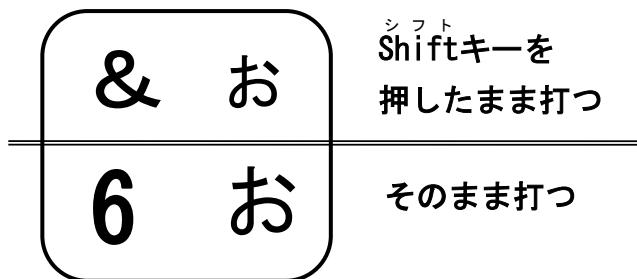
●かな入力の方は、キーの右半分を使います。

●中にはキーに記載された文字が入力できないキーもあります。

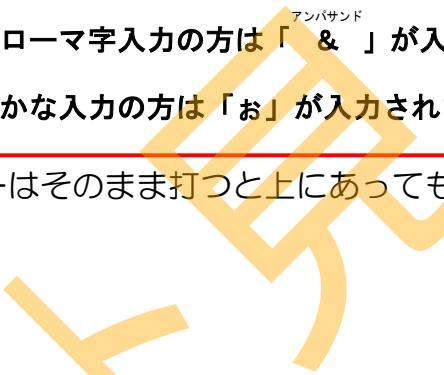
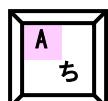
●特殊な文字が数個あり、それらの特殊な文字については、ローマ字入力でも右の文字が入力されます。(P155で説明します)

② 上下に文字があるキー

上下に文字が記載されているキーは、そのまま打つと下に記載された文字が入力されます。上に記載された文字を入力したい場合は、[Shift] キーを押したままの状態で打ちます。



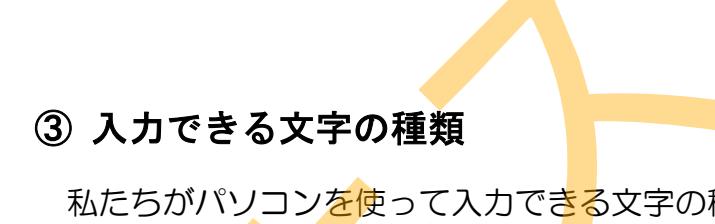
- [Shift] キーを押した状態で打つと、ローマ字入力の方は「&」が入力されます。
 - [Shift] キーを押した状態で打つと、かな入力の方は「お」が入力されます。
- 下のように左に 1 文字しかないキーはそのまま打つと上にあってもその文字が入力されます。



③ 入力できる文字の種類

私たちがパソコンを使って入力できる文字の種類は、次のとおりです。それぞれ種類によって、入力の方法が異なりますので、1つずつ確実にマスターしていきましょう。

- ひらがな
- 漢字
- カタカナ
- 英字
- 数字
- 記号・特殊文字



(6) ひらがなの入力

ひらがななんて簡単じゃ！



タケさん「ひらがななんて簡単に入力できるわい！」

ウメさん「わたしも、ひらがななら簡単に入力できる～！」

くじら先生「おふたりとも、心強いお言葉で安心しました。
ただ、小さな文字『あ』とか『よ』の入力もできますか？」

タケさん「そんな文字、日本語にあったかなあ～？」

くじら先生「ありますよ～。ひらがなだけの時はいいのですが、漢字を入力する時になると、『読み』をひらがなで入力して、漢字に変換するという操作が必要になってきます。
その時に、正しい『読み』をひらがなで入力してやらないと、漢字に変換できません。」

タケさん「少しの間違いぐらいなら、考慮して変換してくれればいいのにのお～。」

ウメさん「そうよねえ～。」

くじら先生「パソコンは正しい操作、正しい指示を出してやれば、正確な答えを返してくれますが、間違ったことをすると、迷ってしまうんです。
だから、正しく指示ができるように、操作を覚えていかないといけないのです。」



① カーソルと画面の状態

■カーソル

文字を入力する前に、ワードの画面の中で点滅している縦棒があると思います。
その縦棒について、少しお話します。

パソコンでは、この縦棒のことを「カーソル」といいます。この言葉は、パソコンを扱う場合、必ず必要となりますので、覚えておいてください。

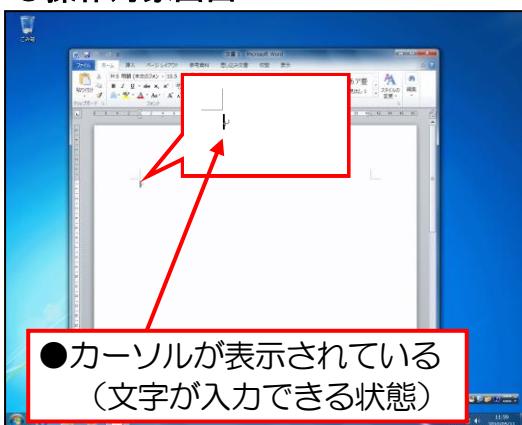
なぜ、カーソルが必要か？ 文字を打っても自分が思った場所に表示されないと困りますよね。文字が表示される位置をこのカーソルという点滅している縦棒が示してくれています。ですから「カーソル」という言葉が重要になるわけです。



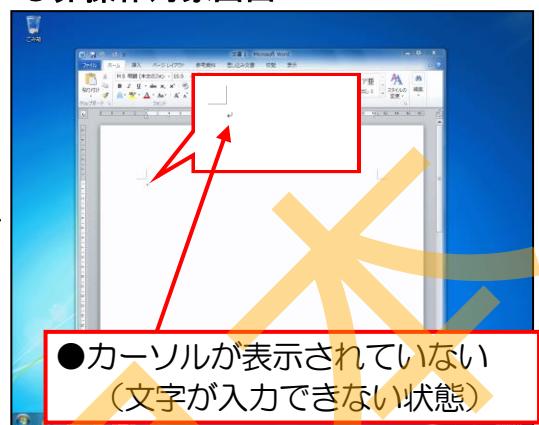
■画面の状態

たまにですが、カーソルが画面上に表示されない場合があります。これは、その画面が操作の対象になっていないことが原因です。操作の対象になっている状態の画面のことを「アクティブウィンドウ」といいます。

●操作対象画面



●非操作対象画面



操作対象画面（ワードのウィンドウ）の外側でクリックすると、非操作対象画面に切り替わります。操作対象にしたい画面（ワードのウィンドウ）の内側でクリックすると操作対象画面に切り替わります。

点滅している縦棒をカーソルといいます

マウスポインターが の状態と、 (カーソル) を間違えないように注意しましょう

② ひらがなの入力

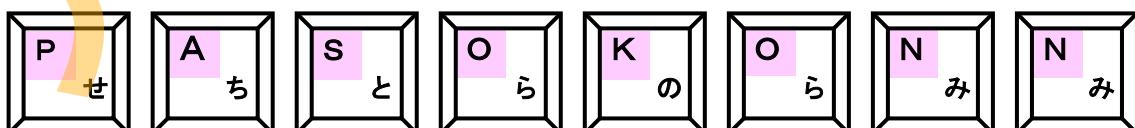
最初は、一番入力しやすい「ひらがな」の入力について説明します。

文字を入力する前に、P98⑤ローマ字入力、かな入力の切り替え方法で説明しましたがローマ字入力とかな入力の方では、言語バーの状態が異なるので、ご自分がキーを打てる状態になっているかを、もう一度確認しておきましょう。

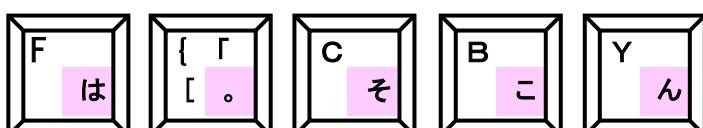
ローマ字入力か、かな入力かによって下のように、打つキーは異なります。

「ぱそこん」という文字を入力する場合、それぞれ次の順番で打ちます。

■ローマ字入力



■かな入力



それでは、実際に「おはよう」という文字を入力してみましょう。

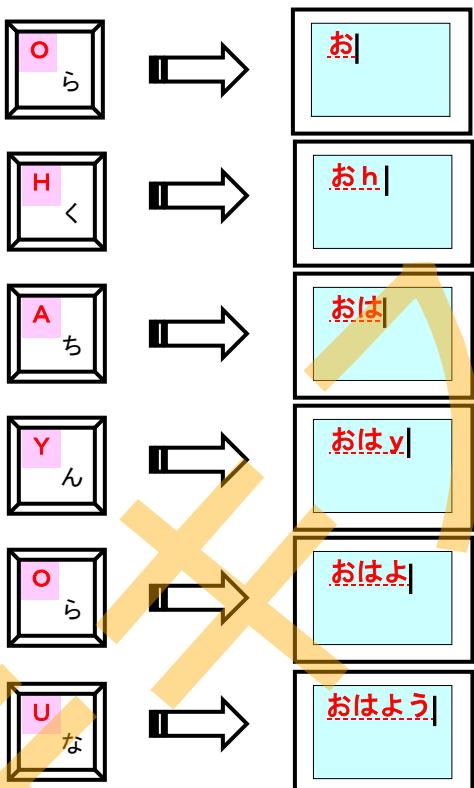
注意!

- ここからの操作は、左右に分かれている箇所があります。「ローマ字入力」の方は左側、「かな入力」の方は右側の操作を行ってください。入力方式が分からぬ方は P86 (1) 入力方法の種類を参照してください。



「ローマ字入力」の方

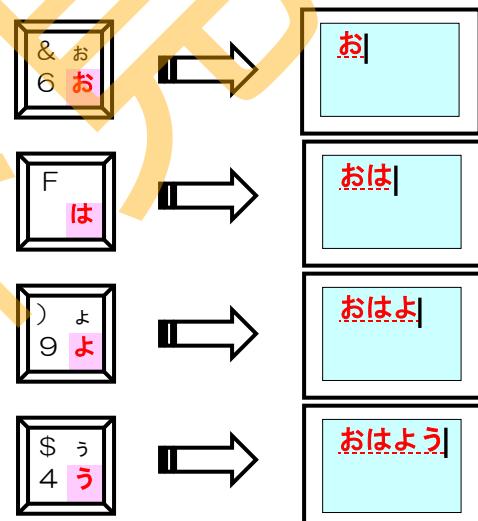
次の順番でキーを打ちます。



ローマ字入力では、ひらがなに変換できるアルファベットを入力しないと英字がそのまま表示されます。

「かな入力」の方

次の順番でキーを打ちます。



打ったキーが画面にそのまま表示されるので、わかりやすいのと、かな入力の方が打つキーの数が少ないことが特徴です。

キーボードから打ち込んだ文字は、画面のカーソル位置に表示され、同時にカーソルは1文字分右に移動します。



■ローマ字入力の方

利用するキーの数はかな入力に比べて少ないので、あとはローマ字を覚えましょう。

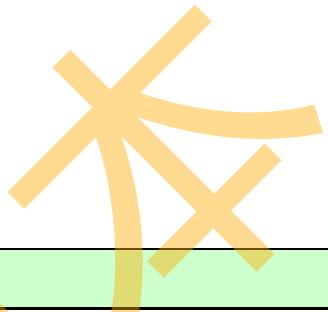
■かな入力の方

利用するキーの数が多いので、キーの配置を重点的に覚えましょう。

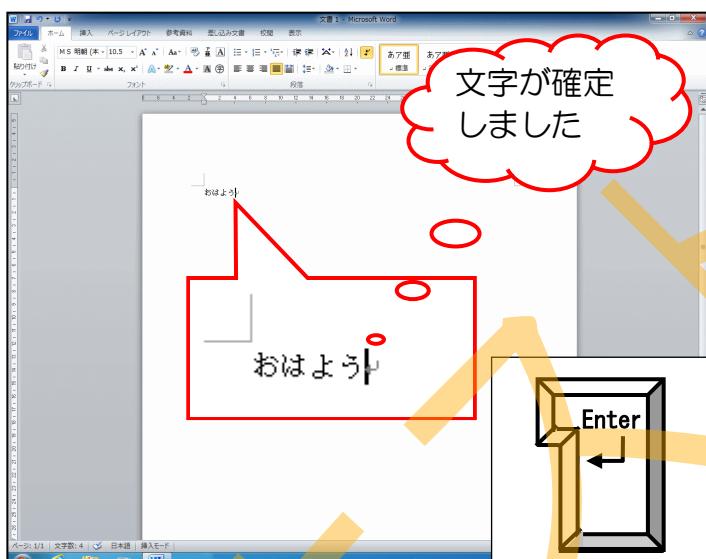
表示された「おはよう」という文字の下に点線が入っていることを確認します。



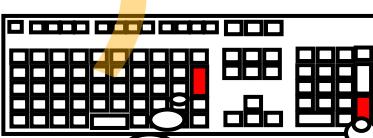
- この操作はローマ字入力もかな入力も同じ操作となります。



エンター [Enter] キーを押すと文字が確定して点線が消えます。

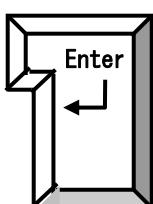


- [Enter] キーはどちらを押しても同じですが、上達したいなら文字キーに近い左側の [Enter] キーを押すように習慣づけましょう。

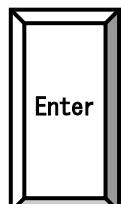


文字を入力するときはこちら

数字だけを入力するときはこちら



または

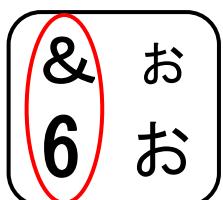
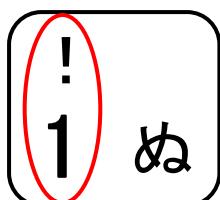


ご参考までに

■ A (半角英数)

A (半角英数) の状態で文字入力すると、入力された文字の下に点線は表示されません。これは入力した文字が半角文字として確定入力されていることを意味しています。

A (半角英数) のときに入力できる文字は、半角の英字・数字とキーボードの左に表示された記号のみになります。



③ いろいろなひらがなにチャレンジ

●2つ目のチャレンジとして「きょう」という文字を入力してみましょう。

「ローマ字入力」の方

次の順番でキーを打ちます。

きよ

「かな入力」の方

次の順番でキーを打ちます。

Shift
キー +

小さな文字「よ」を入力するためには、[Shift] キーを押した状態で打ちます。

●この操作はローマ字入力もかな入力も同じ操作となります。

●3つ目のチャレンジとして「あさって」という文字を入力してみましょう。
（「きょう」に続けて入力しましょう）

「ローマ字入力」の方

次の順番でキーを打ちます。

```

    graph TD
      A[A] --> a1[あ]
      S[S] --> as[あs]
      A[A] --> asa[あさ]
      T[T] --> ast[あさt]
      T[T] --> astt[あさt t]
      E[E] --> astte[あさtte]
  
```

小さな「っ」を入力するためには、小さな「っ」の次の文字の子音（この場合はT）を2回打ちます。もしくは、小さな「っ」を単独で入力するために前に「L」または「X」を付けて「LTU」または「XTU」と打ちます。

「かな入力」の方

次の順番でキーを打ちます。

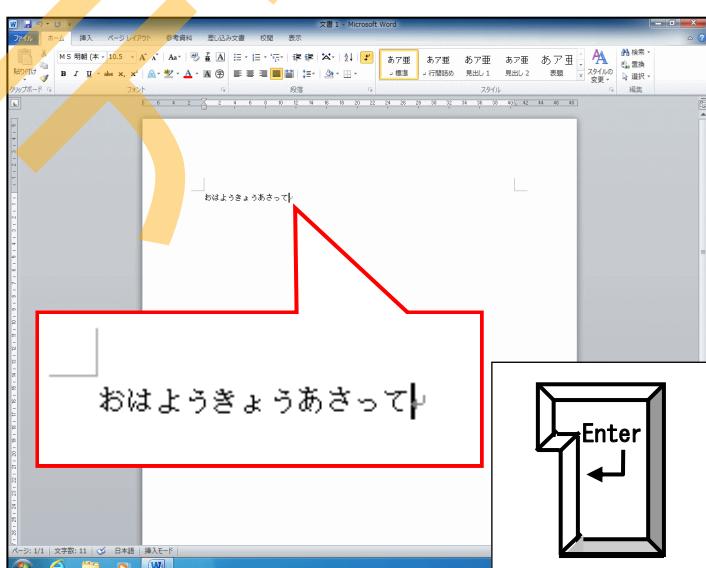
```

    graph TD
      ShiftA[#あ] --> a1[あ]
      X[X] --> s[さ]
      A[A] --> a[あ]
      T[T] --> tt[っ]
      E[E] --> te[て]
  
```

Shiftキー +

小さな「っ」を入力するためには、
シフト [Shift] キーを押したままの状態
で打ちます。

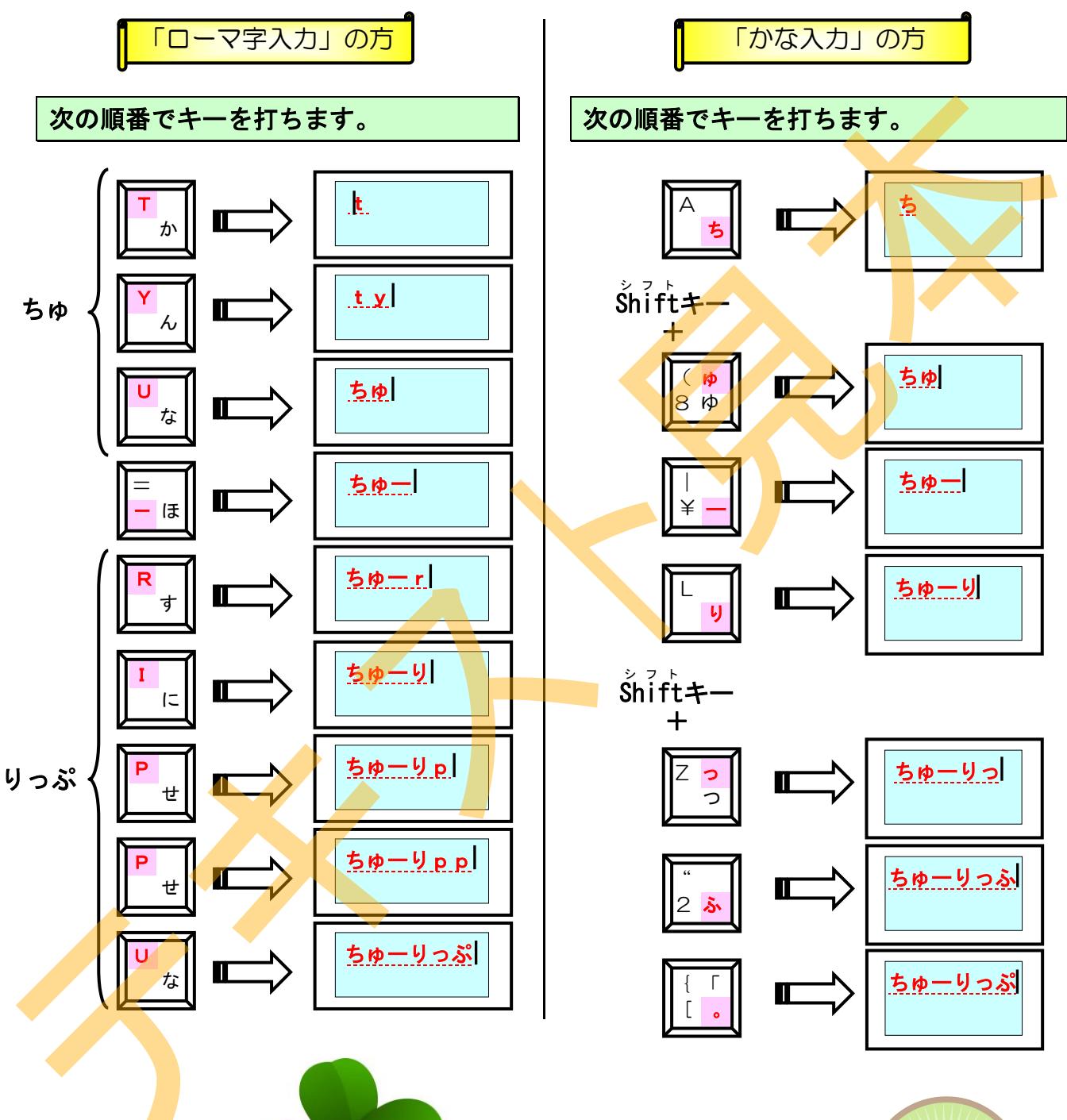
表示された「あさって」という文字の下に点線が入っていることを確認して [Enter] キーで文字を確定します。



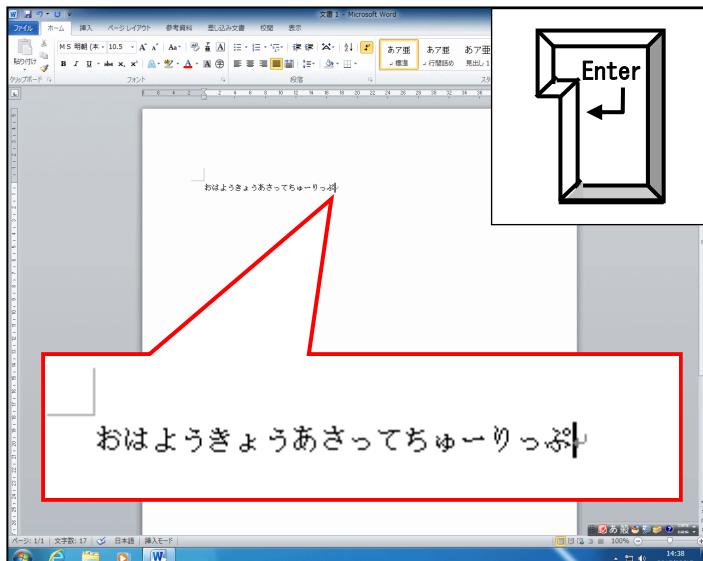
●この操作はローマ字入力もかな入力も同じ操作となります。

● 4つ目のチャレンジとして「ちゅーりっぷ」という文字を入力してみましょう。
 （「あさって」に続けて入力しましょう）

少し難しくなりますが、できなくても落ち込む必要はありません。パソコンは慣れただけなのですから…



表示された「ちゅーりっぷ」という文字の下に点線が入っていることを確認して [Enter] キーで文字を確定します。



●この操作はローマ字入力もかな入力も同じ操作となります。



④ 入力するときに注意する文字

忘れやすかったり、間違いやすかったりする文字を下に示しておきます。

	ローマ字入力	かな入力
間違いやすい	小さな「っ」を入力する場合に、何でもかんでも「TTU」とか「TTE」を入力して文字を消す。 「を」を入力するときに、「0」を入力してしまう。	小さな文字「っ」、「よ」、「ゆ」などを入力するときに、大きな文字「つ」、「よ」、「ゆ」を入力してしまう。
注意点	長音記号（ー）を入力するときは、ひらがなの「ほ」のキーです。 「ち」を入力する場合は、「TI」でも「CHI」でも入力できますが、文字数の少ない「TI」をお勧めします。同じように「し」や「つ」も入力文字数の少ない方をお勧めします。	長音記号（ー）を入力するときは、「¥」のキーです。 小さな文字を入力するときは、[Shift] キーを押して入力する必要があります。

(7) 改行(行を変える)する方法

「Enter」って書いたキーを叩けばいいのじゃな！



タケさん「これは、わしの大発見なんじゃが、『Enter』キーを叩けば、勝手に点滅している縦棒が下に下りてしまふたわ！」

くじら先生「行が下に下りたんですね。それは、『改行』されたというのです。中途半端なところで改行してしまうと、元に戻すのが大変だったと思うのですが、大丈夫でしたか？」

タケさん「それが、えらいことになってしもうて、一から文字を入力し直してしもうたんじゃ！」

くじら先生「なるほど…。それは時間もかかってしまって、大変だったでしょう。」

タケさん「ううん…どうにか直らんかと、わしは1時間ぐらいそれで悩んだけど、どうにもならんかった。」

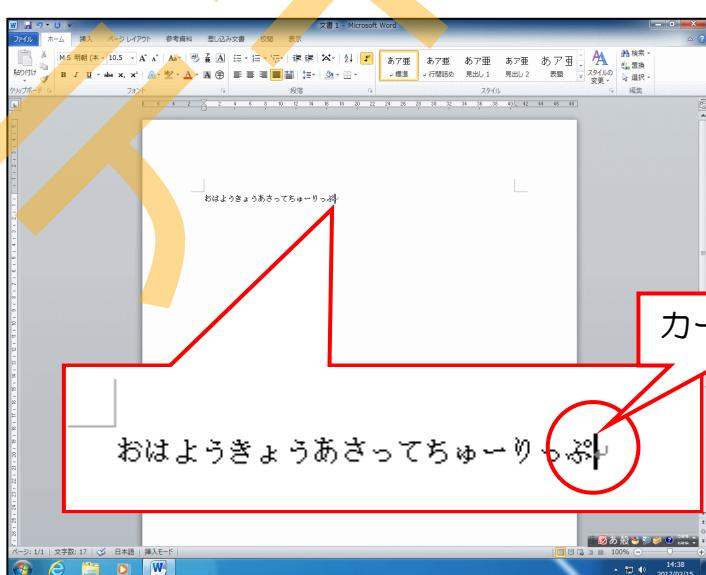
くじら先生「それがですね、タケさん。あるキーを1回叩くだけで、元に戻ってくれるのですよ。」

タケさん「そんな、魔法のようなキーがあるのなら、早く教えてくれんかのお～。」

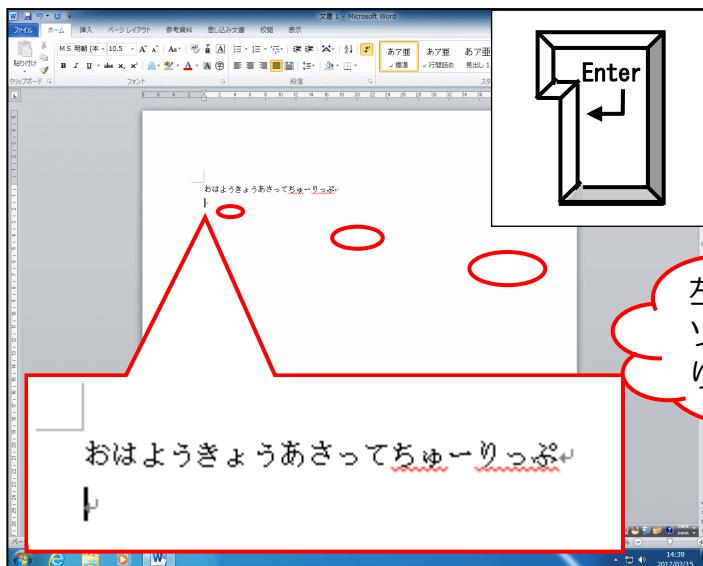
くじら先生「お教えしますよ。ただ、順番というものがありますから、1つ1つ操作を覚えていきましょう。」

「ちゅーりっぷ」の後ろにカーソルがあるはずです。その位置で行を変えてみましょう。

「ちゅーりっぷ」の後ろにカーソルがあることを確認してください。

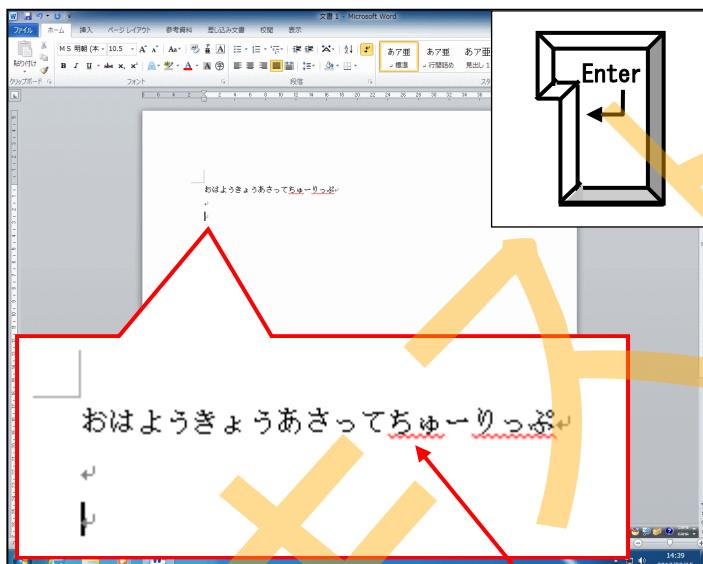


エンターそのままの状態で [Enter] キーを押します。



●赤色の波線が出てきましたが、気にせずそのまま進みましょう。

エンターさらにもう1行下に改行するため [Enter] キーを押してみましょう。



ご参考までに

●下に表示される線について

文書を入力していると、たまに文字列の下に赤色の波線や、緑色の波線が表示される場合があります。この線は、文字を入力して [Enter] キーを押して文字の入力を確定した後、再度 [Enter] キーを押して改行した場合などに表示されます。

どちらも、「入力された文字がおかしいですよ」と教えてくれている線です。「赤い線は、そんな言葉は存在しませんよ」という意味で間違いを訂正する必要があることを表しています。これに対して、「緑の線は文法的におかしいですよ」という意味でどちらもそれで本人が納得していれば特に修正する必要はありません。

赤色の波線も緑色の波線も印刷されません。

(8) カーソル（点滅している縦棒）の移動方法

螢みたいにチカチカしているものは何なの？



ウメさん「螢みたいにチカチカ点滅している縦棒は何なの？」

タケさん「わしも気になっていたんじゃ、文字を入力していくと
追いかけてくるように動いているけど、何か邪魔じやのお～。」

くじら先生「P104で説明いたしましたが、点滅しているものが『カーソル』
というものです。」

ウメさん「思い出したわ、文字を入力すると点滅している縦棒のところに
入るというあれね！」

くじら先生「思い出していただけましたか？ 嬉しいです。
何度も説明しますから、何度も忘れていただいて結構ですよ。
100回聞かれても『笑顔』でお答えしますから・・・」

タケさん「年寄りはそんなもんじゃよ。
今、言われたことも忘れるぐらいだから、先生も大変じやな！」

くじら先生「いいんですよ。
何度も説明しますから、辛抱強く操作してくださいね。」



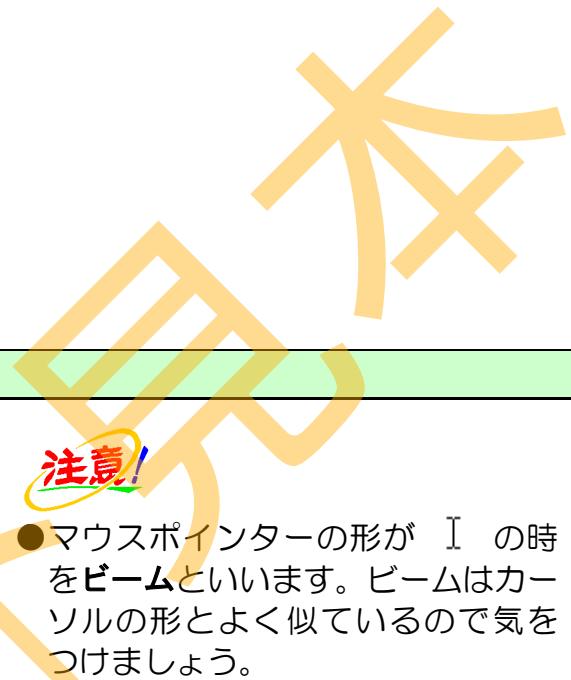
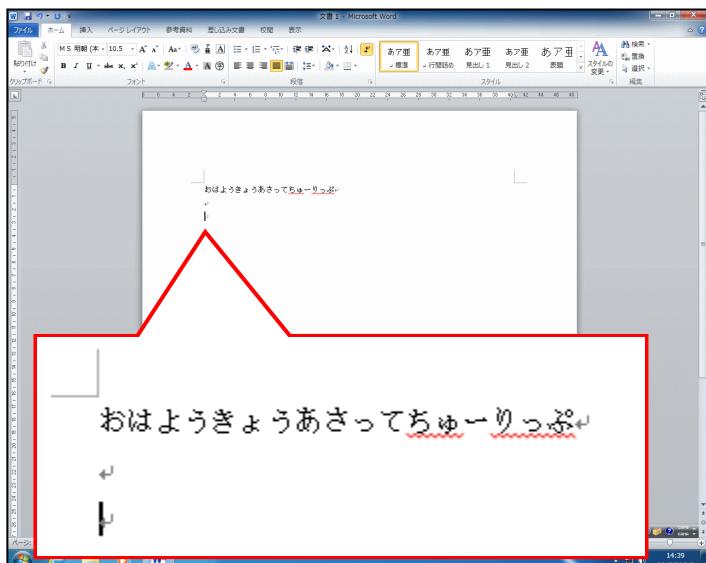
キーボードから打った文字は、カーソルのある位置にしか入力されないことは、すでに説明しましたが、自分がここだと思った位置に文字を入力するためには、まずその位置にカーソルを移動しなければなりません。カーソルを移動するためには、「キーボードを使う方法」と「マウスを使う方法」の2つの方法があります。

ここでは、簡単な「マウスを使う方法」を説明します。

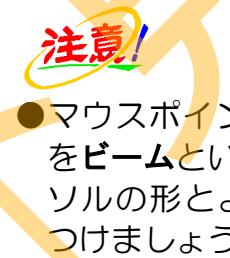
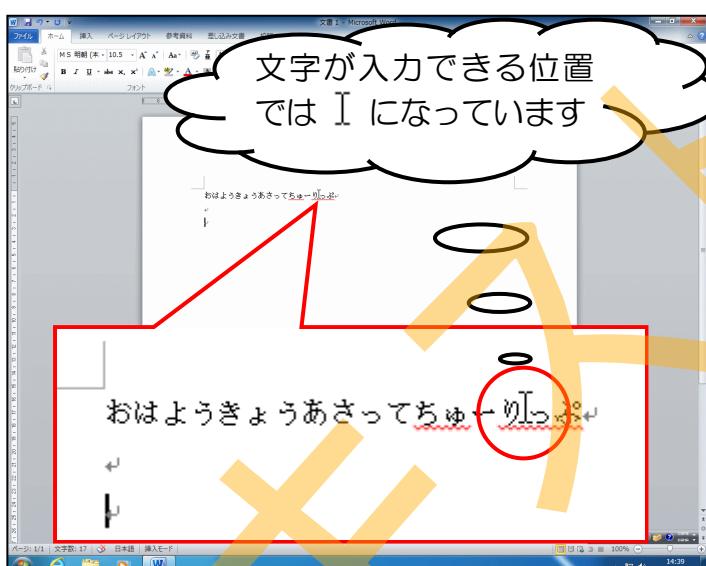


カーソルをマウスで移動するためには、カーソルを移動したい場所にマウスポインターを移動してクリックします。

まず、カーソルが下の図の位置にあることを確認してください。



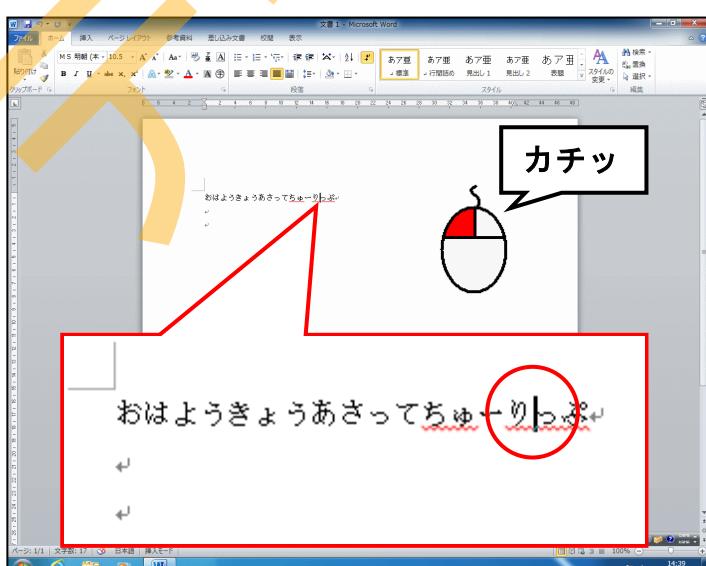
マウスポインターを「り」の後に移動します。



注意!

- マウスポインターの形が I の時をビームといいます。ビームはカーソルの形とよく似ているので気をつけましょう。

そのまま「り」の後ろをクリックします。



キー操作によるカーソル移動 P212

(9) 間違って入力した文字の消し方

わたし1人のために説明してくれているみたいだわ！

ウメさん「わたしいつも入力を間違うのよ。
だから、わたしのために説明してくれているのかと
思った！」



タケさん「そんなことないよ、わしも自分でも情けないくらい間違いが
多いんじゃ！」

くじら先生「そしたら、おふたりには是非とも、この部分をしっかりとマスター
してもらわないといけませんね。
でも、間違いは気にしないでください。
誰にでもあります。私も間違っては、後で気がついて修正している
のが現状ですから・・・」

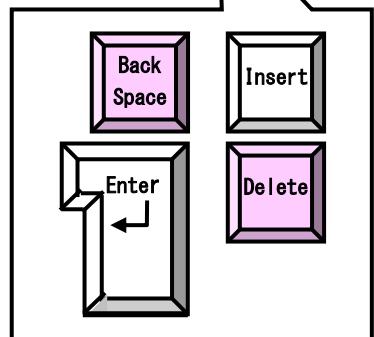
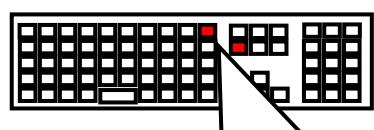


いくら優れた人でも、文字を入力していると必ず間違いはあるものです。入力中に間違い
に気づいたとき、どうしたら間違った文字を修正できるかについて説明します。鉛筆書き
しているときに消しゴムで消すようにパソコンでも消しゴムに当たるキーがあります。
そのキーが [Back Space] キーと [Delete] キーです。

① Back SpaceキーとDeleteキーの使い分け

キー	説明
バック スペース Back Space	カーソルの左側（行頭では前の行の最 後）の文字を1文字削除します。
デリート Delete (Del)	カーソルの右側（行末では次の行の先 頭）の文字を1文字削除します。

「キーボード」によって
キーの位置は異なります

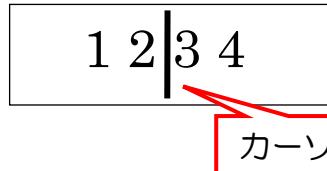


「2」が
消えます

「3」が
消えます



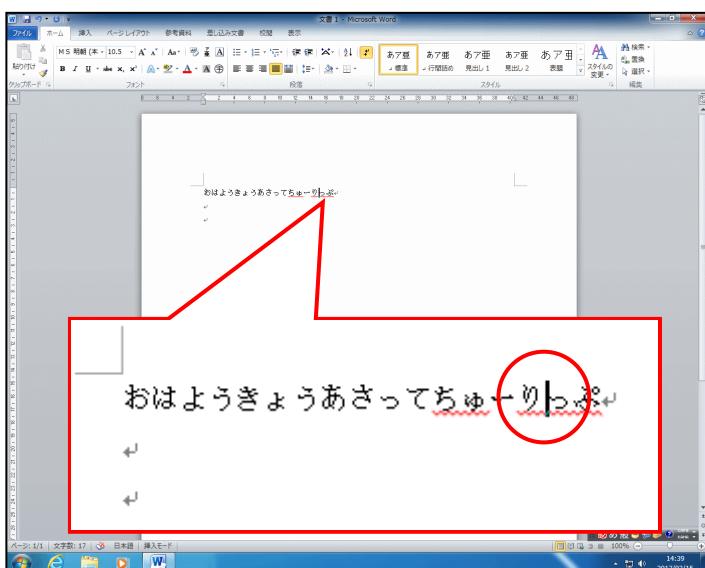
お使いのパソコンに
よっては「Del」と書
かれています



カーソル

② バックスペースキーで文字を削除する

「り」という文字の後にカーソルがあることを確認します。



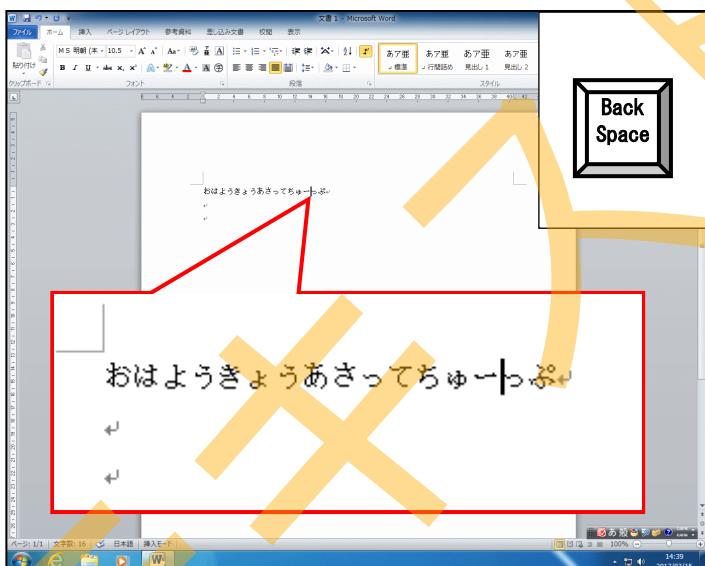
注意!

- カーソルが「り」の文字の後ろにない方は、マウスを使って、カーソルを「り」の後ろに移動しておきましょう。

余裕があれば読んでね

- 行の終わりにある「」を段落記号といいます。ここで段落替えしますよという意味の文字です。これも文字の一種ですから、[Delete] キーや [Back Space] キーで消すことができます。

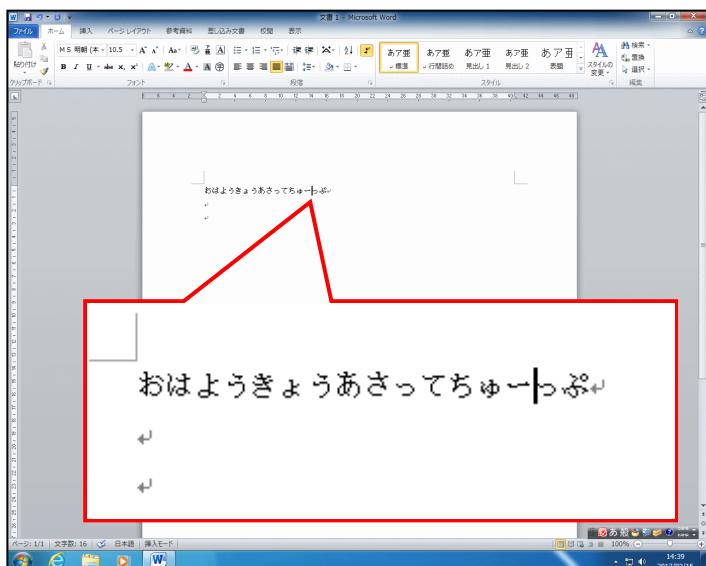
【Back Space】キーを1回押します。



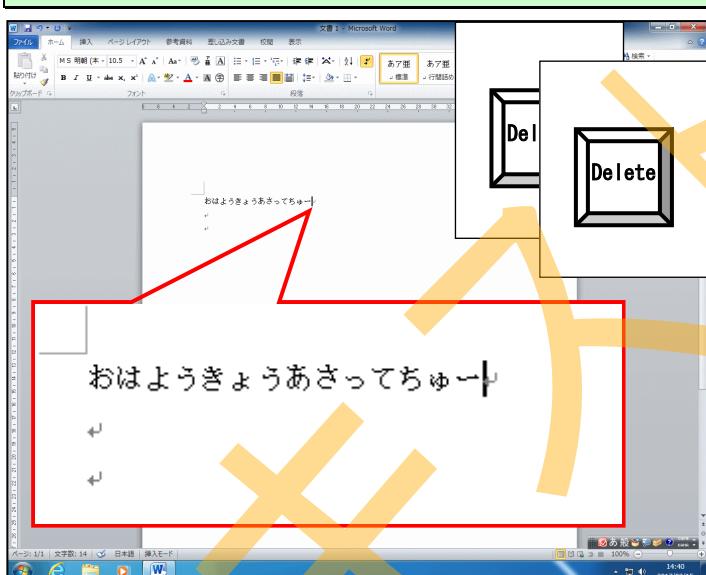
- バックスペースキーを1回押すと「り」という文字が消えました。

③ デリートキーで文字を削除する

長音記号（一）の後ろにカーソルがあることを確認しましょう。

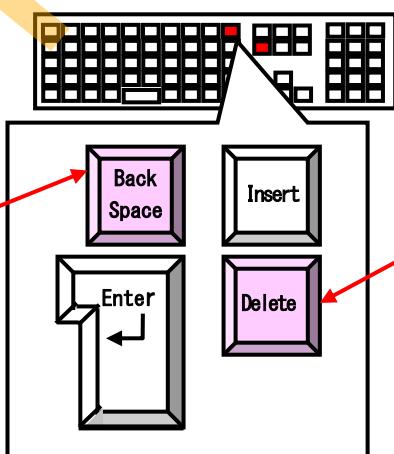


デリート [Delete] キーを2回押します。



● [Delete] キーを2回押すと「っ」という2文字が消えました。

カーソルの左側の
文字を消すキーが
[Back Space] キー



カーソルの右側の
文字を消すキーが
[Delete] キー

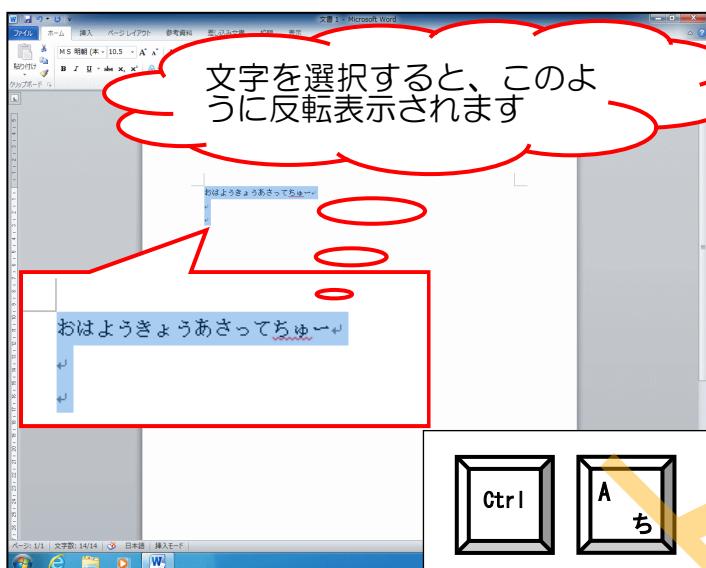
[Delete] キーと [Back Space] キーの
使い分けは、重要です。
ここでよく理解しておきましょう。



④ 入力した文字すべてを削除する

入力中に入力した文字すべてを消したい場合があります。そのような場合、[Delete] キーや [Back Space] キーを何回も押すと大変な作業となります。このような場合は、その文字を「選択」しておいて [Delete] キーや [Back Space] キーを 1 回押すと選択した文字をすべて消すことができます。

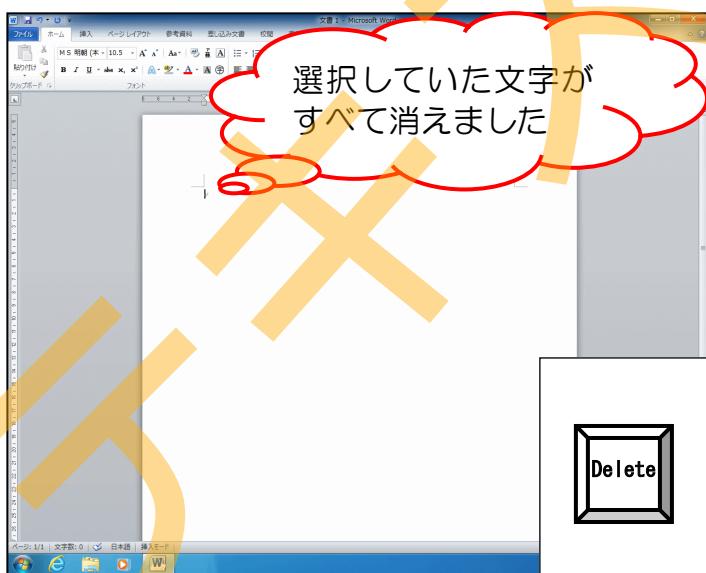
コントロール
[Ctrl] キーを押したままの状態で、[A] キーを 1 回押します。



- [Ctrl] キーを押したまま、[A] キーを押すと画面上のすべての段落（文字）が選択されます。

- パソコンに命令を与える場合に今から「ここ」に対して命令をするから準備しなさいよと教えてやる操作を「選択」といいます。

デリート
[Delete] キーを 1 回押します。



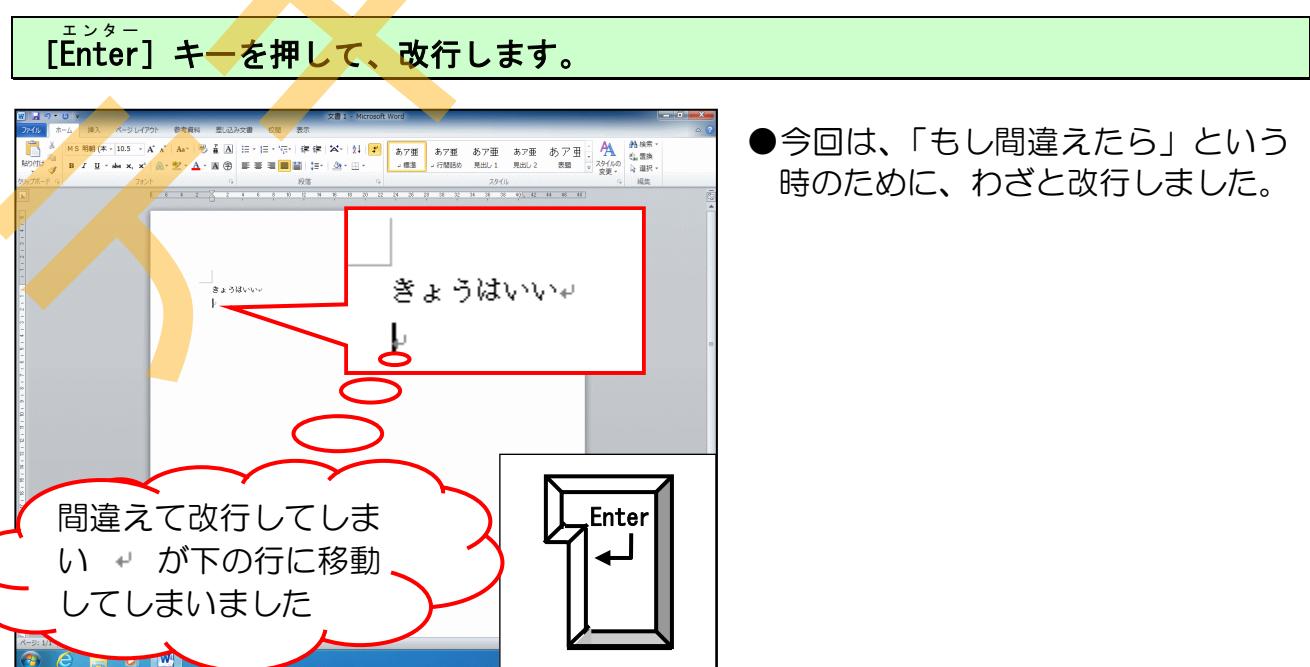
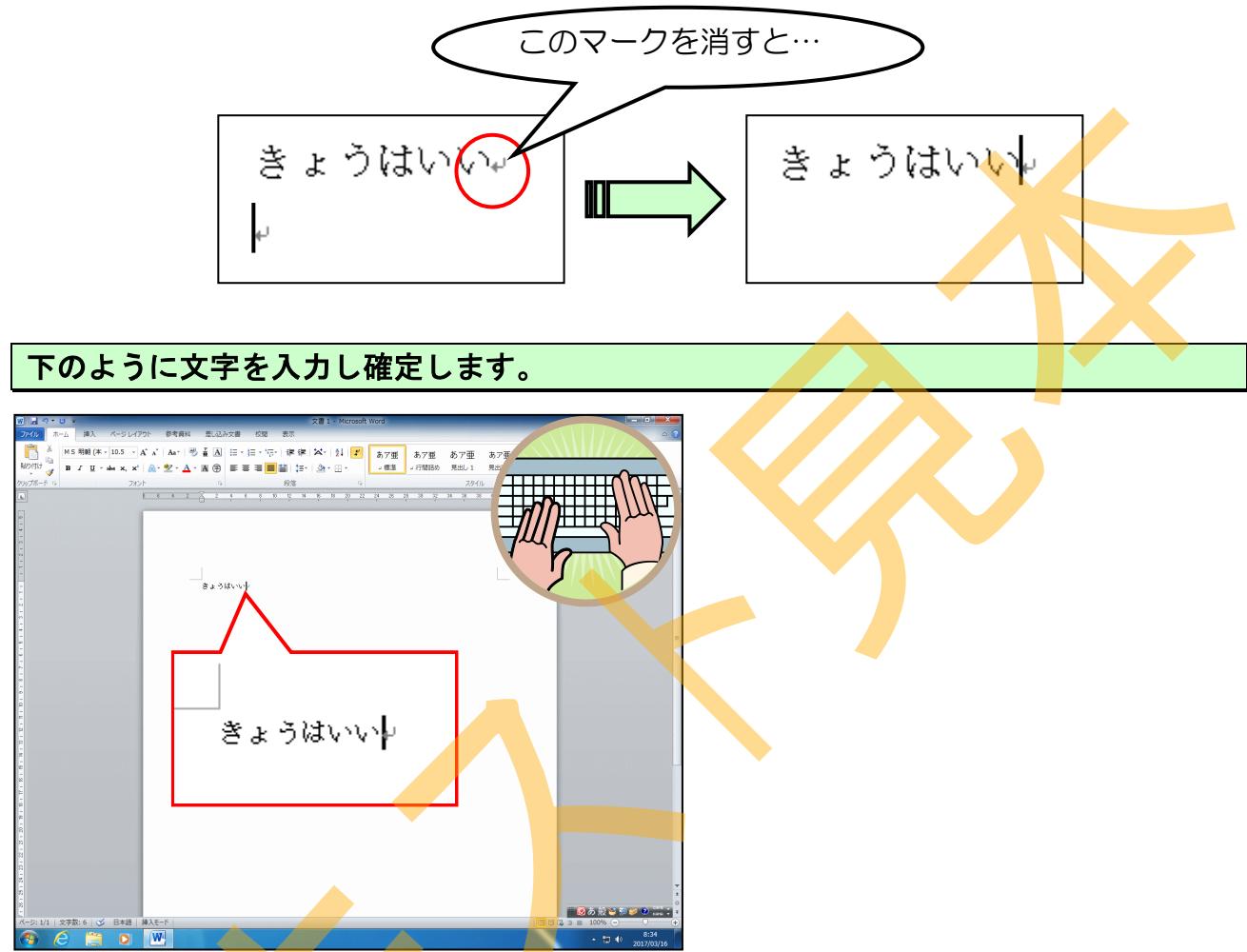
余裕があれば読んでね

- [Delete] キーを押す代わりに [Back Space] キーを押しても文字を消すことができます。

すべての文字を消す操作は、今後必ず必要となるときがあります。便利ですので、覚えておいたほうがいいでしょう。

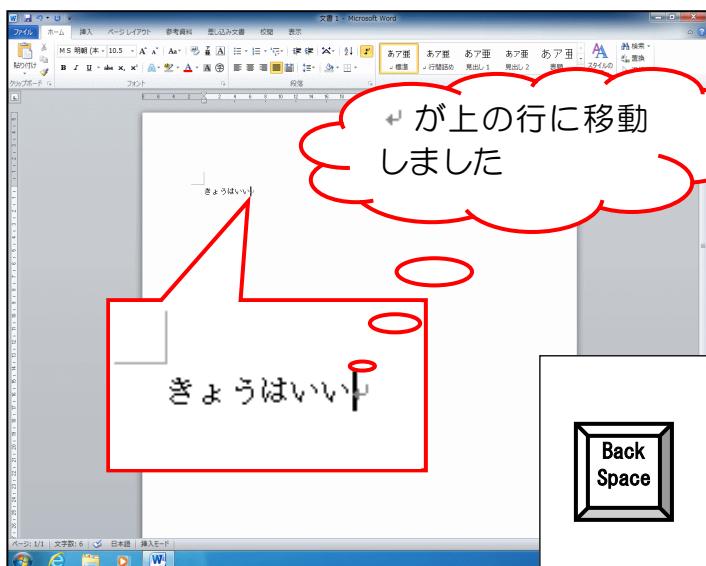
⑤ 間違って改行してしまったら？

入力中に間違って [Enter] キーを押してしまうと、改行されて次の行にカーソルが移動してしまいます。このような場合はどうしたらいいのでしょうか？よく見かけるのが、せっかく入力した文字を消してしまって正しい位置にもう一度文字を入力される光景です。



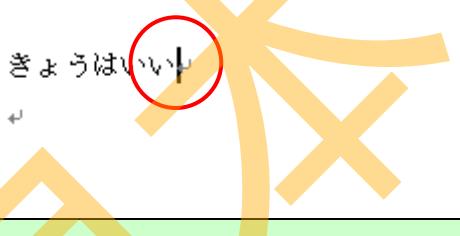
● 今回は、「もし間違えたら」という時のために、わざと改行しました。

[Back Space] キーを1回押します。

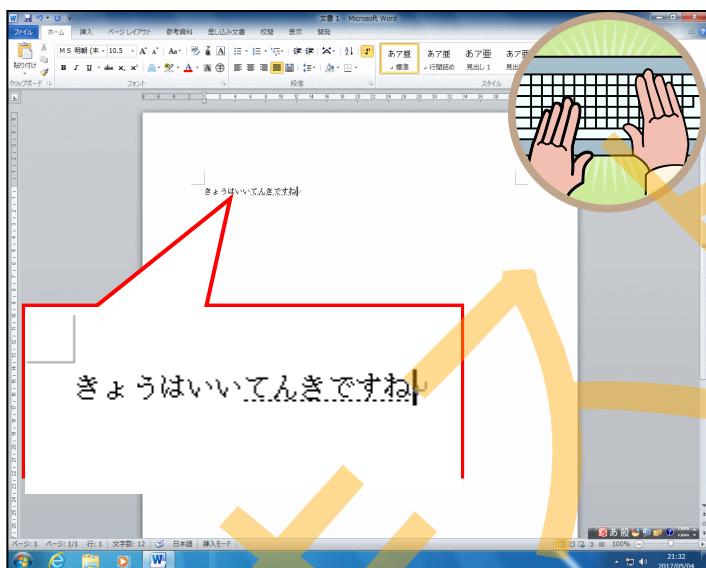


- 段落記号も文字のひとつです。
[Delete] キーや [Back Space] キーで消すことができます。

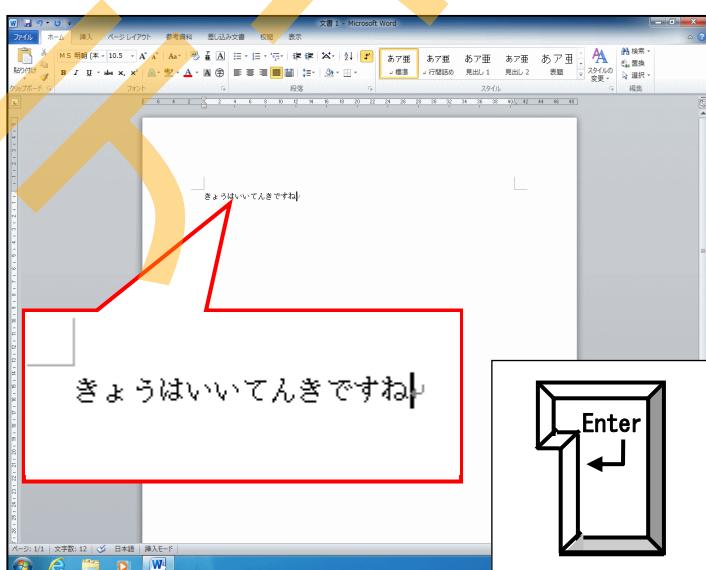
- 下のようにカーソルが「い」の後ろにある場合は、[Delete] キーを押すと同様に ← (段落記号) が削除されます。



そのままの状態で「てんきですね」を入力します。



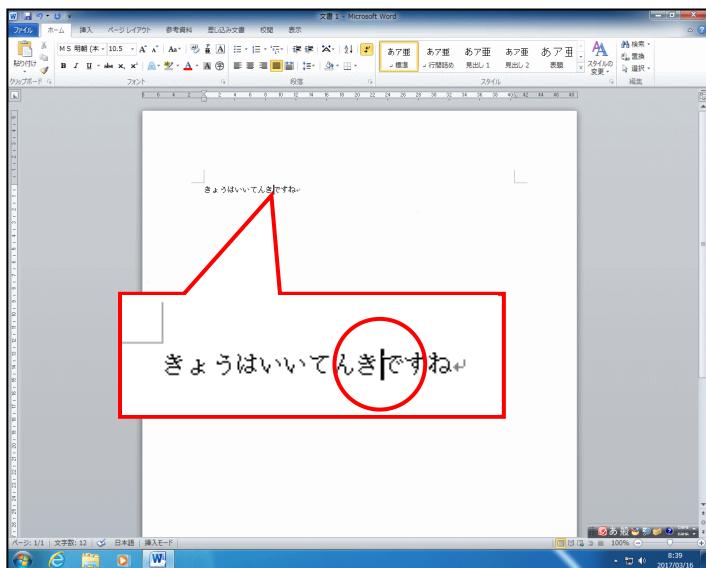
[Enter] キーを押して文字を確定します。



⑥ 入力を漏らしてしまったら？

文章を入力している最中に、誤って文字を抜かして入力してしまうことがよくあります。途中に文字を挿入したい場合は、挿入したい位置にカーソルを移動して、文字を入力することで、簡単に文字を挿入することができます。

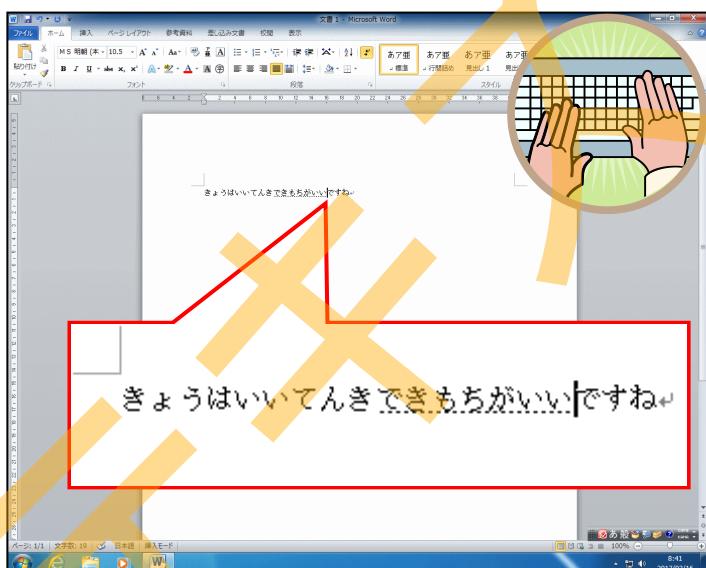
下のようにカーソルを「き」の後に移動します。



- カーソルを移動するには、マウスボインターを「てんき」の「き」の後に移動してクリックします。

- カーソルの移動方法を忘れた方は、P114(8) カーソル(点滅している縦棒)の移動方法を参照してください。

そのままの状態で「できもちがいい」を入力します。



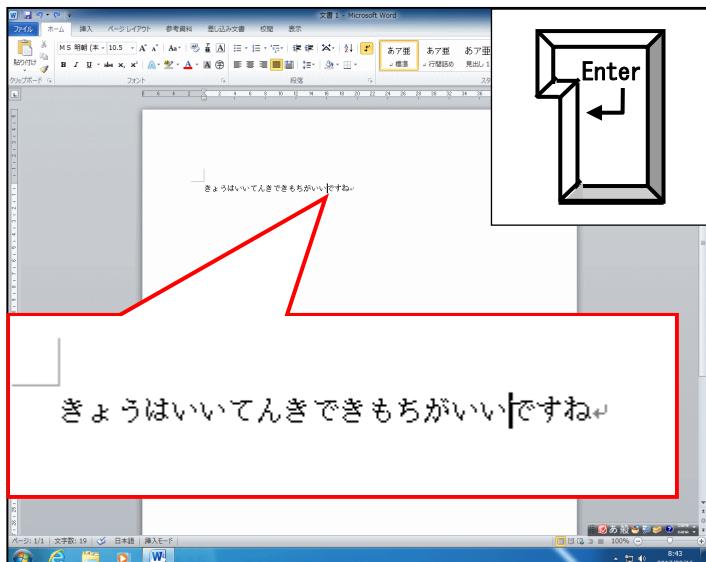
余裕があれば読んでね

- ワードを起動した時点では、**挿入モード**になっており、文字を入力するとカーソルがある位置に文字が挿入されて、今まであった文字が右にずれてくれます。

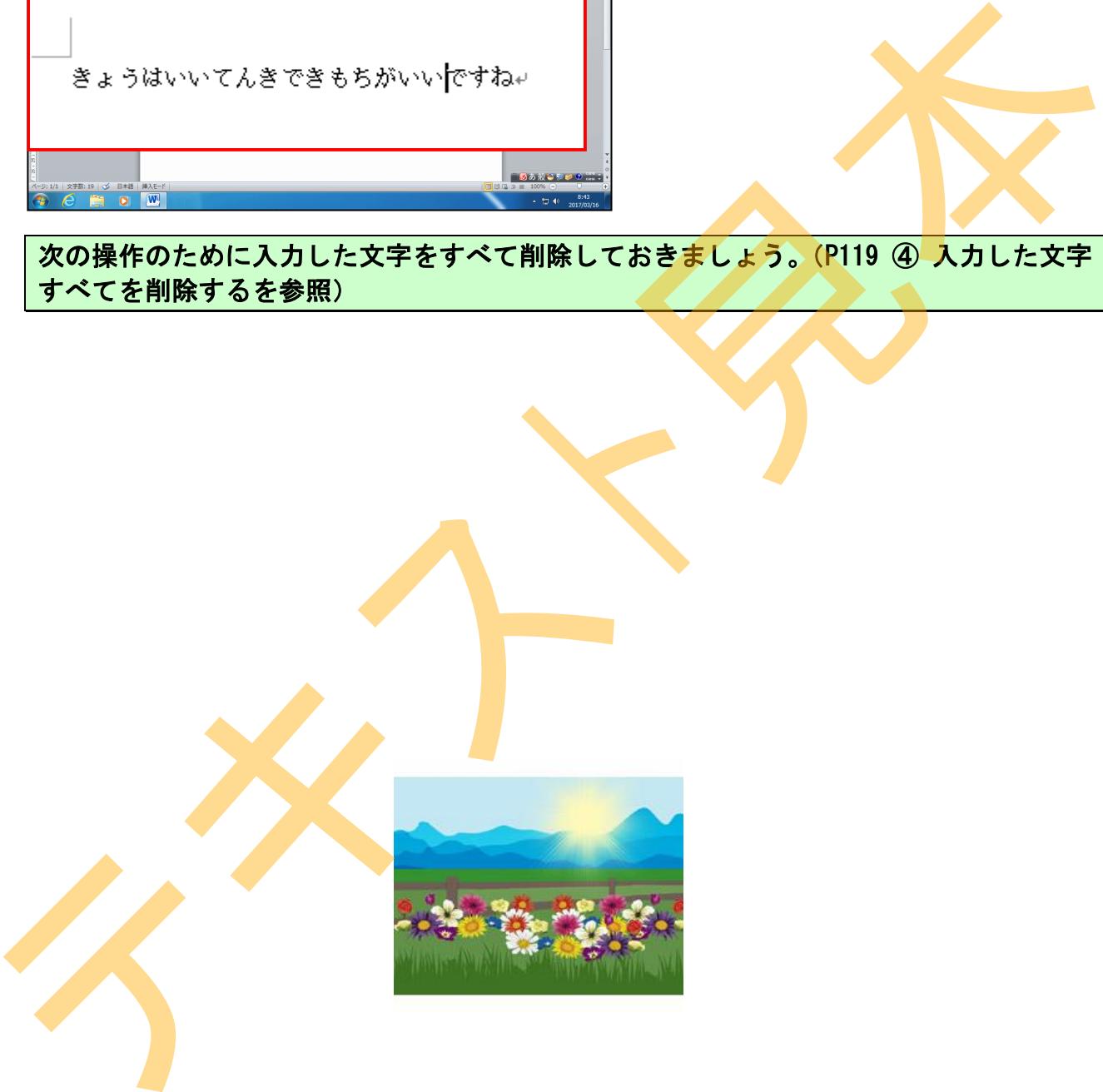
挿入モードについての補足説明

P214

エンター
[Enter] キーを押して文字を確定します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除しておきましょう。(P119 ④ 入力した文字すべてを削除するを参照)



(10) スペース（空白）の入力方法

スペースって何も入力しないことでしょう！

ママさん「スペースって、何も入力しないことでしょう！」



パパさん「真っ白な状態だよね。」

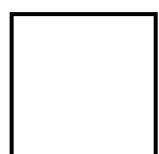
くじら先生「いろいろな申込書にフリガナを振ってくださいって、あるでしょう。
その時に注意事項として、「姓」と「名」の間は1文字空けてください
って書いてあることがあります。
その時の1文字をスペースっていいます。
何も入っていないのではなく、空白という文字の1つなのです。」



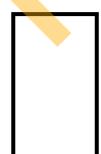
人名や地名などを入力する場合に、間をスペース（空白）で区切ると見やすくなります。
そのためにスペース（空白）は頻繁に使うのでよく覚えておきましょう。

① スペースの種類

スペースには、全角スペースと半角スペースがあります。



全角スペース



半角スペース

例) やまだ  たろう

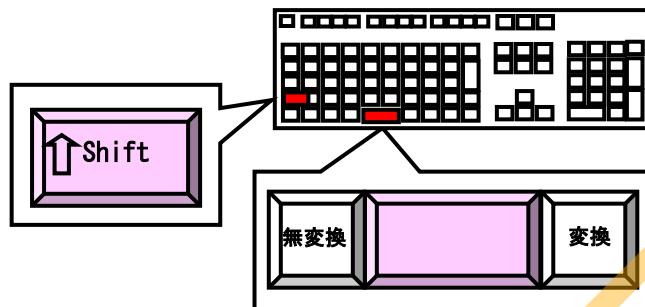
Yamada  Tarou など

全角スペースは横幅の広いスペース、半角スペースは横幅の狭いスペースです。

② 全角スペースと半角スペースの入力方法

スペースを入力するときのポイントとなる点は、必ずその前に入力した文字を確定してから【スペース】キーを押すことです。

- 【スペース】キー……………全角スペースを入力します。
- [Shift] キー + 【スペース】キー … 半角スペースを入力します。



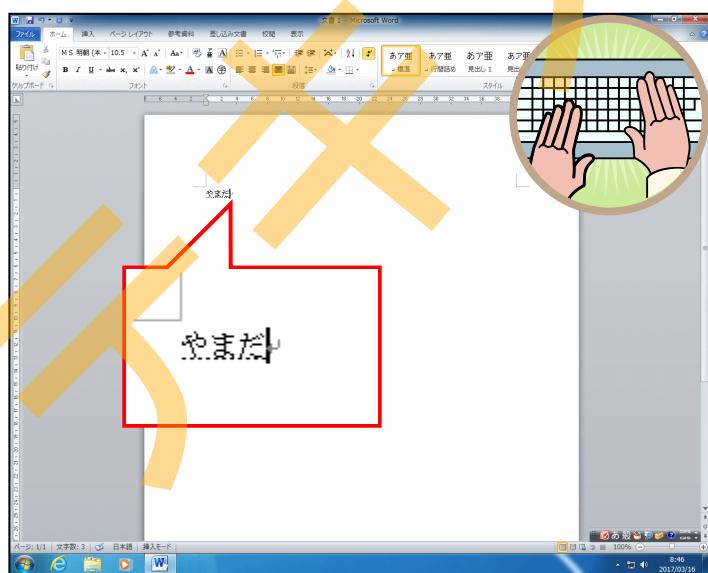
本

日

ト

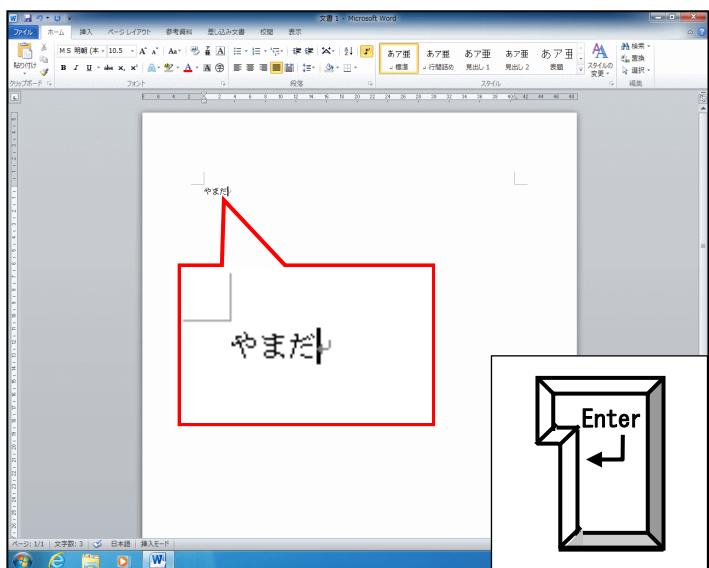
③ スペースの入力

「やまだ」という文字を入力します。



- 入力した文字の下に点線が入った状態は、文字の入力中であることを意味します。

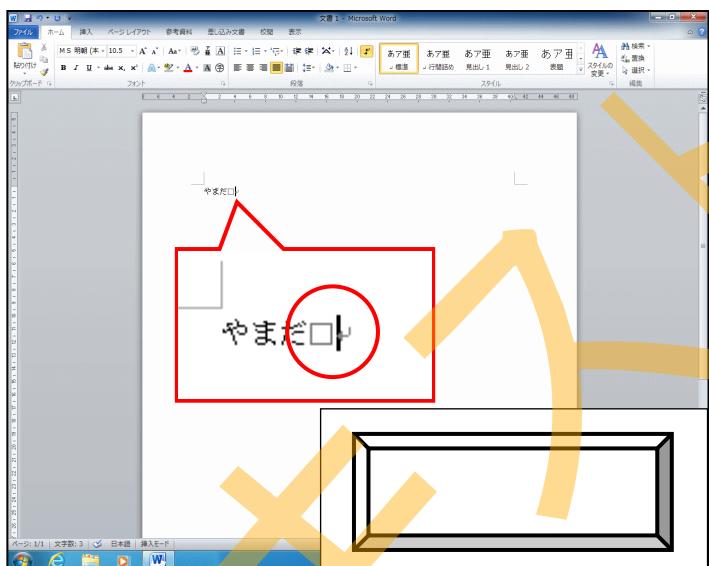
エンター [Enter] キーを押して文字を確定します。



●入力した文字の下の点線が消えた状態は、文字が確定したことを意味します。



[スペース] キーを押して、空白を入力します。



●よく見かける失敗例は、[Enter] キーを押す前（文字を確定する前）に [スペース] キーを押してしまう例です。これでは、文字が漢字などに変換されてしまい、空白を入力することができません。

やまだド…入力直後

↓
山田… [スペース] キー

なぜ？

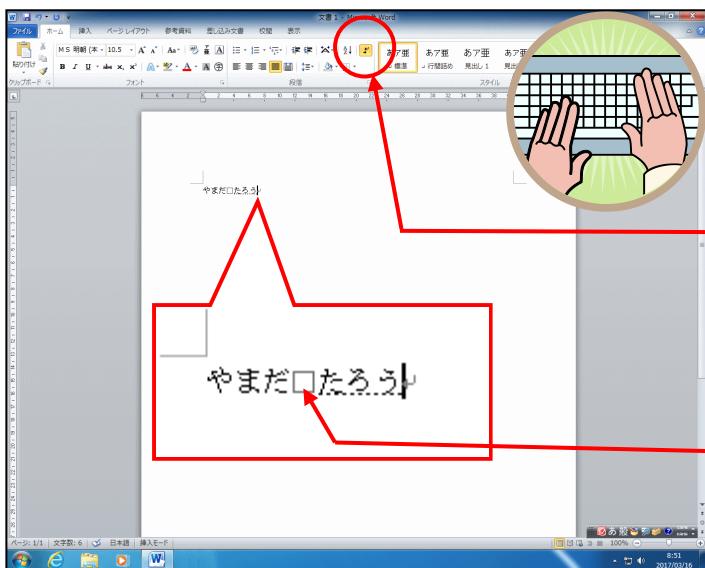
[スペース] キーには、空白文字を入力するという機能のほかに、入力した文字を変換するという機能があります。必ず [スペース] キーを押す前に、[Enter] キーを押すようにしましょう。



●半角の空白を入力する場合は、
[Shift] キーを押した状態で [スペース] キーを押すと入力できます。



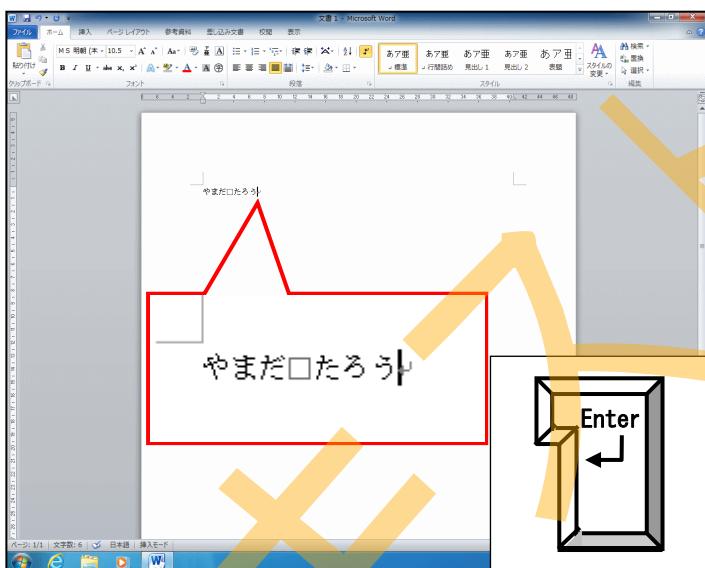
「たろう」という文字を入力します。



余裕があれば読んでね

- 口が表示されていない方は、画面の赤丸の部分が このようにオレンジ色になっていません。クリックして、 このようにしておきましょう。スペースが入っているかそうでないか、見極めるのに役に立ちます。
- [スペース] キーを押すと口が表示されることがあります。これはここに「スペースが入っていますよ」という印です。この口は印刷されません。

エンター
[Enter] キーを押して文字を確定します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除しておきましょう。

☆☆ここまでくれば、練習問題5で理解度を試してください。☆☆

(11) 漢字の入力

やっと漢字まで来たね、これでいろいろな文章も入力できるかなあ～。

パパさん「やっと漢字までたどり着きました。
漢字はどうにかなりそうです。」



ママさん「そうね。ワープロしていたし、漢字の読みさえわかれば、こっちの
ものね！」

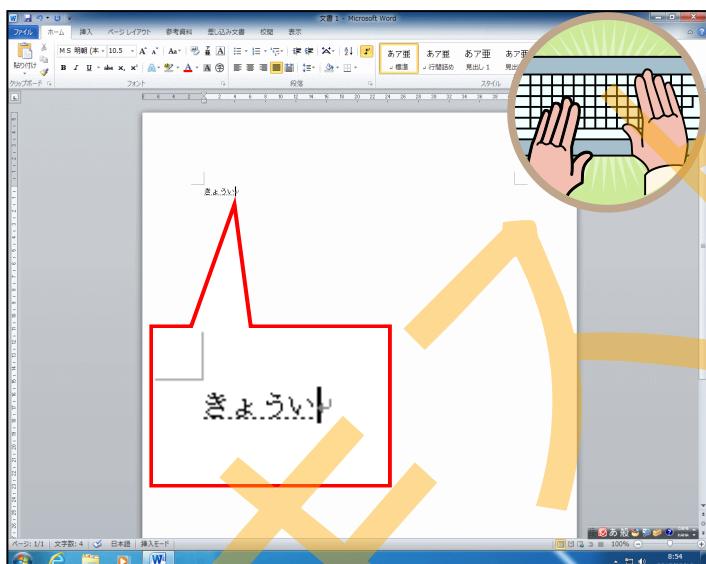
くじら先生「おふたりとも頼もしいかぎりです。」



漢字を入力するには、一度ひらがなを入力してから【変換】キーを押して漢字に変換します。

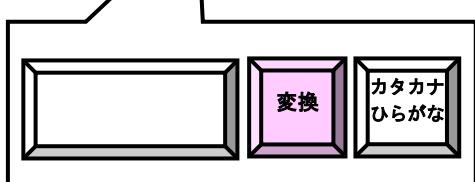
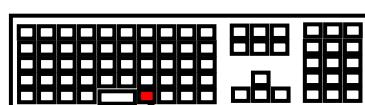
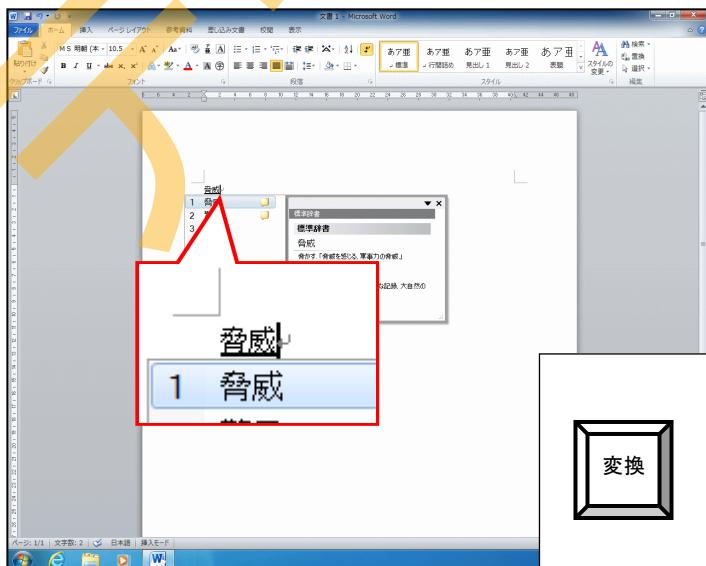
「驚異」という文字を入力してみましょう。

「きょうい」という文字を入力します。



- 入力した文字の下に点線が表示されているか確認します。点線が表示されていないと文字が確定してしまった状態になっています。

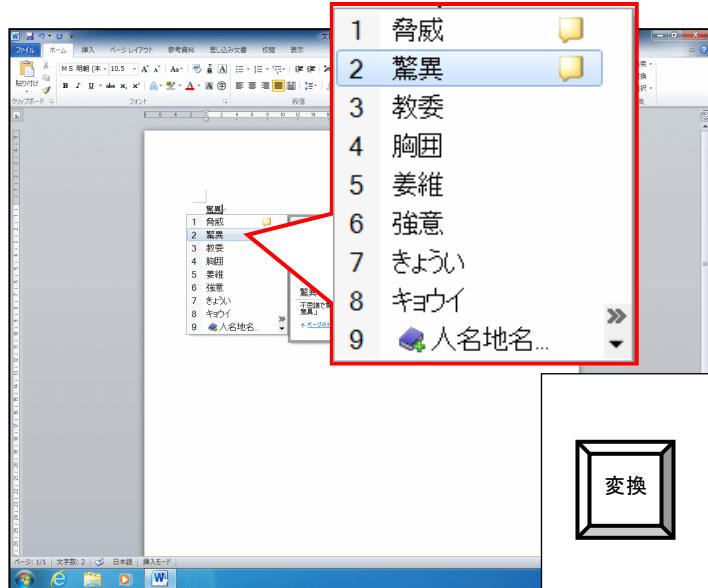
【変換】キーを押します。



- お使いのパソコンのキーボードによっては、下記の表示のものもあります。



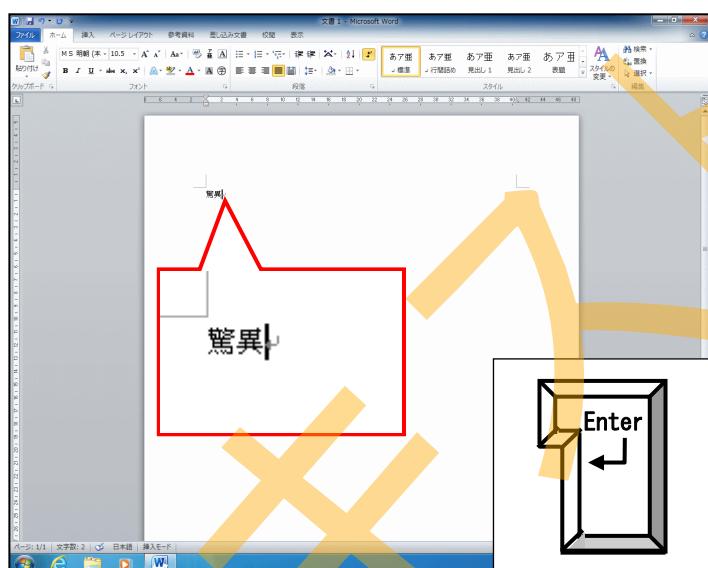
目的の文字が表示されなかった場合は「驚異」という文字が反転表示されるまで【変換】キーを押します。



● 【変換】キーを押して反転された文字が画面に表示されます。

● 別の文字を選択する場合は、【変換】キーを押すか、【↑】キーまたは【↓】キーで移動します。また、マウスポインターを目的の文字にポイントしてクリックしてもOKです。

正しい文字が表示されれば【Enter】キーで文字を確定します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除します。

(12) 間違って確定してしまったら？

またまた、わたしのためのテキストみたいですね！



ウメさん「また、わたしのために先生がテキストに追加してくれたのね。」

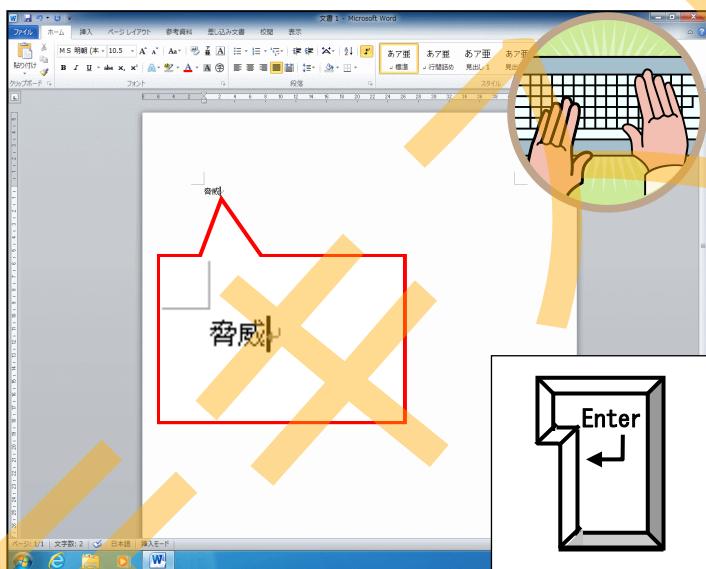
タケさん「わしのためでもあると思うよ。わしもすいぶんと間違いが多いからのお～。」

くじら先生「誰にでもよくある間違いを取り上げて説明しているだけです。ウメさんやタケさんだけが間違うのではなく、みなさんも同じように間違ってしまうことがありますよ。」



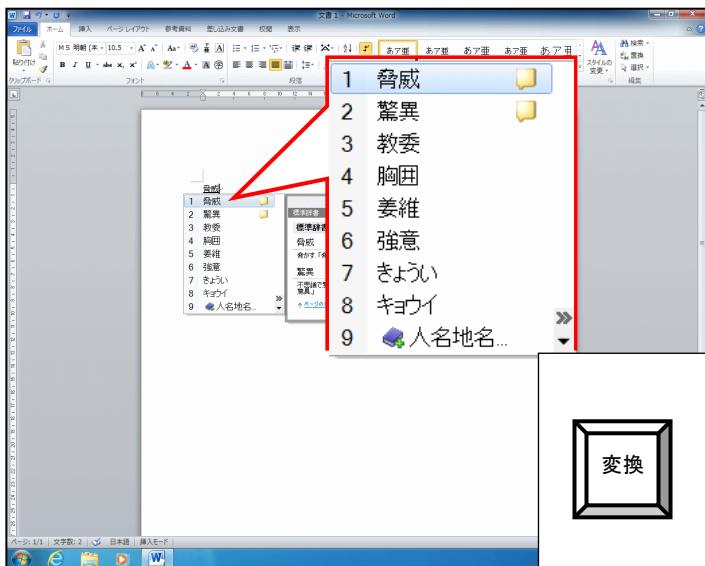
文字を入力して、変換ミスの状態で確定してしまうことがよくあります。そのような場合は、一度確定前の状態に戻してから、再度文字を変換します。(11)の「驚異」を「脅威」で確定してしまった場合を例にとって説明します。

まず、「脅威」という文字を入力して確定します。



●変換操作を忘れた方は、P128 (11)
漢字の入力を参照してください。

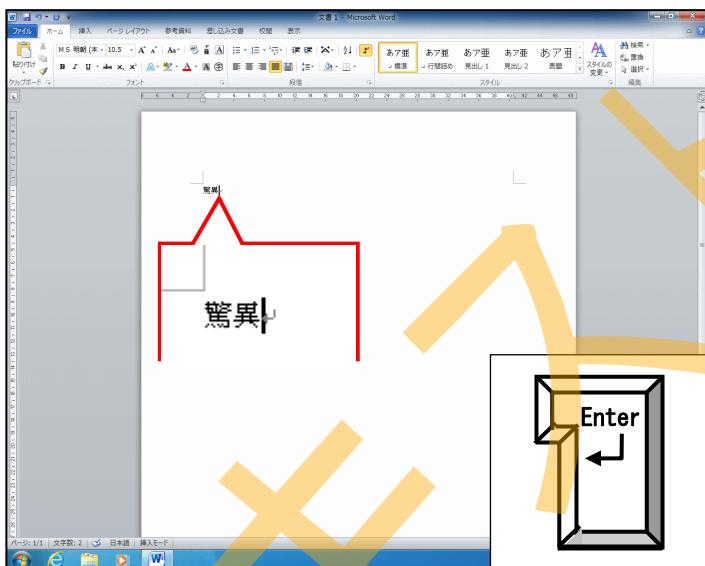
[変換] キーを押します。



●入力した文字 자체が間違っていた場合は、確定した文字を
[Back Space] キーや [Delete] キーで削除してから、再度入力しましょ。



「驚異」という文字を [変換] キーを押して反転表示させて、[Enter] キーを押します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除します。



(13) 難しい文字の入力

文字を書かなくなつてから、書けない文字が増えてきたなあ～。

パパさん「文字を書く機会が減ったために、文字が書けなくなってきたなあ～。」



ママさん「わたしも同じなの、読めるんだけど、書けないのよ。」

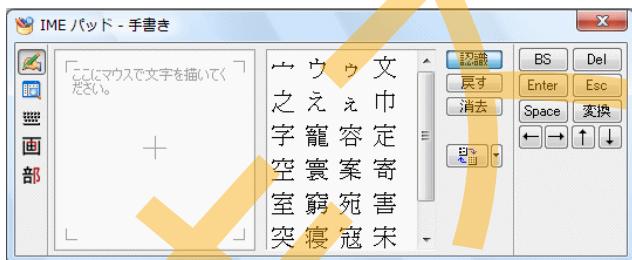
くじら先生「読めるなら入力は可能です。私のように漢字を読むのが苦手な方にとて、有効な方法を紹介しますね。」



読みない漢字があった場合には、みなさん困りますよね。
ですが、読みない漢字があっても、ここで紹介する方法をマスターすれば、入力することが可能です。」

読みがわからない文字は入力できないかというと、そんなことはありません。マウスを使って手書きで文字を書くと、文字を検索して似た文字を表示してくれます。マウスで文字を入力するには、「IMEパッド-手書き」を使います。

●手書き 読みのわからない漢字を手書き入力して探します。

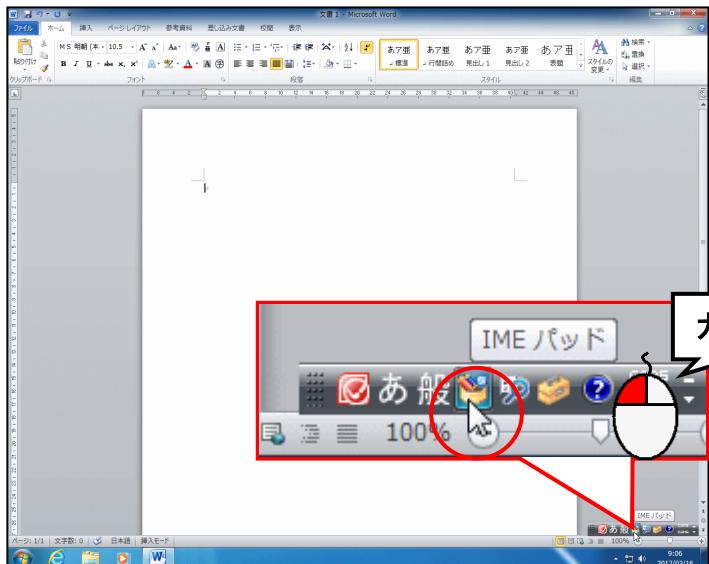


[IMEパッド]のその他の機能 P215

① IME パッドの表示方法

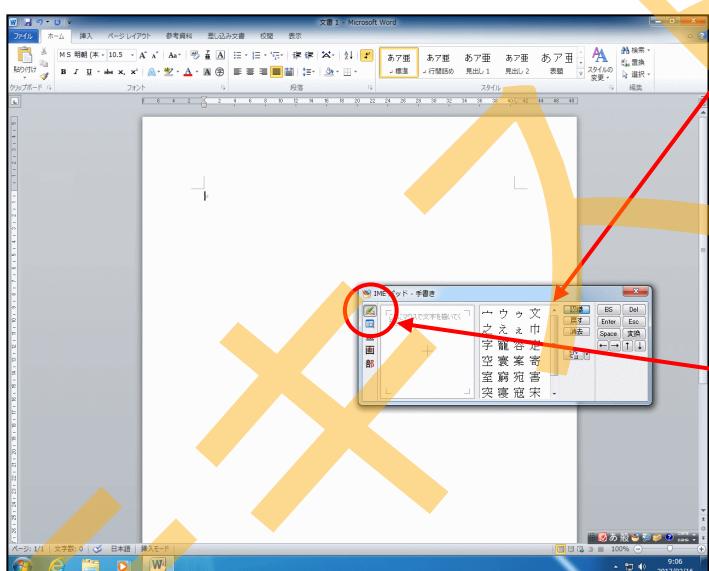
IME パッドを表示するには、次のように操作します。

画面上に表示された [言語バー] の  [IME パッド] ボタンにポイントし、クリックします。



-  [IME パッド] ボタンにポイントすると、「IME パッド」というメッセージが表示されます。

[IMEパッド]の表示方法についての補足説明 P216



- [IME パッド] ボタンをクリックすると、左のような画面が表示されます。

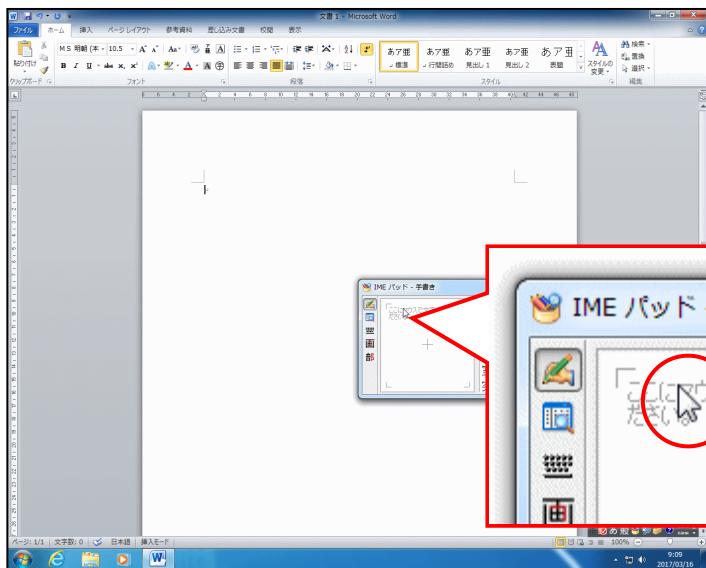
注意!

- 左と同じ画面が出でない方は、 [手書き]ボタンをクリックします。

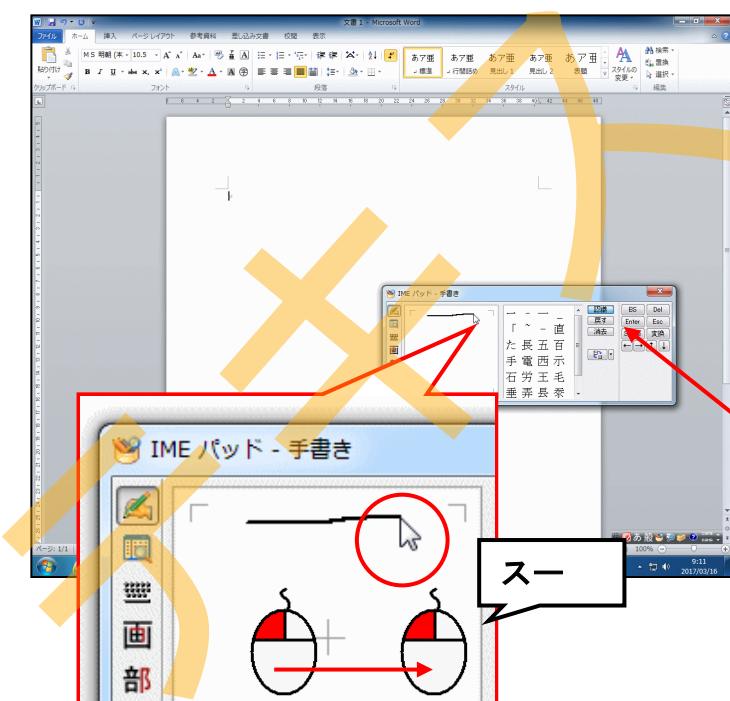
② 手書きで文字を検索する

表示されたIMEパッドでマウスを使って「**散**」という文字を書き、似た文字を検索してみましょう。

下の図と同じような位置にマウスポインターを移動します。



そのまま右にドラッグして、文字の1画目を書きます。

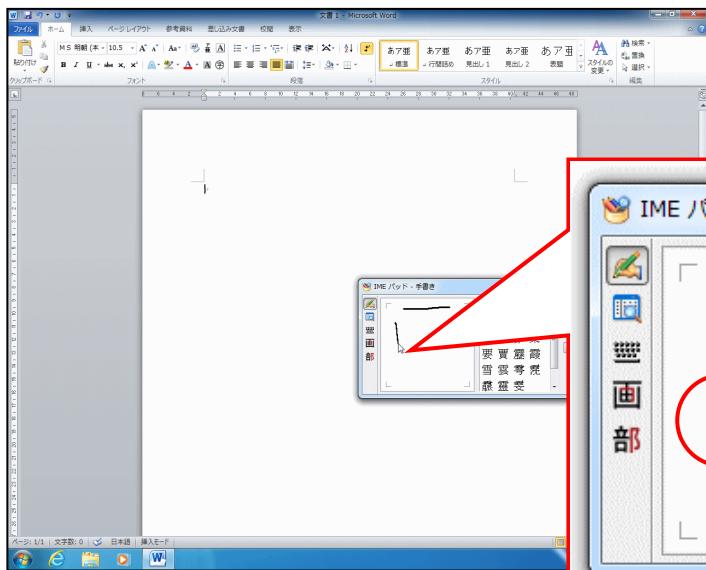


- 1 画書くごとに、自動認識して、右に認識の候補が表示されるようになっています。

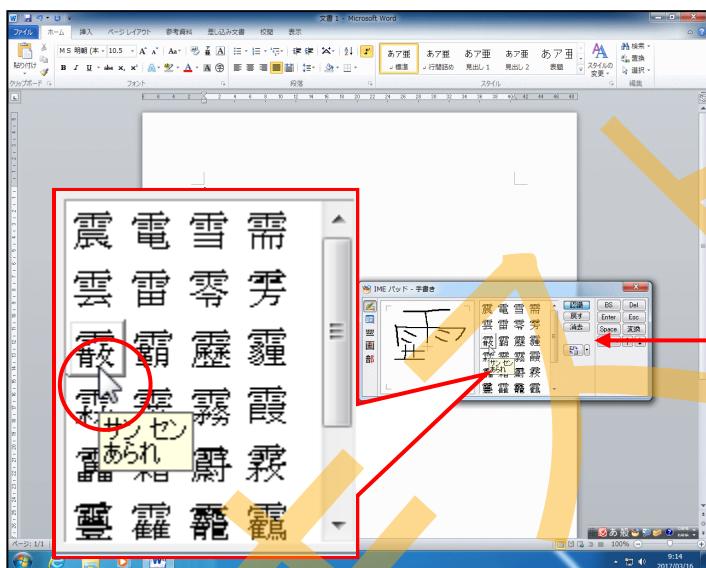
余裕があれば読んでね

- 文字を書き間違ったり、2度書きしてしまった場合は、[消去] ボタンの上にある [戻す] ボタンをクリックすると、最後に手書きした1画を消すことができます。

同じ要領で2画目を書きます。



同じ要領で右の認識候補の一覧に「霧」という文字が表示されるまで書き、「霧」が表示されたところでポイントします。

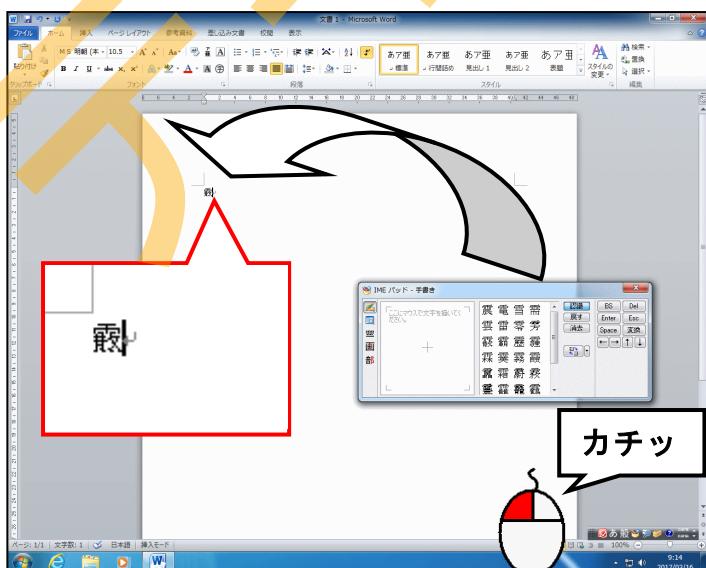


●左のように表示された文字にポイントすると、音読みと訓読みが表示されます。

注意!

●認識候補の中に「霧」がない場合は、1度消去して再度書き直しましょう。

目的の文字に音読みと訓読みが表示されていることを確認して、そのままクリックします。



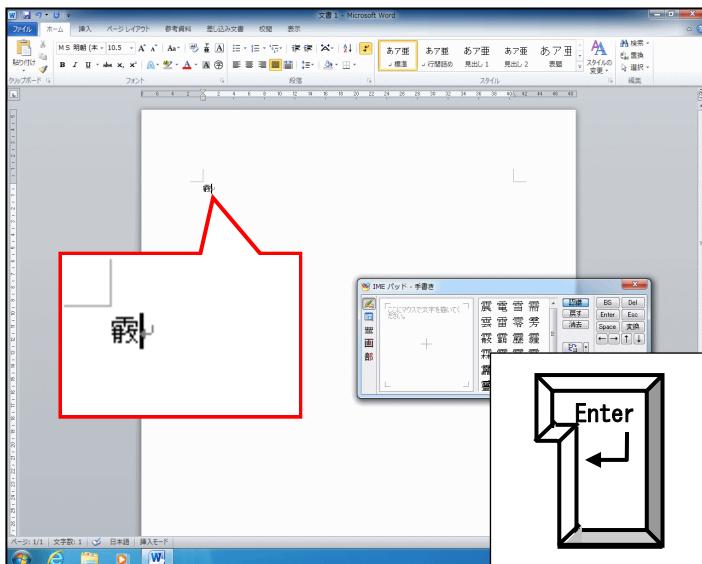
●目的の文字をクリックすると、カーソルのあった位置に目的の文字が入力されます。文字の下に点線が表示され、まだ文字は確定されていない状態です。

注意!

●漢字の検索は1文字ずつしかできません。検索したい漢字が複数ある場合は、1文字ずつ描きましょう。

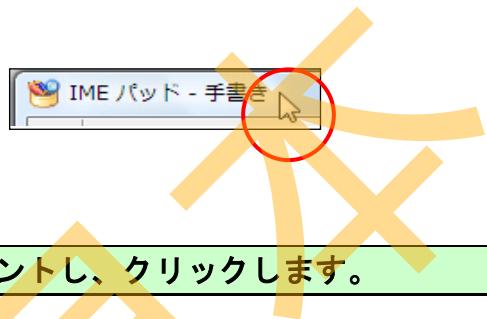


エンター
[Enter] キーを押して文字を確定します。

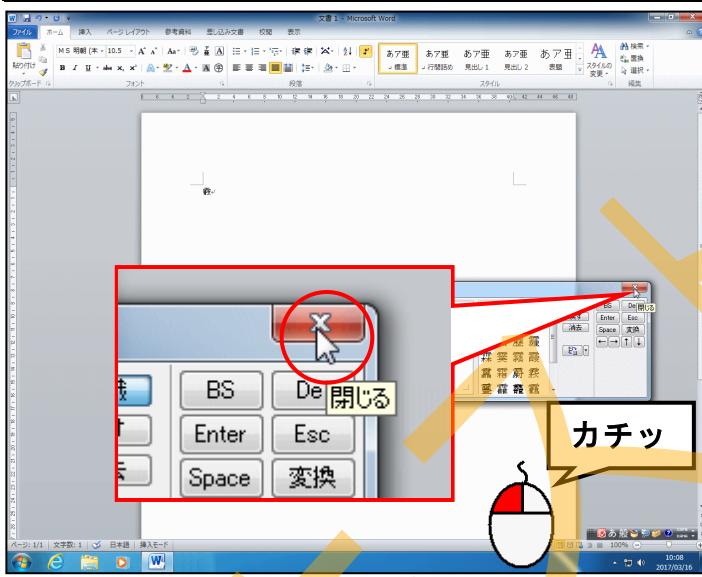


余裕があれば読んでね

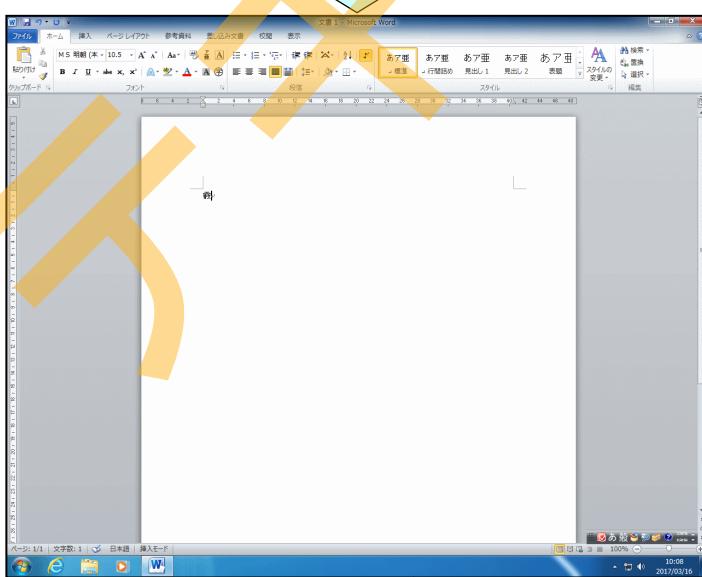
- [IME パッド] ウィンドウが重なって、入力した文字が見えない場合は、下図のようにタイトルバーにポイントし、ドラッグすると画面を移動することができます。



画面右上に表示された [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



- [閉じる] ボタンをクリックすると、左のように [IME パッド - 手書き] の画面が消えます。



次の操作のために入力した文字をすべて削除します。

☆☆ここまでくれば、練習問題6で理解度を試してください。☆☆

(14) カタカナの入力

カタカナは簡単そうじゃが、どうなんじゃ？



タケさん「ひらがなと同じで簡単そうじゃが、どうなんじゃ？」

ウメさん「わたしも簡単だと思うんだけど・・・。」

くじら先生「入力は『ひらがな』でしていただき、カタカナに変換します。
自己流でされている方は、理解されていない部分です。
しかし、難しいことはありません。」

タケさん「全角と半角があるようじゃが、どちらを使っても同じじゃないのか？」

くじら先生「それが、電子メールとか、ホームページには、半角のカタカナを使うと支障が生じる場合があります。
読めないような文字が表示されてしまって、文章にならない場合があるため、電子メールとか、ホームページでは半角カタカナは使わないという決まりがあります。」

ウメさん「使ったらダメな文字をなぜ覚える必要があるの？」

くじら先生「ご自分が入力した文字が半角か全角かを判断できれば、別に半角のカタカナを覚える必要はないと思いますが、判断するためには見比べてみないとわからないからここでチャレンジしてみてください。」



漢字の次はカタカナにチャレンジしてみましょう。カタカナを入力するには、一度ひらがなを入力してから [F7] キーまたは [F8] キーを押してカタカナに変換します。

① カタカナの種類

カタカナには、全角カタカナと半角カタカナがあります。



全角カタカナ



半角カタカナ

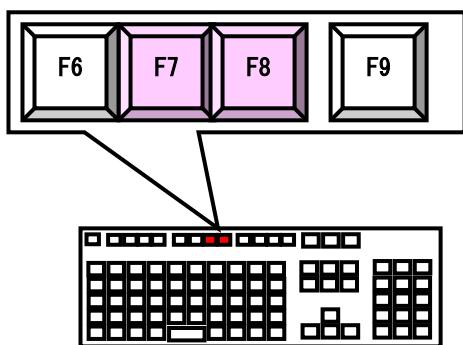
全角カタカナは横幅の広いカタカナ、半角カタカナは横幅の狭いカタカナです。

② 全角カタカナと半角カタカナの入力方法

まず、これまでどおり「ひらがな」で文字を入力します。

次に確定していない状態（文字の下に点線が入った状態）で [F7] キーもしくは [F8] キーを押して、カタカナが表示されたら [Enter] キーで確定します。

- [F7] キー…ひらがなを全角カタカナに変換します。
- [F8] キー…ひらがなを半角カタカナに変換します。

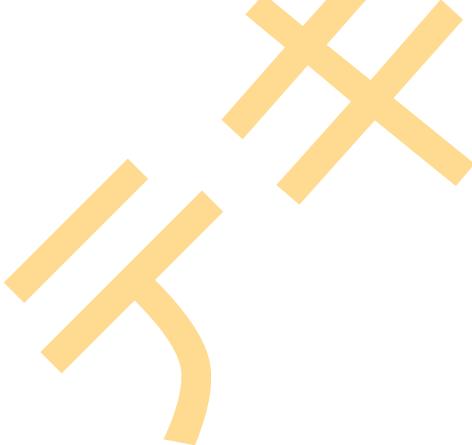


- [F7] キーとか [F8] キーと書きましたが、正式にはキーボードの上に並んだ [F1] ~ [F12] までのキーを「ファンクションキー」といいます。

余裕があれば読んでね

- 「ファンクションキー」とは、特殊キーのひとつで、それぞれに機能や文字列が割り当てられています。割り当て内容はソフトによって異なります。利用者が、自分自身で機能を割り当てるこどもできます。

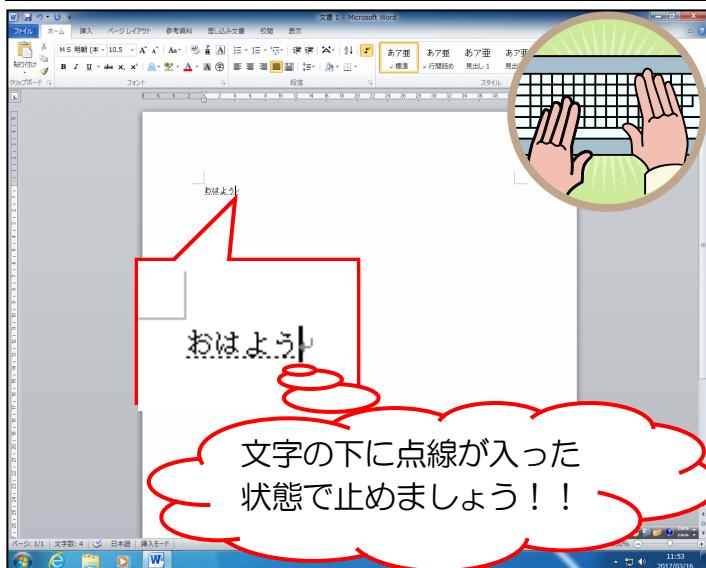
[F7] キーや [F8] キーを押す代わりに、[変換] キーを押しても、カタカナに変換できる場合があります。外来語としてカタカナが定着している言葉は、[変換] キーを押しても表示することができます。



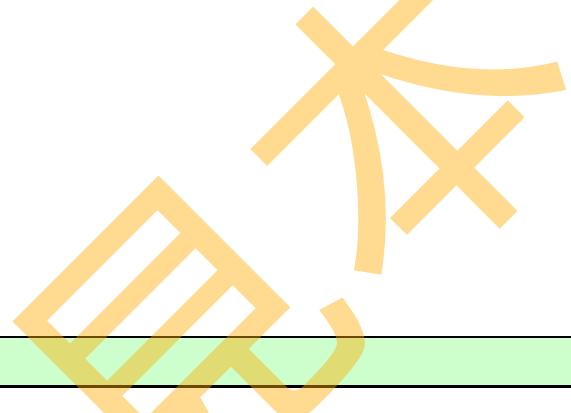
③ 全角カタカナの入力

「オハヨウ」という文字を入力してみましょう。

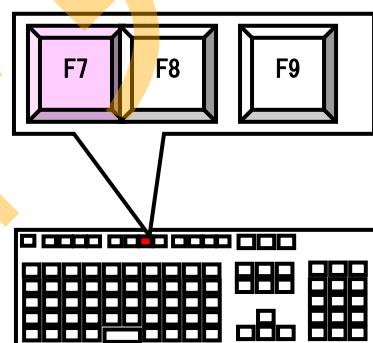
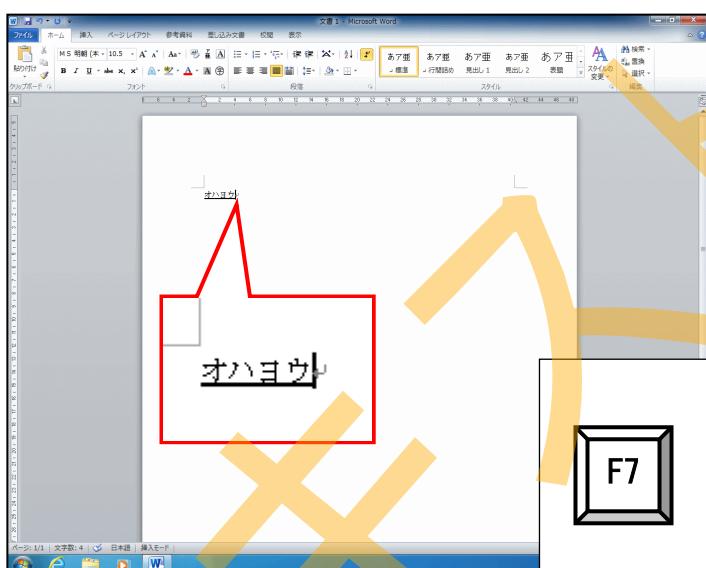
ひらがなで「おはよう」と入力します。



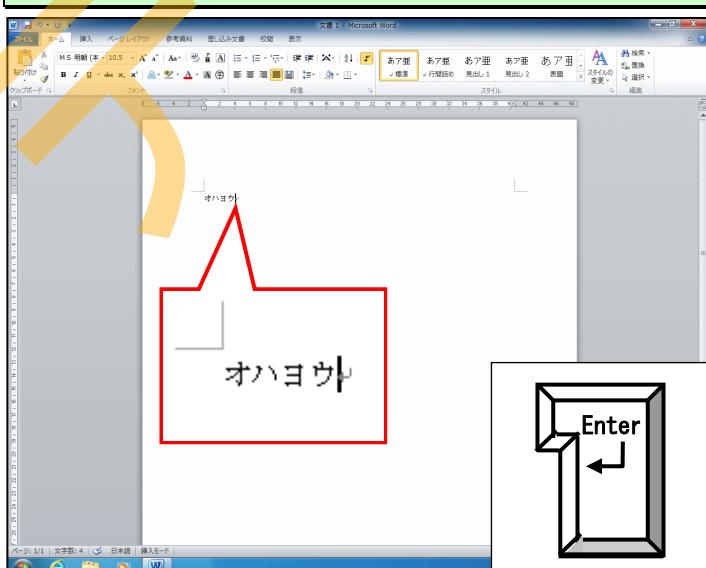
- [Enter] キーを押してしまうと、文字が確定してしまうので、[Enter] キーを押さないようにしましょう。



[F7] キーを押します。

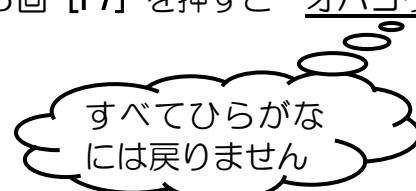


[Enter] キーを押して文字を確定します。



余裕があれば読んでね

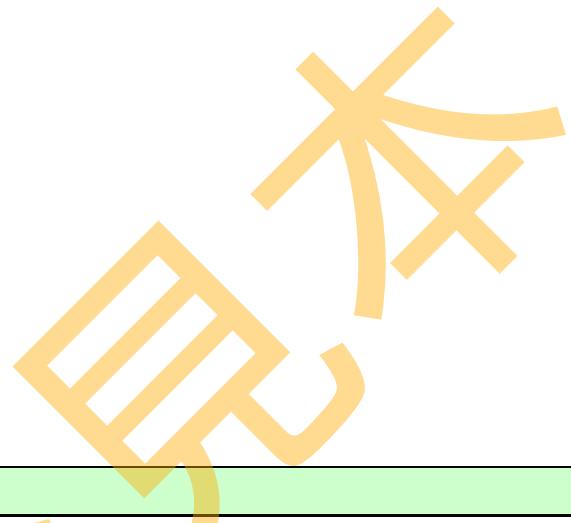
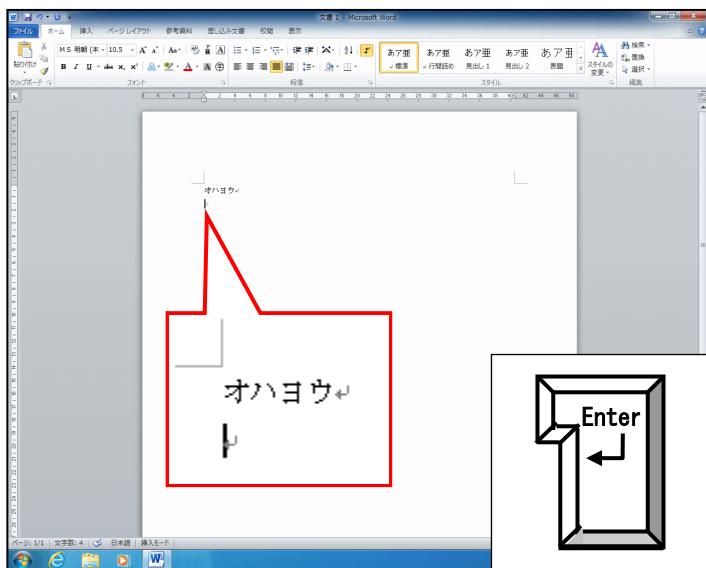
- 1回 [F7] を押すと…オハヨウ
- 2回 [F7] を押すと…オハヨう
- 3回 [F7] を押すと…オハよう
- 4回 [F7] を押すと…オはよう
- 5回 [F7] を押すと…オハヨウ



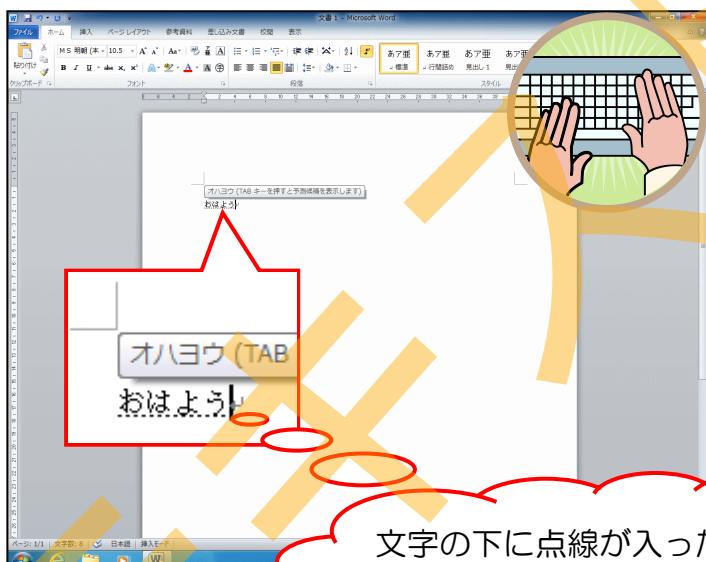
④ 半角カタカナの入力

1行改行し、半角で「オハヨウ」という文字を入力してみましょう。

エンター
[Enter] キーを押して改行します。

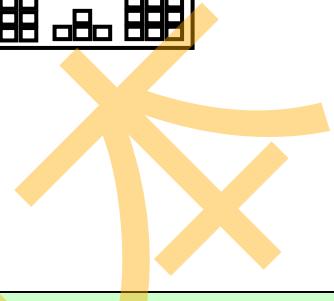
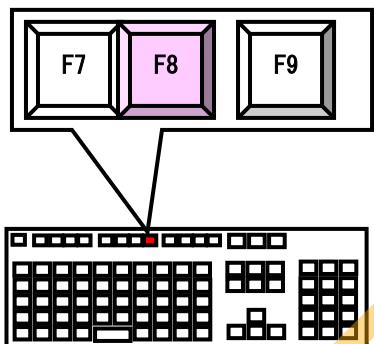
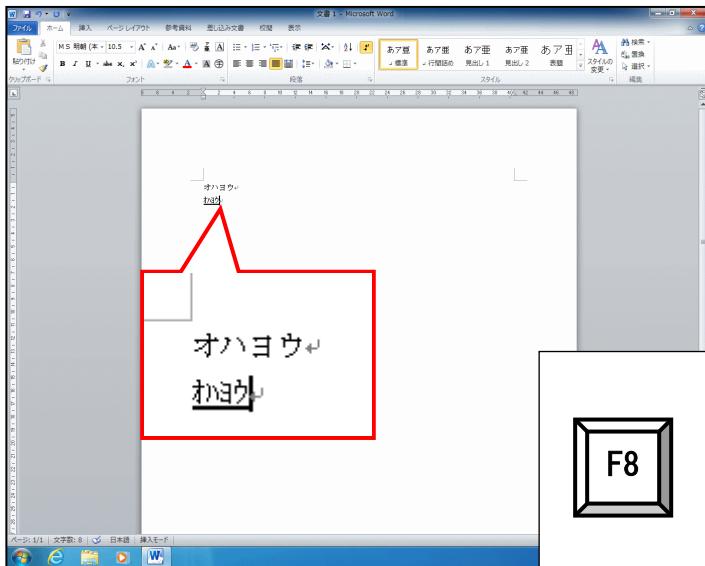


ひらがなで「おはよう」と入力します。

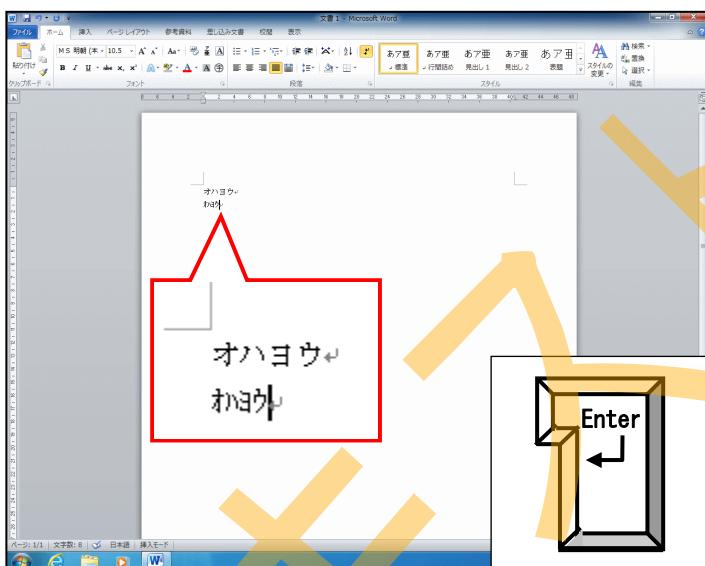


● エンター
[Enter] キーを押してしまうと、
文字が確定してしまうので、
[Enter] キーを押さないこと！！

[F8] キーを押します。



[Enter] キーを押して文字を確定します。



余裕があれば読んでね

- 1回 [F8] を押すと…オハヨウ
- 2回 [F8] を押すと…オハヨう
- 3回 [F8] を押すと…オハよう
- 4回 [F8] を押すと…オはよう
- 5回 [F8] を押すと…オハヨウ

すべてひらがな
には戻りません

次の操作のために入力した文字をすべて削除します。



☆☆ここまでくれば、練習問題7で理解度を試してください。☆☆

(15) 英数字の入力

英字や数字も電子メールでは、半角が使えないのかあ～？



タケさん「英字や数字も、電子メールでは半角が使えないのか？」

くじら先生「英字や数字は他の国でも使うから、統一されています。」

タケさん「じゃ、英字や数字は半角でも、全角でもいいのじゃな！」

くじら先生「そうですね。でも大文字と小文字というものが英字にはあります。
その辺の入力をマスターしてほしいと思います。」

ウメさん「大きな文字と小さな文字という意味ですか？」

くじら先生「『A』は大文字、『a』は小文字という具合です。



普段、あまり意識されていないかもしれませんので、覚えるのが
大変かもしれません。ゆっくり、焦らずに進めていきますので、
付いてきてくださいね。」

カタカナの次は英数字にチャレンジしてみましょう。英数字を入力するには、見たままをそのまま入力して [F9] キーまたは [F10] キーを押して英数字に変換します。

① 英数字の種類

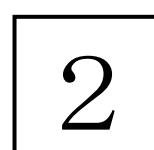
英数字には、全角英数と半角英数があります。



全角英字



半角英字



全角数字



半角数字

全角英数字は横幅の広い英数字、半角英数字は横幅の狭い英数字です。

全角	大文字	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
全角	小文字	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
半角	大文字	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
半角	小文字	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z

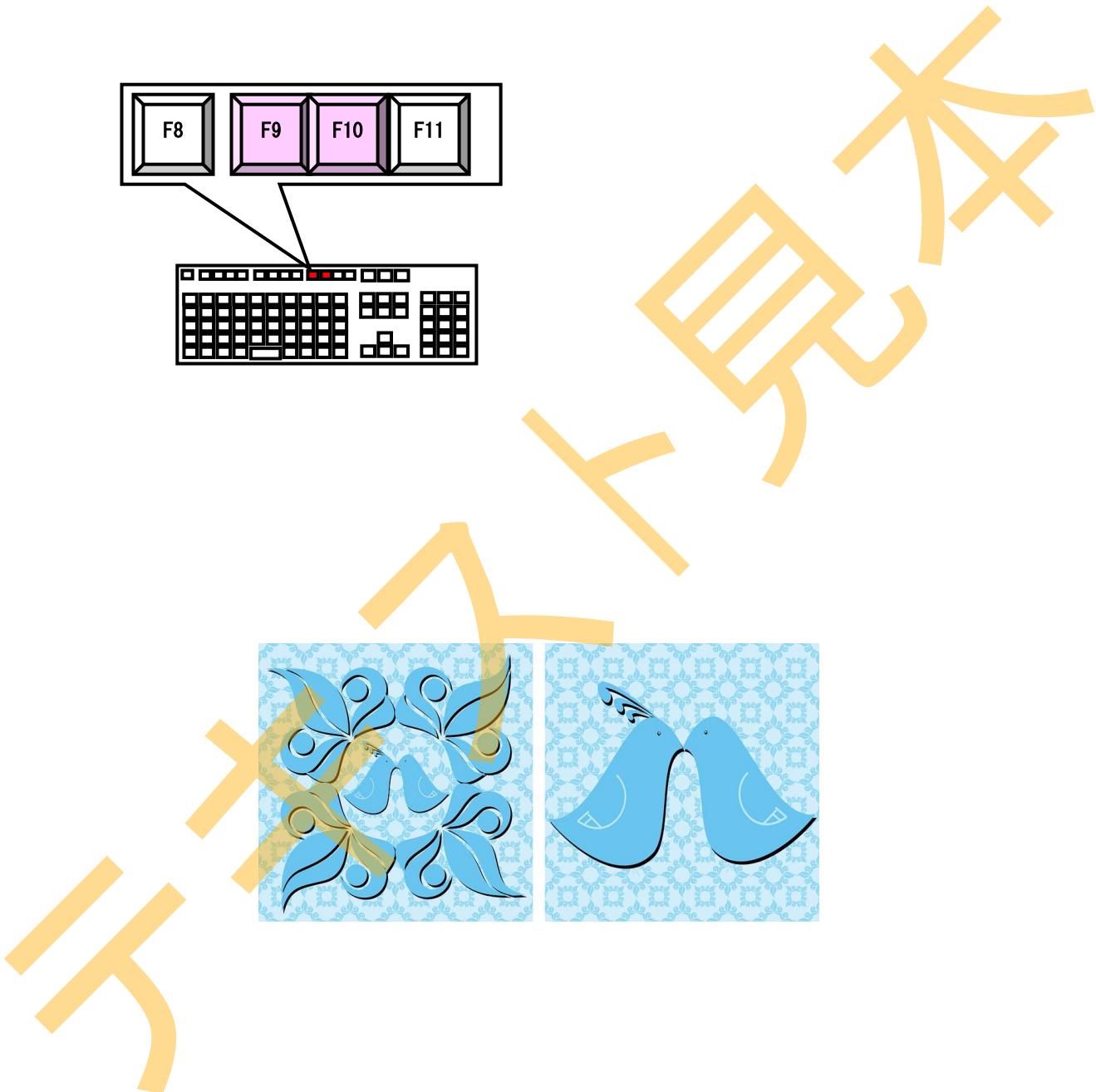
※…全角文字と大文字、半角文字と小文字を混同される方がいらっしゃいますから、
ここでよく覚えておいてください。

② 全角英数字と半角英数字の入力方法

英数字を入力するには、入力したい英数字をそのまま入力します。

次に確定していない状態（文字の下に点線が入った状態）で [F9] キーもしくは [F10] キーを押して、英数字が表示されたら エンター [Enter] キーで確定します。

- [F9] キー…… 文字を全角英数字に変換します。
- [F10] キー…… 文字を半角英数字に変換します。

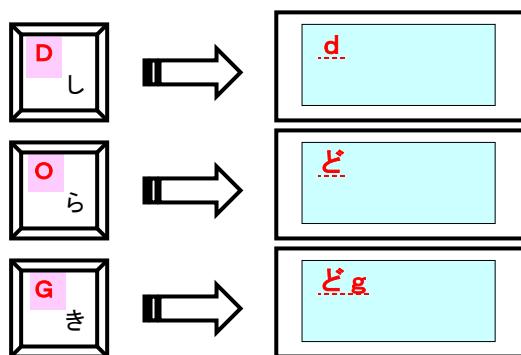


③ 全角英字の入力

全角英字で「D o g」と入力してみましょう。

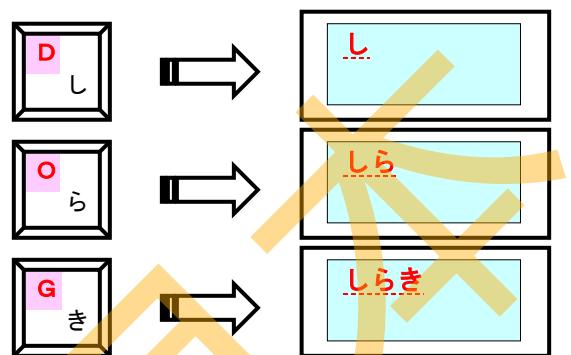
「ローマ字入力」の方

次の順番でキーを打ちます。



「かな入力」の方

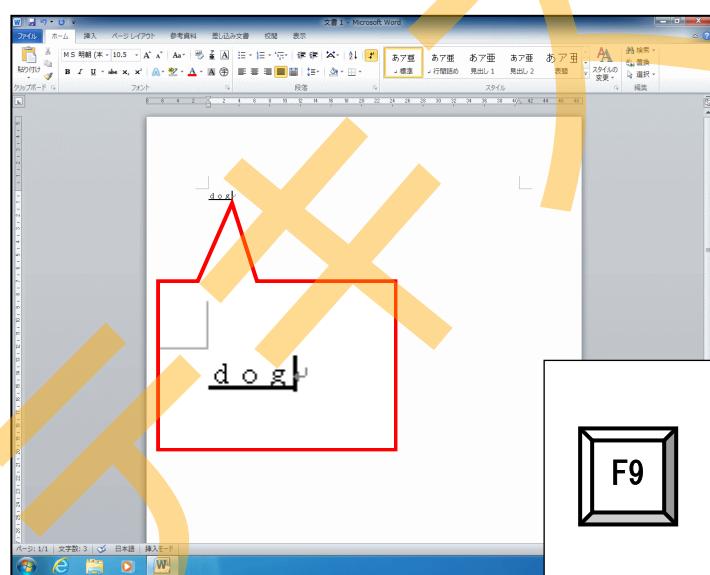
次の順番でキーを打ちます。



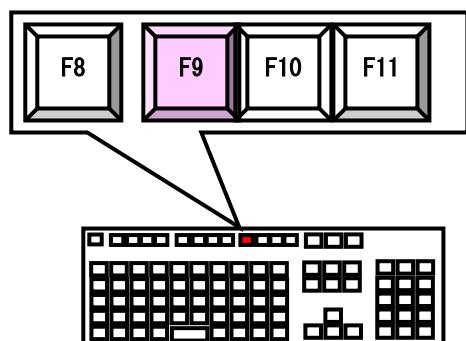
ローマ字入力、かな入力とも意味不明の文字が表示されますか
気にしないでください。



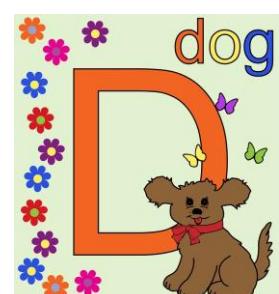
[F9] キーを押します。



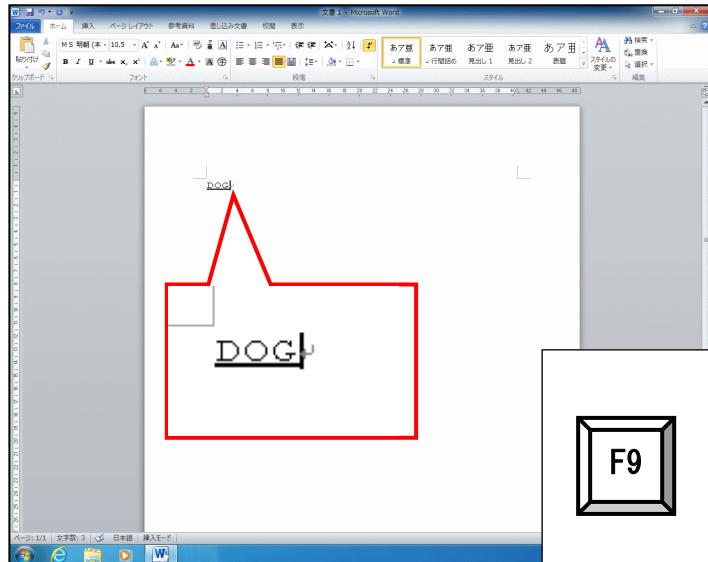
●ここからは、ローマ字入力、かな入力とも同じ操作です。



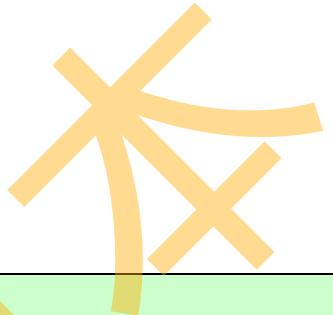
●1回押すと、小文字になります。



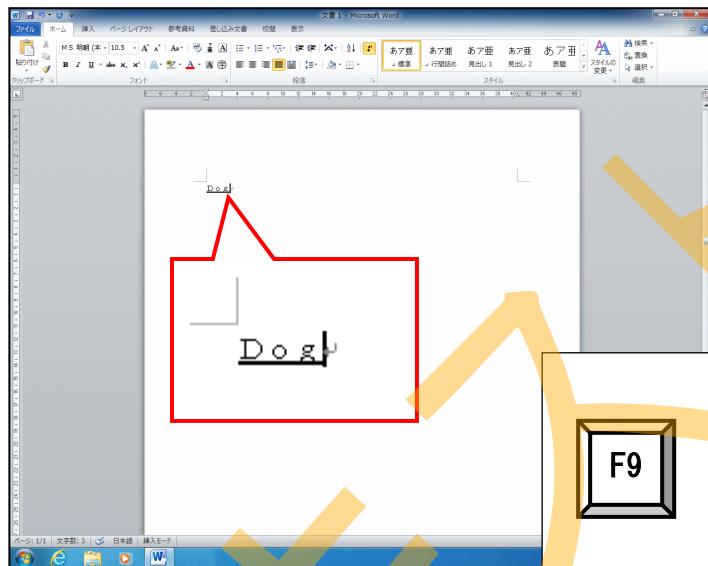
再度 [F9] キーを押します。



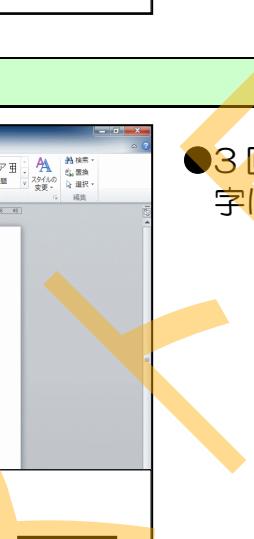
●2回押すと、すべて大文字に変わります。



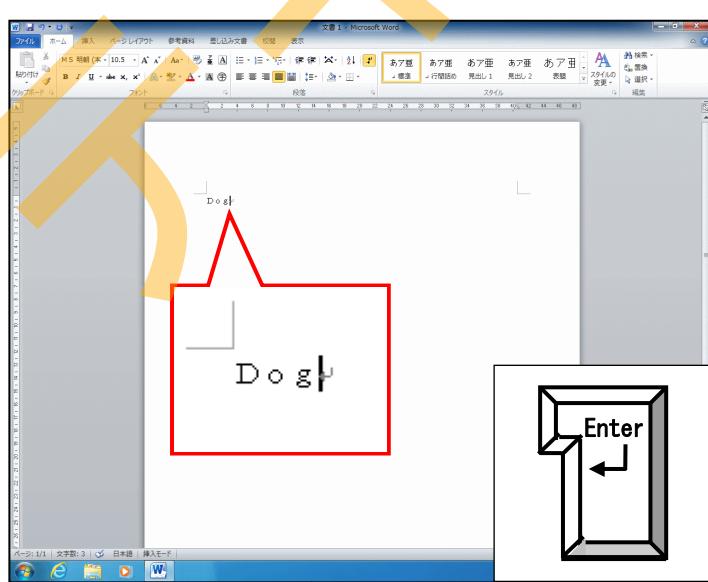
再度 [F9] キーを押します。



●3回押すと、先頭の文字のみ、大文字になります。



エンター [Enter] キーを押して文字を確定します。



余裕があれば読んでね

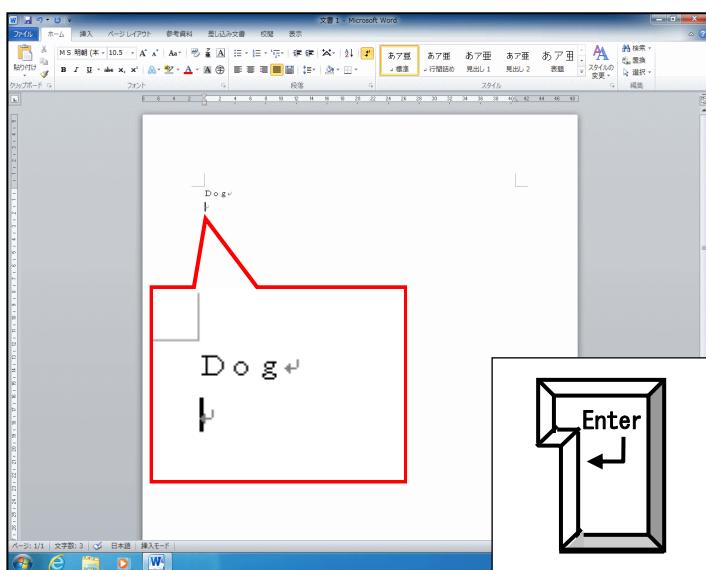
- 1回 [F9] を押すと… d o g
- 2回 [F9] を押すと… D O G
- 3回 [F9] を押すと… D o g
- 4回 [F9] を押すと… d o g

ローマ字入力の方にありがたい機能 P216

④ 半角英字の入力

1行改行し、半角英字で「Dog」と入力してみましょう。

エンターキーを押して改行します。

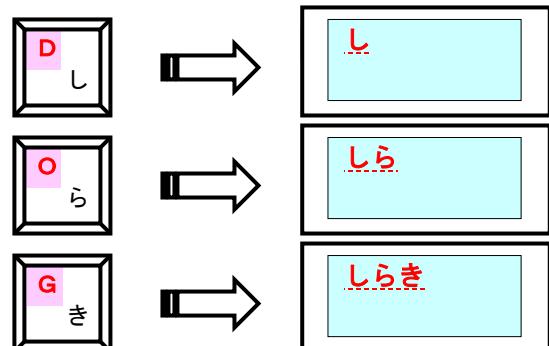
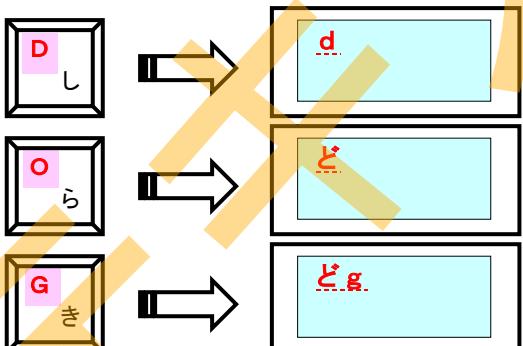


「ローマ字入力」の方

「かな入力」の方

次の順番でキーを打ちます。

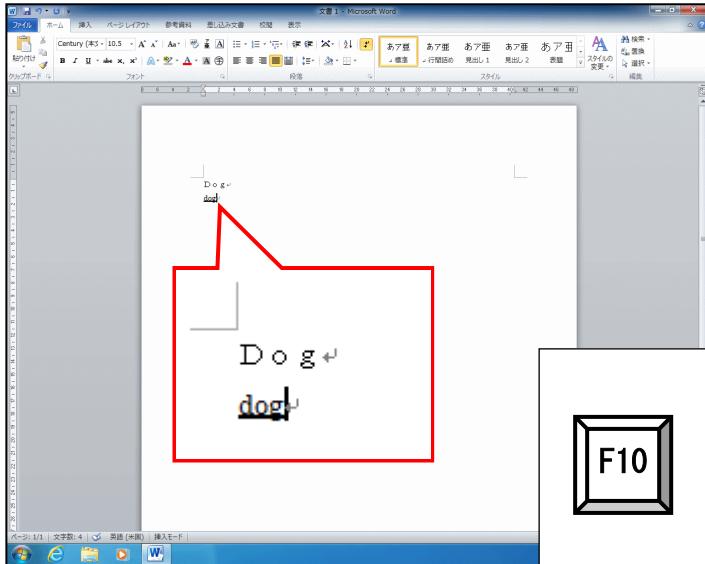
次の順番でキーを打ちます。



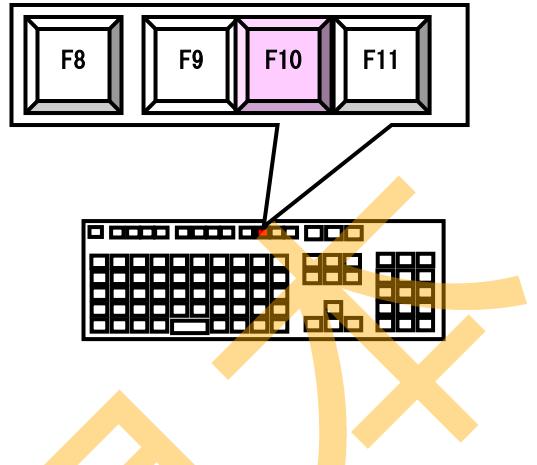
ローマ字入力、かな入力とも意味不明の文字が表示されますが
気にしないでください。



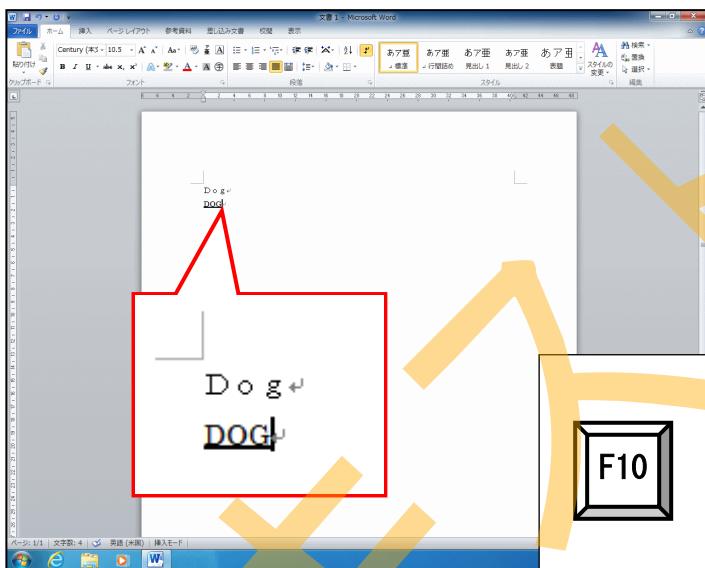
[F10] キーを押します。



● ここからは、ローマ字入力、かな入力とも同じ操作です。



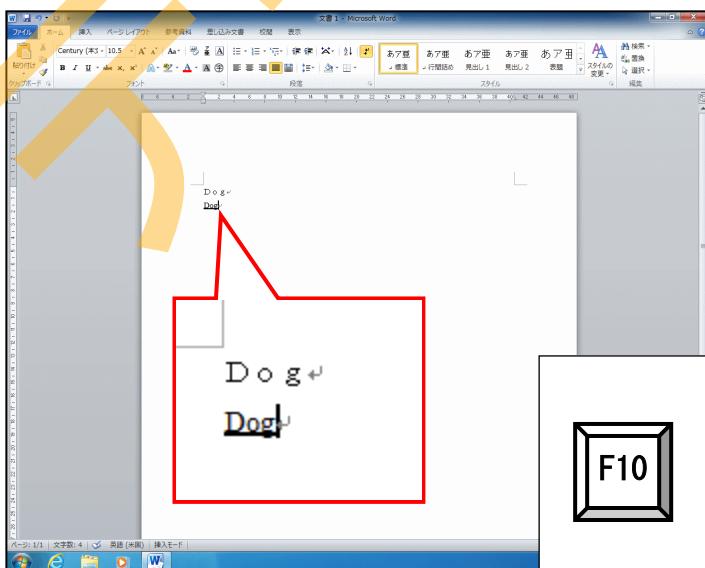
再度 [F10] キーを押します。



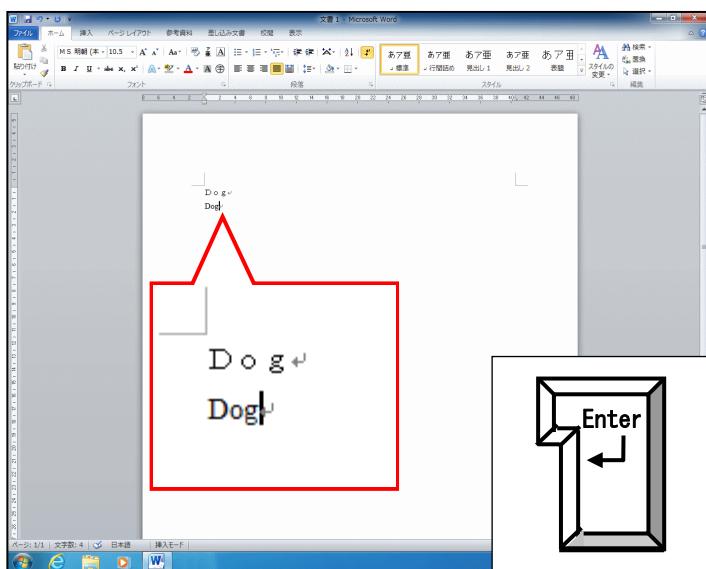
余裕があれば読んでね

- 1回 [F10] を押すと…dog
- 2回 [F10] を押すと…DOG
- 3回 [F10] を押すと…Dog
- 4回 [F10] を押すと…dog

再度 [F10] キーを押します。



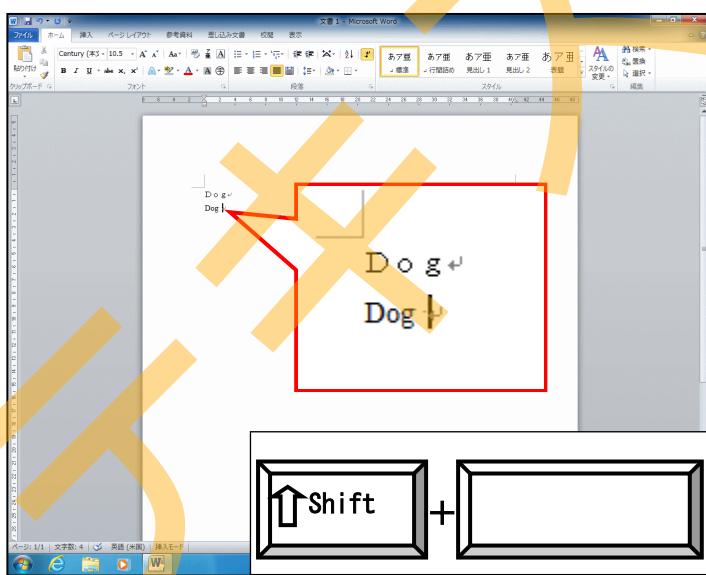
エンター
[Enter] キーを押して文字を確定します。



⑤ 数字の入力

半角スペースを入力し、半角数字で「159」と入力してみましょう。

シフト
[Shift] キーを押したままの状態で、[スペース] キーを 1 回押し、半角の空白を入力します。

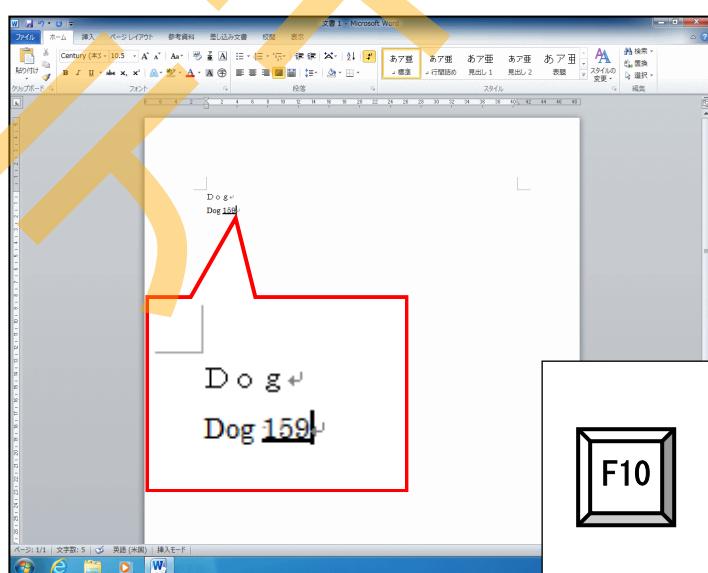
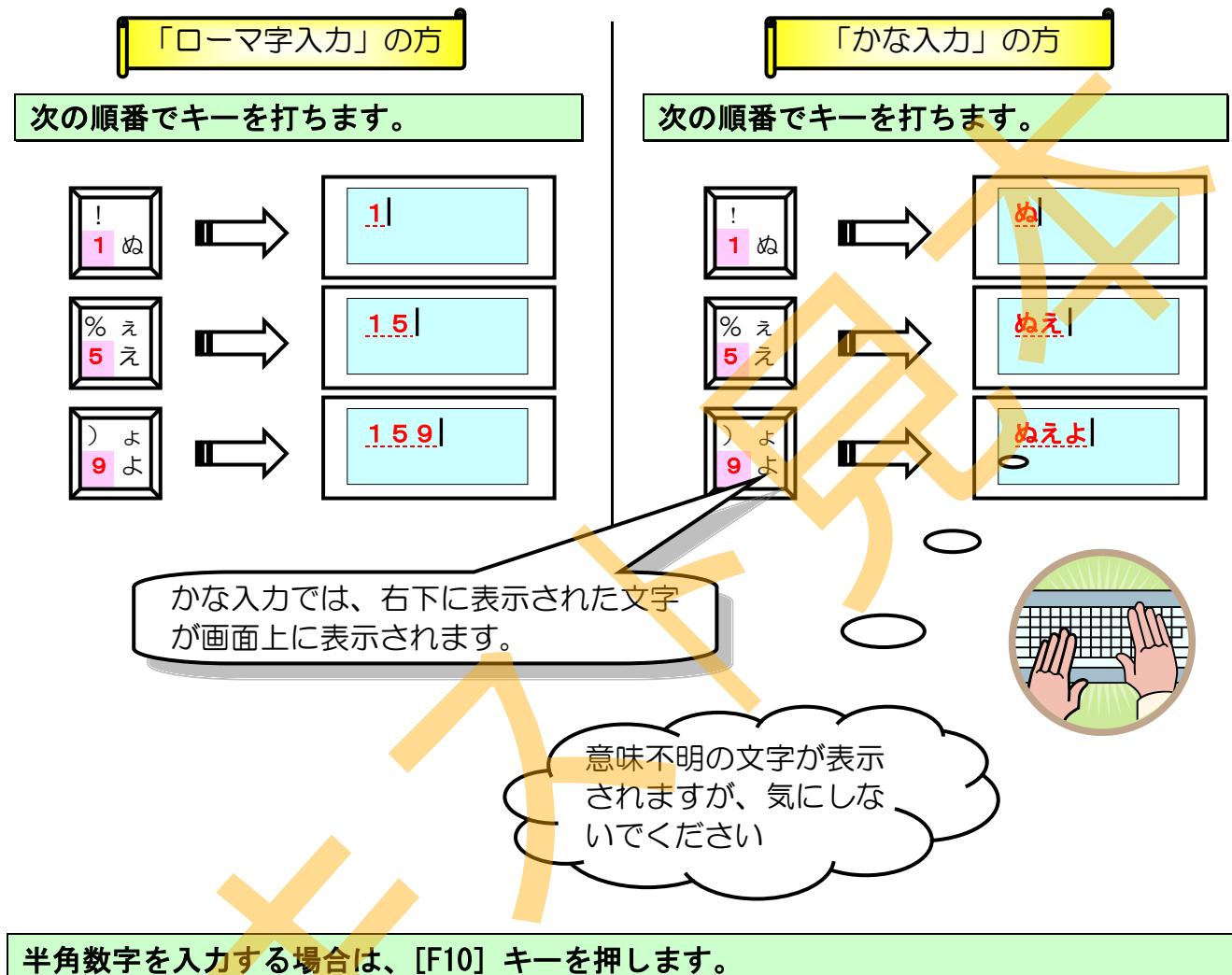


● シフト
[Shift] キーを押したまま、[スペース] キーを押すと半角スペースが入力されます。



ここでは、数字を入力する方法を説明しています。

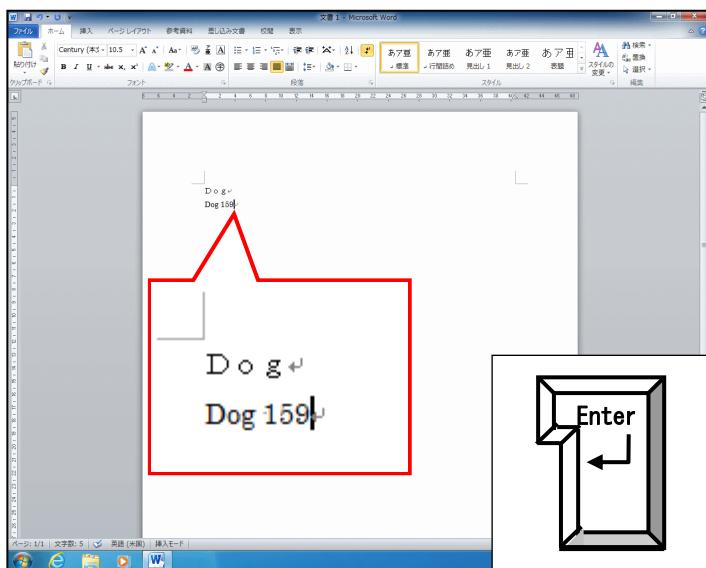
P142 (15) ①で述べたとおり、数字にも全角数字と半角数字の2種類があります。変換の仕方は英字と同じなので英字の変換をマスターされた方は、簡単に操作できるでしょう。数字も英字と同様で [F9] キーや [F10] キーを使います。半角英字「Dog」の後に、半角数字で「159」を入力してみます。



● ここからは、ローマ字入力、かな入力とも同じ操作です。

● 全角数字を入力する場合は、[F9] キーを押します。

エンター
[Enter] キーを押して文字を確定します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除します。

ご参考までに

デスクトップパソコン、ノートパソコンの一部には、通常右の方にテンキーという数字ばかりが電卓のように並んだキーがあります。ここを使うと簡単に数字が入力できます。このキーは電卓の並びとほぼ同じ並びになっているので、電卓を使い慣れた人にとっては重宝します。

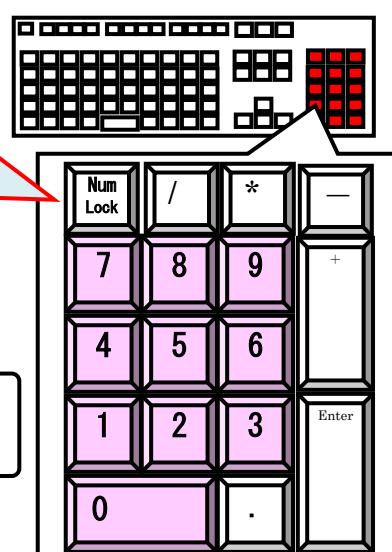
通常、このテンキーを使って入力した数字は半角数字が入力されます。それとは反対にキーボードの上に並んだ数字キーは、全角数字が入力されます。

それぞれ [F9] キーや [F10] キーで変更することができます。

テンキーを押しても数字が表示されないときは、[NumLock]
キーを押すと入力できる状態になります。

ノートパソコンの場合は、[Fn] キーを押した状態で [Num]
キーを押します。パソコンによって多少異なりますので、
インストラクターにお尋ねください。

ノートパソコンで、テンキーが付いていないタイプのものは、必要であれば、テンキーのみを購入することも出来ます。



☆☆ここまでくれば、練習問題8で理解度を試してください。☆☆

(16) 特殊文字の入力

特殊文字ってどんな文字なのかしら？

ウメさん「特殊文字ってどんな文字なのかしらね？」



くじら先生「特殊文字とは、このテキストでこれまで習ってきた文字以外の文字をいいます。

文書を作成する上で、『○』『△』『□』などは頻繁に使うと思いますが、いかがでしょうか？」

ウメさん「そうですね。たぶん文書を作成する機会が増えてくると、使いたい文字もたくさん出てくると思います。」

くじら先生「これらの文字がパソコンでは文字として登録されていますから、簡単に表示することができるのです。」

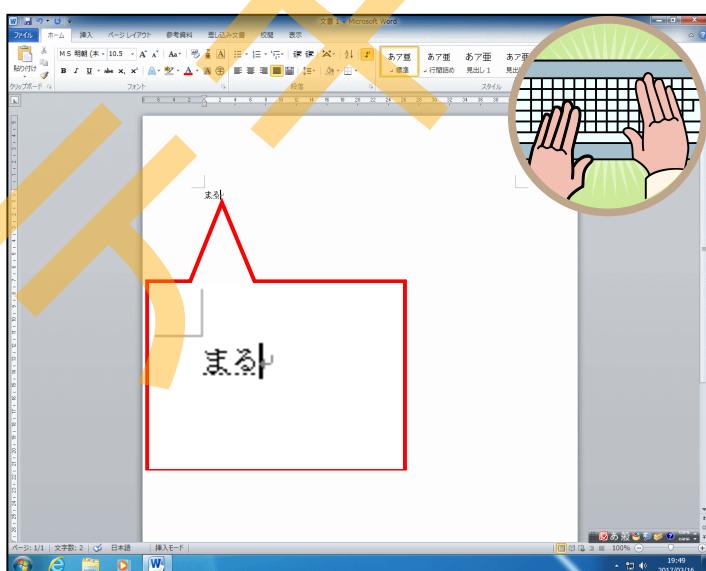


パソコンには、いろいろな特殊文字（記号）が記録されています。これらの特殊文字を画面上に表示させるためには、ちょっとしたコツがいります。といっても難しくはありません。パソコンをいろいろと触っているうちに自然に覚えられる程度ですから安心してください。

① 記号の入力

「○」という記号を入力してみましょう。

「まる」とひらがなで入力します。

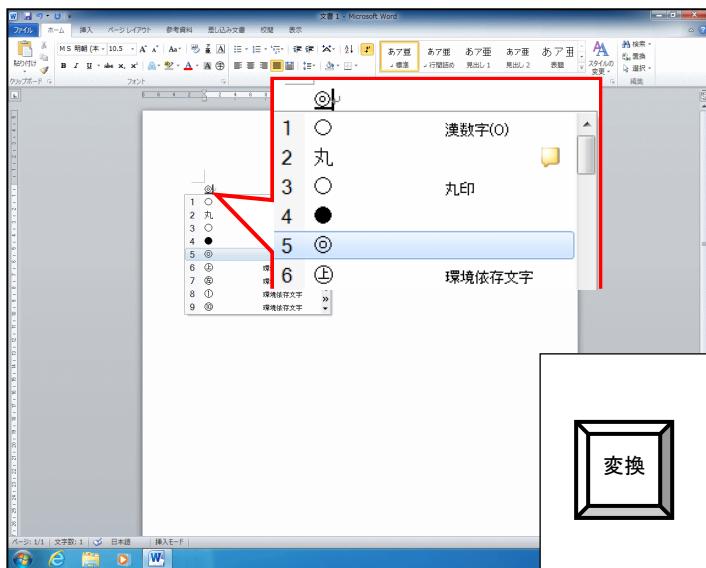


注意!

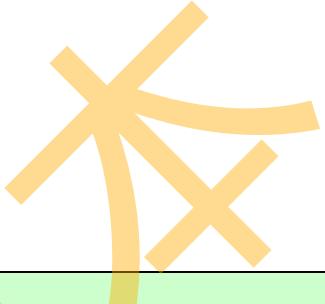
- この方法は簡単に目的の文字が表示できて便利ですが、文字の「読み」が分からないと入力することができません。



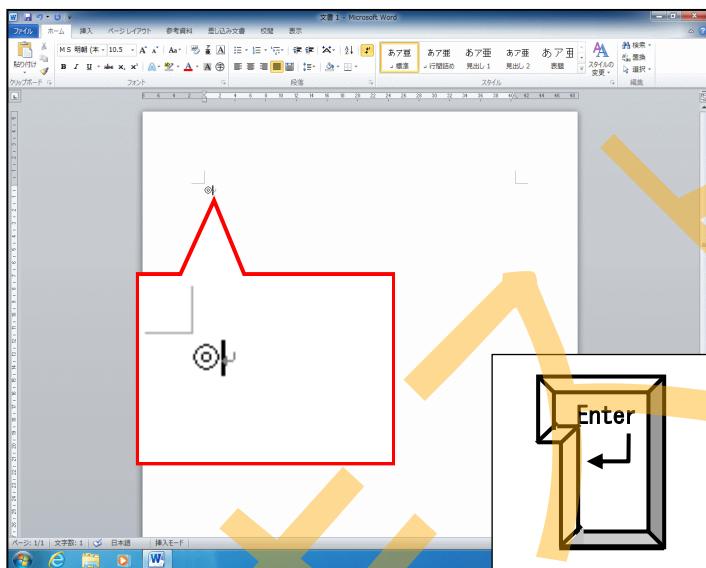
「◎」が反転表示されるまで [変換] キーを押します。



● 「まる」に該当するものだけが表示され、「まる」に関係ない記号は画面に表示されません。



「◎」が反転表示されたところで [Enter] キーを押します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除します。



② 特殊文字の読み方

下表に記号の例を示しましたので、ご自分で「読み」を入力して目的の記号を表示してみましょう。

読み	入力できる記号
かっこ	() [] {} <> «» 「」『』【】
きごう	± × ÷ ≠ ≤ ≥ ∈ ⊖ ⊚ ⊔ ⊖ ⊖ ~ ⊐ ⊑ ⊒
たんい	°C ¥ \$ ¢ £ % ワツ ミリ ドル キロ mm km m ² mg
けいさん	+ - ± × ÷ = ≠ < > ≤ ≥
ずけい	☆ ★ ○ ● ◎
おなじ	ヽ バト バリ 全々
まる	○ ● ○ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭
やじるし	↑ ↓ ← → ⇔ ⇒
かぶしきがいしゃ	(株) (株) KK
ゆうげんがいしゃ	(有) (有)
ほし	☆ ★ ※
でんわ	TEL
へいせい	誠
しょうわ	暁
たいしょう	大正
めいじ	明治
おす	♂
めす	♀
るーと	√
むげんだい	∞
おんぱ	♪
ゆうびん	〒
から	～

これ以外にも、いろいろと読み方はありますからチャレンジしてみましょう。

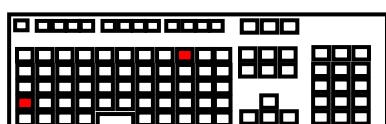
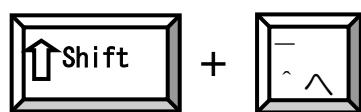
ご参考までに

特殊文字の補足説明

P216

「～」の入力方法

上記の例では、「から」と入力して、[変換] キーを押すことで入力するように記載していますが、[Shift] キーを押してひらがなの「へ」キーを押すと一発で「～」を表示することができます。



※…かな入力の方は、「F9」キーを押す必要があります。

(17) 句読点やかっこなどの入力

次のキーを使って句読点やかっこなどを打ちます。

■ローマ字入力の場合

使用するキー	入力される記号	入力方法
	、(読点)	そのまま打ちます
	。(句点)	そのまま打ちます
	・(中点)	そのまま打ちます
	ー(長音)	そのまま打ちます
	「(開きかっこ)	そのまま打ちます
	」(閉じかっこ)	そのまま打ちます

■かな入力の場合

使用するキー	入力される記号	入力方法
	、(読点)	Shiftキーを押したまま打ちます
	。(句点)	Shiftキーを押したまま打ちます
	・(中点)	Shiftキーを押したまま打ちます
	ー(長音)	そのまま打ちます
	「(開きかっこ)	Shiftキーを押したまま打ちます
	」(閉じかっこ)	Shiftキーを押したまま打ちます
	・(濁点)	かな文字キーの後で打ちます
	。 (半濁点)	かな文字キーの後で打ちます

(18) 変則的な入力文字

ローマ字入力では、入力される記号が変則的なキーがあります。F9、F10 キーを使って本来の記号に戻すことができます。

入力キー	入力される記号	F9 (全角)	F10 (半角)
{ 『 』 °	「	〔	[
} 』 む	」	〕]
< 、 ね	、	,	,
> 。 る	。	.	.
? / め	・	/	/

普通の文字は、単独で押すとキー左下の文字が入力されます。これらのキーは右上の文字が入力されます。

ここまで終わると、ひらがな、漢字、カタカナ、英字、数字、記号・特殊文字の6種類すべての文字の入力方法が理解できたと思います。これでやっと、パソコンを使って文書を入力する基礎の部分がマスターできたわけです。これまでと同じ要領でコツコツと学習を積み重ねていくことにより、いろいろなことをマスターしていきましょう。

☆☆ここまでくれば、練習問題9で理解度を試してください。☆☆

7. 文章の入力

ここまででは、単語単位で変換して文字を入力してきましたが、ここからは文節で区切って変換することにチャレンジしてみましょう。その後、1つの文章を入力し終わってから変換してみましょう。

(1) 文節を変換する

やっとここまで来たぞ、もう少しで文字入力も終わりだね！

パパさん「やっとここまで来たぞ、いろいろ入力できるようになって
もう少しで文字入力も終わりだね！」

ママさん「そうね、もう少しね！」

くじら先生「そうですね。ただ、このテキストでは一番難しい部分です。
みなさん、その時は理解されるのですが、すぐ忘れてしまいます。
絶対にマスターしてください。とは言いませんが、極力覚えて
ほしいところです。」

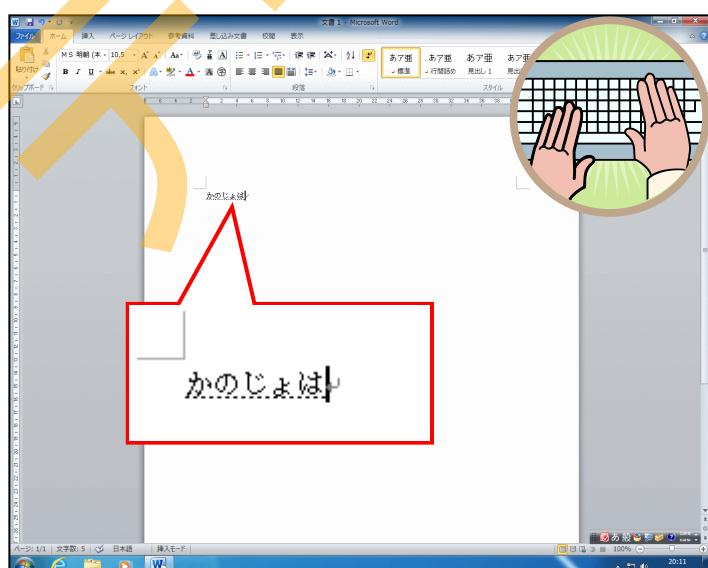


下の文章を作成しますが、「文節の入力」「変換」という1つの操作を繰り返し、1つの文章に仕上げていきましょう。文節とは、文章を意味がわかる程度に区切ったものをいいます。

彼女は明るい社会人です。

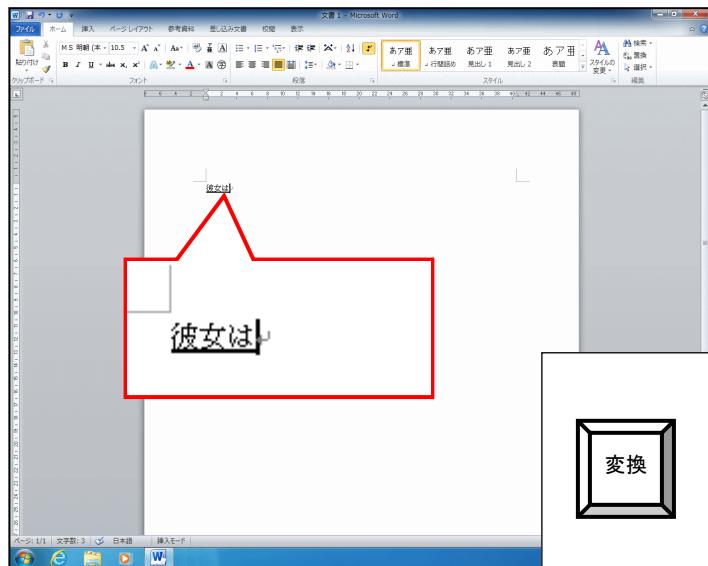
文節ごとに区切ると
「彼女は」 「明るい」 「社会人です。」

「かのじょは」と入力します。

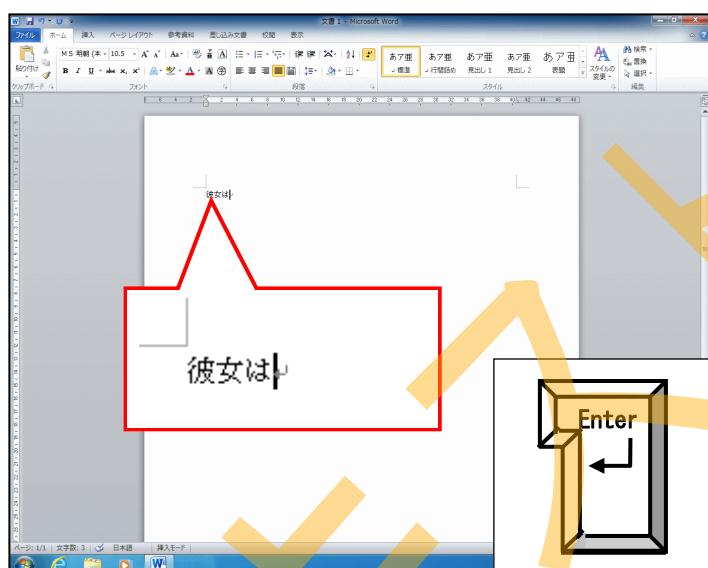


●文節の区切りの「かのじょは」まで
を入力します。

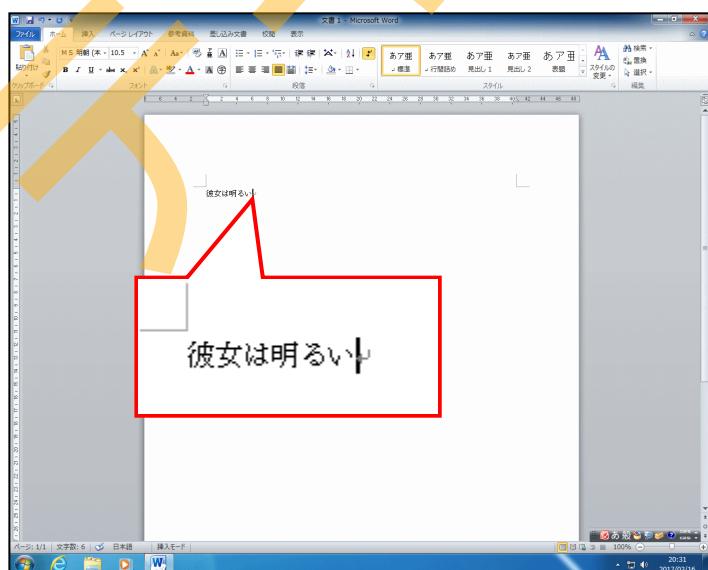
[変換] キーを押します。



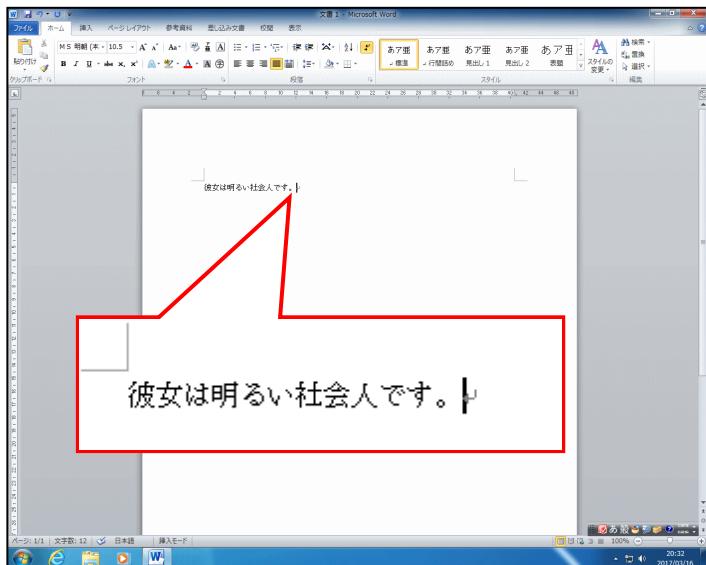
[Enter] キーを押して、文字を確定します。



次は「あかるい」と入力して「明るい」に変換し、確定します。



次は「しゃかいじんです。」と入力して「社会人です。」に変換し、確定します。



文字の確定を省略する方法

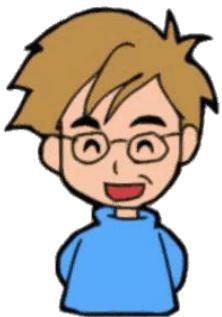
P217

次の操作のために入力した文字をすべて削除します。

話し言葉の中で確認する意味で使う「ね」を入れてみると、文節の切れ目がわかりやすくなります。

彼女は（ね）明るい（ね）社会人です。（ね）

文字入力に慣れるまでは1つ1つの文節を丁寧に変換していくましよう。少し慣れてくると、いくつかの文節をつなぎ合わせて一度に変換できるようになります。



☆☆ここまでくれば、練習問題10で理解度を試してください。☆☆

(2) 文章を変換する

なんだか、今度のは難しそうなんだけど、大丈夫かな？

ママさん「今度は1回1回文字を確定しながら文章を入力する方法ではないのね！」

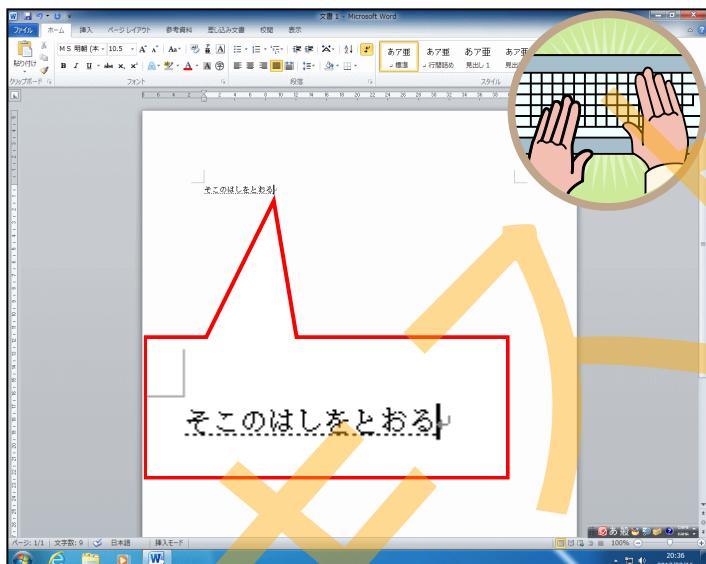


パパさん「一気に文章を入力すると、下に細い線やら太い線が出てきてこれをどうにかするみたいだけだなあ～。」

くじら先生「パパさんのおっしゃる通り、その細い線やら太い線がパソコンが判断した区切りで、文節の区切りといいます。日本語は同じ言葉でも色々な意味にとれる言葉がたくさんあります。そこで私たちがどの言葉が正しいかを、文節を区切ることによってパソコンに教えながら、変換していかなければなりません。」



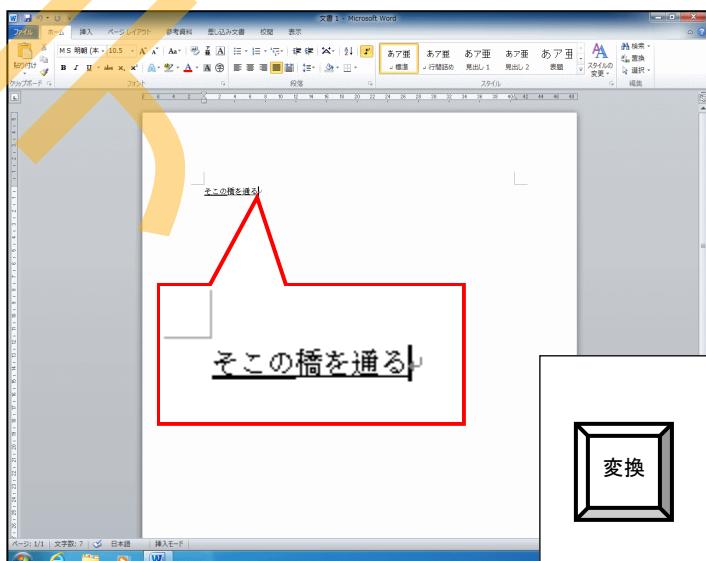
「そこのはしをとおる」と入力します。



注意!

- エンター [Enter] キーを押してしまうと、文字が確定してしまうので、エンター [Enter] キーを押さないようにしましょう。

[変換] キーを1回押します。

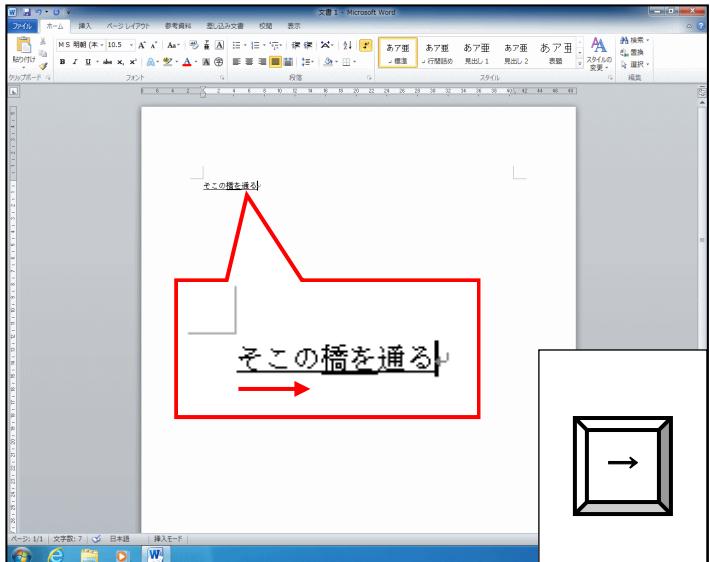


- 一度 [変換] キーを押したところで、パソコンが認識した文節の区切りが分かるようになっています。太い実線の部分が変換の対象です。線と線の切れ目が、パソコンが認識した文節の切れ目です。

注意!

- 細い実線のところを変換するには、そこを変換の対象に指定してから [変換] キーを押す必要があります。

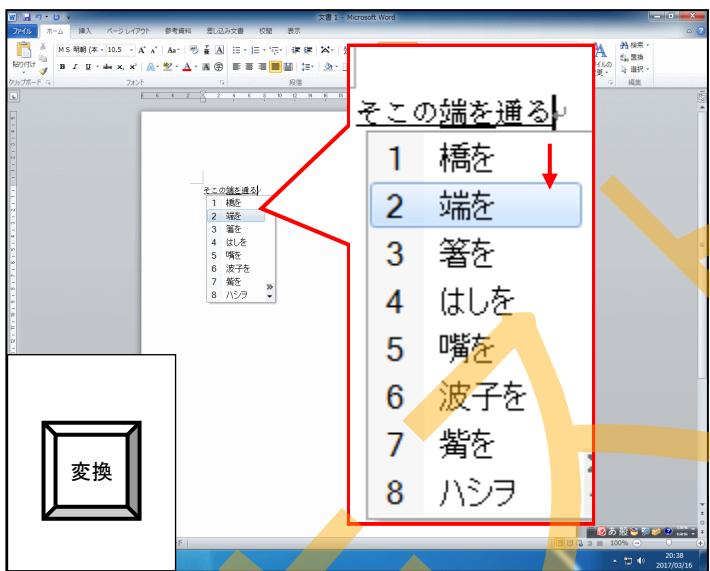
[→] キーを1回押して変換の対象を「橋を」に移動します。



● [→] キーを押すことで、変換の対象になっている文節を右に移動します。

● 「端」が最初から表示されている方は、3段目にお進みください。

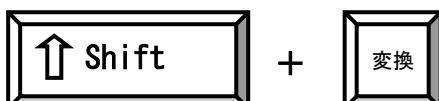
目的の文字が表示されるまで [変換] キーを押します。



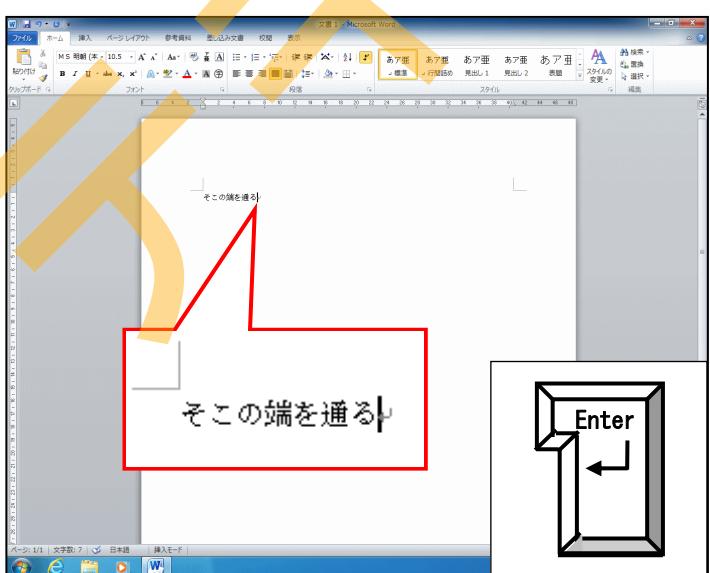
● [変換] キーを押すと、変換の候補を下に移動します。

余裕があれば読んでね

● 変換の候補を上に移動したい場合は、[Shift] キーを押した状態で [変換] キーを押します。
また、[↑] キーを押しても上に移動することができます。



[Enter] キーを押して文字を確定します。



注意!

● よく1つの文節が正しく表示されたところで [Enter] キーを押してしまいますが、これでは入力した文字がすべて確定してしまいます。

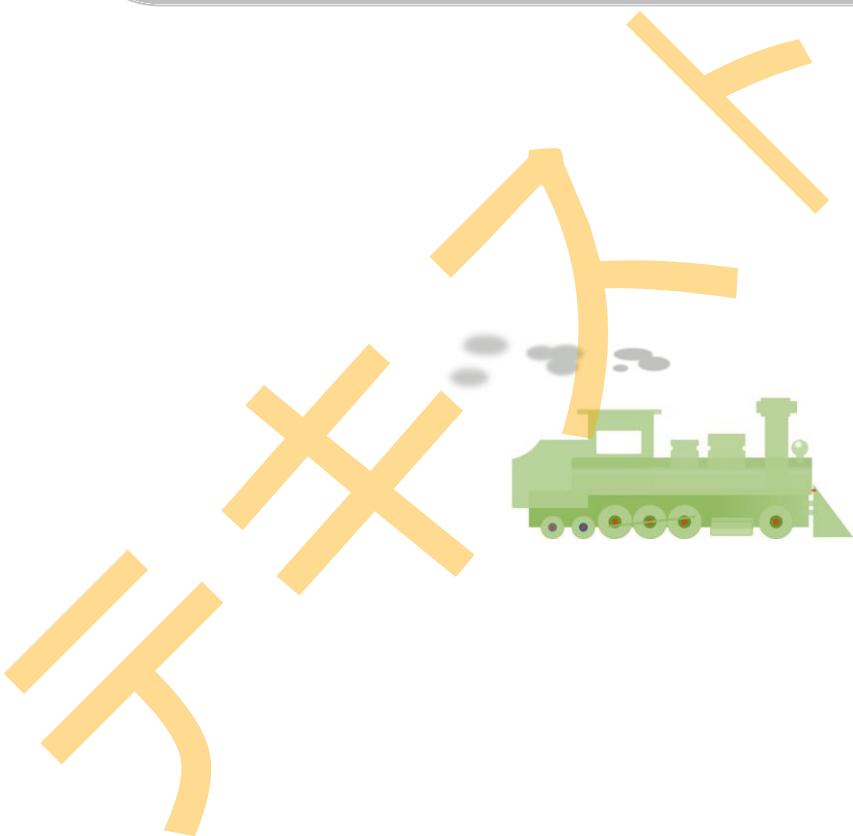
● [Enter] キーを押すタイミングは、すべての文字が正しく表示された後です。

次の操作のために入力した文字をすべて削除します。

文節ごとに変換することは、最初難しいと思われるかもしれません。でも慣れてくるとそんなに難しいものではありません。私だって理解できたのだから…パソコンを使うには、文節ごとに区切って変換しないといけないと思わないでください。自分が区切りたいところで区切って変換すればいいのですから。ただ、少しでも早く文章を入力したい方は、文章ができるだけ長く打ってから変換すると、パソコンは前後の文章を判断して最適な文字を表示してくれるようになっているため、長く入力してから変換するように心がけた方がいいのです。単語ごとに変換して文字を入力することがいけないわけではありませんし、私はそれで十分という方は、無理やり覚える必要はありません。

(難しいと思う方へ)

「そこの」を入力 [Enter]、^{エンター}「はしを」を入力 [変換] + [Enter] + ^{エンター}「とおる」を入力 [変換] + [Enter]、これで十分です。



☆☆ここまでくれば、練習問題11で理解度を試してください。☆☆

(3) 文章を予測して入力

なんか、わしたちには秘密兵器みたいな機能じゃの～。

タケさん「今度のは、わしたちのために作ってくれた機能じゃの～。」



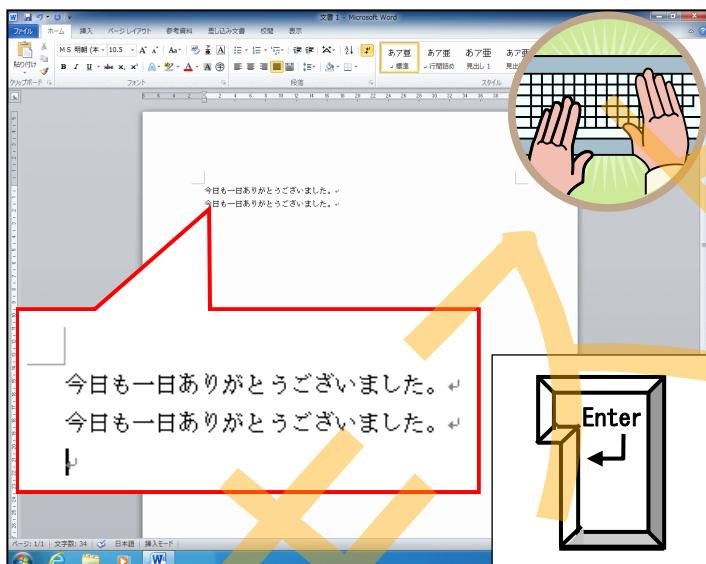
ウメさん「そうですね。わたしたちは打つのが遅いから、考え出してくれたんじゃないですかねえ～。」

くじら先生「パソコンに不慣れな人たちが少しでも使いやすくなるようにマイクロソフトが考えたのかもしれませんね。ただ、まったく同じ文章を入力することはあまりありませんから、使って便利な機能かどうかは疑問ですね。」



以前に入力した文字列をもう一度入力すると、2～3文字入力するだけで、自動的にパソコンが予測して、すべて文字を入力しなくても入力することができます。

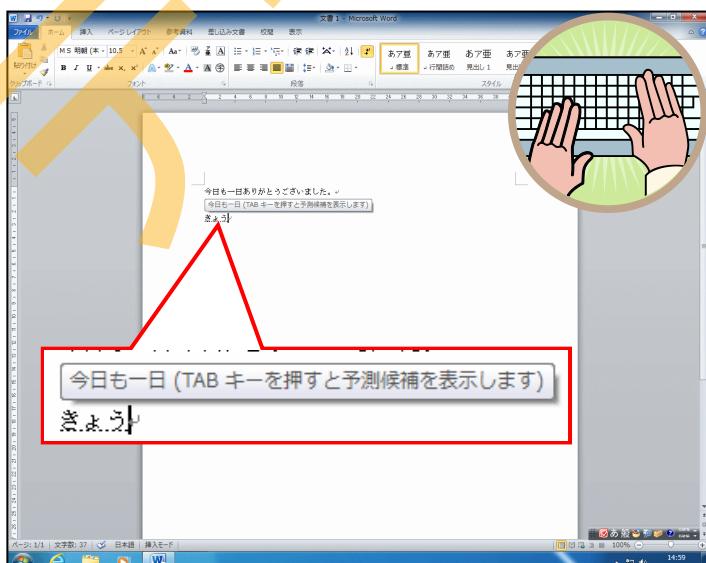
「今日も一日ありがとうございました。」を2行入力し、改行しておきましょう。



● 単語だけで変換してしまうと、テキストと同じように予測してくれないため、「今日も一日ありがとうございました。」と入力してから変換するようにしましょう。

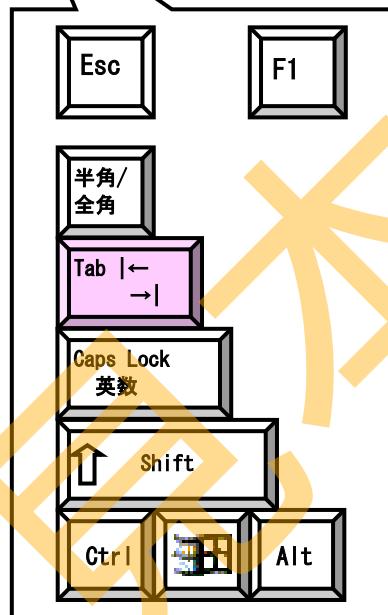
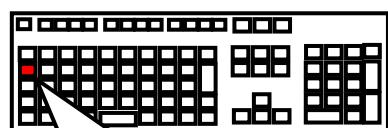
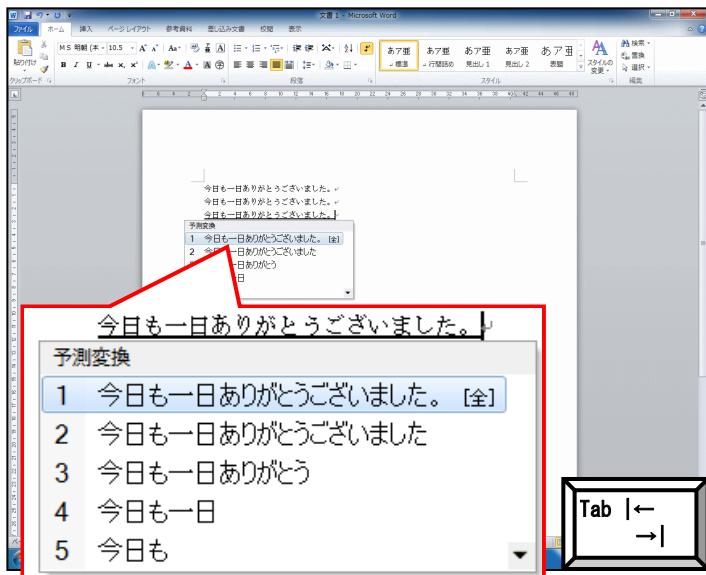
● 文章が1行だけだと予測できないため、2行入力しましょう。

「きょう」を入力します。

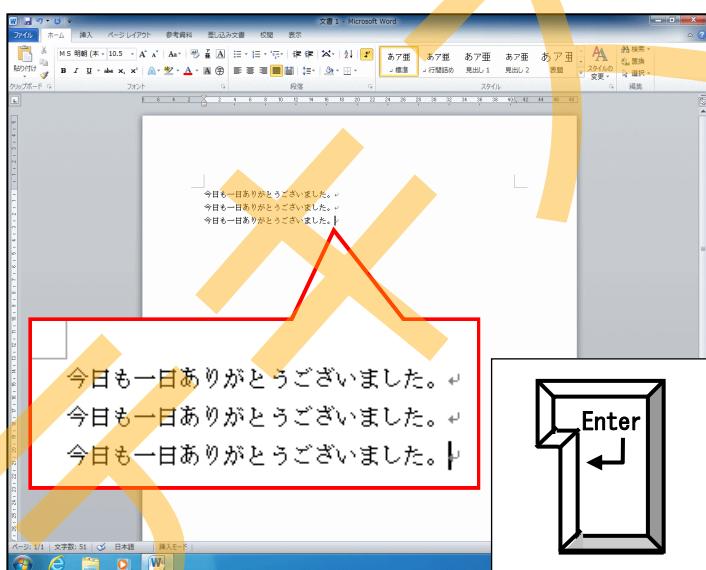


● 「きょう」を入力すると、左のように「今日も一日 (TABキーを押すと予測候補を表示します)」と表示されます。もし、同じように表示されない場合は、もう一度最後まで入力してから改行し、同じように試してみましょう。

タブ [Tab] キーを押します。



先ほど入力した「今日も一日ありがとうございました。」が水色に反転表示されていることを確認し、[Enter] キーを押して文字を確定します。



- エンター [Enter] キーを押すと、最後まで入力しなくても1行目に入力した文章をパソコンが覚えているので最後まで入力できます。

次の操作のために入力した文字をすべて削除しておきましょう。

(4) 文節の区切りを変更する

こんな機能、わたしたち覚える必要があるのかしら？

ウメさん「こんなのわたしたち、覚える必要があるのかしら？」



タケさん「そうじゃのお～。わたしたちは1つ文節を入力しては変換するという方がいいと思うんじゃがのお～。」

くじら先生「文節で区切ったからと言って、パソコンが認識する文節と同じとは限らないのです。たとえば、下の例でいくと、ウメさんやタケさんは『いま』で区切って変換しますよね。でも、パソコンは『い』と『ま』を別々に区切ってしまう可能性だってあります。そのような時は、文節の区切りを正してやらないとわたしたちが思ったように変換してくれません。おふたりとも頑張って、チャレンジしましょう。」



入力したい文字が「今歯医者に着いた」だったのに、「今は医者に就いた」と表示されてしまうことがあります。このようなことは、変換するときの文節の区切りが、自分が思ったものとパソコンが思ったものが食い違ったために起こります。

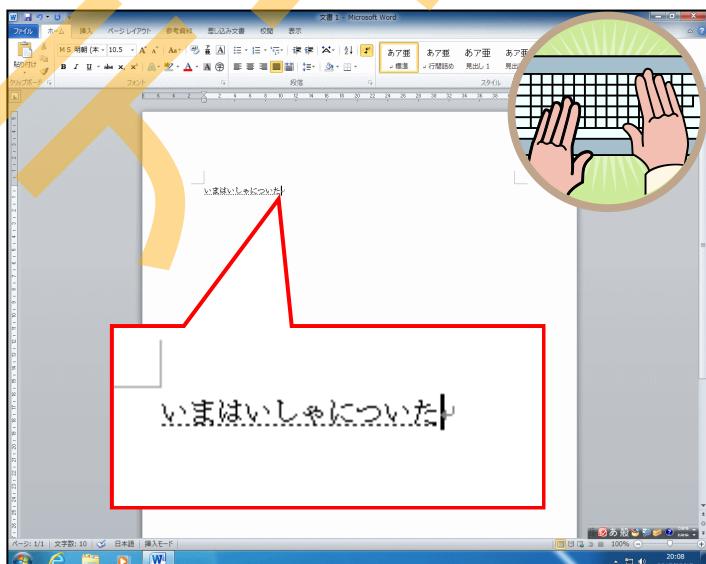
文節ごとに変換するときのポイント

パソコンが認識した文節と違う区切りで変換したい場合は、正しく文節を区切りなおしてから再度変換することです。

区切る場所が違うとこのように変換される

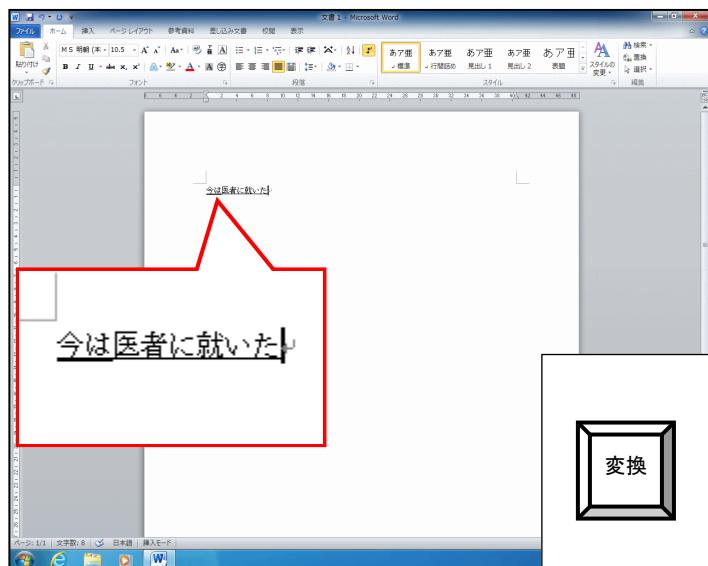
今	歯医者に	着いた
今は	医者に	就いた

「いまはいしゃについた」と入力します。



- [Enter] キーを押してしまうと、文字が確定してしまうので、[Enter] キーを押さないこと！！

[変換] キーを 1 回押します。

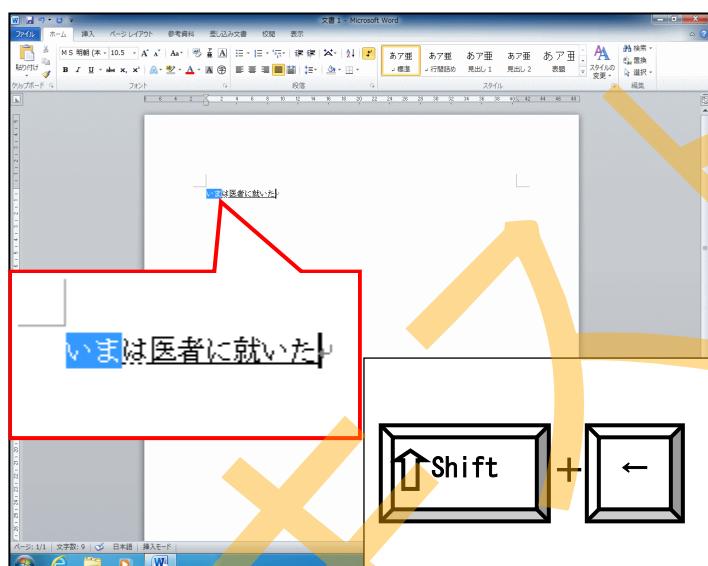


- 左の場合、「今は」、「医者に」、「就いた」がパソコンが認識した文節の区切りを表しています。

そして、「今は」だけが太い実線になっているのは、「今、変換の対象になっているのが、この文字ですよ」と教えてくれている証拠です。



文節の区切りを「今」に変更するため、[Shift] キーを押した状態で、[←] キーを 1 回押します。



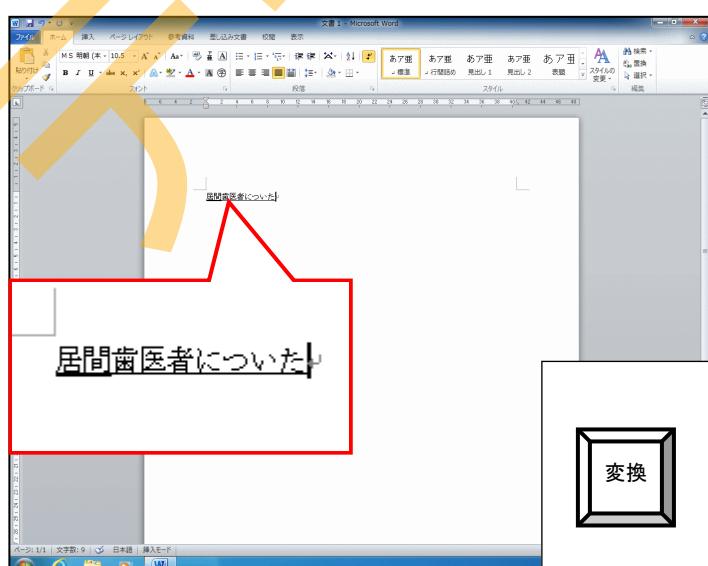
- 反転表示された部分が、文節の区切りです。

「いまは」から「いま」に文節の区切りが変更されたことを表します。



- [→] キーや [←] キーは、必ず [Shift] キーを押したまま押さないといけません。

「いま」が反転表示されたことを確認して、[変換] キーを押します。



- 反転していた文字の下に太い実線が入りました。変換の対象が「居間」に変わったことを意味します。表示されている文字が「居間」と同じとは限りません。

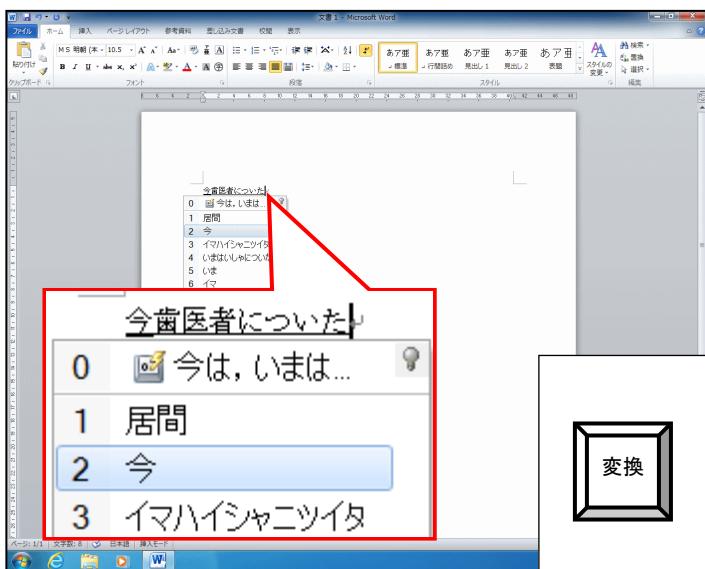
今は医者に就いた

変更後

居間歯医者についてた

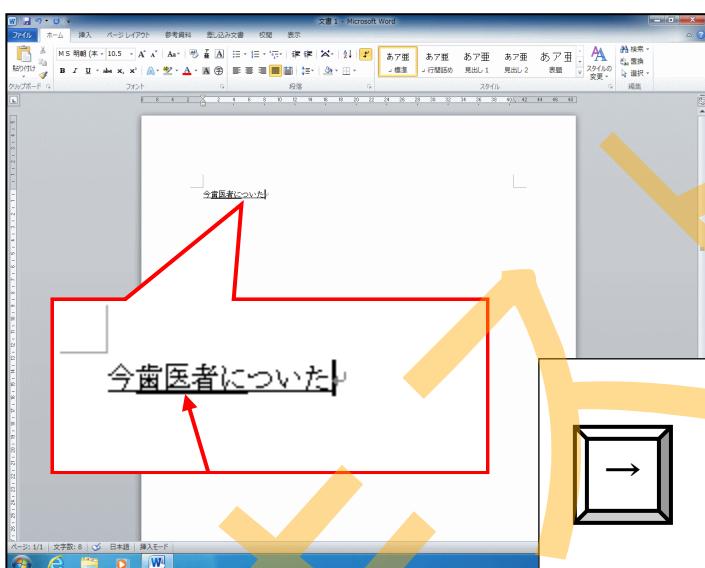
変更前

「今」が反転表示されるまで [変換] キーを押します。



- 何回 [変換] キーを押すかはわかりません。1回で表示されるかもしれないし、2、3回押さないといけないかもしれません。

「今」が反転表示されたところで、[→] キーを押します。

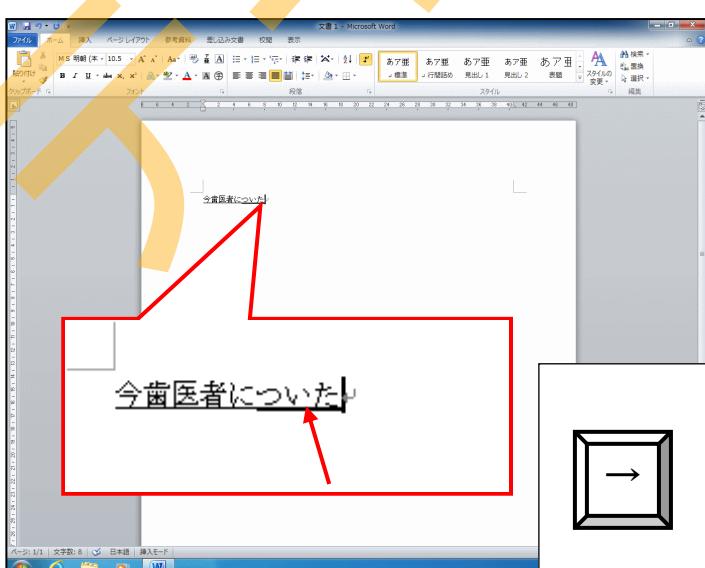


- [→] キーを押すと、左のように変換の対象が切り替わります。

注意!
●この状態でよく [Enter] キーを押してしまう方がいらっしゃいますが、[Enter] キーを押すと、すべての文字が確定してしまうので、押さないように注意しましょう。

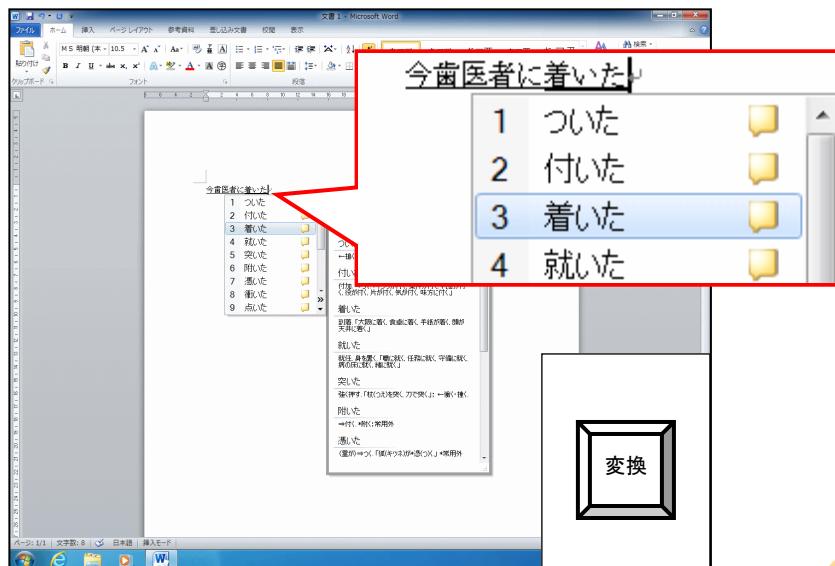


もう一度 [→] キーを押し、変換対象を「ついた」の文節へ移動します。

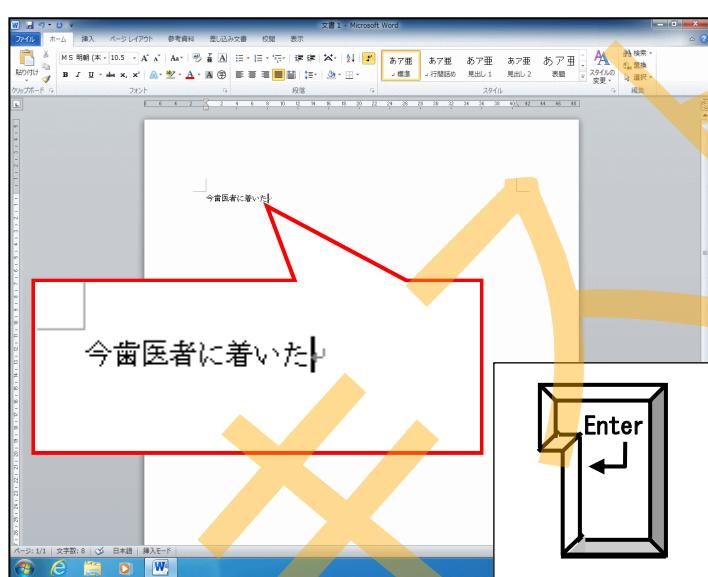


- 「ついた」の文字の下が太い実線になりました。変換の対象が「ついた」に変わったことを意味します。表示されている文字が「ついた」と同じとは限りません。

「ついた」を「着いた」に変換するため、「着いた」が反転表示されるまで [変換] キーを押します。



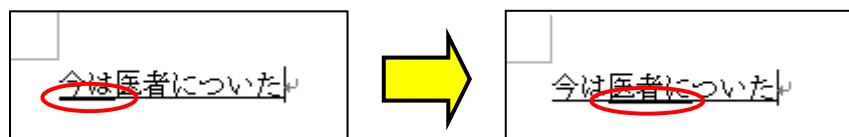
「着いた」が反転表示された時点で、すべての文字が正しく表示されたので、[Enter] キーを押してすべての文字を確定します。



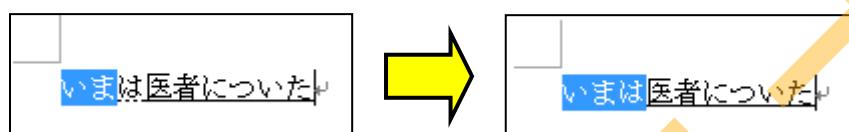
次の操作のために入力した文字をすべて削除します。

文節区切りのまとめ

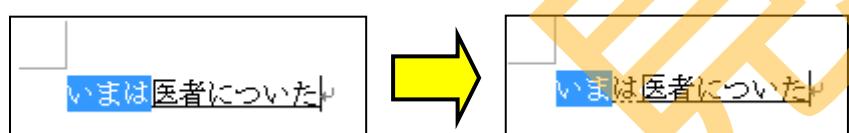
- 文節の移動 …… [→] キーを押す（または [←] キー）



- 文節を伸ばす … [Shift] キー + [→] キー



- 文節を縮める … [Shift] キー + [←] キー



文節の区切りは
日本語入力の基本です。

このテキストの中で一番難しいところです。
理解できないと落ち込みます、パソコンを楽しみましょう。

☆☆ここまでくれば、練習問題12で理解度を試してください。☆☆

(5) 文字の入力中に誤字に気づいたら

打つのが遅いから、たくさんの文字を消すだけは避けたいわね。



ウメさん「わたしたち、打つのが遅いからせっかく打った文字をたくさん消すことだけは避けたいわね。」

タケさん「20文字も30文字も打った後で、文字を消すとなると10分以上かかるてしまうなあ～。ここは、自分が楽をするためにもよくマスターしておかないと困るなあ～。」

くじら先生「おふたりとも、楽をしたいならマスターしてくださいね。
ポイントは変換前の状態にして、間違った文字までカーソルを移動させる操作にあります。」



文字の確定前に誤字・脱字に気づいたとき、大部分の方は間違ったまま一度文字を確定して、間違った文字まで [Back Space] キーで削除して正しい文字を入力されています。これでも間違いではありません。しかし、せっかく打ち込んだ文字がもったいないと思いませんか？ そこで次のことをマスターしてもらえば、少しでも操作が減ります。誤字・脱字に気づいたときが [変換] キーを押す前か、押した後かにより次の2つの方法に分かれます。

[変換] キーを押す前か、押した後かの判断は、次のとおりです。

■ [変換] キーを押す前の状態

ばそこんおかう



■ [変換] キーを押した後の状態

ばそこんおかう



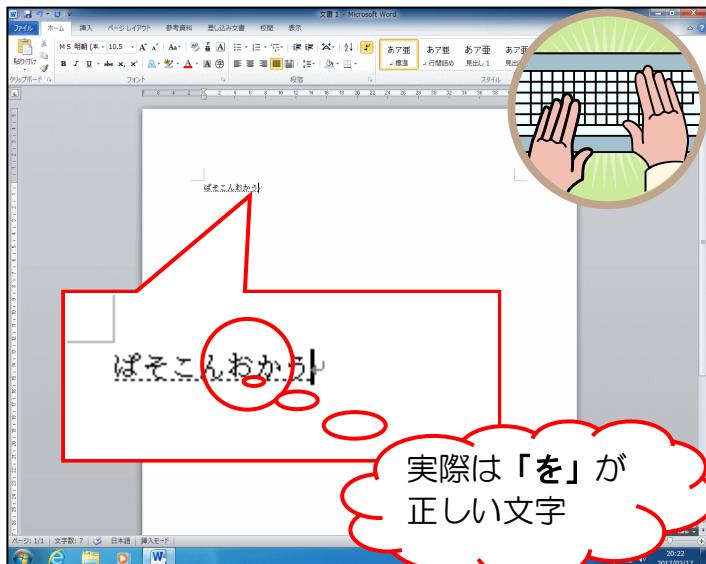
※…画面に同じ文字が表示されていたとしても、下線が実線か点線かにより区別します。

① 変換キーを押す前の修正

【変換】キーを押す前は、入力した文字の範囲内でカーソルが自由に動くため、[←]キーまたは[→]キーでカーソルを移動して、間違った文字を修正します。

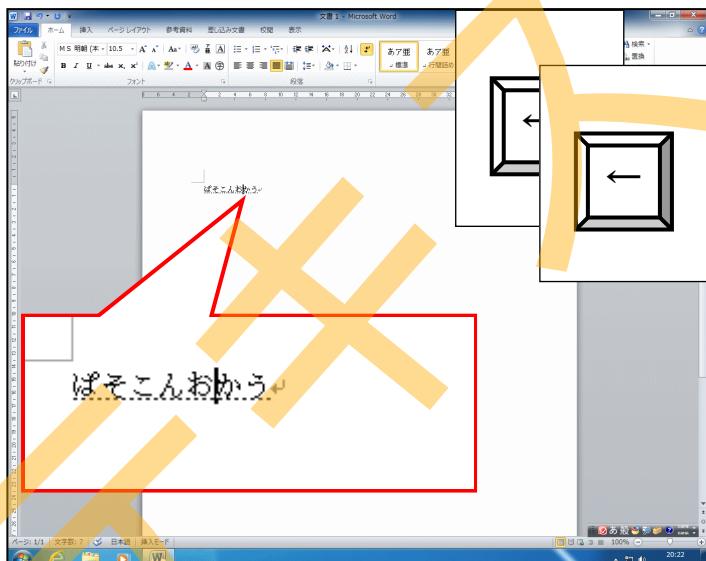
「ぱそこんおかう」と入力して、「ぱそこんをかう」に修正し「パソコンを買う」に変換してみましょう。

「ぱそこんおかう」と入力します。



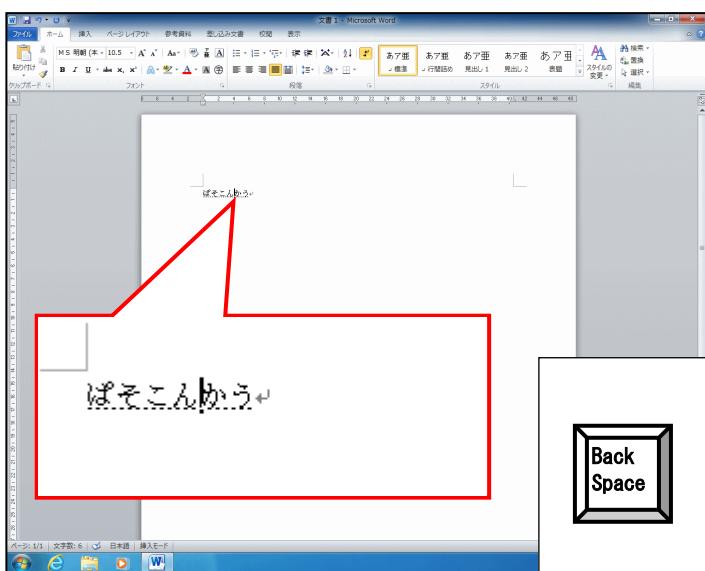
●左に示した誤字は、ローマ字入力の方がよく間違う誤字です。かな入力の方だと、濁点(‘)と半濁点(‘)の押し間違いがよくあります。修正方法はどちらも同じなので、ここでは左のように入力してみましょう。

「お」の後にカーソルを移動するため、[←]キーを2回押します。



●カーソルが別の場所に行っても、あわてず下記のように対処しましょう。
[←]キーを押し過ぎたときは、[→]キーを押して「お」の後にカーソルを戻しましょう。

【Back Space】キーを押して、「お」という文字を削除します。

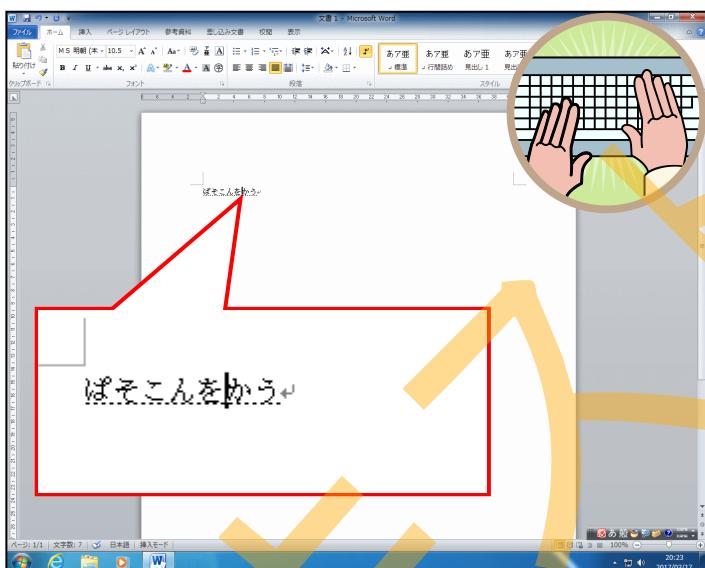


注意!

- 「お」の前にカーソルがある場合には、[Delete]キーで同じように「お」が削除できます。

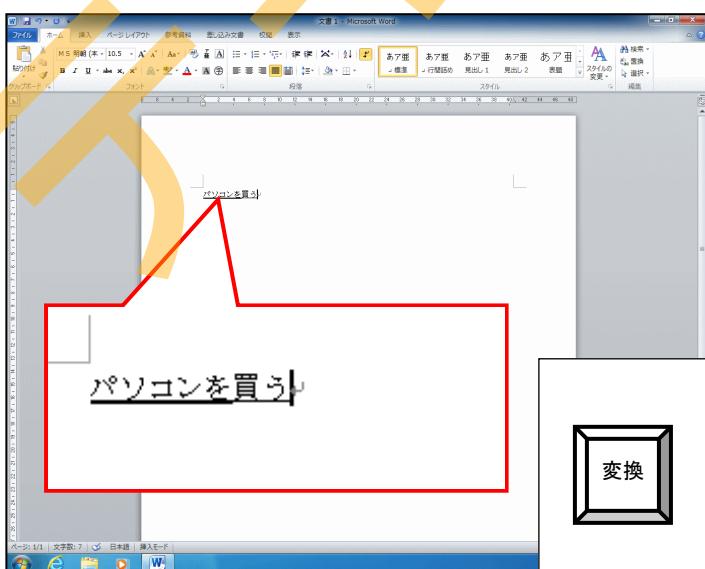
- 【Back Space】キーおよび[Delete]キーの使い分けを忘れた方は P116 (9) 間違って入力した文字の消し方を参照してください。

正しい文字「を」を入力します。



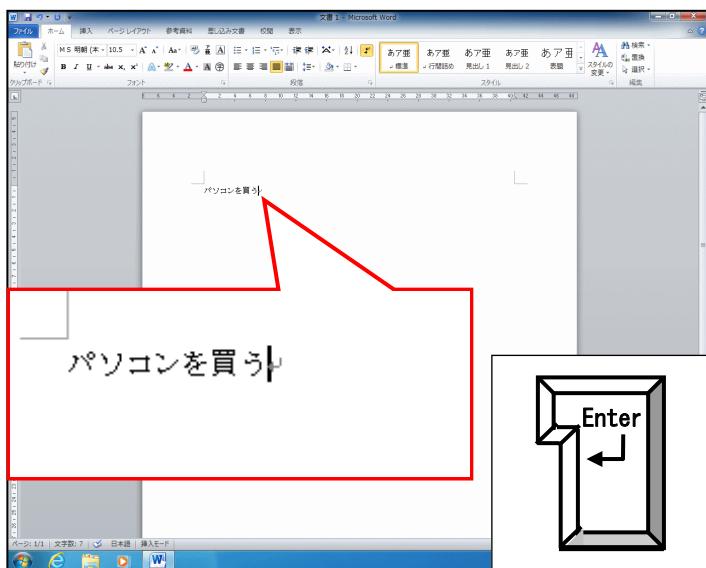
- 「を」という文字を入力すると、今まであった文字が右に移動して入力した文字が挿入されるので、「せっかく入力した文字が消えてしまう」という心配は要りません。

正しく入力できたところで【変換】キーを押して文字を変換します。



- 目的の文字が表示されない場合、文節の区切りと変換を繰り返します。文節の区切りの調整方法について忘れた方は P164 (4) 文節の区切りを変更するを参照してください。

目的の文字が表示されたところで [Enter] キーを押して文字を確定します。



次の操作のために入力した文字をすべて削除しておきましょう。

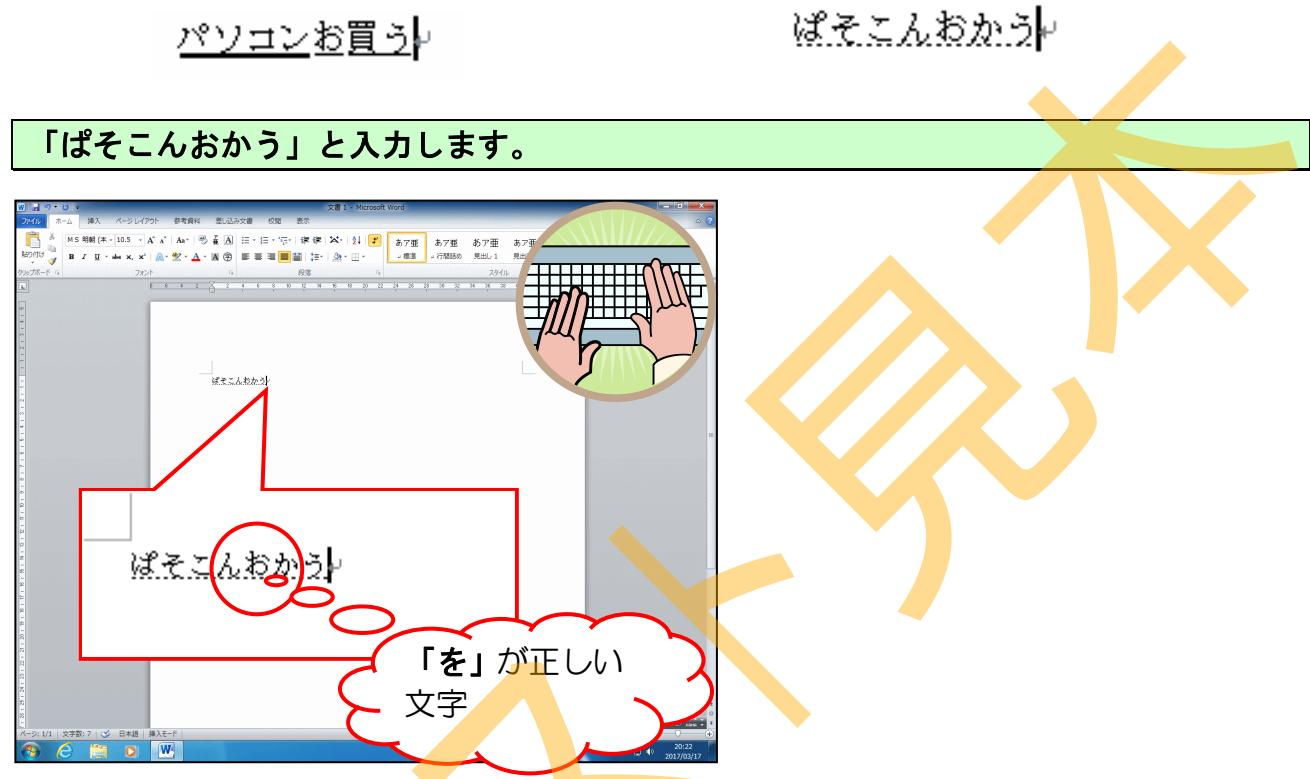


② 変換キーを押した後の修正

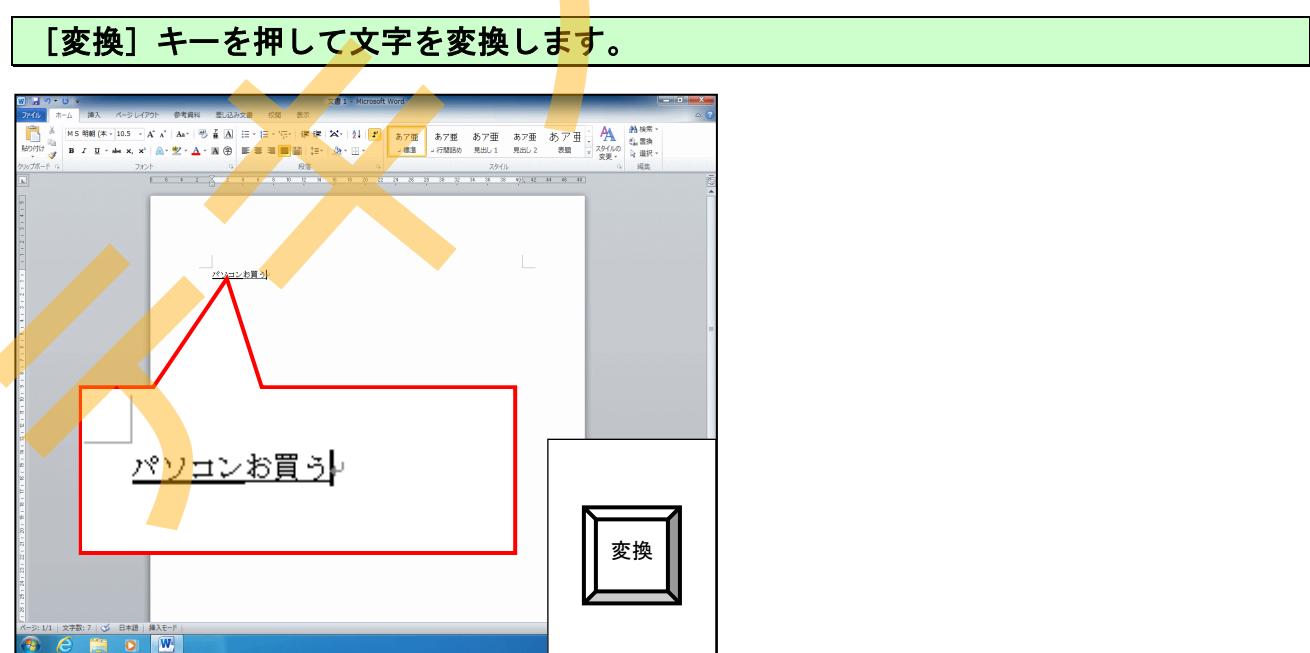
一度、すべての文字を【変換】キーを押す前の状態に戻したほうが修正しやすくなります。(部分的に変換前の状態に戻す方法もあります)

「ぱそこんおかう」と入力して、「ぱそこんをかう」に修正してみましょう。

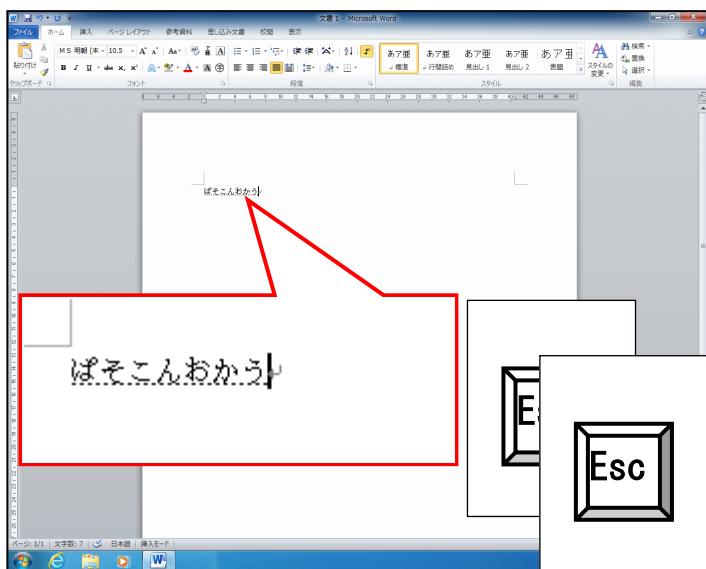
■ [変換] キーを押した後の状態



■ [変換] キーを押す前の状態



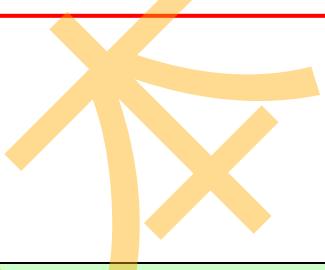
エスケープ [Esc] キーを2回押すと、すべての文字がひらがなに戻ります。



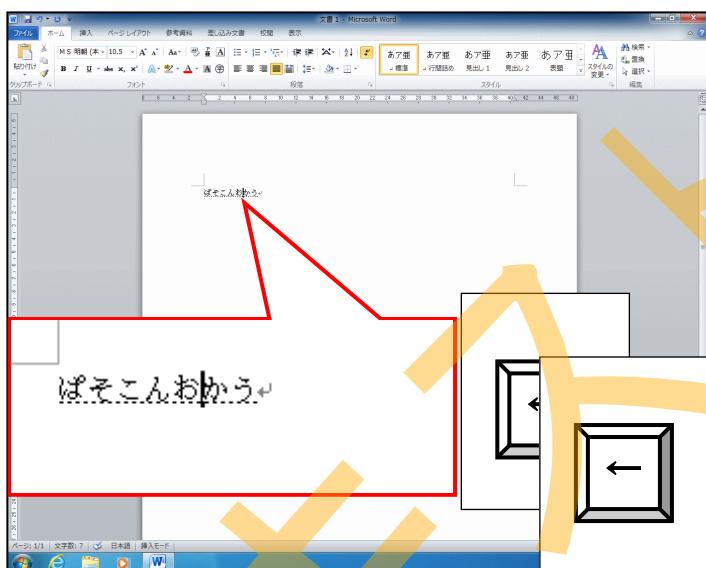
- [Esc] キーを1回押すと、1つ目の文節の区切りが、2回目で全ての文節の区切りがひらがなに戻ります。

注意!

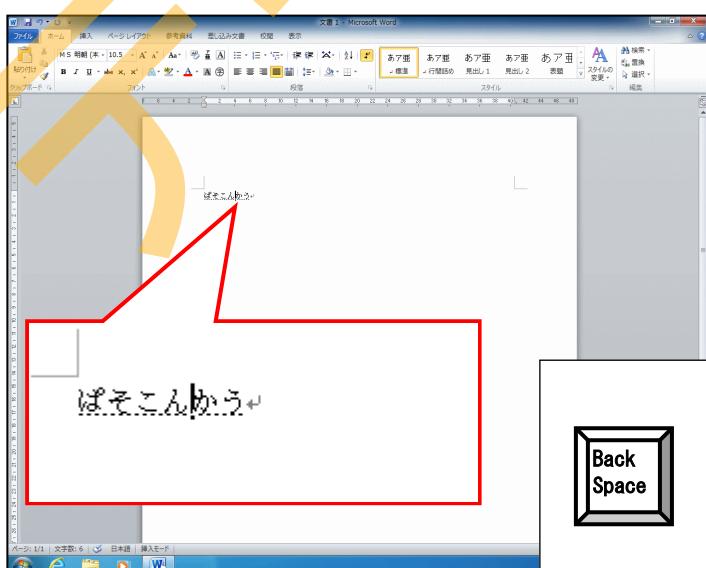
- 3回押すと、文字が消えてしまうので、押し過ぎに注意しましょう。



[←] キーを2回押して、カーソルを「お」の後ろに移動します。



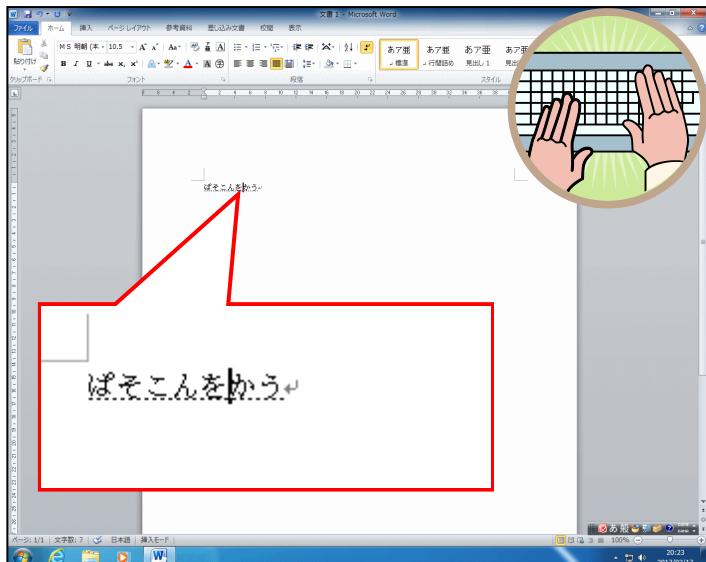
バックスペース [Back Space] キーを押して、「お」という文字を削除します。



- バックスペース [Back Space] キーを使うときは、必ずカーソルを消したい文字の後ろに移動しておきましょう。

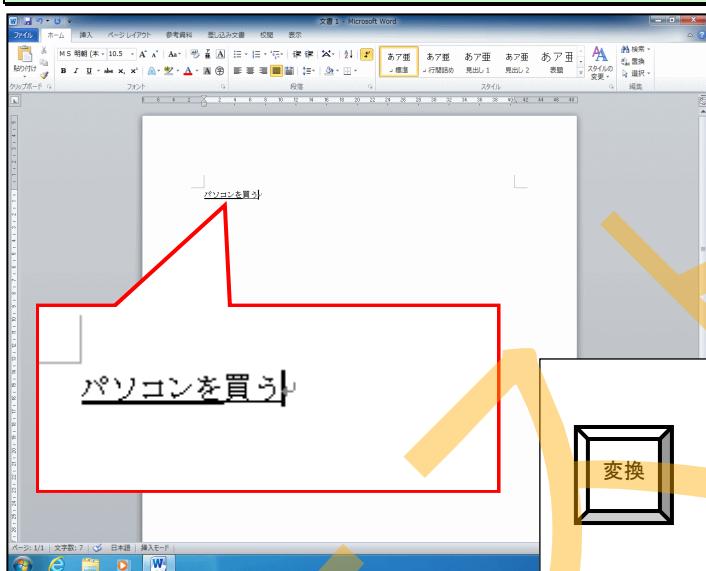
注意!

正しい文字「を」を入力します。



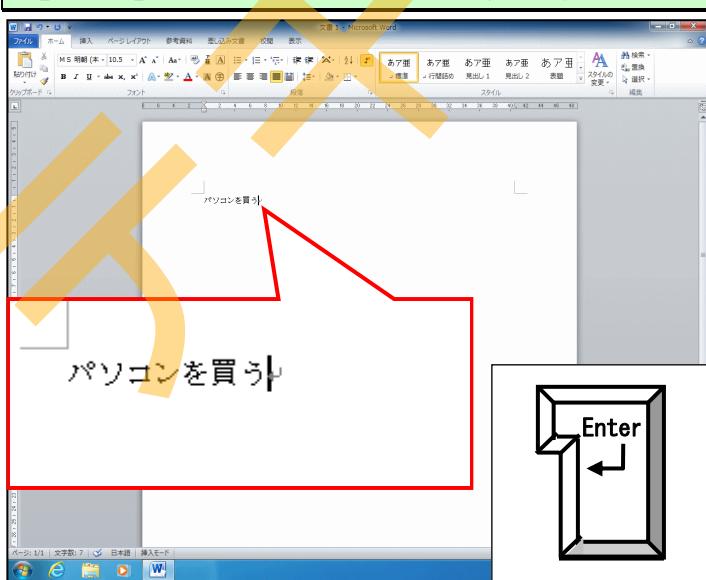
木

正しく入力できたところで [変換] キーを押して文字を変換します。



買

エンター [Enter] キーを押して文字を確定します。



次の操作のためにワードを終了しましょう。

☆☆ここまでくれば、練習問題13で理解度を試してください。☆☆

8. 文書の作成・保存・印刷

パソコンで作成した文書は「**保存**」という操作でパソコンに覚えてもらわないと、後日その続きを入力したり、編集・印刷したりすることができません。

ここでは、簡単な文書を作成して、「**保存する**」という操作と、保存した文書を「**開く**」という操作、画面に表示された文書を「**印刷する**」という操作について説明します。

(1) 文書の作成と保存

いよいよ文書を作成するのね。楽しみだわ～。

ウメさん「いよいよ、わたしたちも文書を作成できる段階まできたわね。楽しみだわ～。」



タケさん「でも、長い文章を打たないといけないみたいで、大変そうじゃ！」

くじら先生「これから行う操作は、『パソコンに記憶させる、記憶させた情報を読み込む、表示している情報を印刷する』といったもので、パソコンを利用する人が必ず行う操作になります。
どんなものを作るにしても、必ず行う操作でいろいろなものに共通しています。
頑張って、チャレンジしましょう。」

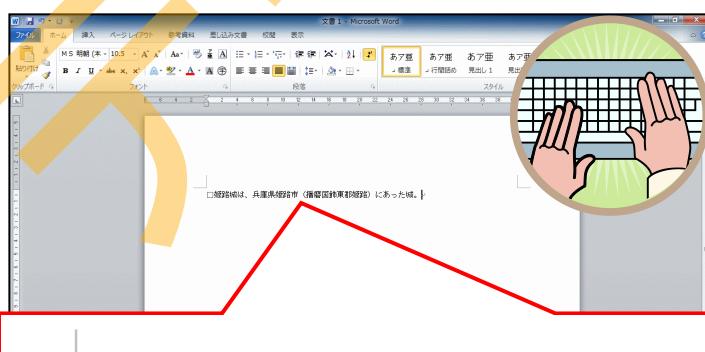
① 文書の作成

ワードを起動した時点では、真っ白な四角が表示されています。これはすぐに入力作業に入れるように、ワードが文書を入力するためのウィンドウ（文書ウィンドウ）を準備してくれているのです。

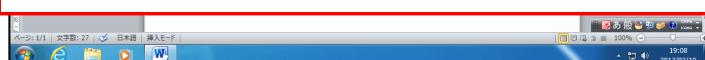
ワードを起動して、次の文書を入力します。

■入力時の注意点

● はスペースを空けましょう。



姫路城は、兵庫県姫路市（播磨国飾東郡姫路）にあった城。|



② 文書の保存

前ページと同じように入力できましたか？ 入力が終わったところで、リムーバブルディスク（USBメモリー）に保存してみましょう。せっかく入力した文書も、保存という操作をせずにワードを終了すると、すべて消えてなくなってしまいます。**保存**という操作は、後日同じものを画面に表示できるように、どこかに記憶させる操作です。保存するためには、「どこに」、「なんという名前」で保存するかを、パソコンに対して指示しなければなりません。この操作は、後述する「開く」という操作とともに、初心者の方には難しい操作ですが、パソコンを扱う場合は必ず必要となる操作なので、何回も同じ操作を繰り返しマスターしましょう。



リムーバブルディスクに保存するためには、まずパソコンにリムーバブルディスクを装着しないと始まりません。

「**USBメモリー**」が「リムーバブルディスク」に相当します。
次ページから保存するための手順を記載していますので、保存する場所、保存するときの名前に注意して操作してみましょう。



USB差込口にリムーバブルディスク（USBメモリー）を差し込みます。



- リムーバブルディスクを差し込む方向を間違えないように注意しましょう。間違えると、故障の原因になります。

- ノートパソコンのUSBの差込口は、横や後でまちまちです。数もパソコンによってまちまちです。

ノートパソコン
の裏側

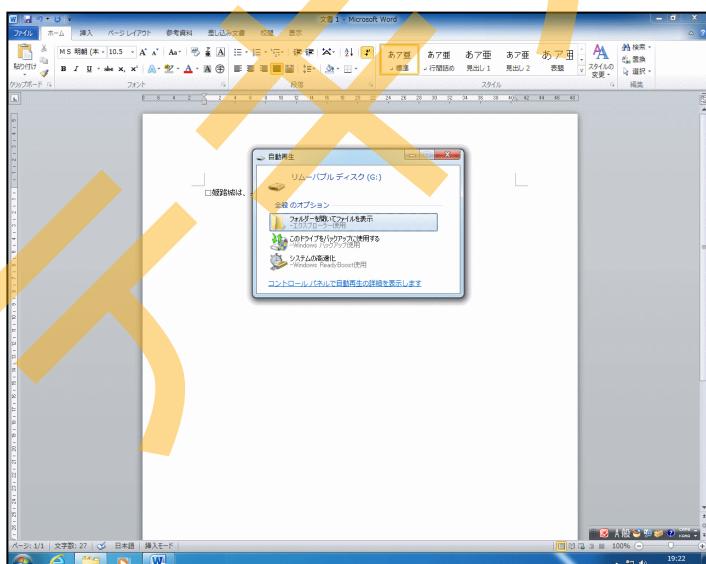
ノートパソコン
の側面



リムーバブルディスクを差込口から抜く方法

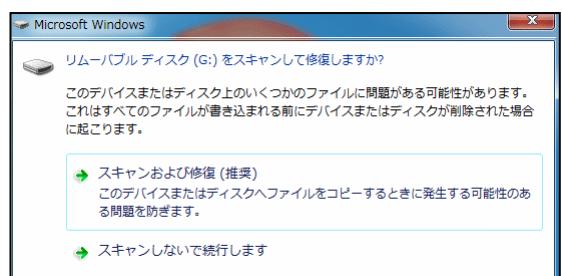
P217

しばらくすると、下のような画面が出てきます。



注意!

- 下図のような画面が表示された場合は「スキャンしないで続行します」をクリックすると、左のように「自動再生」の画面が表示されます。

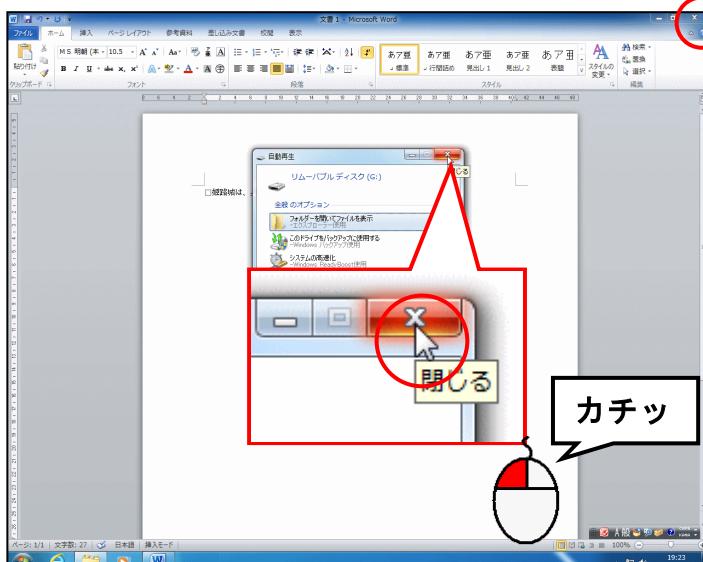


自動再生機能

P218

- 「自動再生」の画面が表示されていない方は、次ページの下段へ進んで下さい。

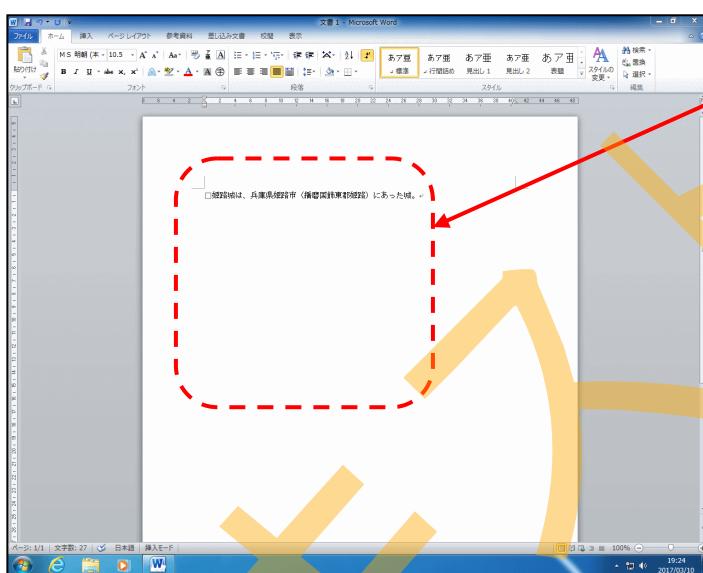
右上にある  [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



- この操作は、下記の [自動再生] が
出ているときだけ行って下さい。

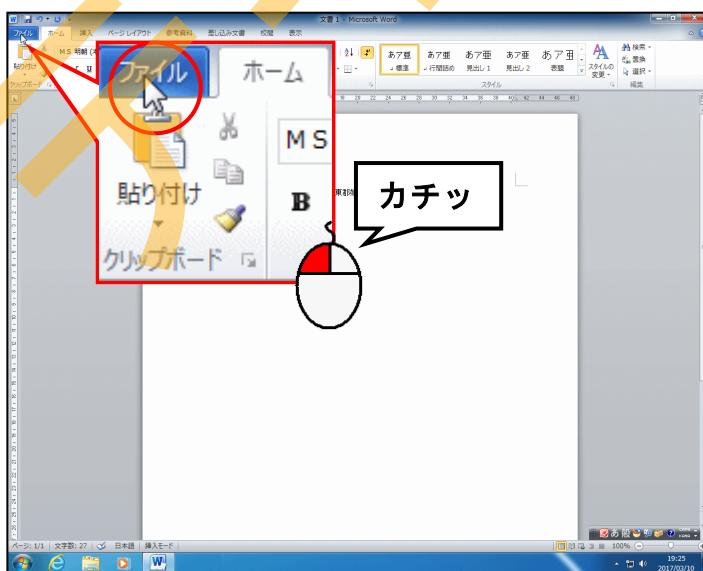


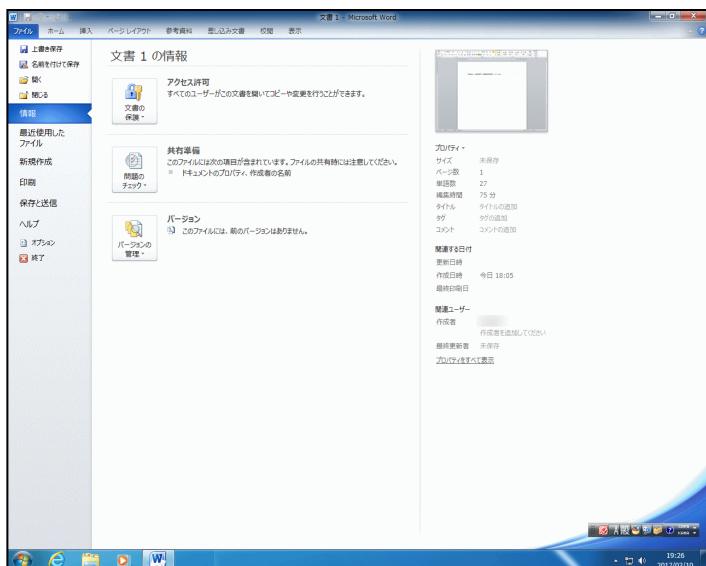
- 間違えてこちらの  [閉じる] ボタンをクリックすると、せっかく
入力した文書を破棄してしまう操作
になるので注意してください。



-  [閉じる] ボタンをクリック
すると、左のように「自動再生」
の画面が消えました。

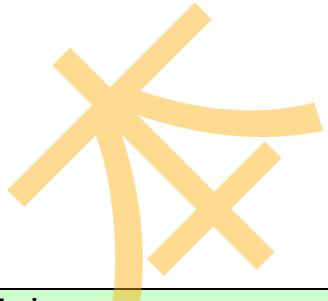
左上にある [ファイル] タブにポイントし、クリックします。



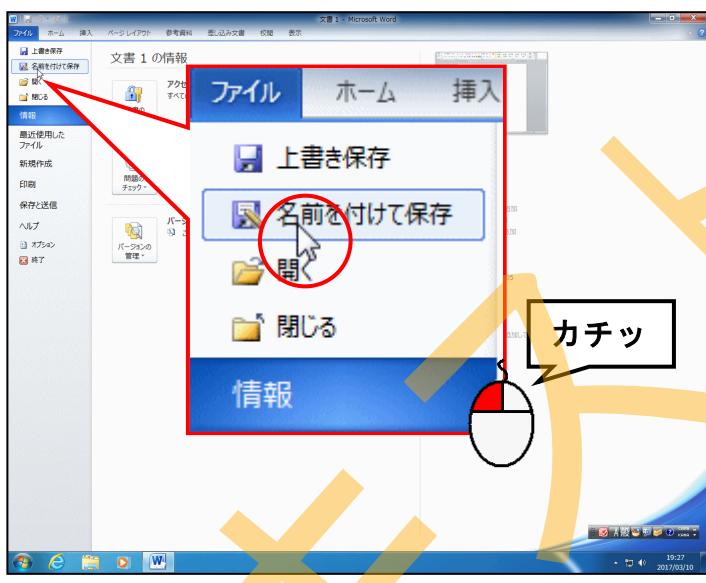


余裕があれば読んでね

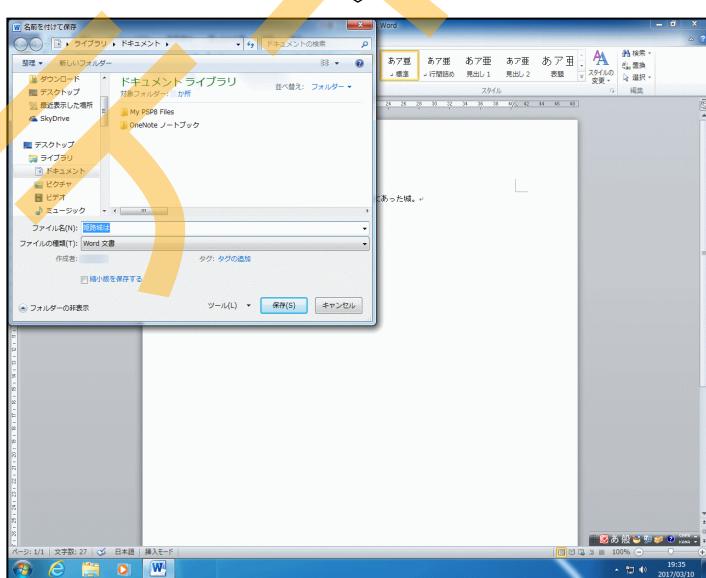
- [ファイル] タブをクリックすると画面が替わります。(この画面のことをBackstageビューといいます)



上から2つ目の【名前を付けて保存】にポイントし、クリックします。



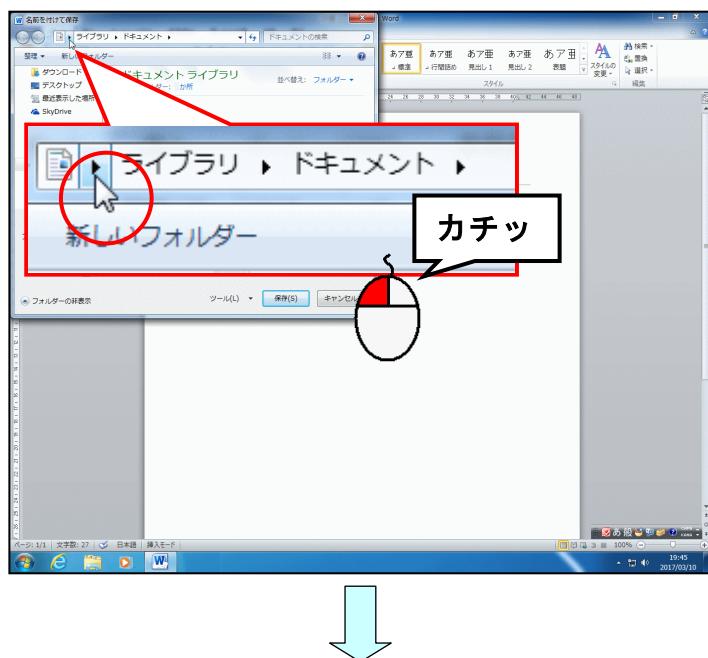
- お使いのパソコンによって、[ファイル] タブをクリックした際に表示される左側のメニューで、選択されている項目が違う場合があります。



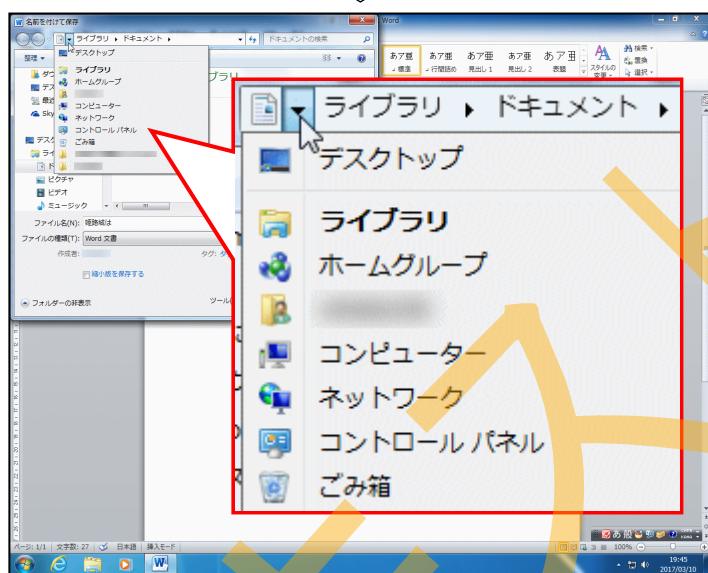
- 左のように表示されずに下図のように細長いダイアログボックスが表示される場合があります。同じように表示したい場合は、【名前を付けて保存】ダイアログボックスの左下の【フォルダーの参照(B)】をクリックします。



「ライブラリ」の左にある ▶ にポイントし、クリックします。

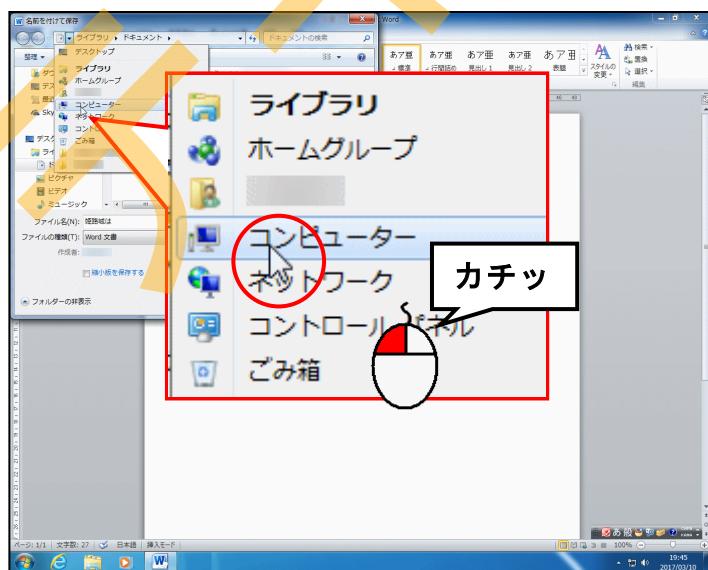


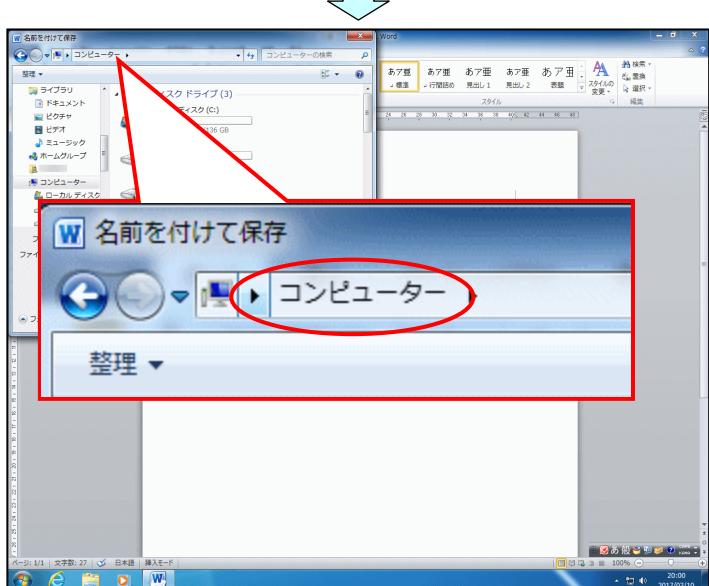
● 使用しているパソコンによっては、「ライブラリ」とは限りませんが、気にせず、左図を参考にクリックしましょう。



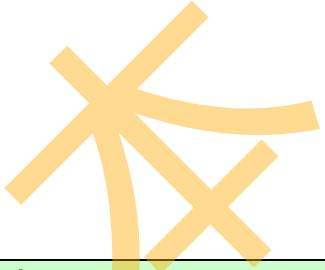
● ▶ をクリックすると、保存場所の一覧が表示されます。

表示された一覧から「コンピューター」にポイントし、クリックします。

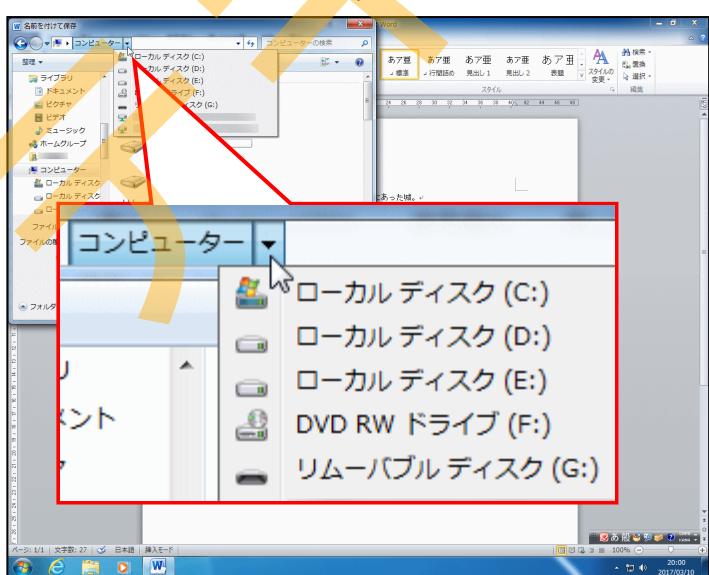
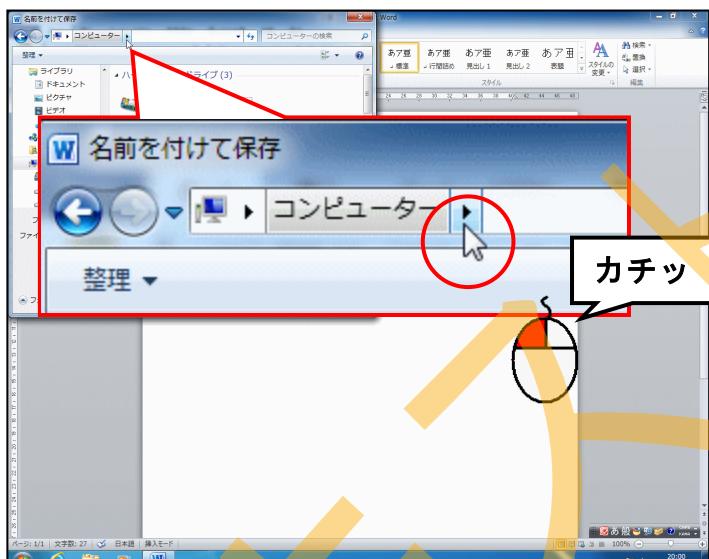




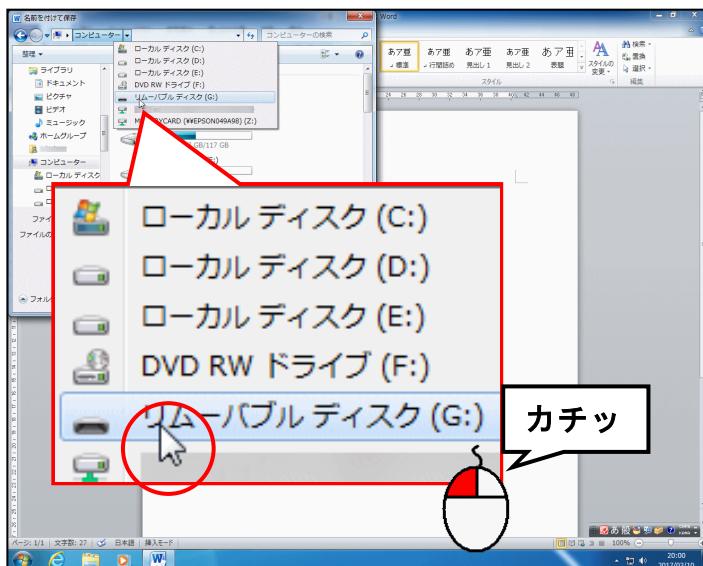
- [コンピューター] をクリックすると [名前を付けて保存] ダイアログボックスの左上が、[コンピューター] になりました。



[コンピューター] の右側にある ▶ にポイントし、クリックします。



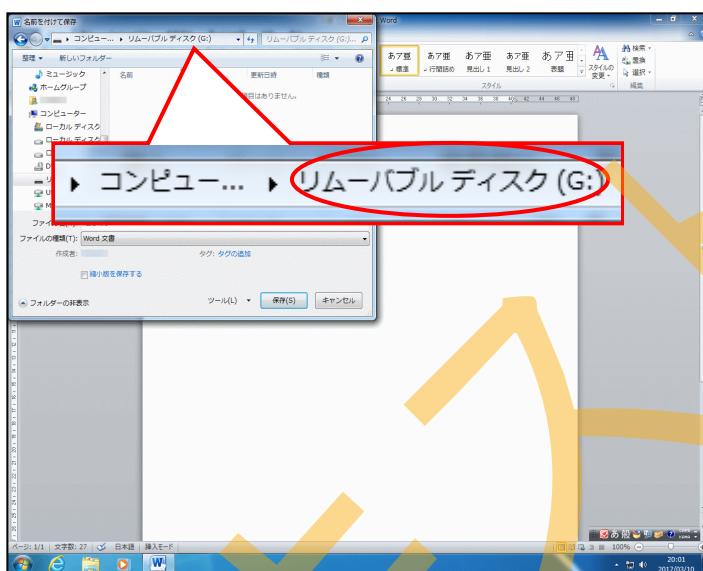
[リムーバブルディスク (G:)] にポイントし、クリックします。



- ここまで行った操作が保存先の指定方法です。自分がどこに保存するかを指定する操作は、このようにして行います。

注意!

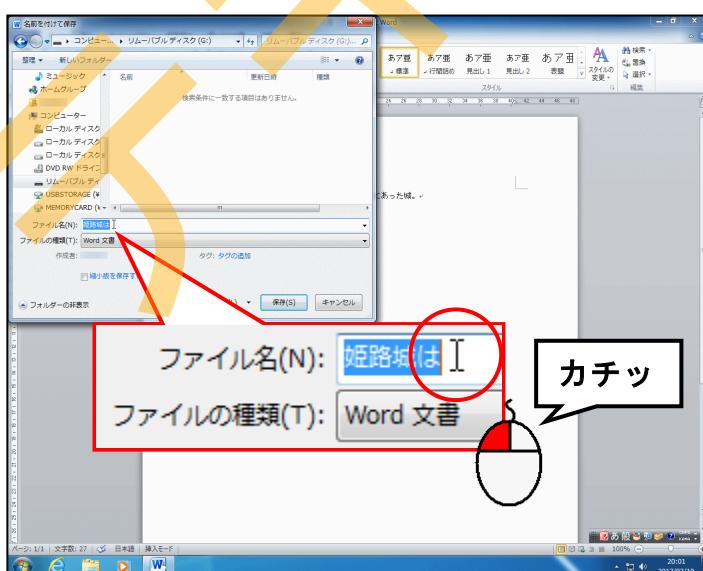
- リムーバブルディスクの後ろの (G:) は、パソコンによって異なります。
- お使いのリムーバブルディスクによっては、別の名前で表示される場合があります。



- [リムーバブルディスク] をクリックすると、[コンピューター] の右側に [リムーバブルディスク] と表示されました。

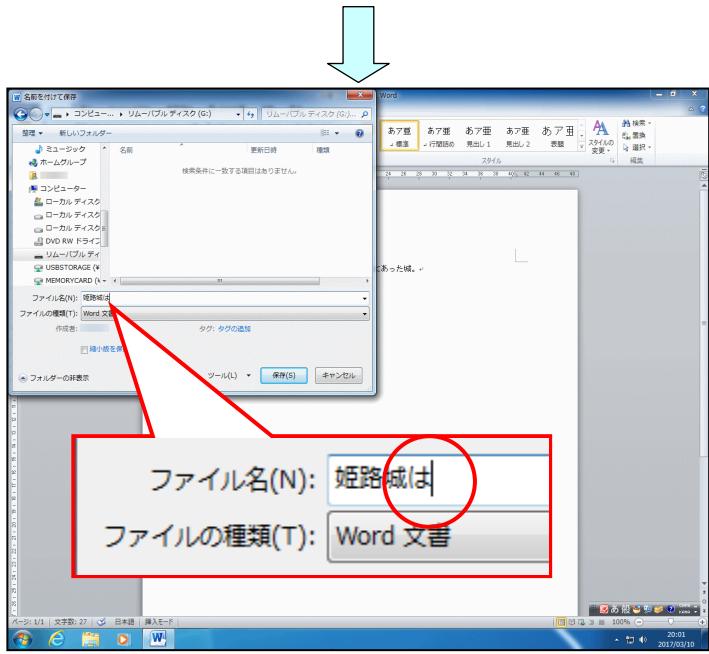


「姫路城は」の後にポイントし、クリックします。



- 文字が入力できる場所にマウスポインターを移動するとマウスポインターが I の状態になります。

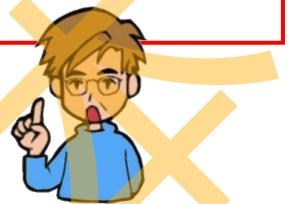
- [ファイル名] ボックスに勝手に文字が入っている場合があります。これは入力した文字の最初の文節が、自動的に入っているためです。



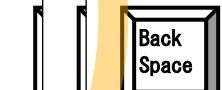
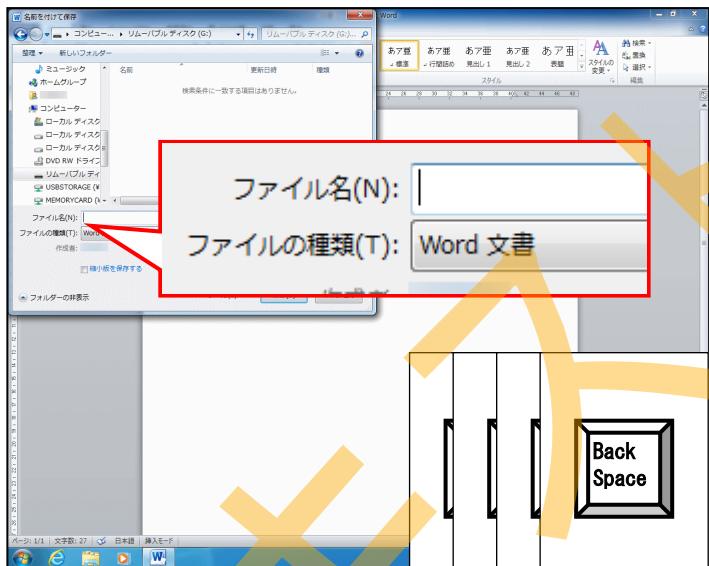
- クリックすると、クリックした場所にカーソル（点滅した縦棒）が表示されて、文字が入力できる状態になります。



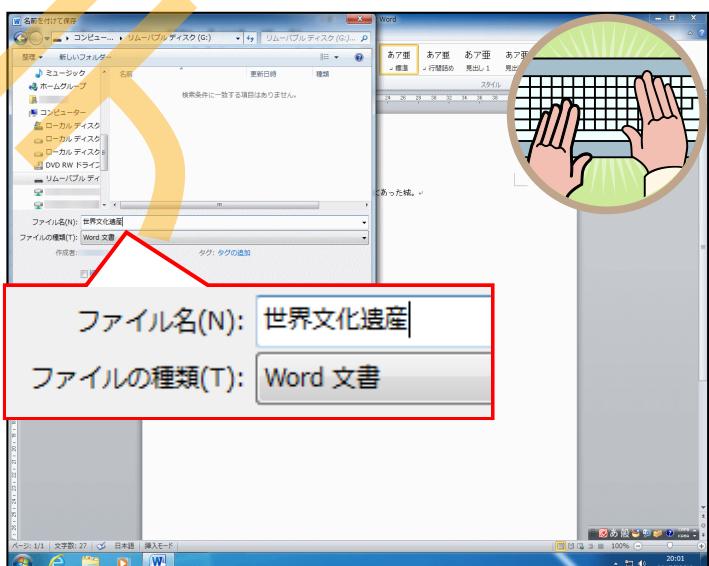
- クリックしてもカーソル（点滅した縦棒）が表示されない場合は、もう一度クリックするとカーソルが表示されます。



カーソルが「は」という文字の後ろにあることを確認して、[Back Space]キーを4回押し、文字をすべて消しましょう。



カーソルが [ファイル名(N):] と書かれた右側の白いボックスにあることを確認して「世界文化遺産」と入力し、確定します。

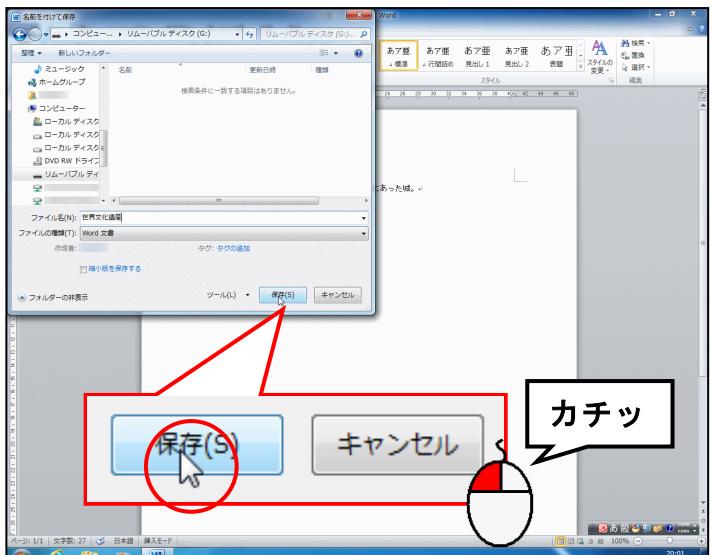


- [Enter]キーを押して確定すると、「世界文化遺産」の下の点線が消えます。

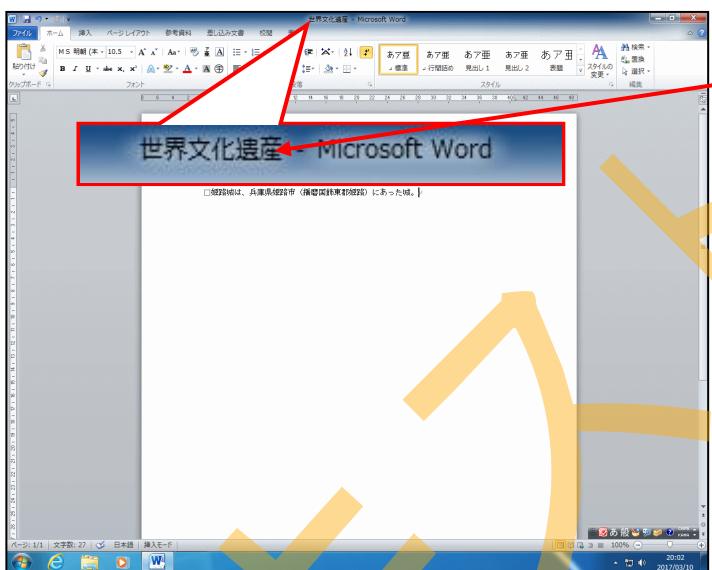


- 入力するときにカーソルの位置をよく確認してから入力しましょう。「世界文化遺産」を入力後 [Enter]キーを1回押して入力した文字を確定してください。[Enter]キーを2回押してしまうと [保存]という操作を開始してしまいます。

右下にある [保存(S)] にポイントし、クリックします。



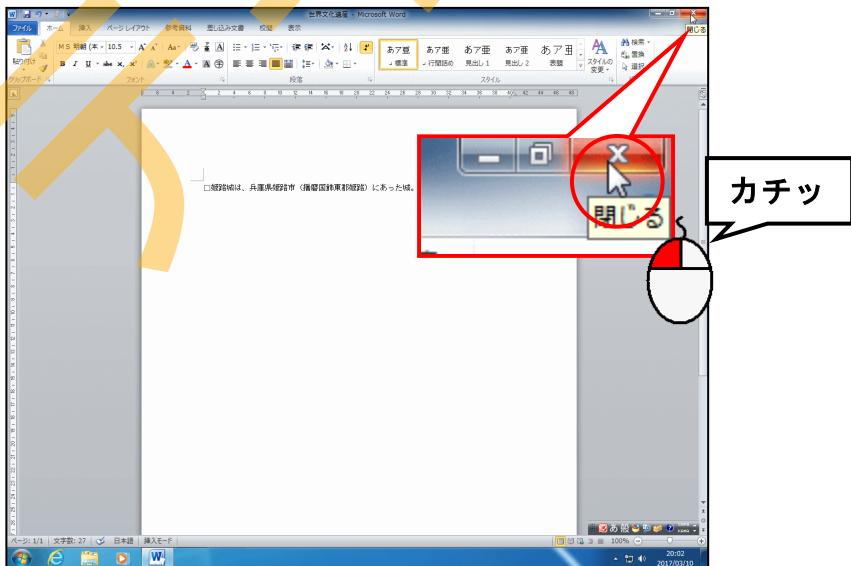
- この操作が指定された場所に指定された名前で保存しなさいという命令にあたります。

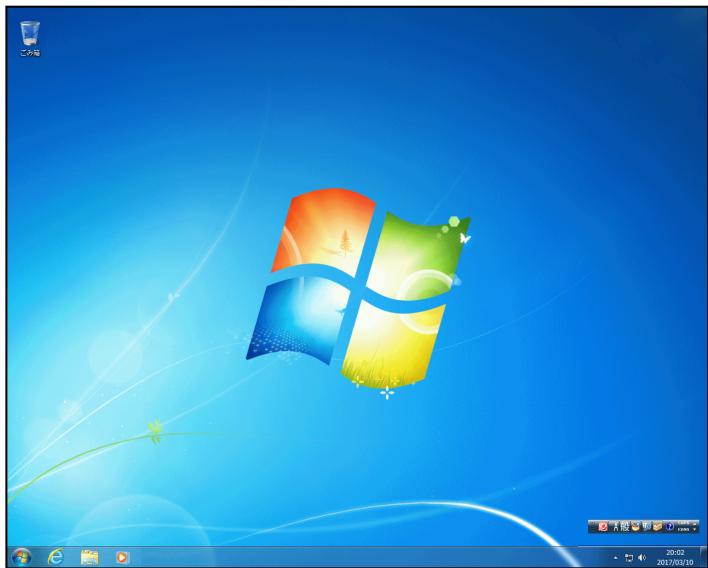


- 保存操作が完了すると、画面上に指定した名前「世界文化遺産」が表示されるので、ここで確認することができます。

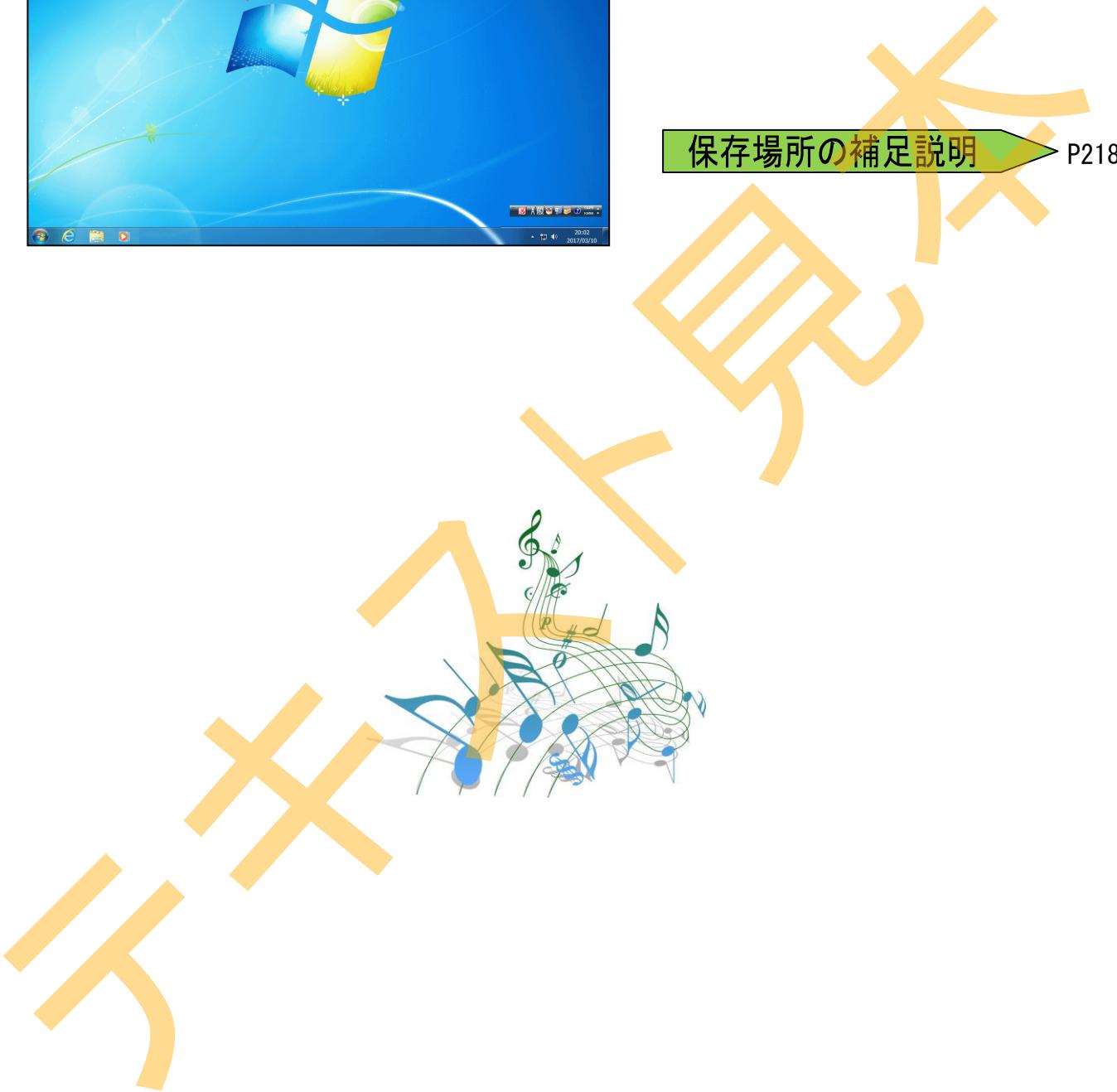
- リムーバブルディスクの保存中には、マウスポインターが の状態に変わります。この状態の間は何も操作することができません。

ワードを終了するため右上の [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。





保存場所の補足説明 P218



(2) 保存した文書を開く

リムーバブルディスクに保存できているか心配じゃの～。

タケさん「わしの打った文書がリムーバブルディスクに保存できているか心配じゃの～。」



ウメさん「わたしは、たぶん大丈夫だと思うわ！」

くじら先生「この操作は、自分で保存したものを画面上に開くことができるようになってほしいための練習です。

何回も同じことを反復して練習してください。
まず、『どこにある』という場所を指定し、次に『どの文書』という名前を指定し、最後に『開きなさい』という指示を出します。」



前にも説明しましたが、せっかく作成した文書も保存しないと、すべて消えてしまいます。また、保存した文書も開き方が分からぬ場合は、「宝の持腐れ」になってしまって利用できません。ここでは、(1)で保存した文書が本当にリムーバブルディスクに保存されているかの確認と、保存した文書の開き方について説明します。

開くとここに文書の内容が表示されます。

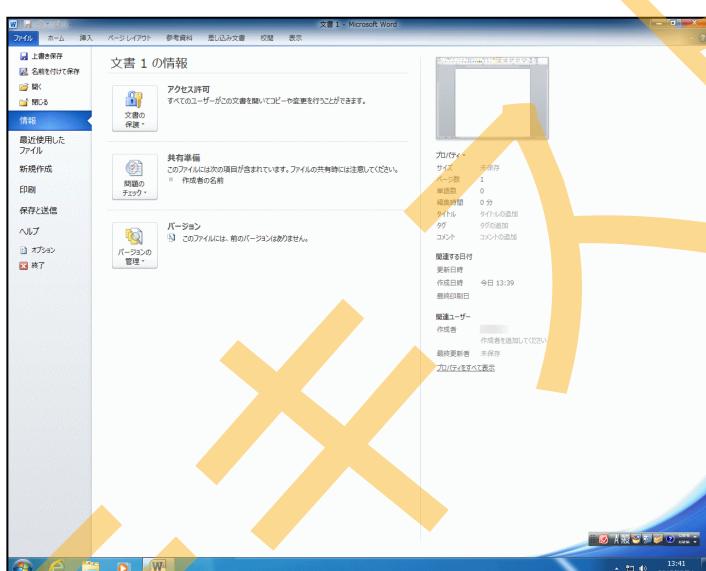
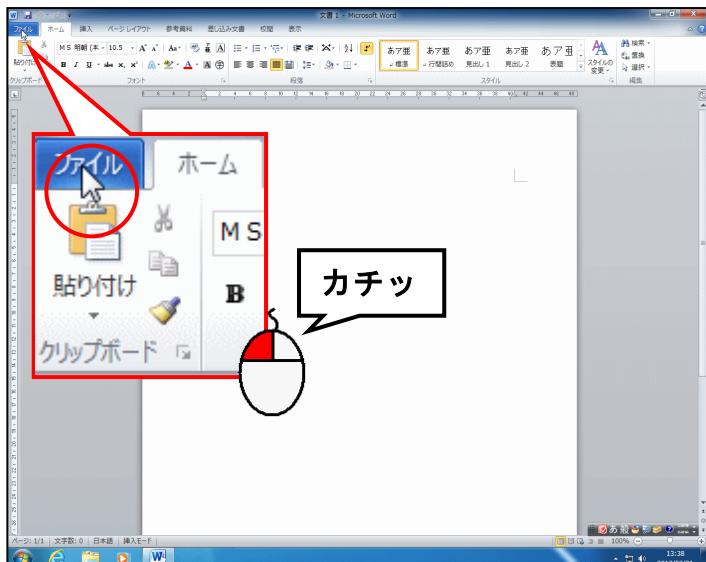


保存できる場所は、リムーバブルディスクだけではありません。したがって、自分が「どこ」に保存したか、なんという「名前」で保存したかを覚えておくことが必要となります。

① 保存した文書の確認

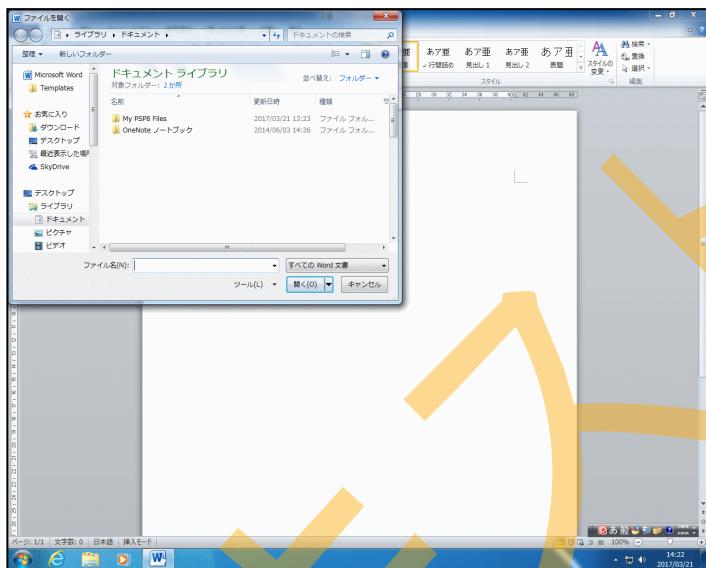
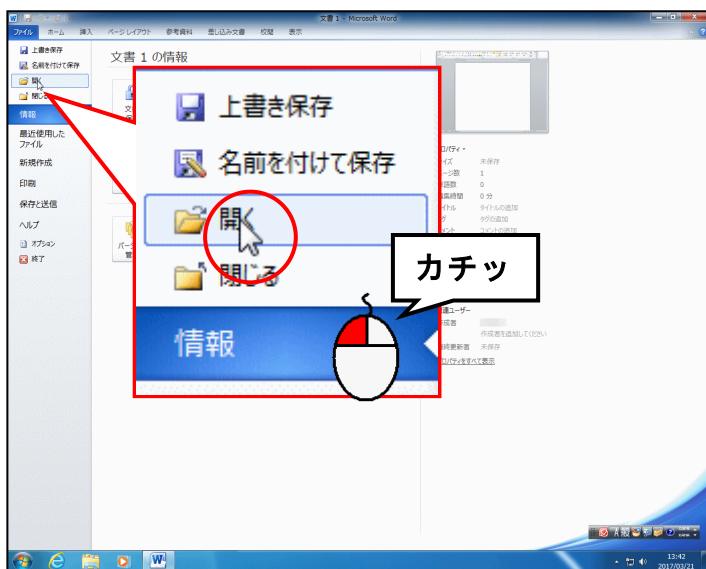
(1)で保存した文書が実際にリムーバブルディスクに保存されているかどうかを確認してみましょう。

ワードを起動して、左上にある【ファイル】タブにポイントし、クリックします。



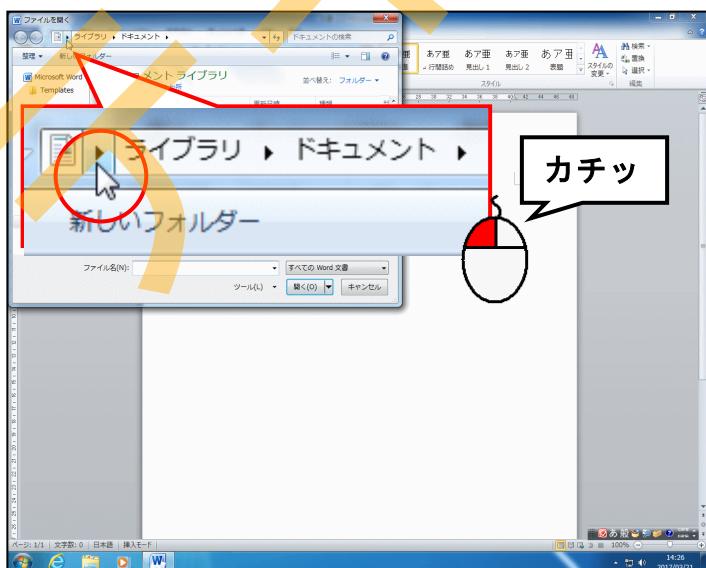
●お使いのパソコンによって、【ファイル】タブをクリックした際に表示される左側のメニューで、選択されている項目が違う場合があります。

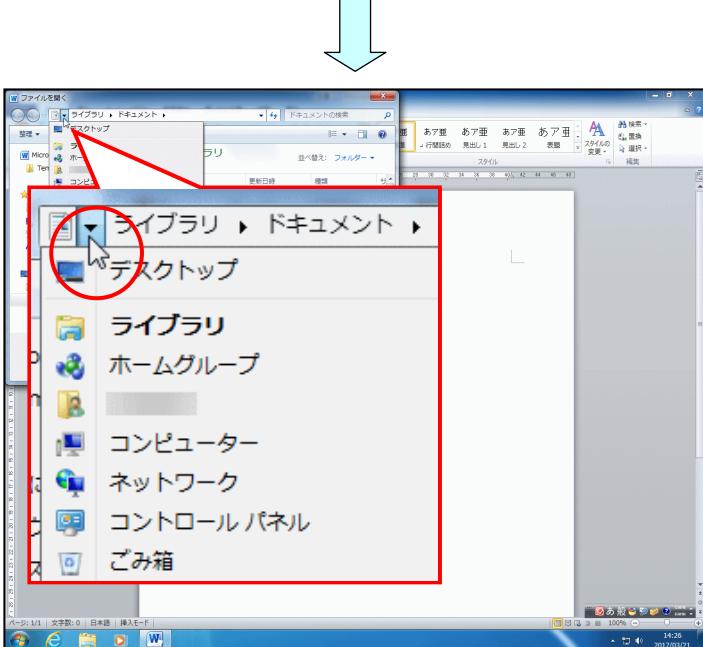
表示されたメニューの【開く】にポイントし、クリックします。



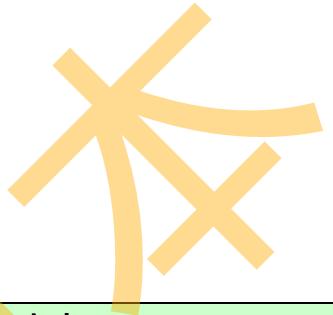
●左のように文書を開くときには、ファイルを開くための指示画面を使って「どこにある」、「なんというファイル」を開くのかを指示しなければなりません。

「ライブラリ」の左にある ▶ にポイントし、クリックします。

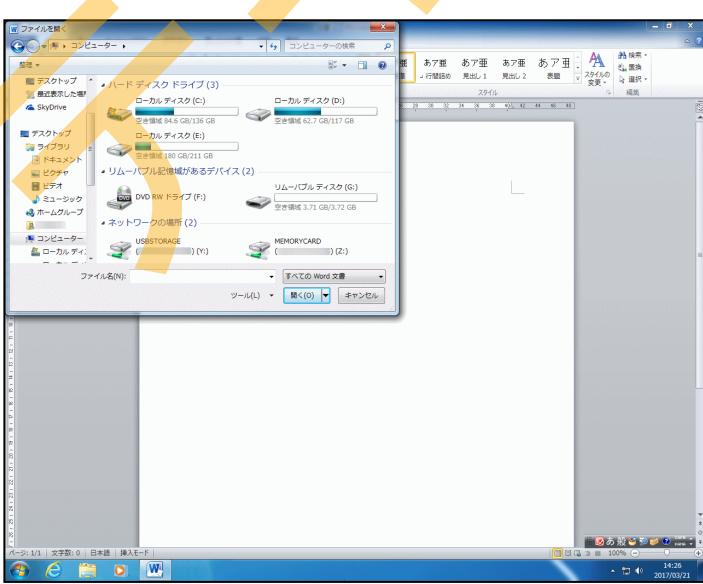
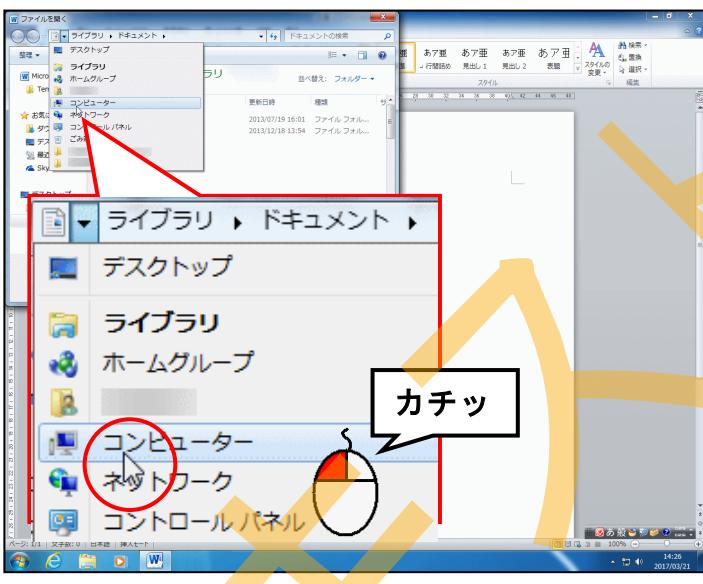




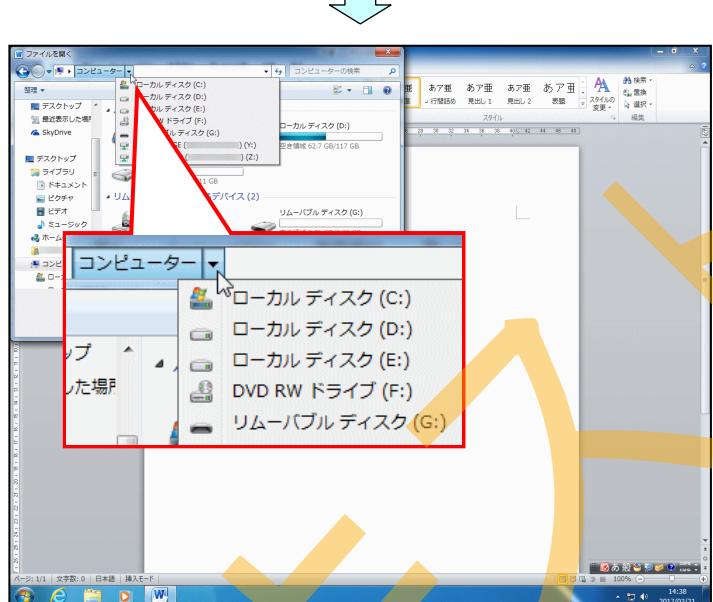
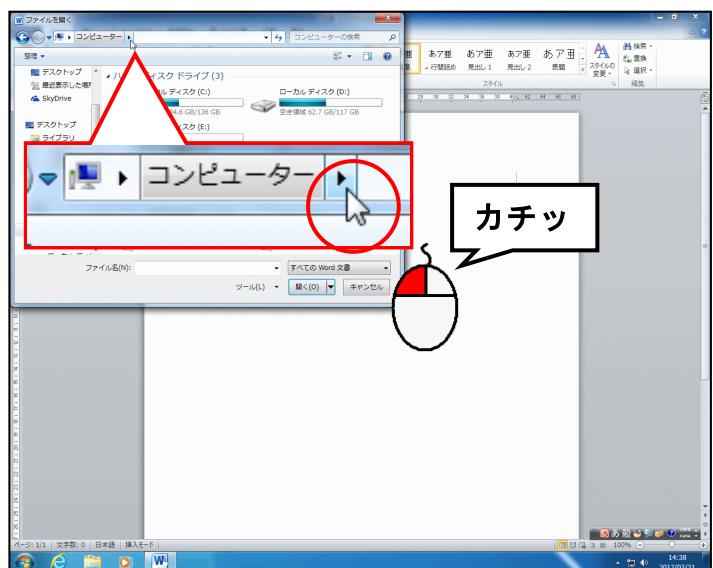
● ▶ をクリックすると、保存場所の一覧が表示されます。



表示された一覧から「コンピューター」にポイントし、クリックします。

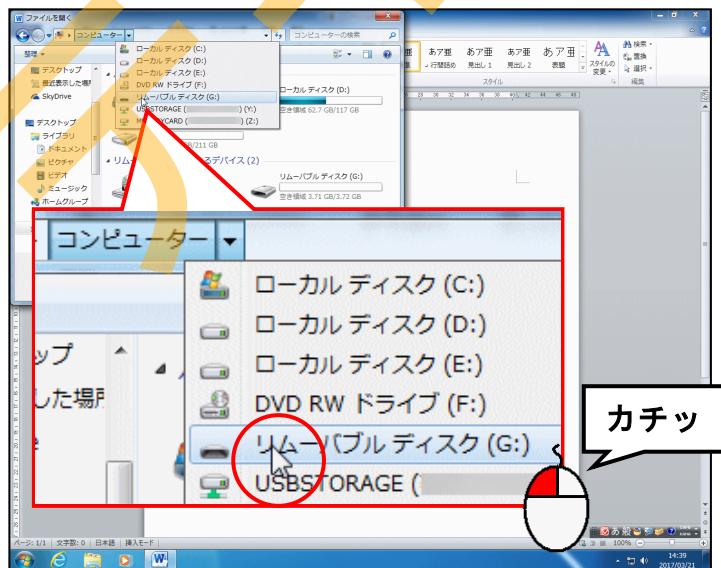


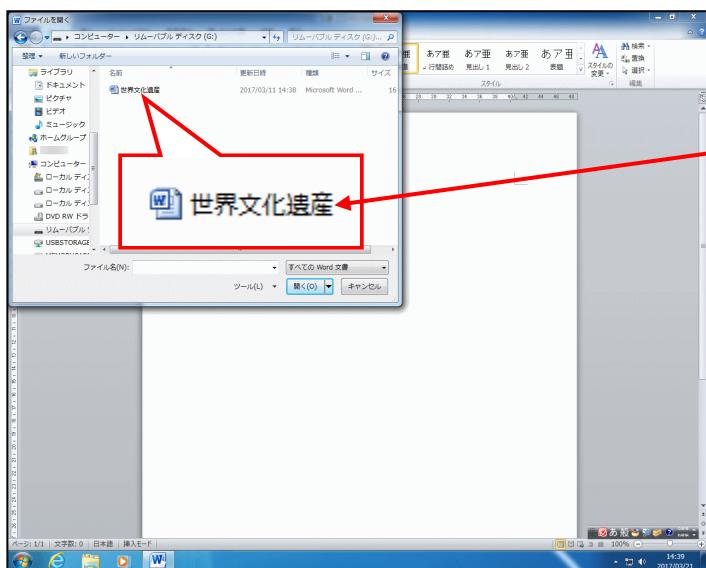
[コンピューター] の右にある ▶ にポイントし、クリックします。



本
用

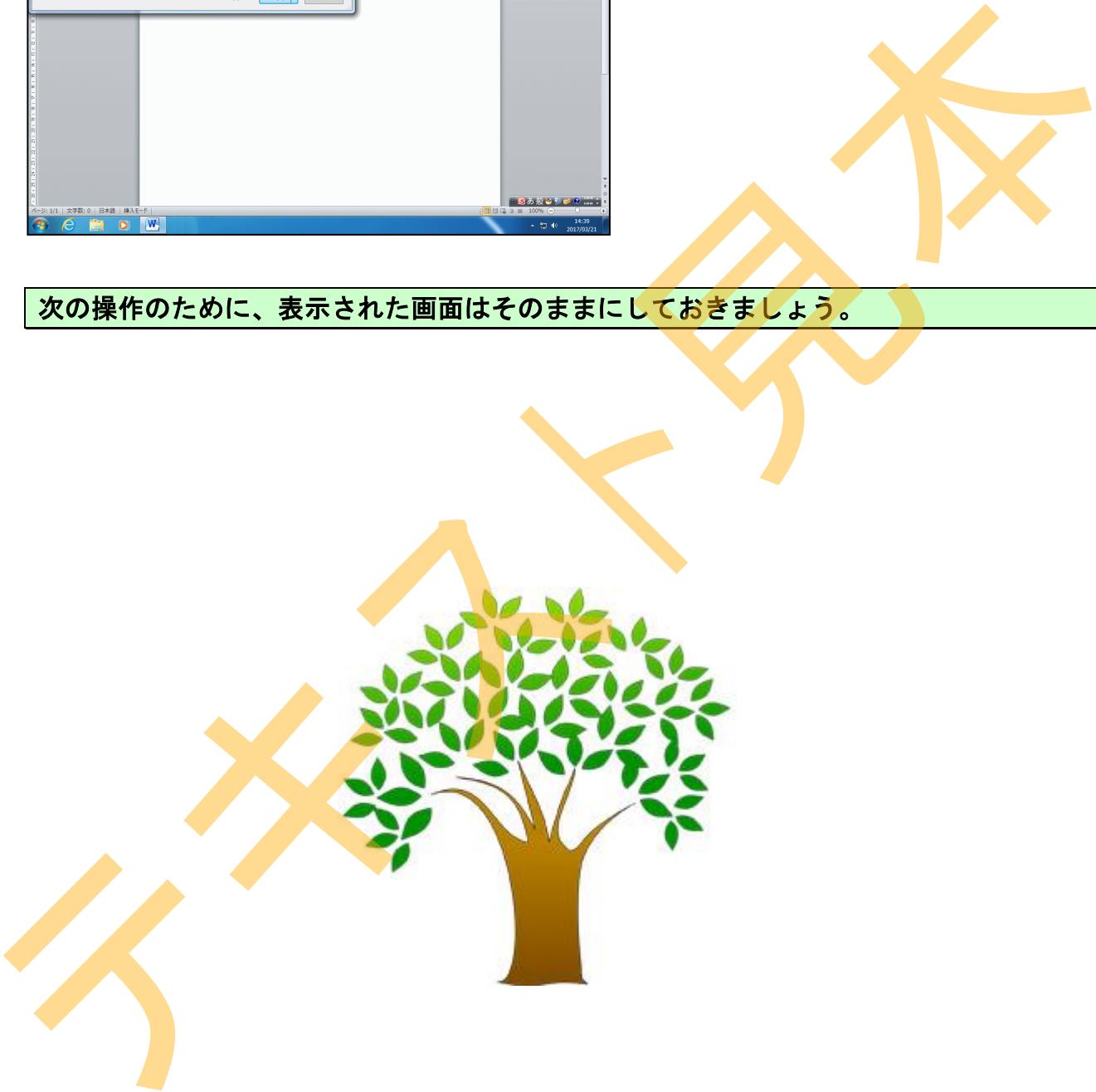
[リムーバブルディスク (G:)] にポイントし、クリックします。





●リムーバブルディスクの中に存在するワード文書名が画面に表示されます。これでリムーバブルディスクの中に「世界文化遺産」が保存されていたことが確認できました。

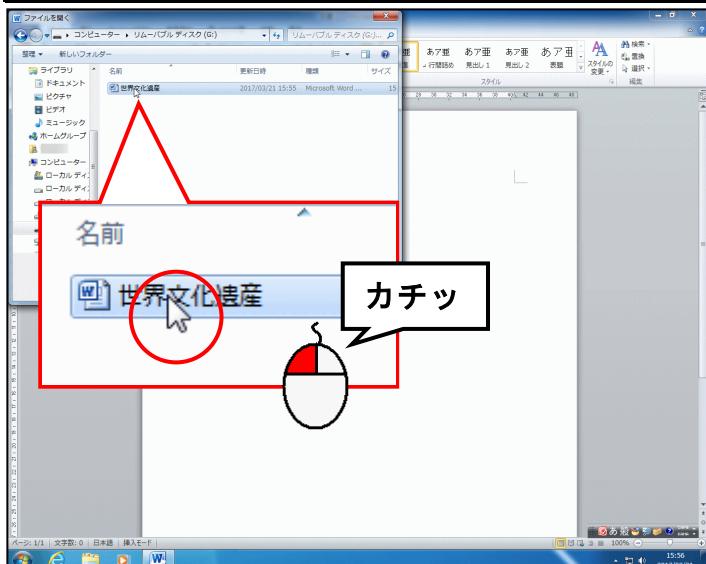
次の操作のために、表示された画面はそのままにしておきましょう。



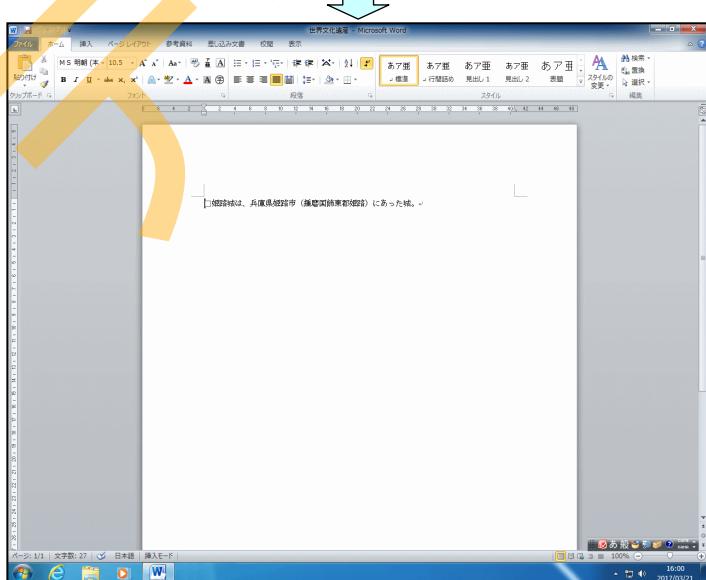
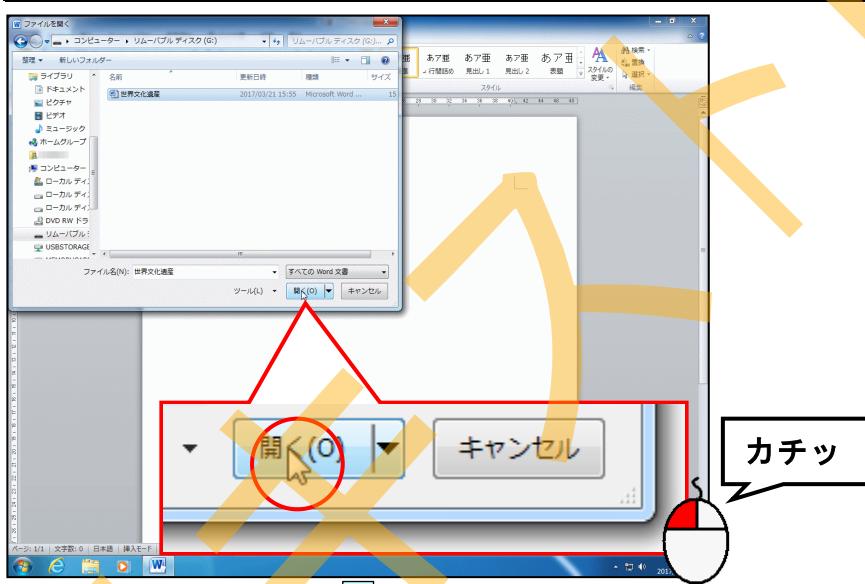
② 保存した文書を開く

保存した文書を「開く」という操作は、作成した文書を「保存」するという操作以上に大切です。だって、せっかく保存した文書も開けないことには、次に利用できないのですから…。①で確認できた文書を「開く」という操作を行って画面に表示してみましょう。

表示された「世界文化遺産」にポイントし、クリックします。



画面右下にある【開く(0)】にポイントし、クリックします。



●左のように、画面に保存した「世界文化遺産」という文書が表示されました。

(3) 開いた文書の上書き保存

一度保存したのに、また保存しないといけんのかあ～。



タケさん「一度保存したのに、また保存しないといけんのかあ～？」

ウメさん「何度も保存する必要があるのは、文書を開いたからですか？」

くじら先生「画面に開いただけでは、保存する必要はありません。

開いた文書に手を加えた時に、保存の必要が出てきます。

誤字・脱字を修正したり、開いた文書に文字を追加したりすると
保存しないといけません。」

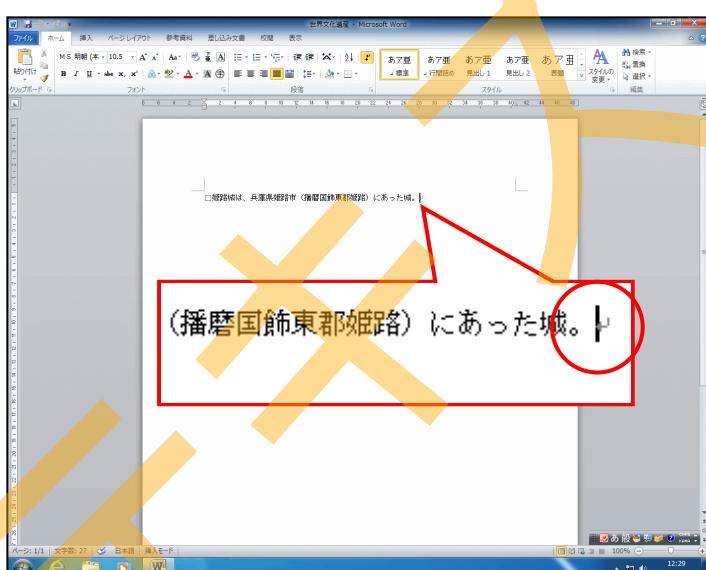


画面に表示された文書に、少し文章を追加して上書き保存という操作をしてみましょう。

① 開いた文書を修正する

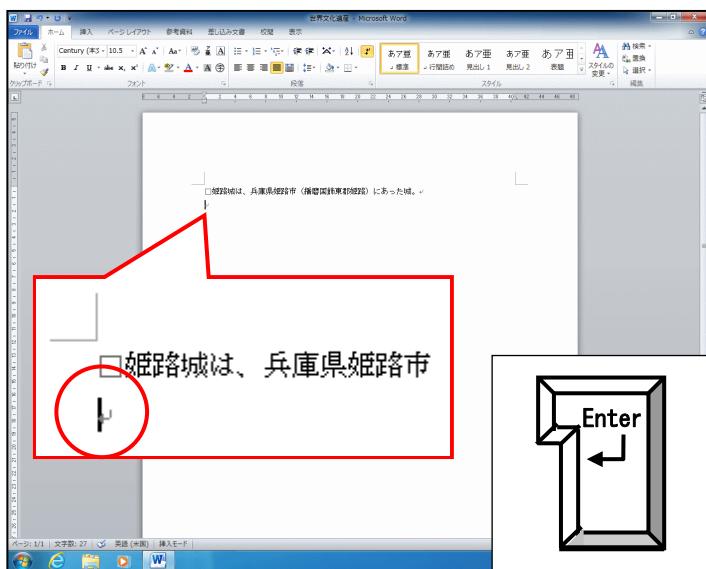
ここでは、(2)で画面上に開いた文書に対して、文章の最後に新たな文章を追加します。

カーソルを文書の最後に移動します。



- ワード文書を開くとカーソルは、文書の先頭に表示されるので、文書を追加したい位置（文章の最後）へ移動する必要があります。

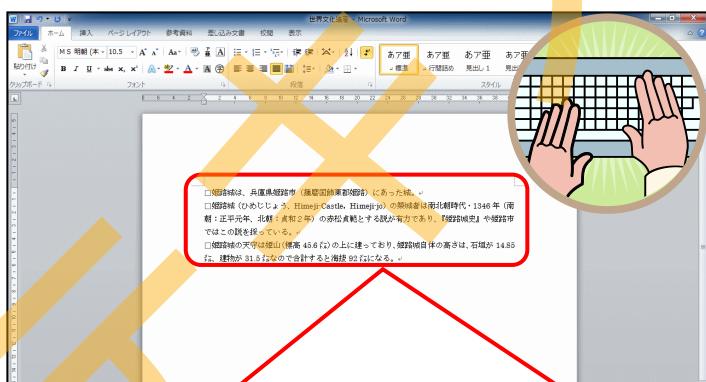
エンター キーを押して改行します。



下図の赤枠の中の「姫路城～海拔 92 ドルになる。」までの文章を入力します。

■入力時の注意点

- 英数字はファンクションキーを利用しましょう。
(操作方法を忘れた方は P142 (15) 英数字の入力を参照してください)
- 読みがわからない文字はIMEパッドを使用しましょう。
(操作方法を忘れた方は P132 (13) 難しい文字の入力を参照してください)
- 「～探っている。」まで入力が終わった時点で [Enter] キーで改行します。
- はスペースを空けましょう。
- ドルは、「メートル」と入力し、変換しましょう。

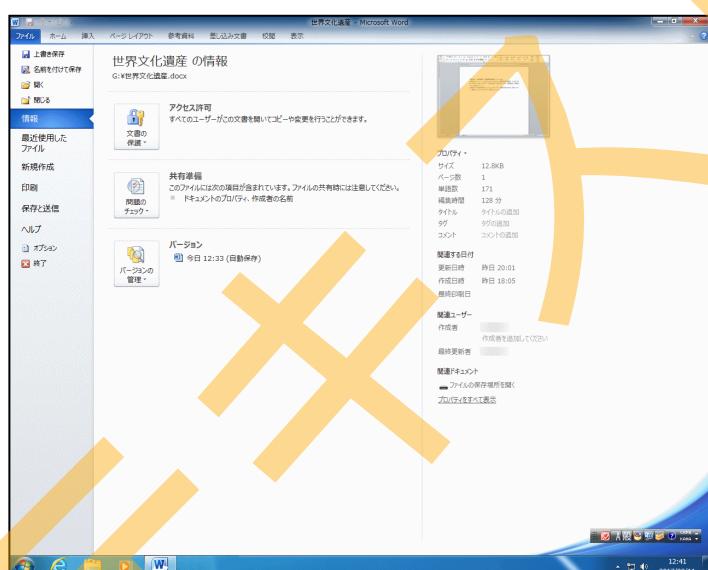
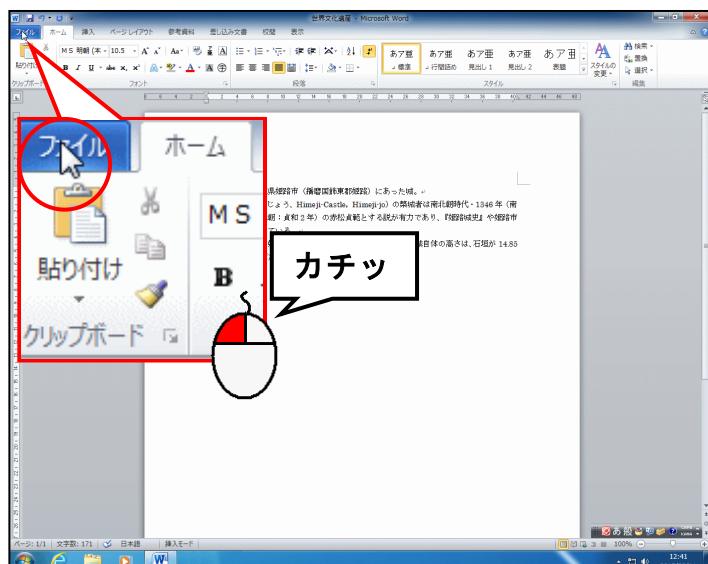


- 姫路城（ひめじじょう、Himeji-Castle, Himeji-jo）の築城者は南北朝時代・1346年（南朝：正平元年、北朝：貞和2年）の赤松貞範とする説が有力であり、『姫路城史』や姫路市ではこの説を探っている。+
- 姫路城の天守は姫山(標高 45.6 ドル)の上に建っており、姫路城自体の高さは、石垣が 14.85 ドル、建物が 31.5 ドルなので合計すると海拔 92 ドルになる。↓

② 文書を上書き保存する

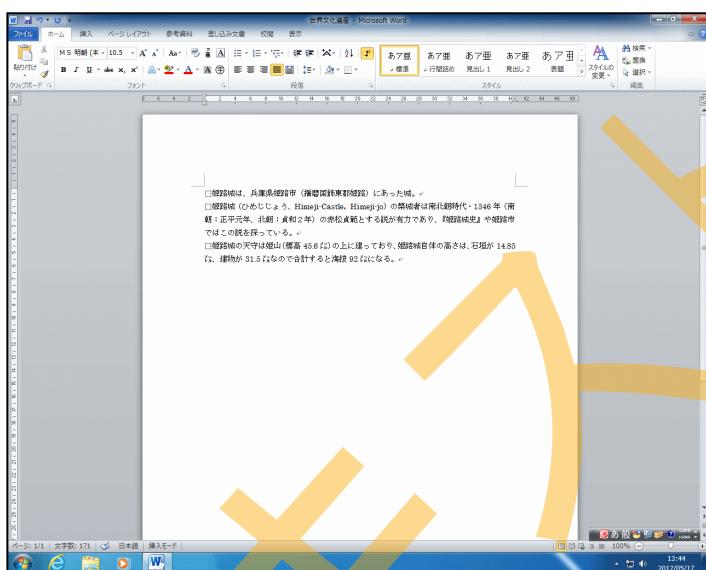
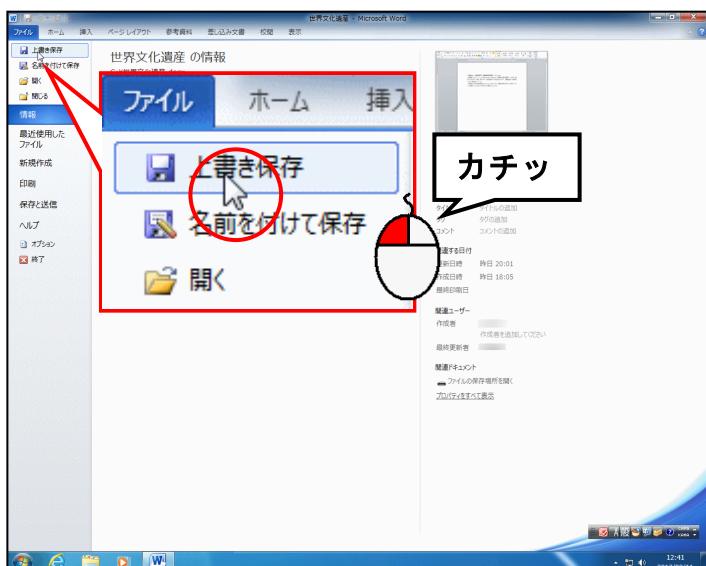
一度保存した文書の一部または全部を変更したり、追加したりした場合は、「**上書き保存**」という操作を行います。上書き保存とは、一度保存した文書を「同じ場所」に「同じ名前」で、「**今の状態**」を保存する操作をいいます。

画面左上にある【ファイル】タブにポイントし、クリックします。



●パソコンによって、【ファイル】タブをクリックした際に表示される左側のメニューが、選択されている項目と違う場合もあります。

[上書き保存] にポイントし、クリックします。



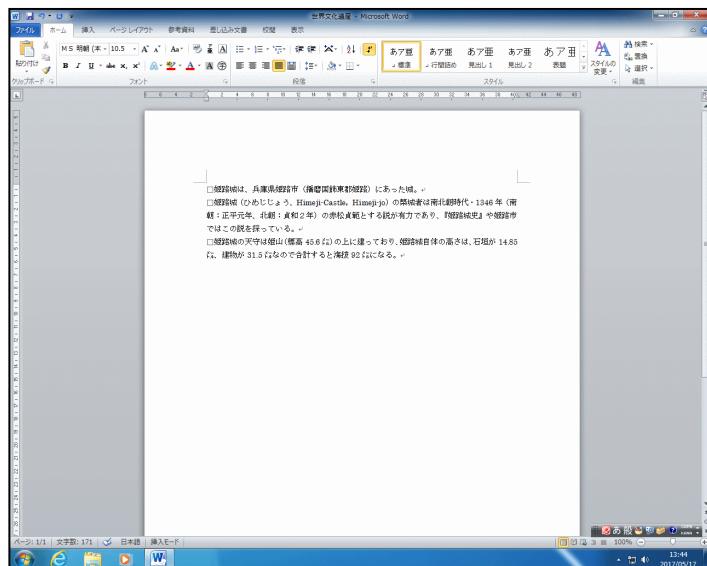
● コントロール [Ctrl] キーを押した状態で [S] キーを押しても上書き保存することができます。

● [上書き保存] をクリックすると、マウスポインターが に変わり、 に戻ると上書き完了です。保存の内容によっては はすぐに消えてしまいます。

保存方法の違い P219

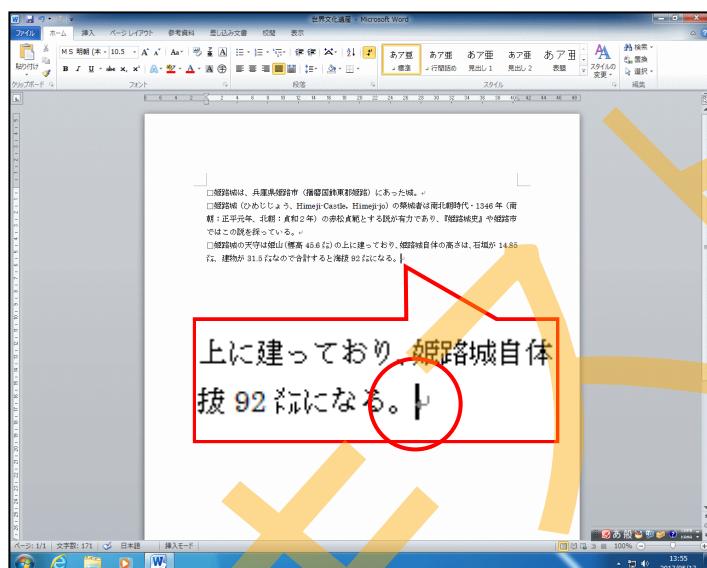
次の操作のためにワードを終了しましょう。

再度文書を追加入力する為に、ワードを起動し、リムーバブルディスクから「世界文化遺産」を開きましょう。

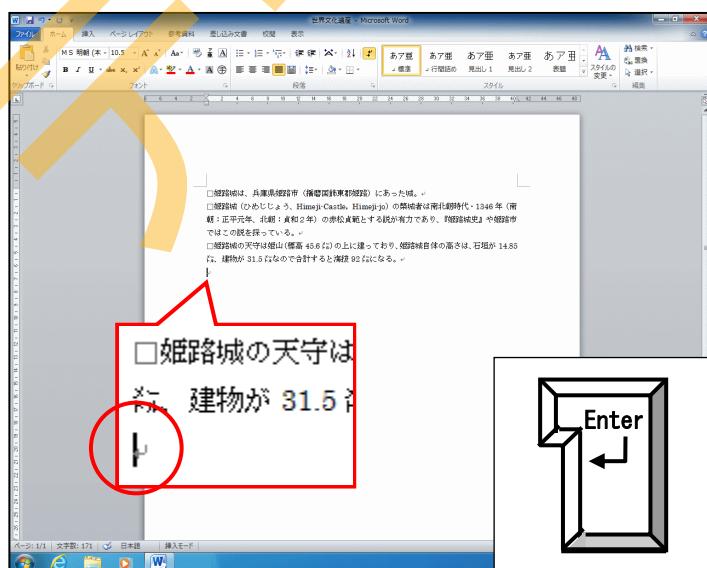


●文章を開く方法を忘れた方は、P187
(2) 保存した文書を開くを参照してください。

カーソルを文書の最後に移動します。



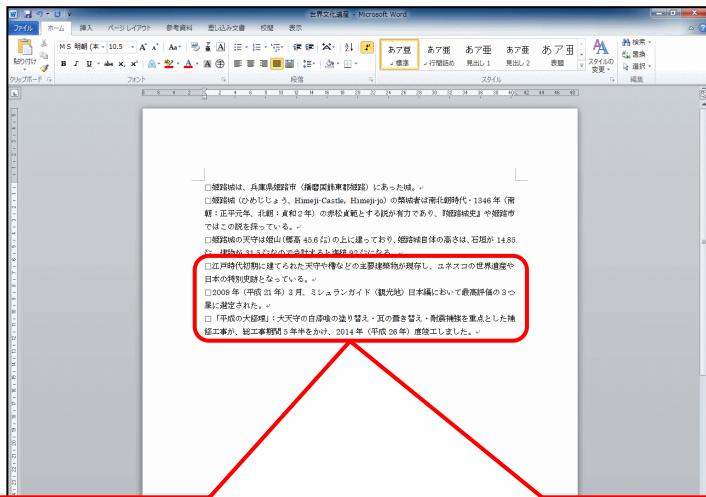
エンター [Enter] キーを押して改行します。



下図の赤枠の中の「江戸時代初期～竣工しました。」までの文章を入力します。

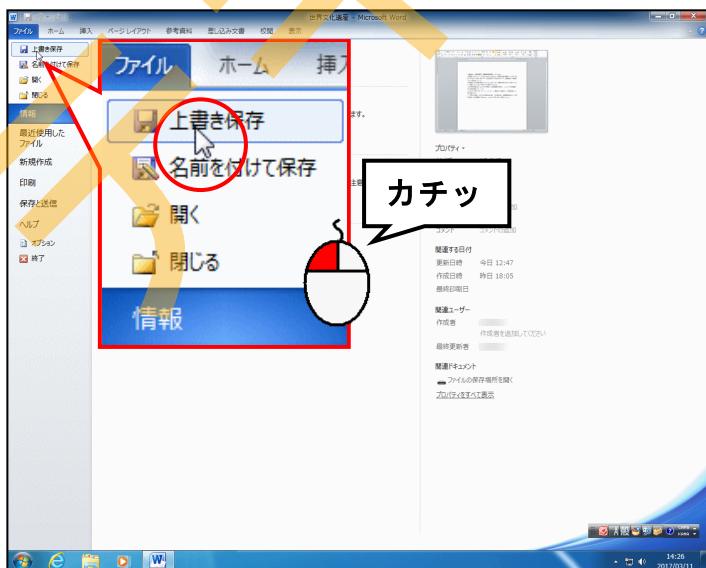
■入力時の注意点

- 「～特別史跡となっている。」まで入力が終わった時点で、[Enter]キーで改行します。
- 同じように「～3つ星に選定された。」まで入力が終わった時点で、[Enter]キーで改行します。



- 江戸時代初期に建てられた天守や櫓などの主要建築物が現存し、ユネスコの世界遺産や日本の特別史跡となっている。
- 2009年（平成21年）3月、ミシュランガイド（観光地）日本編において最高評価の3つ星に選定された。
- 「平成の大修理」：大天守の白漆喰の塗り替え・瓦の葺き替え・耐震補強を重点とした補修工事が、総工事期間5年半をかけ、2014年（平成26年）度竣工しました。

入力完了後、再度上書き保存しましょう。



- 上書き保存の方法を忘れた方は、P196 ② 文書を上書き保存するを参照してください。

(4) 文書を印刷する

やっと、紙に印刷するところまで来たんじゃなあ～。



タケさん「やっとここまで来たわい、印刷するのが楽しみじゃ～。」

ウメさん「わたしもパソコンしている以上、印刷というのが目標だったから少し進歩したかな？って思えるわ。」

くじら先生「進歩どころか、おふたりとも、大変上手にパソコンを操作できるようになったじゃないですか。」

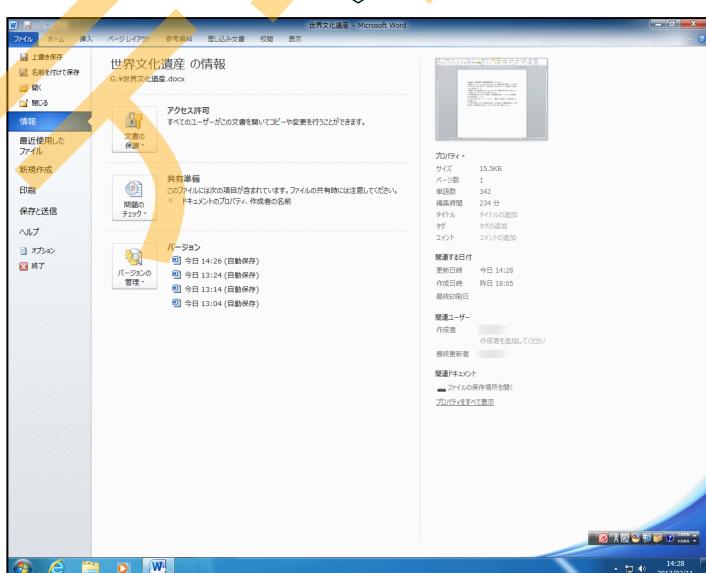
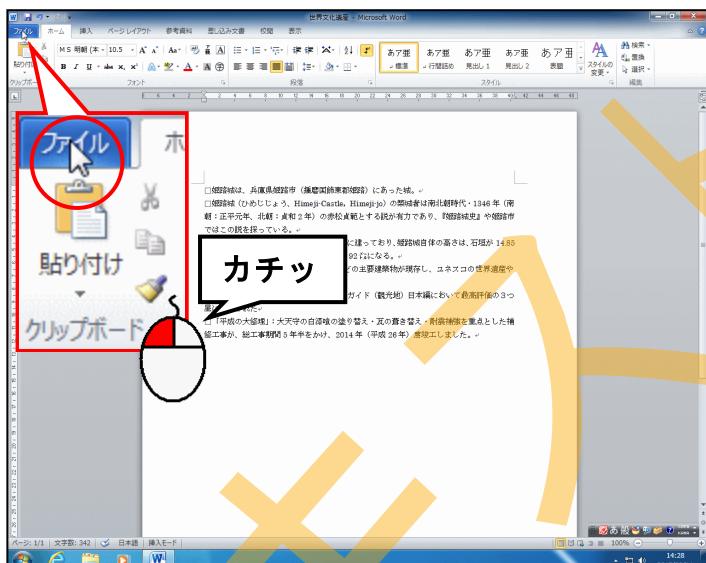


印刷なんて簡単にできるのですから、さらにもっと高い目標を設定してチャレンジしてください。」

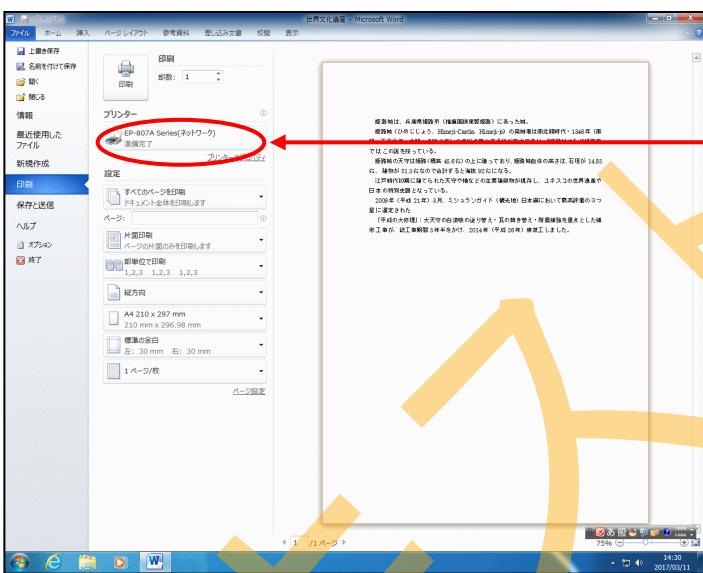
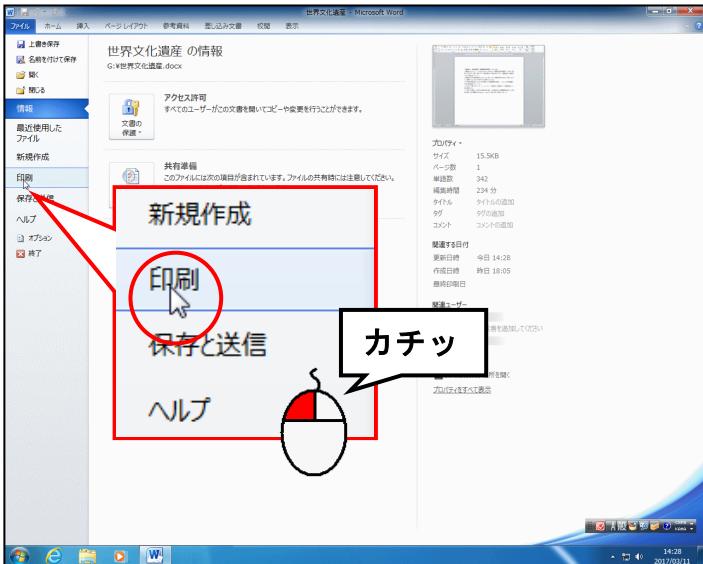
「印刷」とは、今画面に表示されている内容を紙に印刷することをいいます。

先ほど上書き保存した文書を印刷してみましょう。

画面左上にある【ファイル】タブにポイントし、クリックします。

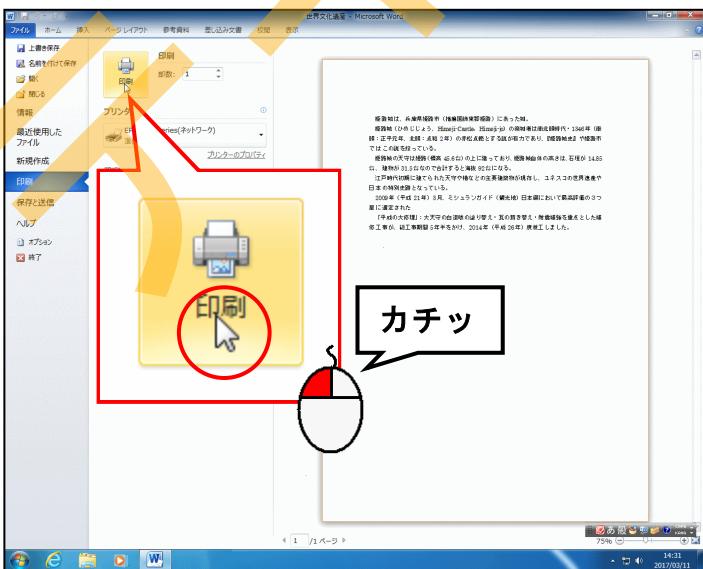


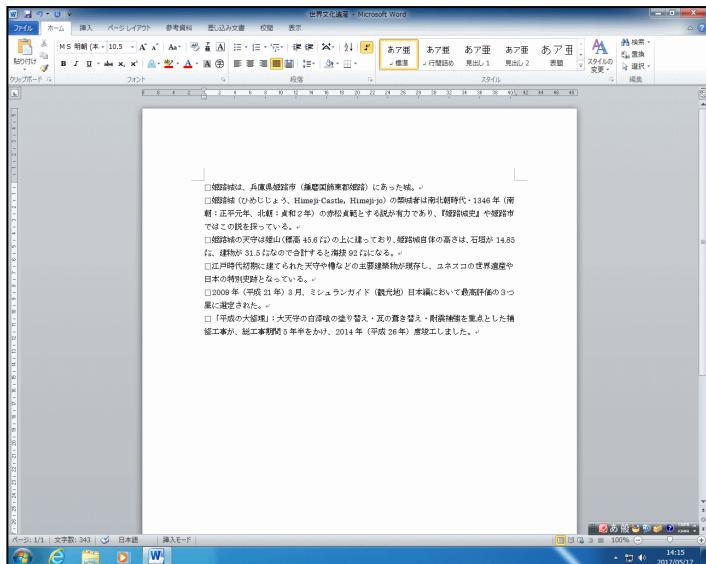
表示されたメニューから [印刷] にポイントし、クリックします。



- パソコンにつながっているプリンターによって表示されるプリンターの名前は異なります。

表示された画面の [印刷] ボタンにポイントし、クリックします。





● [印刷] ボタンをクリックすると、接続されたプリンターで内容が印刷されます。

次の操作のためにワードを終了しましょう。

大変お疲れ様でした。

このテキストを読み飛ばさずに、ここまで読み進めてくださったということは、これからパソコンを楽しく活用するための基本的な操作を習得されたことだと思います。

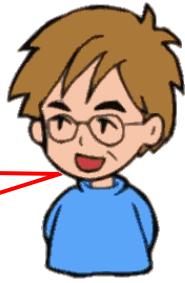
これから案内状や年賀状、請求書、インターネット、電子メールなど、パソコンを使ってより便利で、楽しいことを学んでいきましょう！

ここまでテキストを読み進めてください、
誠にありがとうございました。

☆☆ここまでくれば、練習問題14で理解度を試してください。☆☆



なんとか、最後まできたわい！
これも先生のおかげじゃ！



そんなことないですよ。
これもみんなの頑張りです。
次のテキストでもこの調子で楽しくやりましょう！

●次のテキストでできること

いろいろとカラフルな文書を作成する

お小遣い帳					
平成22年6月					
日付	費目	摘要	収入	支出	残高
6月1日	前月繰越		17,892		17,892
6月1日	収入		30,000		47,892
6月3日	食費	昼食代		850	47,042
6月5日	図書費	雑誌代		650	46,392
6月5日	雑費	温泉入浴代		600	45,792
6月5日	食費	和菓子代		950	44,842
6月8日	衣服費	Tシャツ代		2,900	41,942
6月10日	交通費	タクシ一代		3,420	38,522
6月10日	交際費	手土産代		1,260	37,262
6月20日	交通費	電車代		420	36,842
6月20日	雑費	文房具代		735	36,107
6月23日	衣服費	スラックス代		7,800	28,307
6月26日	交際費	お土産代		1,800	26,507
6月28日	雑費	温泉入浴代		600	25,907
合計			47,892	21,985	

表を作成して自動的に計算をする

商品番号	商品名	単価	4月	5月	6月	合計	金額
A-001	きつねうどん	500	52	51	60	163	81,500
A-002	炊き込みごはん	150	60	71	63	194	29,100
A-003	ざるそば	400	25	35	40	100	40,000
A-004	肉じゃが	350	43	40	43	126	44,100
A-005	天ぷら	450	32	35	42	109	49,050
合計			212	232	248	692	243,750

商品別売上報告

日付 7月5日

商品番号	商品名	単価	7月	8月	9月	合計	金額
A-001	きつねうどん	500	55	54	63	172	86,000
A-002	炊き込みごはん	150	63	74	65	202	30,300
A-003	ざるそば	400	28	38	43	109	43,600
A-004	肉じゃが	350	50	48	46	144	50,400
A-005	天ぷら	450	35	38	45	118	53,100
合計			231	252	262	745	263,400

1

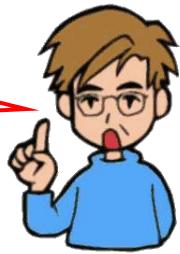
2010/5/25

The screenshot shows the Yahoo! Japan homepage with a large red banner in the center reading "父の日特集 2017年 こだわりの商品を贈ろう 楽しくおしゃべり♪ ポイント10倍!" (Father's Day Special 2017, Give thoughtful gifts, Enjoy talking, Points 10x!). The page features various Father's Day gift suggestions like "父の日ギフトボックス" (Father's Day Gift Box) and "父の日グッズ" (Father's Day Goods). The top navigation bar includes links for "Yahoo! JAPAN", "検索", "ログイン", and "会員登録". The left sidebar has a tree icon and links for "年", "月", "日", "曜日", "天気", "カレンダー", "天気予報", "地図", "検索", "ヘルプ", "アカウント", and "ヘルプ". The main search bar at the top right contains the text "父の日 入浴剤(入浴)".

インターネットを 楽しむ

次のテキストもお楽しみに！

ここからは、パソコンのこと、文字入力やワードのこととをより詳しく知っていただくための補足説明です。



●テキスト以外の操作方法、補足説明

●P9 パソコンについての補足説明

●OS (基本ソフト)

Operating System (オペレーティング・システム) の略で、ハードウェアとパソコン利用者との間で、コンピューターを有効に操作、利用できるように働くソフトウェア。OSの役割としては、次のようなものがあります。

- キーボード、ディスプレイ、プリンター、補助記憶装置などの働きを調整する。
- プログラムが正常に実行されるようにコントロールする。
- メモリーの割当やCPUの時間分割などにより、複数の仕事を行えるように調整する。
- ファイルの登録や削除などをコントロールする。
- ネットワーク環境を提供する。

●アプリケーションソフト（応用ソフト）

企画書を作成してみようとか、子供会のお知らせを作つてみようというときには、ワープロソフト（ワードや一太郎など）が必要です。また、マージャンゲームをしたければ、マージャンソフトが必要です。このようなパソコンソフトのことをアプリケーションソフト（単にソフトウェアともいう）といいます。

●ハードディスク

パソコンの補助記憶装置のひとつで、記録媒体である磁気ディスクと、それに対して読み書きを行う機械的な部分を一体化して密封した装置。1台あたりの記録容量が大きいこと、読み書きが高速であることが特徴です。

●CPU

パソコンにつながっている機械の管理やデータの処理を行っています。人間でいうと「脳」と同じです。

●メモリー

アプリケーションソフトなどを読み込むための「作業場」。補助記憶装置に対して主記憶装置ともいいます。

●インターネット

世界中のLAN（ローカル・エリア・ネットワーク）を網の目のようにつないだネットワークのこと。

個人利用としては、プロバイダーというインターネット接続業者のコンピューターを通して一般の電話回線を使って接続するのが一般的です。

→ 次ページに続く

● LAN

構内通信情報網のことで、比較的限られた地域にある複数のコンピューター・システムを結びつけ、高速でデータを取り扱うシステムです。たとえば、会社の中で LANを取り入れると、システム間でデータのやり取り、データの共有化、出力装置の共同使用などが可能になります。

● パソコン通信

電話回線を通じてパソコン同士、パソコンとホストコンピューターとの間でデータを取り扱うパソコンの利用形態。

● 電子メール

コンピューター・ネットワークを利用して、パソコン同士でデータやメッセージを取り扱うシステムです。宛名の代わりに相手のメールアドレスを使い、ホスト・コンピューター内にあるメール保管場所（メールサーバー）に送信する。相手は自分のメールボックスにアクセスして、保管してあるメールを自分のパソコンに取り込んで内容を読むという仕組みです。

電子メールは Eメール（エレクトロニック・メール）ともいいます。

● マルチメディア

文字・音声・画像・映像など多様な形式で表現された情報を統合的に処理すること。数字や文字だけの処理に比べて、きわめて大量のデータを高速に処理する必要があるため、ハードウェア面、ソフトウェア面でそれを可能にする性能が必要です。

● ハードウェア

もともとは「金物」という意味です。パソコンの分野では、装置や機械などの総称として使われるソフトウェアと対照的なことばです。具体的にいうとパソコンを構成している部品や装置のことをいいます。

● キーボード

パソコンで数値や文字を入力するときの入力装置のことです。

● マウス

2つまたは3つのボタンがある入力装置のことで、「ねずみ」に似ていることからマウスと呼びます。画面に表示された機能や命令を選択したり、移動やコピーしたりできます。

● タッチタイピング（ブラインドタッチ）

キーボードから数値や文字を入力するとき、キーボードを見ずにタイピングすることができます。各指について基本位置（ホームポジション）と分担するキーが決められており、1つのキーを打った後は常に基本位置に指を戻します。また、同じキーは必ず同じ指で打つのが原則です。

→ 次ページに続く

●フリーズ

もともとは「凍りつく、動かなくなる」という意味。パソコンの分野では、予期しない形でプログラムの実行が停止し、キーボードやマウスなどを操作しても何も反応しない状態をいいます。

●リセット

パソコンの分野では、パソコンの電源を入れた直後の状態に戻すことをリセットといいます。パソコンにはリセット・ボタンという専用のボタンが設けられているものもあります。

●P11 電源ボタンを押した時の補足説明

パソコンの電源ボタンを押すと、**ウィンドウズ** (Windows) を起動する前に接続されている**周辺機器**などの状態をチェックします。次に**ウィンドウズ** (Windows) を起動して**ハードディスク**から必要なデータを処理する場所である**メモリー**と呼ばれるところにコピーします。パソコンの性能にもよりますが、これらの**作業**を行うために少し時間がかかります。

●P13 デスクトップ上の補足説明

●アイコン

ソフトを起動させたり、画面を表示させたりするための絵柄のことをいいます。

●デスクトップ

パソコンの電源を入れて、最初に表示された画面全体のことをいい、言葉どおり「**机の上**」という意味です。

●マウスポインター

マウスの動作どおりに画面上を動き、現在どこを指しているかを示す目印のことをいいます。マウスポインターにはいろいろな種類があり、自分の好みに合わせて変更することもできます。また、指し示す場所（マウスポインターがある場所）によって、いろいろとその形が変わります。

●スタートボタン

画面左下にある丸いボタンのことをいいます。パソコンを操作する場合に基本的にはこのボタンから始めます。

●タスクバー

画面下辺にある横長の棒（バー）をいいます。

コンピューターが仕事を行う時の最小単位をタスクといい、今パソコンがどんな処理を行っているかを表すバー（棒）であることから「タスクバー」といいます。

→ 次ページに続く

● ガジェット

Windows Vistaから新たに追加された機能です。ガジェットとはさまざまな用途に使える小道具で、カレンダー、時計、CPUメーターなどがあり、標準では9個のガジェットがあります。

Windows 7からはガジェットは必要な方のみ設定できるようになっています。

ご参考までに

デスクトップ上で右クリックし表示されるメニューから、[ガジェット(G)]を選択すると、下のようなガジェットが表示されます。



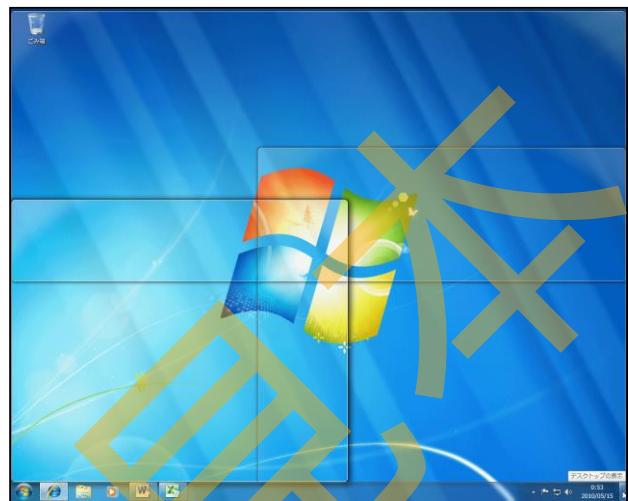
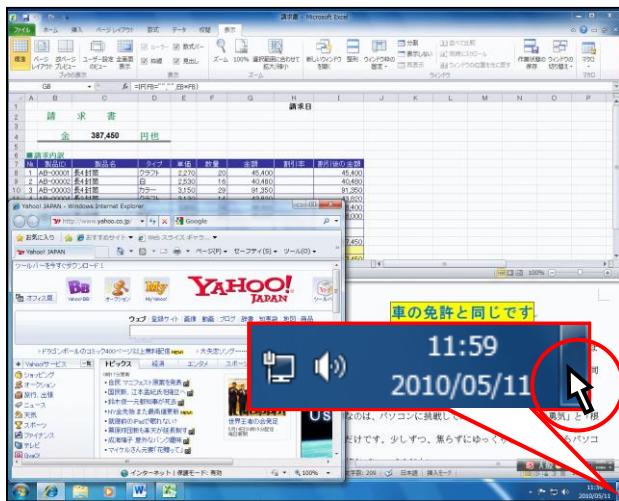
ガジェットを、デスクトップ上に追加したい場合は、上図の中から追加したいガジェットの中でダブルクリック、もしくは右クリックし表示されるメニューから [追加(A)] をクリックします。ガジェットを削除したい時は、ガジェットの右上に表示される **X** をクリックします。

表示されたガジェットは好きな場所にドラッグすることで移動することもできます。

→ 次ページに続く

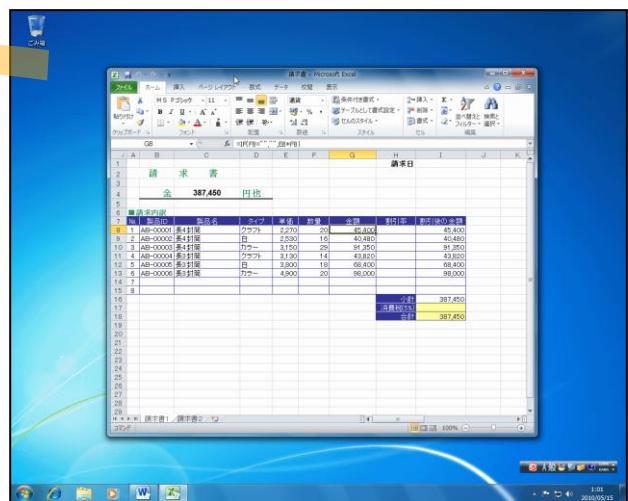
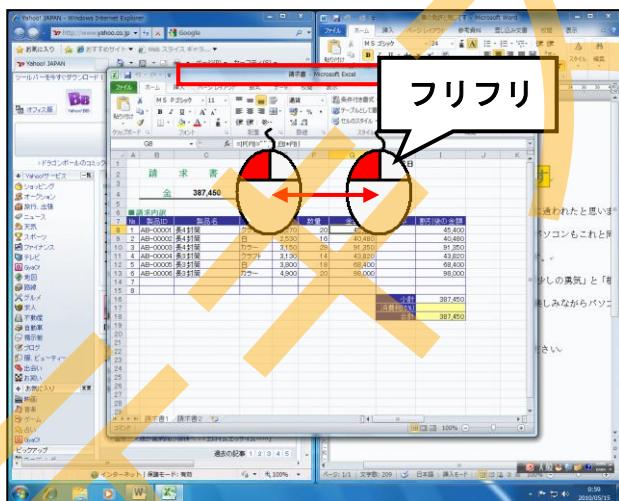
エアロ ■Aero プレビュー

タスクバーの右端にマウスポインターを合わせるだけで、開いているすべてのウィンドウが透明になります。(ウィンドウが透けてガジェットやショートカットが見える)



■Aero シェイク

ウィンドウのタイトルバーをクリックしたまま左右に何回か振ると、その他のウィンドウを縮小できます。(デスクトップ上のショートカットがすぐに使える)



●P19 クリックの補足説明

左ボタンを1回押してアイコンが開いてしまう方は設定を変更することができます。フォルダーオプションの「クリック方法」を変更します。詳しくはインストラクターにお尋ねください。

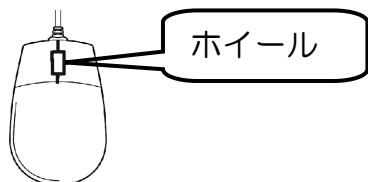
●P21 ダブルクリックが苦手な方のために

ダブルクリックの苦手な方のためにパソコンが認識するダブルクリックの速度を変更することができます。

マウスのプロパティの「ダブルクリックの速度」を変更します。詳しくはインストラクターにお尋ねください。

●P25 マウス操作の補足説明

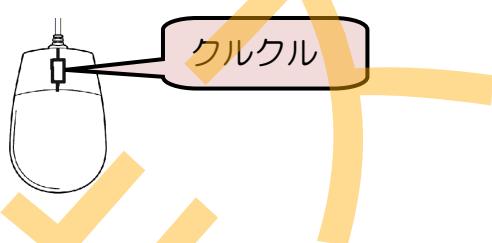
左ボタンと右ボタンの真ん中にあるタイヤ状のボタンをホイールといいます。



長い文書やメールは画面を上下に動かさないと読むことができません。これは、パソコンの画面（ディスプレイ）に表示される文字の量や画面の高さに限界があるからです。そこで、「スクロールバー」（画面右端にある▲や▼が付いた棒状のもの）を使うわけですが、その代わりになるのがこのボタンです。

このボタンを使う時は、対象となる画面上で行う必要があります。上下左右にずらしたい画面の外で行ってもできないので注意が必要です。

画面をずらす操作をスクロールといいます。対象となる画面上でホイールをクルクルまわすと上下にスクロールすることができます。



●P27、P39 スタートメニューの表示方法と消す方法

●スタートメニューは、キーボードの [Windows] キーを押すか、[Ctrl] キーを押した状態で [Esc] キーを押しても表示することができます。

それぞれのキーの位置や役割は、P87(2) パソコンを操作するためのキーの配置で説明しています。

●スタートメニューを消す方法

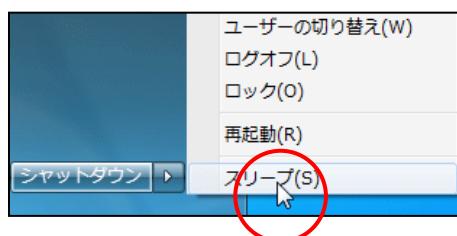
- ・キーボードの [Esc] キーを押す。
- ・キーボードの [Windows] キーを押す。
- ・表示された [スタートメニュー] 以外のところをクリックする。

●P28 スリープ状態にする方法

「スリープ」は、従来の電源の切り方ではなく、すぐに起動できるように省電力の状態で待機することです。

●スリープで終了する方法

[スタート] ボタンをクリックし、表示されるシャットダウンの右側にある ▶ にポイントし、右側に表示される一覧から [スリープ(S)] を選択します。



●P94 その他の終了方法

● [ファイル] タブをクリックして、[終了] をクリックしても、ワードを終了することができます。



ワードの画面を閉じるときに、次のような画面が表示される場合があります。



● [保存(S)]

保存の作業に入ります。

● [保存しない(N)]

表示された文書は保存せずにワードを終了します。

● [キャンセル]

ワードを閉じる操作の取り消しとなり、編集画面に戻ります。

●P97 入力モードの切り替えの補足説明

●カタカナ／ひらがなキー

[入力モード] を「あ」に戻すには、マウスでクリックするほかに、[カタカナ／ひらがな] キーを使う方法もあります。

キーボードにあるこのキーを1回押すと、[入力モード] がどの状態でも「あ」に戻ります。



●半角／全角キー

[入力モード] が下記の状態のときには、[半角／全角] キーを1回押すと「あ」に戻ります。

A → 直接入力

入力モードの種類

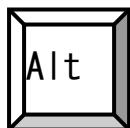
あ	ひらがな(H)
カ	全角カタカナ(K)
A	全角英数(L)
カ	半角カタカナ(A)
A	半角英数(P)



●P99 ローマ字・かなの切り替えの補足説明

●ローマ字入力とかな入力の切り替えは、キーボードの [Alt] キーを押した状態で [カタカナ／ひらがな] キーを押しても切り替えることができます。

この場合「KANA」をクリックしても元に戻らないので、同じように [Alt] キーを押しした状態で [カタカナ／ひらがな] キーを押しましょう。



「KANA」が白文字

「あ」になっている

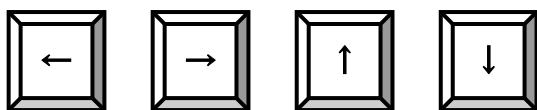


「KANA」が青文字

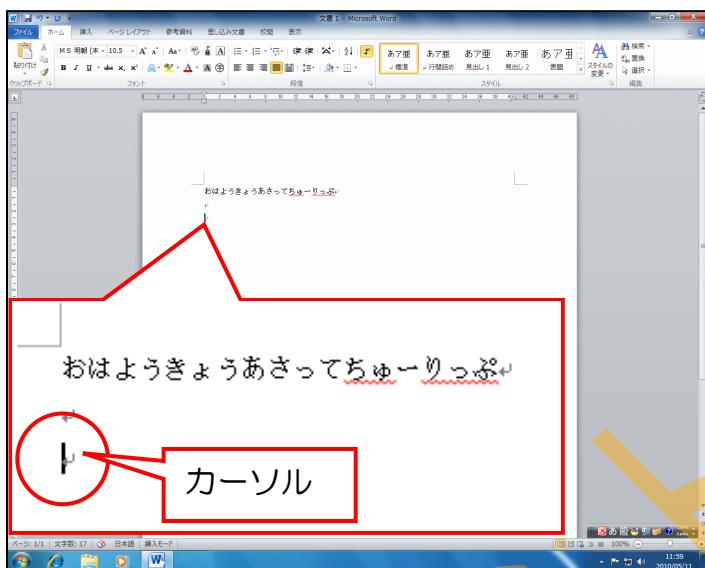
「あ」になっている

●P115 キー操作によるカーソル移動

カーソルをキーボードを使って移動するためには、**キーボードの矢印キー**（方向キーともいう）を使います。矢印キーには次の4つがあります。

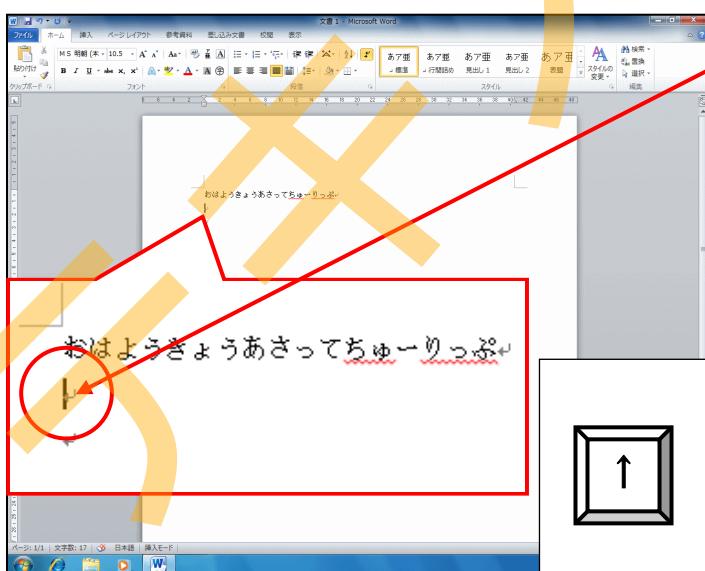


まず、カーソルが下の図の位置にあることを確認してください。



●左と同じ文字が表示されていない方は、左と同じように入力してから操作してください。

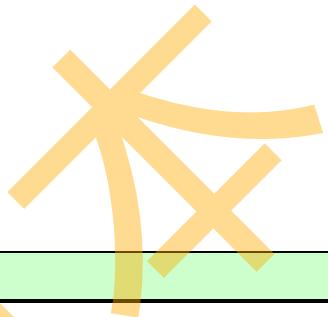
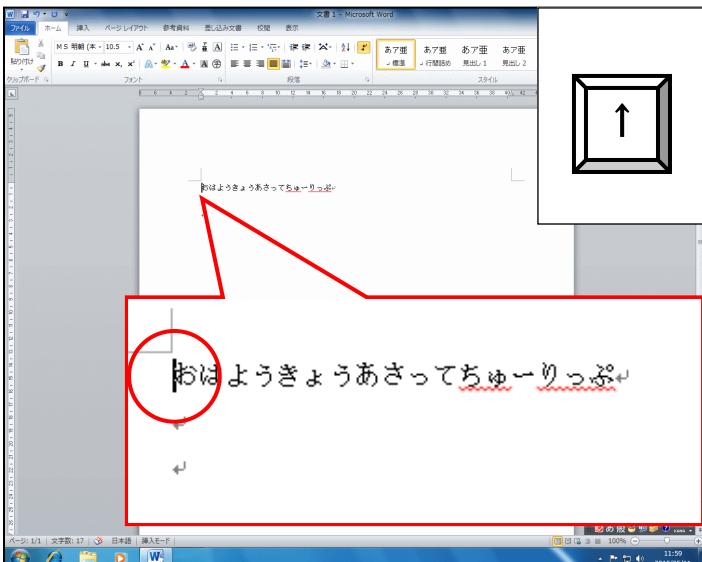
上向きの矢印キー（↑）を押します。



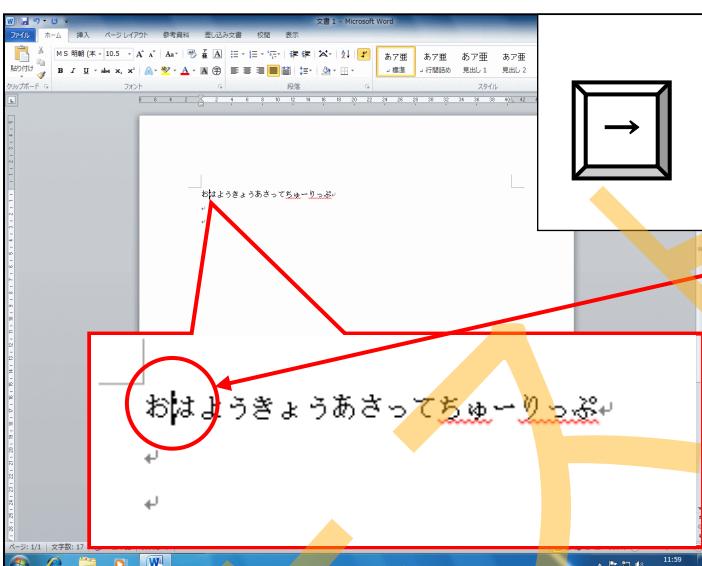
●カーソルが1行上に移動しました。

→ 次ページに続く

もう一度上向きの矢印キー（↑）を押します。



右向きの矢印キー（→）を押します。



●カーソルが1文字右に移動しました。

●右向きの矢印キー（→）を数回押して「ちゅーりっぷ」の後ろまでたら、次に右向きの矢印キー（→）を押した時点で、カーソルは1行下に移動します。これは、「ふ」の右に文字がないためです。

また、左向きの矢印キー（←）を数回押して、先頭の「おはよう」の前にカーソルが表示されると、それ以上何回押してもカーソルは移動しません。

これは、先頭の文字「お」よりも前に文字がないためです。

キー	キー操作による結果
↑	1行上に移動
↓	1行下に移動
←	現在のカーソル位置から1文字分左に移動 行頭にカーソルがある場合、上の行の末尾に移動
→	現在のカーソル位置から1文字分右に移動 行末にカーソルがある場合、下の行の先頭に移動
ホーム Home	同一行の先頭に移動
エンド End	同一行の末尾に移動
コントロール ホーム Ctrl+Home	文書の先頭に移動
コントロール エンド Ctrl+End	文書の最後に移動

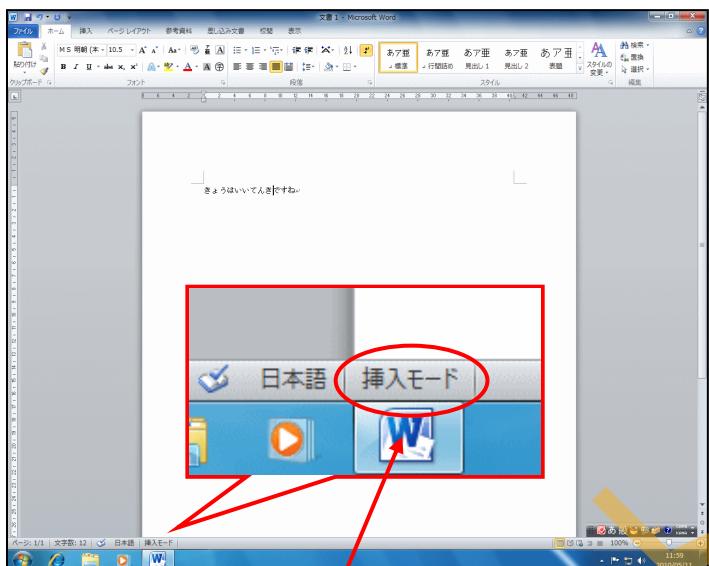
●P122挿入モードについての補足説明

●挿入モードと上書きモード

キーボードの [Insert] キーを押すたびに入力する方法が [挿入モード] と [上書きモード] に切り替わります。

(P87 (2) パソコンを操作するためのキーの配置参照)

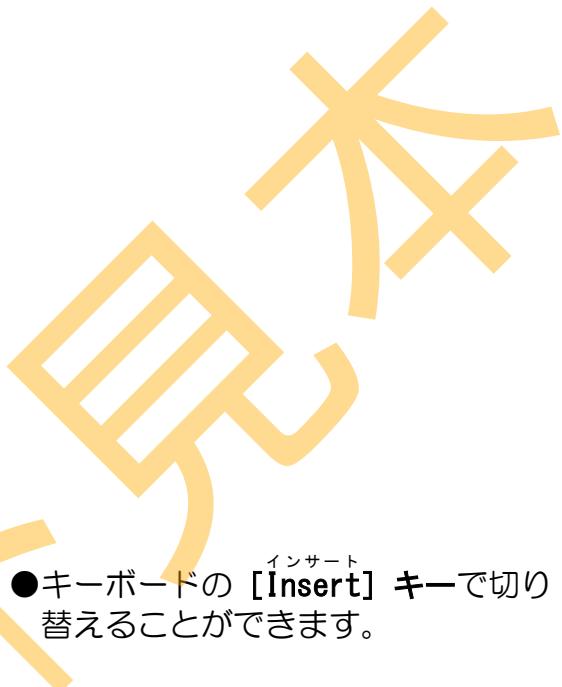
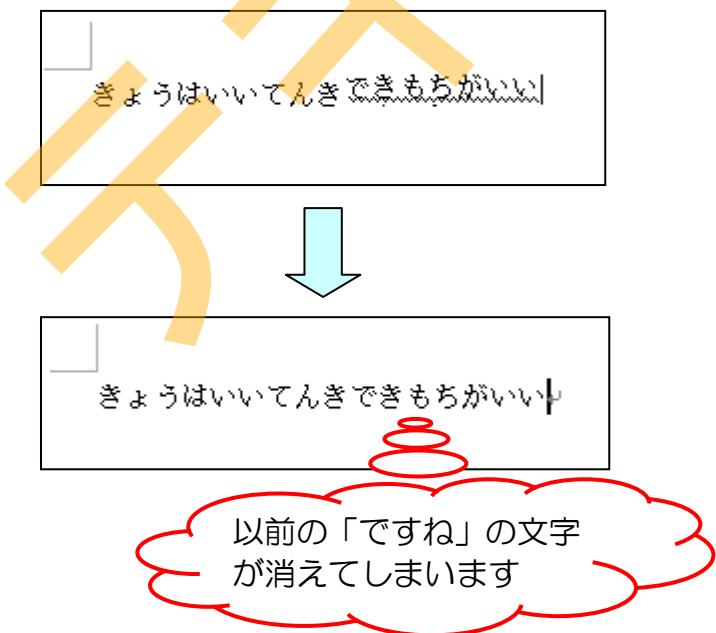
[挿入モード] と [上書きモード] は、ステータスバー（ワードの下側の灰色の部分）に表示される文字をみて確認できます。P122と同じ操作で2つの違いを見てみましょう。



上書きモードの場合



上書きモードで「できもちがいい」と入力すると



●ステータスバーの [挿入モード] (もしくは [上書きモード]) を直接クリックしても切り替えることができます。

●上書きモードで文章の途中から文字を入力すると入力された文字で上書きされます。

(挿入モードの時は、カーソル位置より後ろの文字は P122 の様に右にずれていきます。)

●P132 [IME パッド] のその他の機能

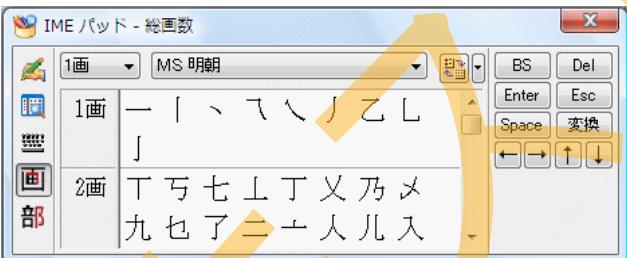
●文字一覧 記号や特殊文字などを一覧から探します。



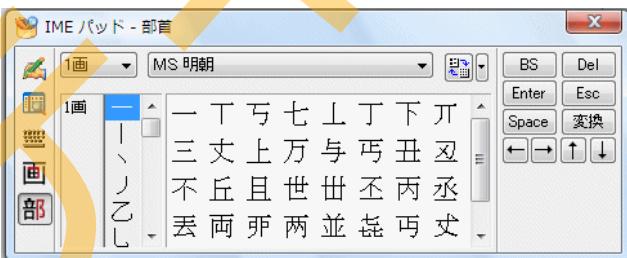
- ソフトキーボード …… キーボードのキーを押す感覚で、画面上に表示されたキーボードをクリックして文字を入力していきます。



●総画数 読みのわからない漢字の総画数を指定して目的の文字を探します。



●部首 読みのわからない漢字の部首を指定して目的の文字を探します。



●P133 [IMEパッド] の表示方法についての補足説明

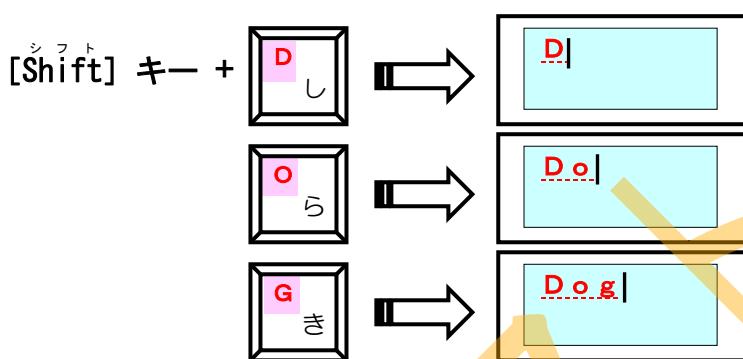
● [IMEパッド] のその他の表示方法

- [言語バー] にある [ツール] ボタンをクリックして表示されるメニューから [IMEパッド(P)] をクリック
- [Ctrl] キーを押した状態で、[F10] キーを押し、[P] キーを押しても表示することができます。

●P145、P148 ローマ字入力の方にありがたい機能

●ローマ字入力の方にありがたい機能

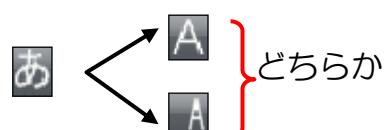
英数字を入力する場合、言語バーの入力モードは「あ」の状態で入力できますが、P144に記載されている方法で入力すると、正しく入力されているか画面で確認することが困難です。そこで [Shift] キーを押したままの状態で「D」を押します。



注意!

- 全角英数字が表示されるか、半角英数字が表示されるかは、直前にどちらを使ったかによります。

- [Shift] キーを押した状態で「D」を押すことにより、言語バーの入力モードが下のようになります。



英字で文書すべてを入力したい場合は、入力モードを (半角英数) に変えてから入力した方が便利です。

●P153 特殊文字の補足説明

- 次のように入力して変換するとすばやく表示することができます。

● や◎は『まる』と入力、△や▼は『さんかく』と入力して変換
■ □、◇や◆は『しかく』と入力して変換
()、「」、「」や【】は『「』や『』』と入力して変換
(株)は『かぶ』と入力、(有)は『ゆう』と入力して変換
∞は『むげん』と入力して変換
※は『こめ』と入力して変換

●P158 文字の確定を省略する方法

●確定しないで次の文字を入力すると前の文字が確定されます。

- ・「かのじょは」と入力し、「彼女は」に変換します。

彼女は[↓]

- ・「彼女は」の文字が確定しない状態（下に点線が入った状態）で、「あかるい」を入力し変換します。

彼女は明るい[↓]

- ・「明るい」の文字が確定しない状態（下に点線が入った状態）で、「しゃかいじんです。」を入力し変換します。

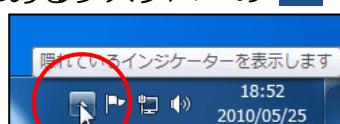
彼女は明るい社会人です。[↓]

- ・[Enter] キーを押して文字を確定します。

彼女は明るい社会人です。[↓]

●P178 リムーバブルディスクを差込口から抜く方法

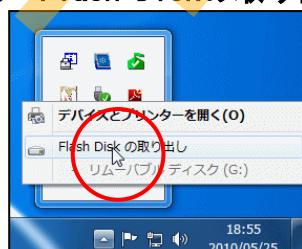
- ・画面右下にあるタスクバーの クリックします。



- ・表示される [ハードウェアを取り外してメディアを取り出す] ボタンをクリックします。

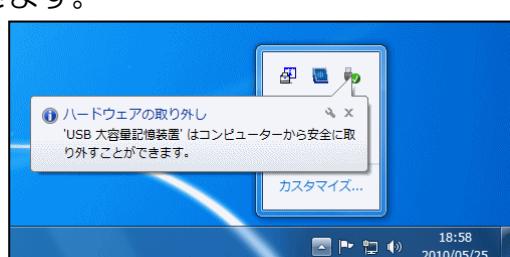


- ・表示される「Flash Diskの取り出し」をクリックします。



●使用しているリムーバブルディスクによって、表示される名前は異なります。

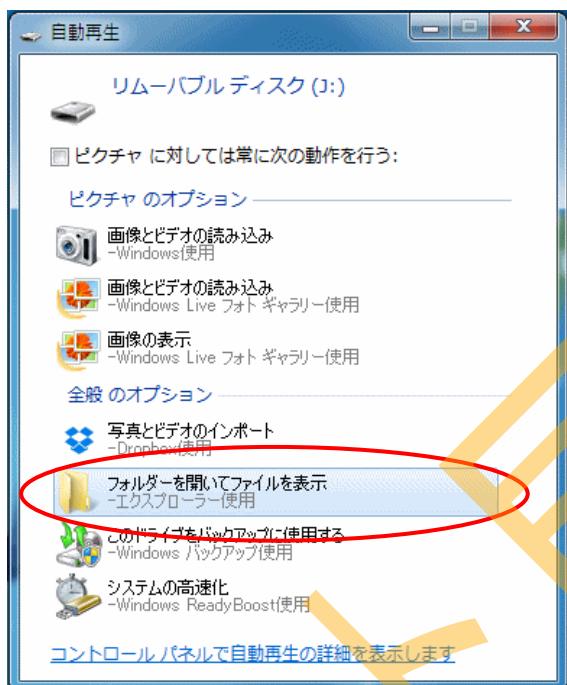
- ・[ハードウェアの取り外し] が表示されるので、その後リムーバブルディスクを差込口から抜きます。



●P178 自動再生機能

●自動再生

リムーバブルディスクをUSBメモリー差込口に差し込むと、次のような【自動再生】ウィンドウが表示され、「全般のオプション」の「フォルダーを開いてファイルを表示」が反転表示されていますのでクリックをすると、リムーバブルディスクが開かれ、中のファイルやフォルダーが表示されます。



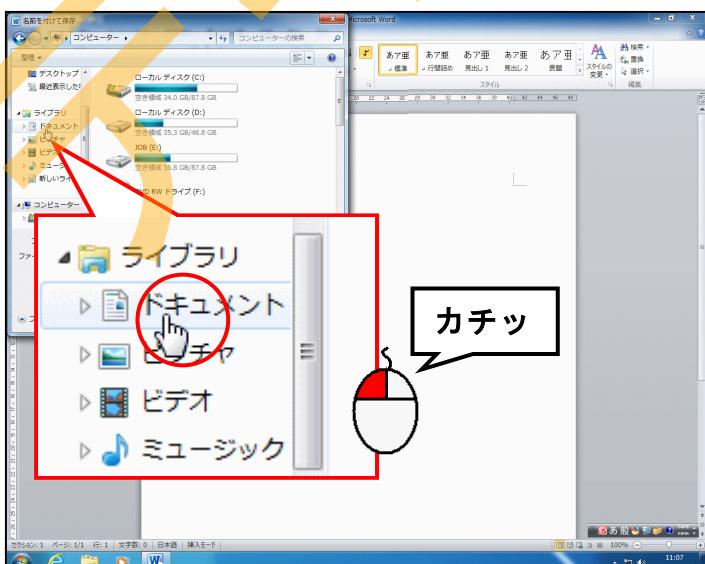
●P186 保存場所の補足説明

リムーバブルディスク（USBメモリー）以外の場所に保存するためには、どのように操作すればよいのでしょうか？

ここでは、リムーバブルディスク（USBメモリー）の代わりにドキュメントに保存先を指定する方法を記載します。

■ドキュメントに保存する場合

【名前を付けて保存】ダイアログボックスの左にある「ドキュメント」をクリックします。

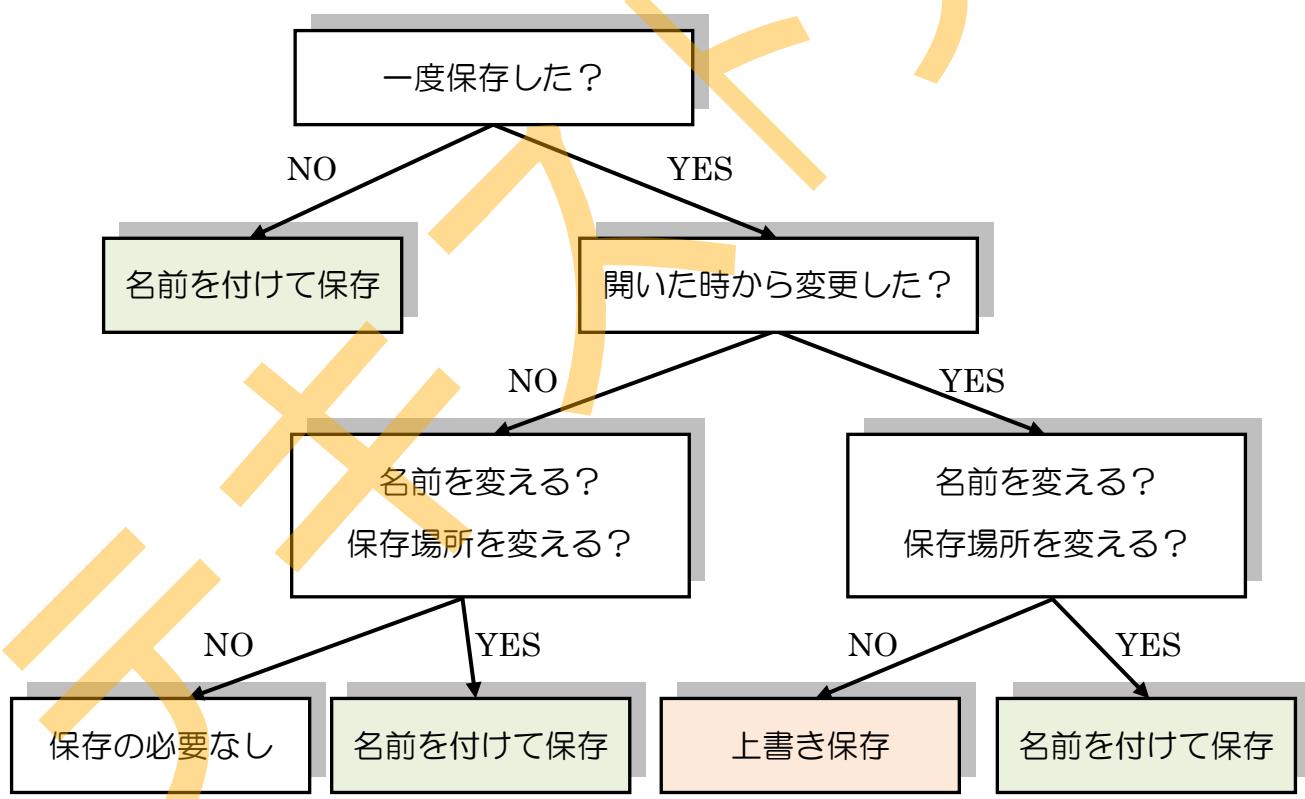


● 「名前を付けて保存」と「上書き保存」の違いについて

名前を付けて保存…昔のアルバムを大切に保管するようなもので、これまでの作業を残しておきたい場合は、名前を付けて保存という操作で保存します。アルバムの中から10歳の時の写真を開いて、20歳の時の写真を上に貼り付けてしまうと、10歳の時の状態は消えてしまいます。10歳の時は10歳の状態で、20歳の時は20歳の状態で保存したければ、それぞれ別々の名前を付けておかないといけないということです。

上書き保存…昔のアルバム写真を燃やしてしまって、今だけを大切にするようなものです。上の例でいうと、10歳の時の写真を開いて、20歳の時の写真を上に貼り付けて保存するようなもので、現在の状態しか残りません。過去は不要で、今だけを大切にしたければ上書き保存をしましょう。

※…上記の説明以外に、例えばパソコンのハードディスクという入れ物から、USBメモリーという入れ物に保存場所を変えたい場合などにも、「名前を付けて保存」という操作を使います。



(参考資料)

●ファイルやフォルダー

「ファイル」や「フォルダー」という言葉を説明する前に、パソコンとはいっていい何なのでしょう？パソコンとは、コンピューターの一種であることは間違ひありません。パソコンとは、簡単にいうと、「あなたのしなければいけない手作業を代わりに行ってくれる便利な機械」だと思ってください。

あなたにとって役立つ情報を検索して加工したり、人に情報を伝達したりできる、比較的小規模の処理に適しているコンピューターなのです。

パソコンに何をさせたいのか分から
ないと、パソコンは悩んでしまって、
答えを出してくれません。

パソコンに正しい命令を与えてやる
と、即座に答えを出してくれます。



パソコンは使って初めて役に立ちます。
飾っていても邪魔になるだけ！！

(1) パソコンの大きな機能

パソコンには、大きく分けて3つの機能があります。まず、通常の人が一番嫌いな**計算**（演算）するという機能、それから作成したデータ（文書や表、写真など）を**保存**（記憶）するという機能、後は完成したものを**印刷**するという機能です。

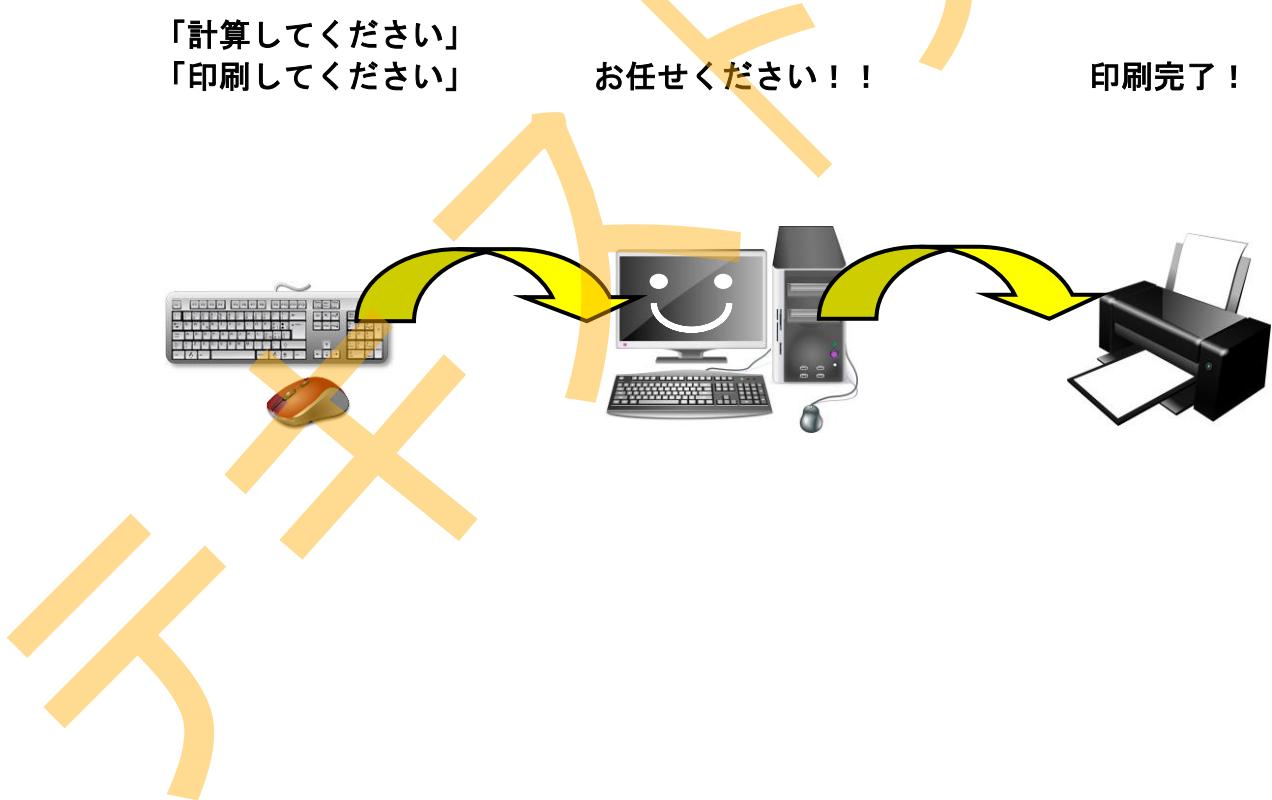
① 計算と印刷

経理などをされている方は特に解りだと思いますが、決算期にはたいへんな量の帳票を作成しないといけません。いろいろな集計表から決算書まですべて手作業ですると、多くの時間と労力が必要となります。

しかし、データ（日々の動き）だけ入力すれば、後はパソコンに「**計算して結果を表示しなさい**」と命令を与えるだけで瞬時に結果を出してくれます。通常はパソコンの画面上で数字を判断するだけでは事足りません。

どこかに提出しないといけない資料や、いつでも目の届くところに置いておきたい資料などは紙に印刷しておく方がよいでしょう。

このような場合は、プリンターという装置をパソコンに接続して、パソコンの画面に表示されている「**内容を印刷しなさい**」と命令を与えると、プリンターで印刷されます。



② 保存とは

「保存」とは、パソコンで作成した文書や表、あるいはデジタルカメラで撮影した写真などを特定の場所に、特定の名前を付けて残す事をいいます。また、それをファイルといいます。

そしてその特定の場所を表す場合に、一番大きな入れ物の単位を「ドライブ(記憶装置)」といい、その中の仕切りにフォルダーという言葉が使われます。

■ ドライブについて

一番大きな入れ物がドライブです。

そのドライブにはハードディスクドライブ・^{ディーピイディー}DVDドライブ・リムーバブルディスクなどの種類があります。

■ フォルダーとは

整理箱のようなものです。

パソコンで作った物を保存して残した物を「ファイル」と言います。

ファイルはパソコンの保存容量の許す限りでいくつも作成することができます。

しかし、ファイルが増えすぎると、目的のファイルを探すことが困難になってきます。
そこで、「フォルダー」を使います。

例えば「自治会の資料ファイル」「子供の写真ファイル」を、一か所にどんどん保存していくと、仕事とプライベートのファイルが入り乱れて、利用するファイルを探すことが困難になります。

こういった場合に「仕事」「プライベート」などと、ファイルを分類して管理するための「入れ物」があると便利です。

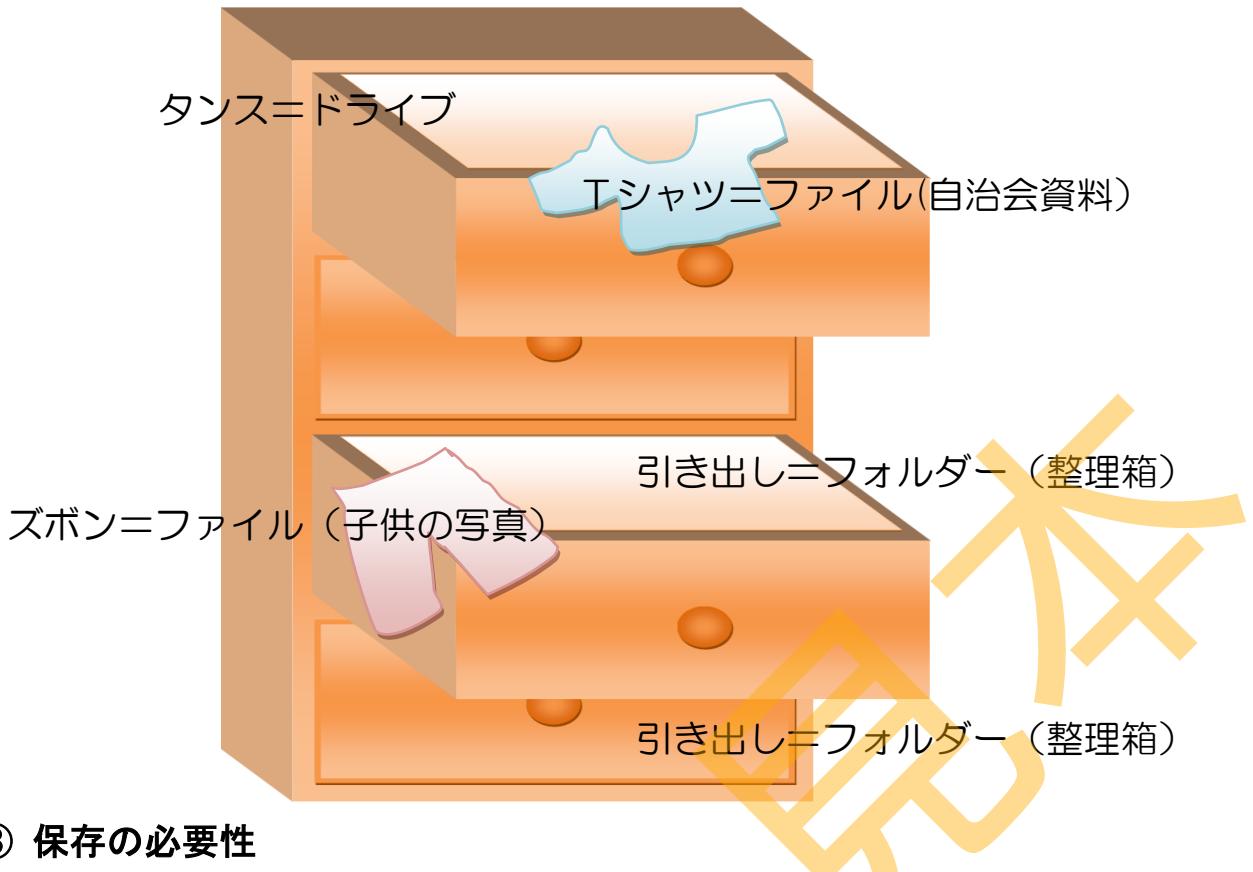
その役目をするのが「フォルダー」なのです。

フォルダー(整理箱)を身近なもので例えるなら、タンスの引き出しです。

タンスの引き出しに、洋服を仕分け片付けることと同じです。

引き出しが別々になっていることにより、すぐに欲しい洋服が探し出せます。

フォルダーを使い分けることによって、自分で作った文書や表を保存したもの(ファイル)をキレイに整理することができるのです。



③ 保存の必要性

なぜ「保存」という操作をする必要があるのか、それがパソコン初心者にとって最大の悩みになっているようです。

「保存」という操作の最大の目的は、保存したデータ（文書や表、写真など）を再度画面に読み出して使うことになります。一度きりしか使わないデータは、保存する必要もありませんが、次に同じような事をする必要がある場合、データを保存しておくと、一から作成する場合に比べて非常に効率的に作業を進める事ができます。

保存するかしないかは、同じようなことを再度する必要性があるかないかによります。そして、再度利用する場合に、どこに保存しておいたどのデータを使うかをパソコンに教えてやらないと、パソコンはわかりません。

タンスの例でいうと、「タンス」という大きなくくりの中にはいくつかの引き出しがあります。衣服を片付ける時には、どこの引き出しにしまったのかが分かるようにしないといけません。

④ 読み出し

一度保存したデータ（文書や表、写真など）は、読み出してやらないと再度利用することはできません。パソコンでは、特定の場所から特定のデータを読み出す操作を「開く」といいます。

その時にパソコンに対して「どこ」にある「どの」データを開いてください。とお願いすることになります。

私もよくある失敗ですが、「どこ」に保存したのか、「名前」は何だったのかを忘れてしまい、開くときに苦労することがあります。そうならないためにも、後で見てもわかりやすい引き出し（フォルダー）を作成し、その中を常に整理しておくことが必要です。

(2) ファイルの存在を確認する

これまで、扱ってきた文書が実際にファイルという単位で保存されていることを確認してみましょう。ここでは「コンピューター」を使って、リムーバブルディスクの中にある「ファイル」を確認してみます。

まずは、USB差込口にリムーバブルディスクを差し込みます。

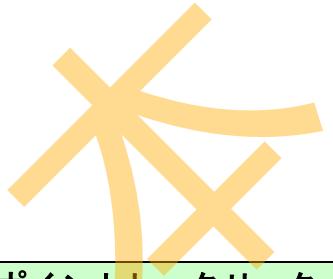
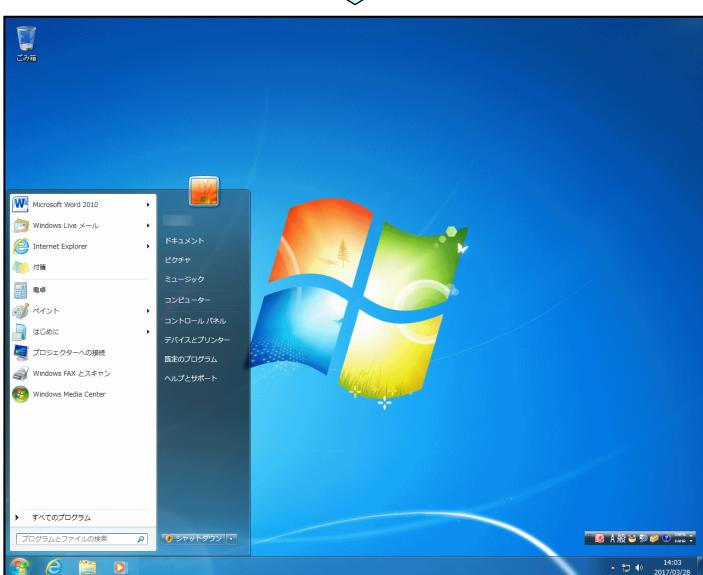


●リムーバブルディスクの差し込み方法を忘れた方は、P178 を参照してください。

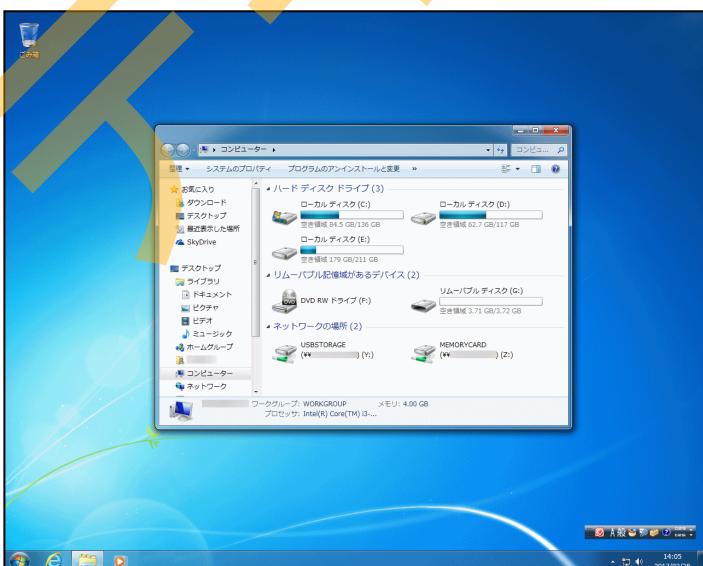
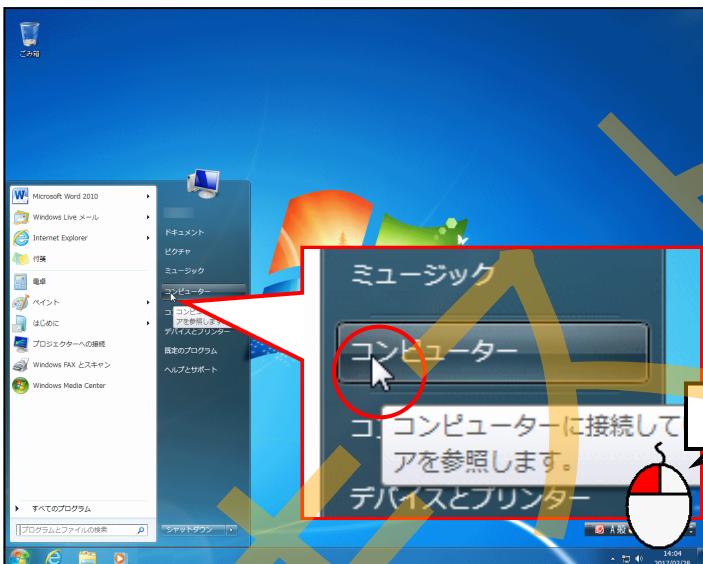
画面左下にある【スタート】ボタンにポイントし、クリックします。



→ 次ページに続く

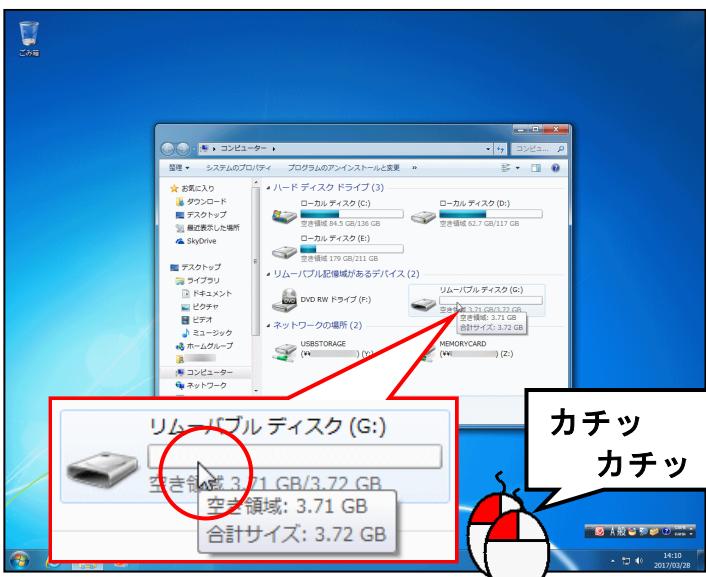


表示されたメニューの右側中央付近にある「コンピューター」にポイントし、クリックします。



→ 次ページに続く

[リムーバブルディスク] にポイントし、ダブルクリックします。

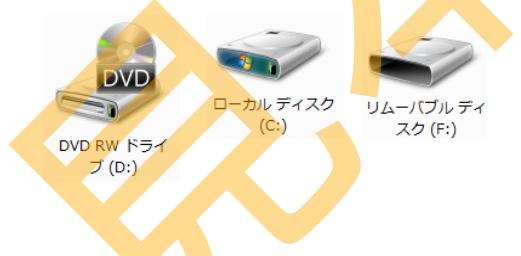


注意!

- ここで表示されているローカルディスク(C:)、ローカルディスク(D:)などは、リムーバブルディスク)と同じレベルの入れ物です。このレベルの入れ物の単位を「**ドライブ**」といいます。

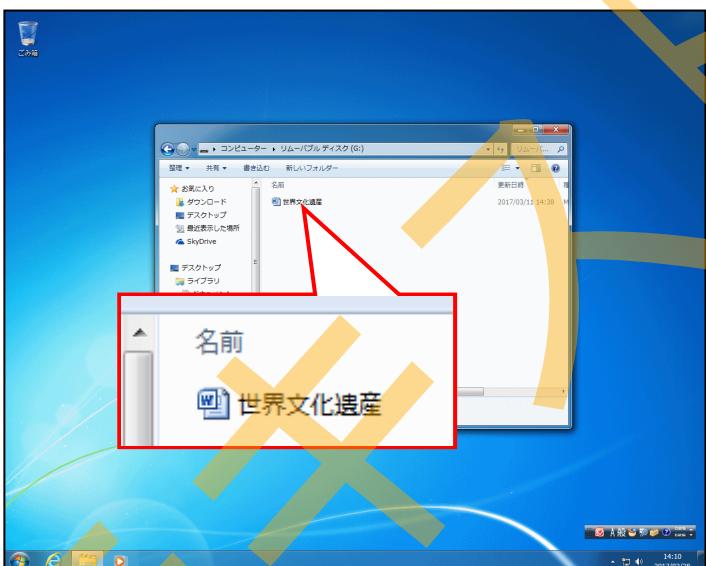
余裕があれば読んでね

- 下に表示したマークすべてがドライブという単位の入れ物です。



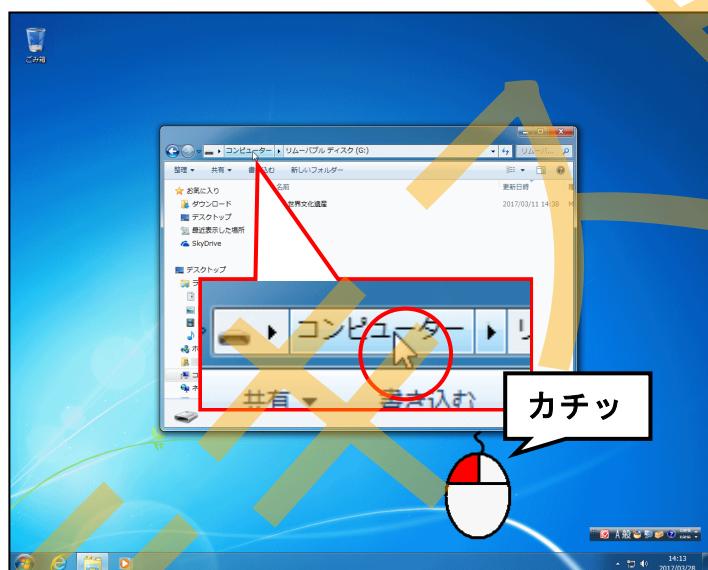
- 左に表示された画面がリムーバブルディスクの中を覗いた状態です。リムーバブルディスクの中に「**世界文化遺産**」の文書が保存されていることが確認できます。

- 「**世界文化遺産**」はファイルという単位です。

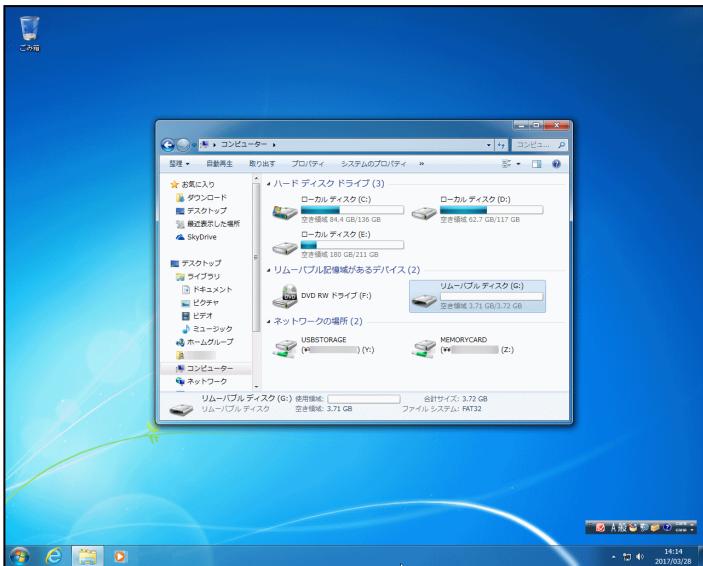


(3) フォルダーの存在を確認する

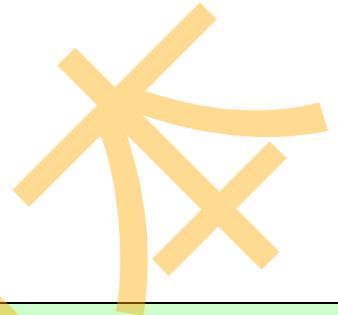
「ファイル」を入れておく入れ物（タンスの引き出しだと思ってください）である「フォルダー」は、ハードディスクなどに設定されるファイルの収納庫です。フォルダーの中に別のフォルダーを作ることもできるので、大きなまとまりから小さなまとまりまで階層的に管理できます。



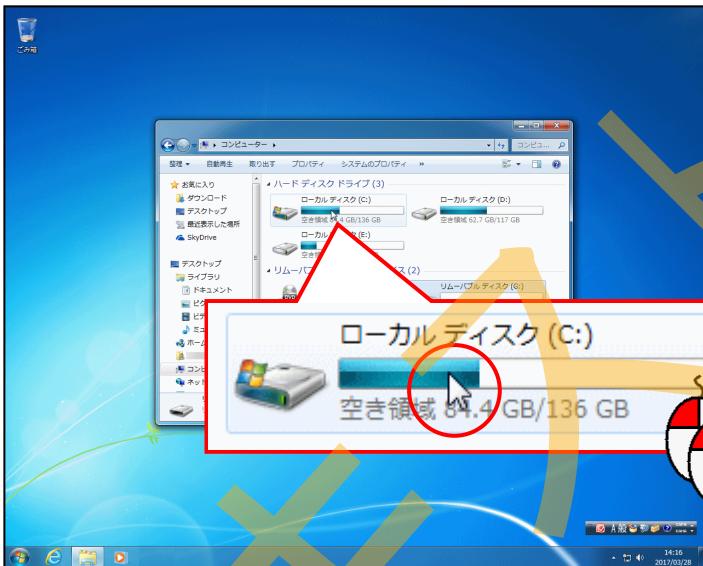
→ 次ページに続く



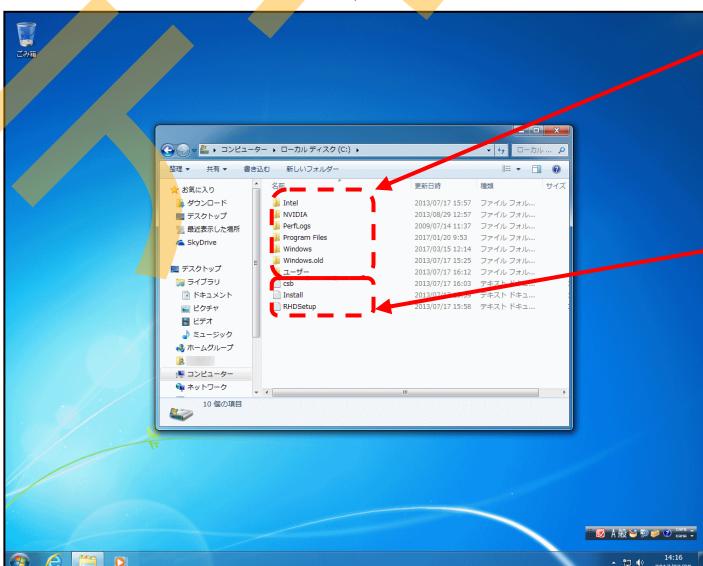
●左のように【コンピューター】の中を表示した画面に戻ります。



【ローカルディスク(C:)】にポイントし、ダブルクリックします。



カチッ
カチッ



●フォルダー

フォルダーのアイコン(絵柄)には、通常、黄色い色をした絵柄が使われています。

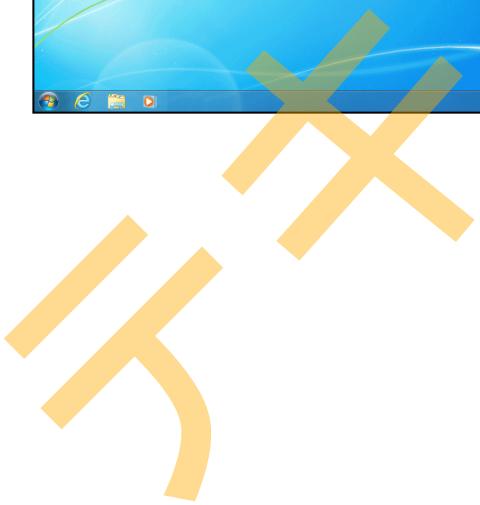
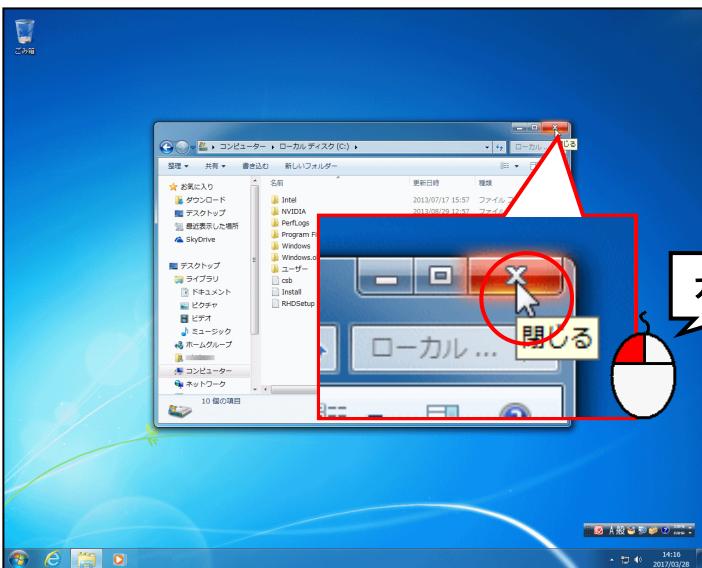
●ファイル

ファイルのアイコンには、いろいろな絵柄があり、フォルダーのアイコン以外はすべてファイルのアイコンを表します。

→ 次ページに続く



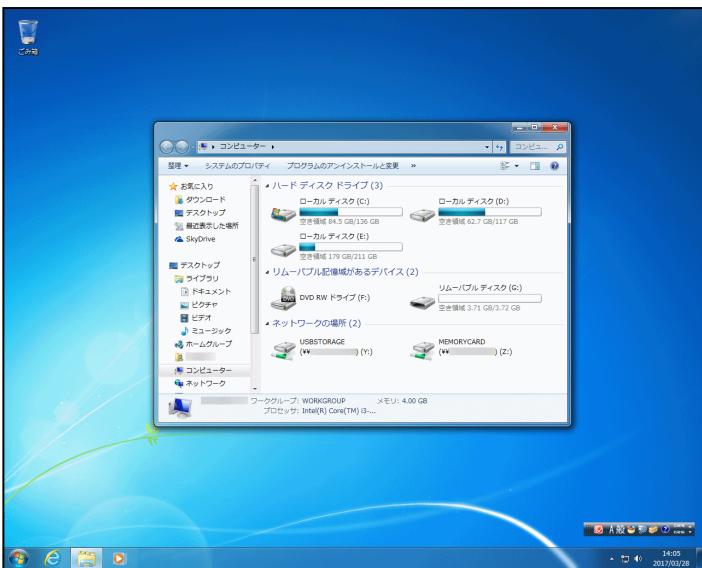
[閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



(4) リムーバブルディスクのファイルをコピーする

コンピューターで確認したリムーバブルディスクに入っている「世界文化遺産」というファイルを画面上（デスクトップ上）にコピーしてみましょう。

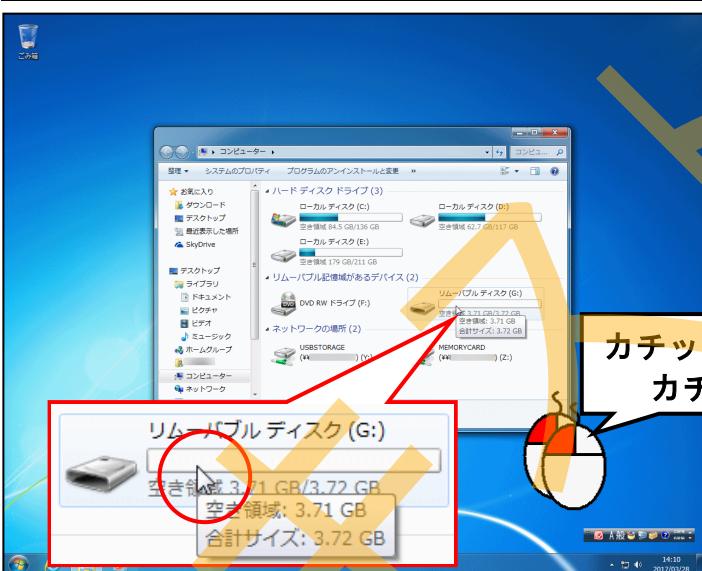
もう一度、コンピューターの画面を開きます。



注意!

- リムーバブルディスクは、あらかじめ差しておきましょう。
- 「コンピューター」の画面の開き方を忘れた方は、P224 を参照してください。

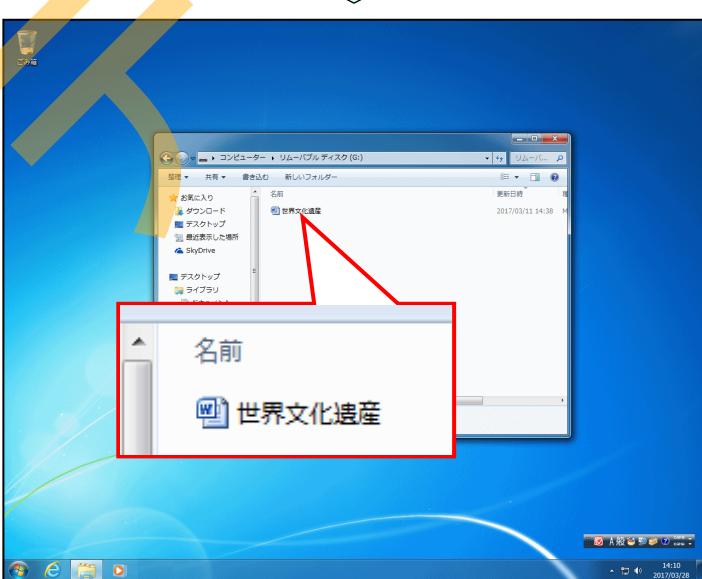
「リムーバブルディスク」にポイントし、ダブルクリックします。



お使いのパソコンによってはリムーバブルディスク (G:) と表示されるとは限りません。

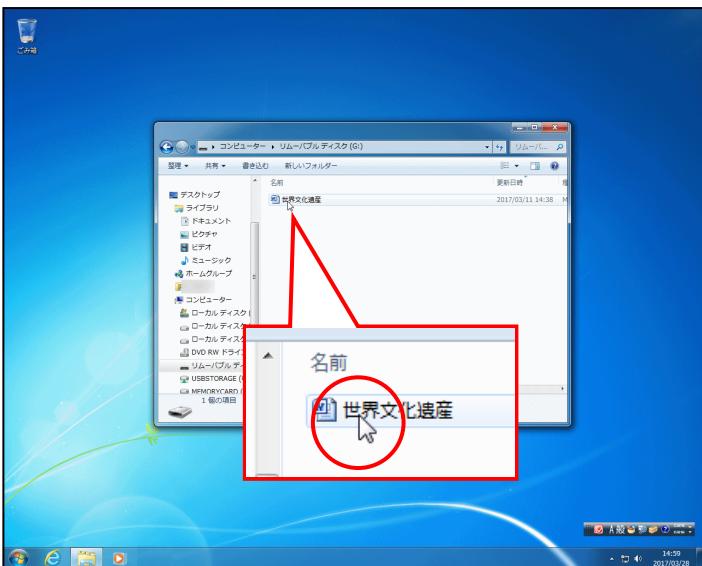


カチッ
カチッ

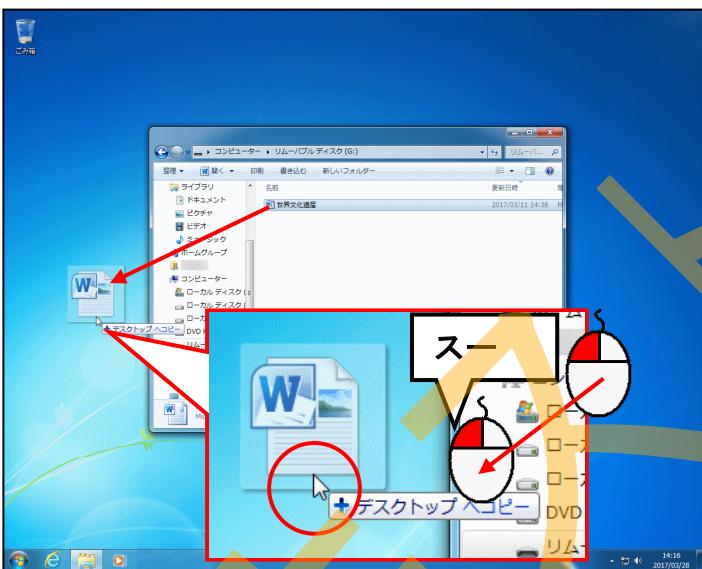


→ 次ページに続く

「世界文化遺産」にポイントします。



そのままマウスの左ボタンを押して、コンピューターの画面の外へドラッグします。

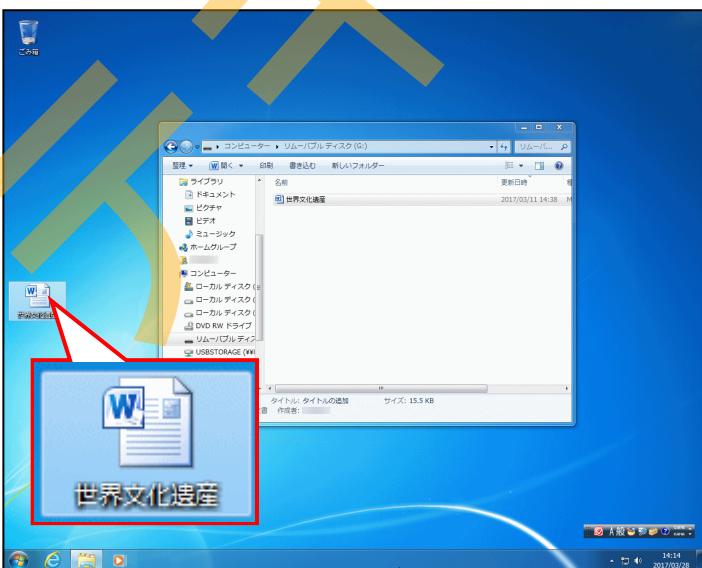


- G ドライブから C ドライブにドラッグするとコピーされます。同一ドライブ間でドラッグすると移動します。(デスクトップは、下に記載したように C ドライブの中にある入れ物です)

お使いのパソコンによってはリムーバブルディスク (G:) と表示されると
は限りません。



マウスの左ボタンから指を離します。



余裕があれば読んでね

- 画面上(デスクトップ上)にコピーした文書の実際のありかは、下の場所です。

C ドライブ

└ ユーザー

└ user

└ デスクトップ

(C¥ユーザー¥user¥デスクトップ)

※表示される user はパソコンによって異なります

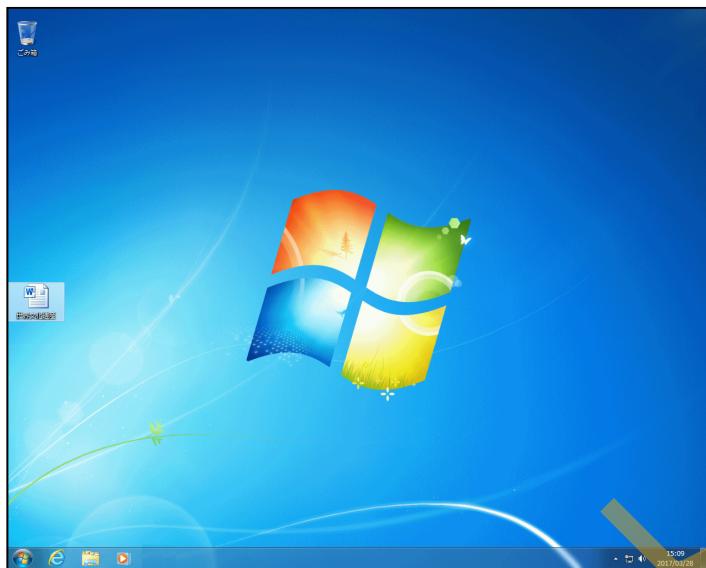
上記の状態になった時点でリムーバブルディスクの中のファイルが画面上にコピーできました。

(5) ファイルの削除と確認

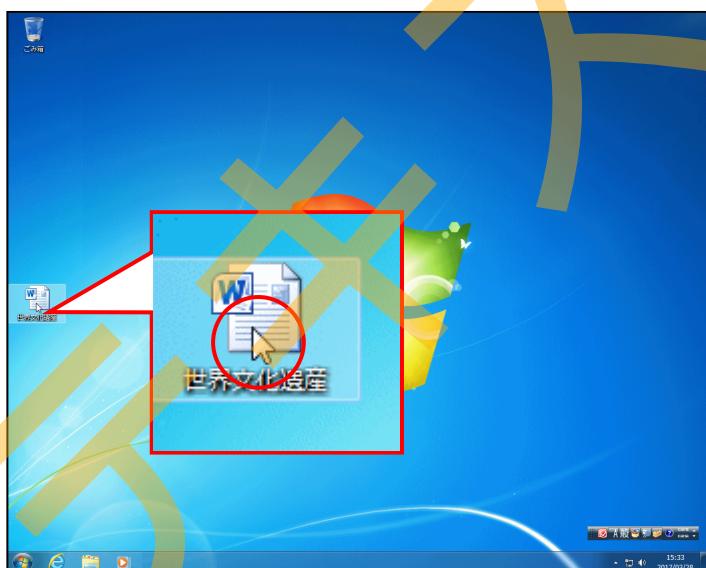
画面上（デスクトップ上）にコピーしたファイルを、次の人のために削除して、削除できたら確認してみましょう。

① ファイルの削除

コンピューターの画面（ウィンドウ）を閉じておきましょう。

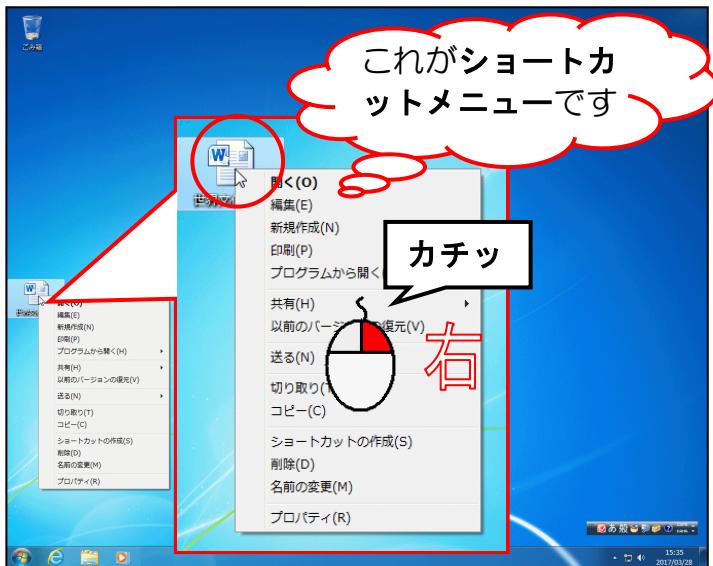


デスクトップ上にコピーした「世界文化遺産」にポイントします。



→ 次ページに続く

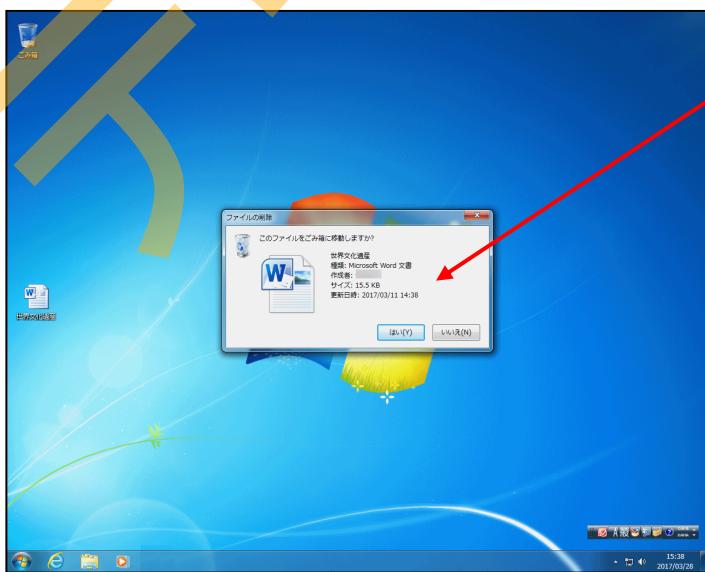
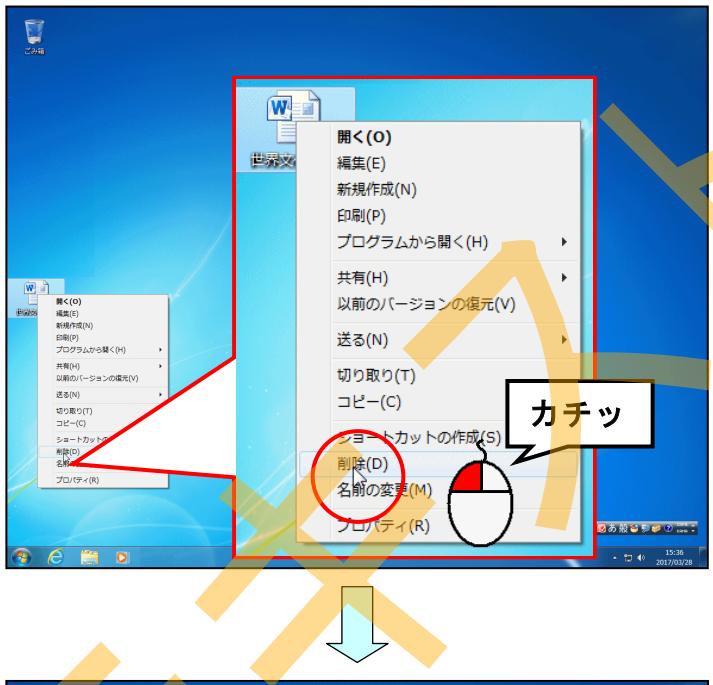
そのまま「世界文化遺産」を右クリックします。



●右クリックという操作は、左の画面のようなメニュー(ショートカットメニュー)を表示するための操作です。



[削除(D)] にポイントし、クリックします。



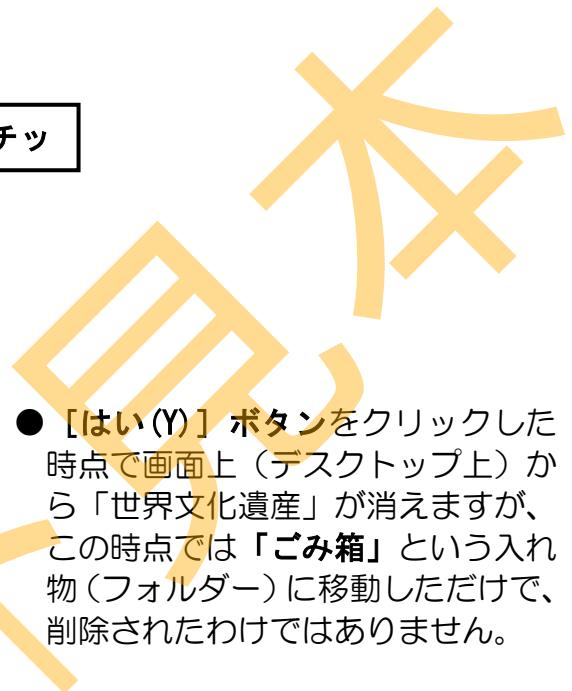
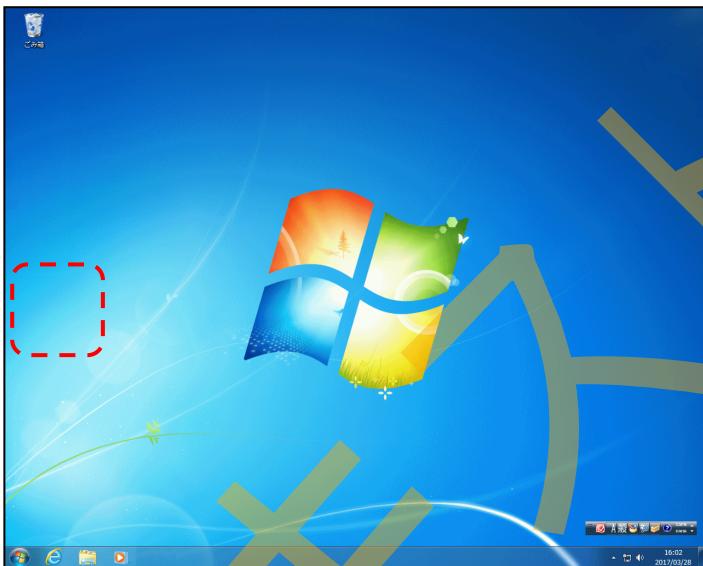
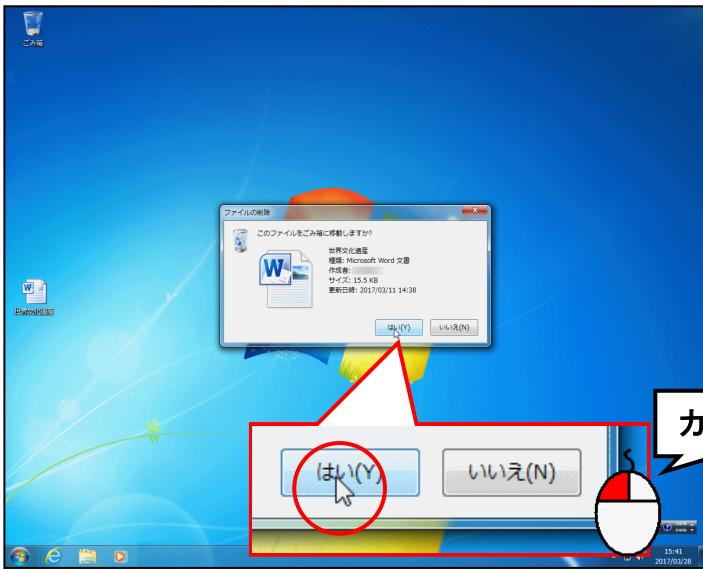
●間違ってクリックしてしまった場合のことを考えて、削除の確認メッセージが表示されるようになっています。

余裕があれば読んでね

●「世界文化遺産」をクリックして、[Delete] キーを押しても左と同じ画面が表示されます。

→ 次ページに続く

「ファイルの削除」の確認画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンにポイントし、クリックします。

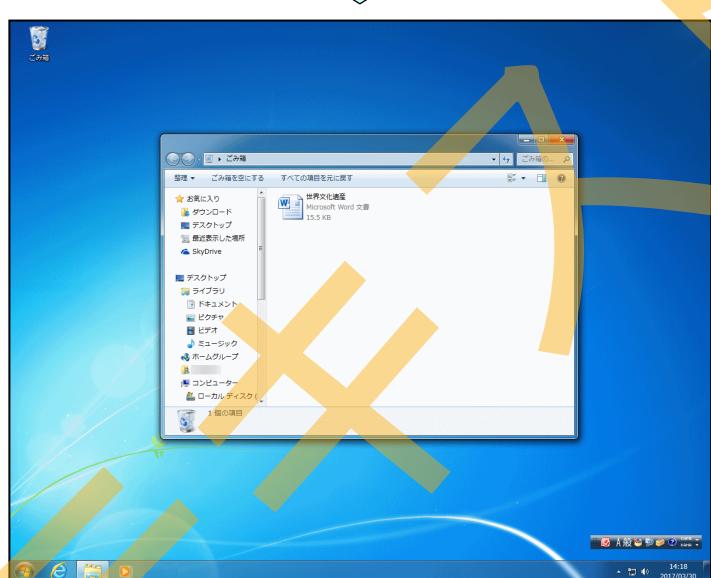
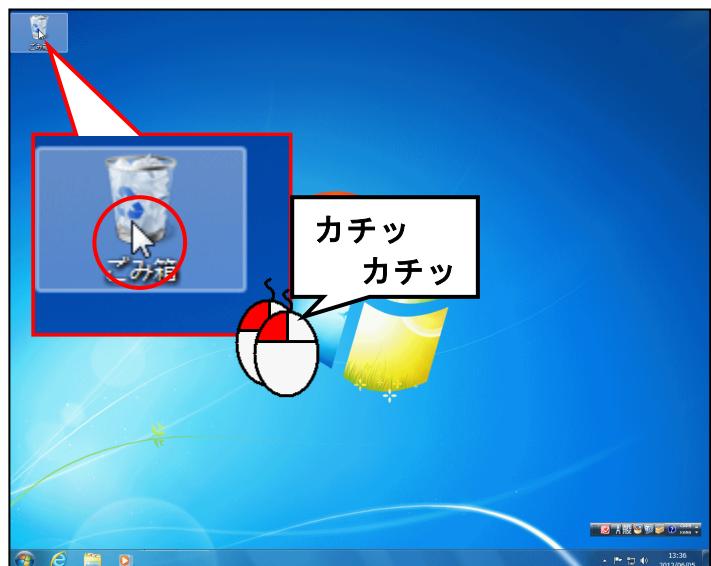


デスクトップ上にコピーした「世界文化遺産」が削除されました。

② ファイルの削除を確認する

ファイルを削除すると、画面上（デスクトップ上）の「ごみ箱」に移動します。①で削除したファイルが「ごみ箱」にあるかを確認してみましょう。

画面上にある【ごみ箱】にポイントし、ダブルクリックします。

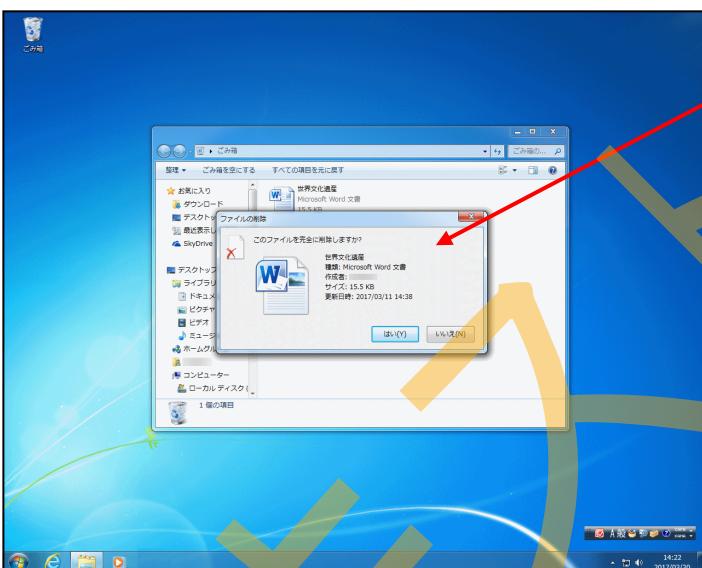
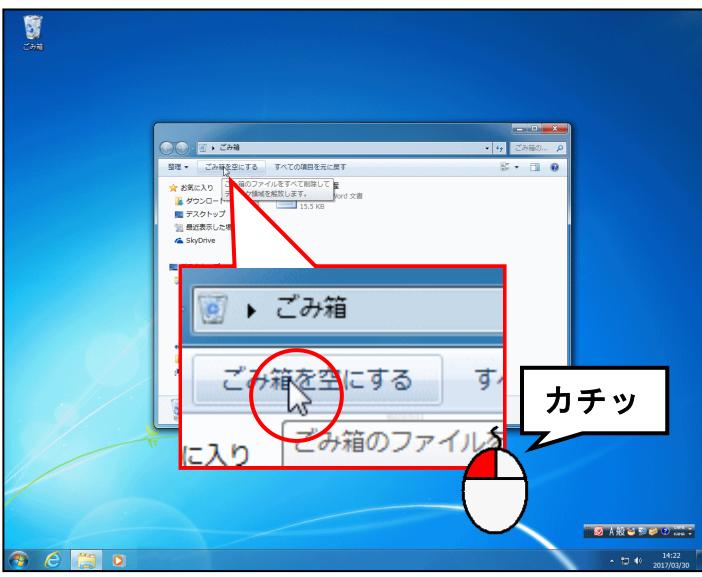


●左の画面のように「ごみ箱」の中が表示されて、画面上（デスクトップ上）にあった「世界文化遺産」が「ごみ箱」に移動したことが理解できたと思います。

●パソコンの中のファイルなどを削除することに、ごみ箱の中にそれらが溜まっています。定期的に不要なものを削除しておきましょう。

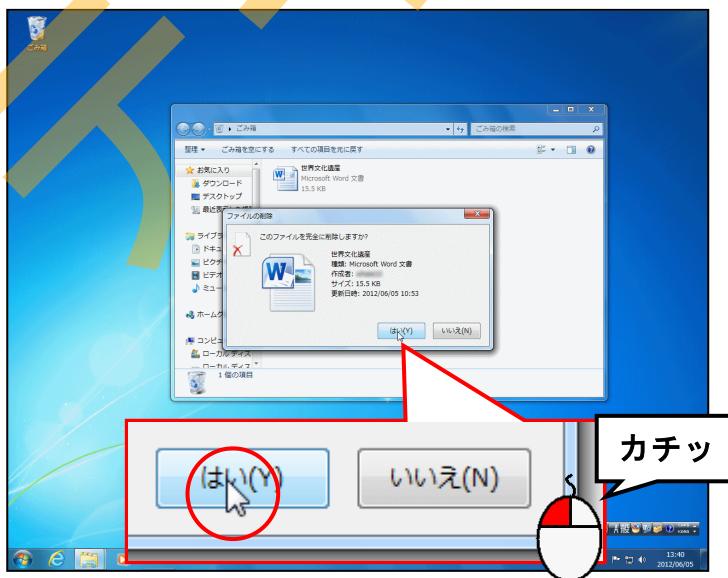
→ 次ページに続く

「ごみ箱を空にする」というメニューにポイントし、クリックします。

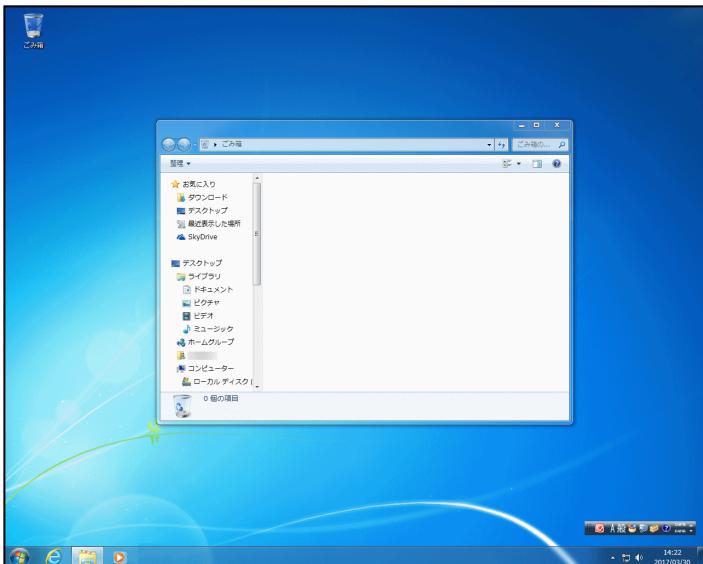


●間違ってクリックされた場合もあるので、削除の確認メッセージを表示するようになっています。

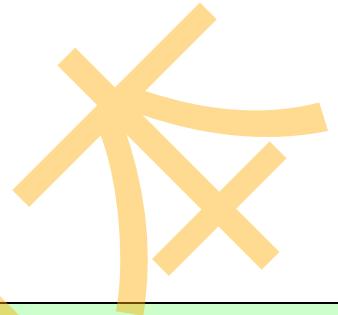
「ファイルの削除」の確認画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンにポイントし、クリックします。



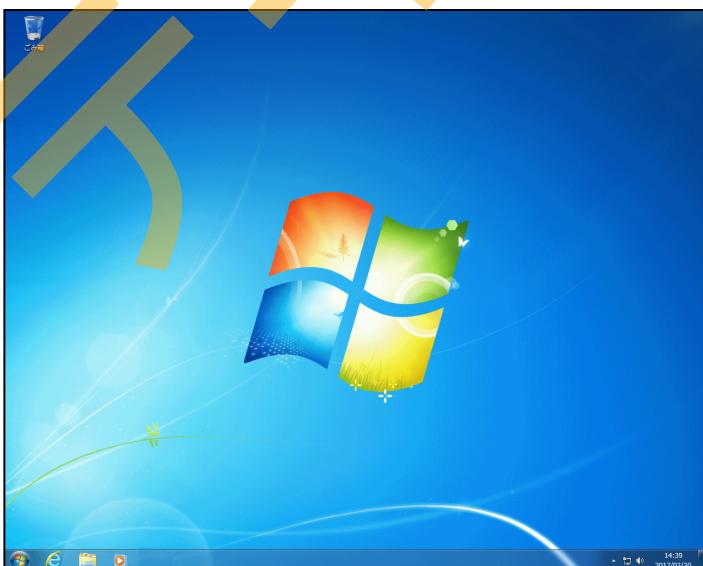
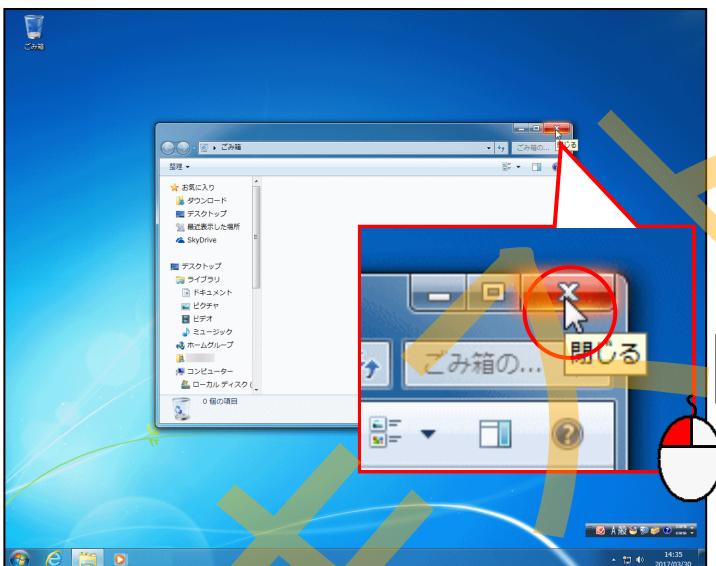
次ページに続く



● [はい(Y)] ボタンをクリックすると、通常、削除してしまったファイルを元に戻すことはできません。



X [閉じる] ボタンにポイントし、クリックします。



●索引

あ行

IME パッドのその他の機能	215
IME パッドの表示方法	133、216
印刷イメージの確認	78
印刷操作	81
英数字の種類	142
英数字の入力	142

か行

カーソルと画面の状態	104
カーソル（点滅している縦棒）の移動方法	114
改行（行を変える）する方法	112
かな入力	86
カタカナの種類	137
カタカナの入力	137
画面に映っている名前	13
画面（ウィンドウ）の基本操作	46
画面（ウィンドウ）のサイズを変更する	49
画面の名称	48
漢字の入力	128
キー操作によるカーソル移動	212
キーボードに慣れる練習	85
キーボードは難しい？	7
機械の名称	9
記号の入力	151
句読点やかっこの入力	154
クリックしてみよう	19
クリックの補足説明	208
計算と印刷	221
言語バーの移動	100
言語バーの復元	101
コンピューターを開く	46

さ行

最小化ボタン	51
最大化ボタン	49
下に表示される線について	113
自動再生機能	218
上下に文字があるキー	103
数字の入力	148
スタートメニューの表示方法と消す方法	209
スペースの入力	125
スペース（空白）の入力方法	124
スリープで終了する方法	210
全角英数字と半角英数字の入力方法	143
全角英字の入力	144
全角カタカナと半角カタカナの入力方法	138
全角カタカナの入力	139
全角スペースと半角スペースの入力方法	125
挿入モードについての補足説明	214
その他の終了方法	210

た行

Delete キーで文字を削除する	118
ダブルクリックが苦手な方のために	209
ダブルクリックしてみよう	21
デスクトップ上の補足説明	206
手書きで文字を検索する	134
電源の入れ方	10
電源ボタンを押したときの補足説明	206
電源の切り方	26
電卓を動かす	40
電卓を閉じる	45
特殊文字の入力	151
特殊文字の補足説明	216
特殊文字の読み方	153
ドラッグしてみよう	23
ドラッグする方法	53

な行

日本語入力の準備まとめ	99
入力システム	89
入力した文字すべてを削除する	119
入力するときに注意する文字	111
入力できる文字の種類	103
入力方法の種類	86
入力方法の比較	86
入力モードの変更	96
入力モードの切り替えの補足説明	211
入力モードを確認する	95
入力を漏らしてしまったら？	122

は行

Back Space キーで文字を削除する	117
Back Space キーと Delete キーの使い分け	116
パソコンとは	2
パソコンについての補足説明	204
パソコンの大きな機能	221
パソコンの画面の背景を変更する	29
パソコンはデリケート？	8
パソコンは難しい？	6
パソコンを動かしてみよう	35
パソコンを動かす道具のいろいろ	36
パソコンを操作するためのキーの配置	87
パソコンを使う目的	4
半角カタカナの入力	140
半角英字の入力	146
開いた文書を修正する	194
ひらがなの入力	104、105
ファイルの削除	232
ファイルの削除を確認する	235
ファイルの存在を確認する	224
ファイルやフォルダー	220

フォルダーの存在を確認する	227
文章の入力	156
文章を変換する	159
文章を予測して入力	162
文書の作成	176
文書の保存	177
文書を印刷する	200
文書を上書き保存する	196
文節の区切りを変更する	164
文節を変換する	156
ペイントから印刷をする	78
ペイントを起動する	56
ペイントを終了する	83
ペイントを使って家を描く	59
変換キーを押した後の修正	173
変換キーを押す前の修正	170
変則的な入力文字	155
ポイントしてみよう	18
保存した文書の確認	188
保存した文書を開く	187、193
保存とは	222
保存の必要性	223
保存場所の補足説明	218
保存方法の違い	219

ま行

マウスに慣れる練習	55
マウスの動かし方	16
マウスの大切な基本操作	17
マウス操作の補足説明	209
マウスのボタンと使い方	14
マウスの名前	14
マウスの持ち方	15
間違って改行してしまった?	120
間違って確定してしまった?	130
間違って入力した文字の消し方	116
右クリックしてみよう	20
難しい文字の入力	132
文字キーの説明	102
文字の確定を省略する方法	217
文字の入力中に誤字に気づいたら	169

や行

読み出し	223
------	-----

ら行

リムーバブルディスクのファイルをコピーする	230
リムーバブルディスクを差込口から抜く方法	217
ローマ字かな対応表	88
ローマ字入力	86

ローマ字・かな入力によるキーの違い	102
ローマ字入力、かな入力の切り替え方法	98
ローマ字・かなの切り替えの補足説明	211
ローマ字入力の方にありがたい機能	216

わ行

ワードを起動する	91
ワードを終了する	94



本 手 パンコン入門編

2010年 6月 17日	初 版	第 1 刷発行
2012年 9月 15日	第 2 版	第 1 刷発行
2014年11月 30日	第 3 版	第 1 刷発行
2015年12月 20日	第 4 版	第 1 刷発行
2018年 4月 16日	第 5 版	第 1 刷発行

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き、著作者の権利侵害になります。

連絡先



- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
 - その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
 - テキストに記載されている内容、仕様は予告なしに変更されることがあります。
 - 本文中では、®や TM などのマークは省略しています。
 - 本文中での挿絵は、フリーイラスト素材集「GATAG」または「Pixabay」の、パブリックドメインのライセンスのものを利用しています。